

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2016 外国語学部 授業  
計画  
外国語学科

**I**

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

## 外国語学部 教育目標

外国語学部外国語学科は、外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。

※**外国語学部 外国語学科 I**に掲載されているのは、目次：P.3～P.14、専門科目：P.15～P.512になります。

専門科目：P.513～P.1044は**II**に、基礎科目：P.1045～P.1132、教養科目：P.1133～P.1250、キャリア形成科目：P.1251～P.1274、教職科目：P.1275～P.1311は**III**に掲載されております。





# 授 業 計 画



科目名	担当者	ページ
<b>ア</b>		
アカデミック スタディーズ	マイケル ハーキー	17
Academic Writing	家 口 美智子	18
Academic Writing	杉 浦 秀 行	20
Academic Reading	フーバー トッド	22
Academic Reading	天 野 貴 史	23
朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	荻 田 喜代一	1135
アジア文化論	森 田 良 成	24
アドバンスト イングリッシュ a	後 藤 一 章	25
アドバンスト イングリッシュ a	杉 浦 秀 行	27
アドバンスト イングリッシュ a	ニール カー	28
アドバンスト イングリッシュ a	皆 本 智 美	29
アドバンスト イングリッシュ a	東 野 厚 子	30
アドバンスト イングリッシュ a	マーティン オイクル	32
アドバンスト イングリッシュ b	俣 野 裕 美	34
アドバンスト イングリッシュ b	杉 浦 秀 行	35
アドバンスト イングリッシュ b	ニール カー	36
アドバンスト イングリッシュ b	皆 本 智 美	37
アドバンスト イングリッシュ b	東 野 厚 子	38
アドバンスト イングリッシュ b	マーティン オイクル	40
アドバンスト ライティング a	齋 藤 安以子	42
アドバンスト ライティング a	西 川 眞由美	43
アドバンスト ライティング a	マイケル ハーキー	44
アドバンスト ライティング a	天 野 貴 史	45
アドバンスト ライティング a	ダニエル マリンズ	46
アドバンスト ライティング b	齋 藤 安以子	49
アドバンスト ライティング b	西 川 眞由美	50
アドバンスト ライティング b	マイケル ハーキー	51
アドバンスト ライティング b	天 野 貴 史	52
アドバンスト ライティング b	ダニエル マリンズ	53
アメリカ史学	大原関 一 浩	56
アメリカ文化論	大原関 一 浩	57

<b>イ</b>		
ESP(English for Specific Purposes) a	家 口 美智子	58
ESP(English for Specific Purposes) a	中 島 直 嗣	59
ESP(English for Specific Purposes) a	西 川 眞由美	60
ESP(English for Specific Purposes) a	齋 藤 安以子	61
ESP(English for Specific Purposes) a	住 吉 誠	63
ESP(English for Specific Purposes) a	田 中 秀 毅	64
ESP(English for Specific Purposes) b	家 口 美智子	65
ESP(English for Specific Purposes) b	中 島 直 嗣	66
ESP(English for Specific Purposes) b	西 川 眞由美	67
ESP(English for Specific Purposes) b	神 崎 舞	68
ESP(English for Specific Purposes) b	住 吉 誠	69
ESP(English for Specific Purposes) b	田 中 秀 毅	70
異文化コミュニケーション論	門 脇 薫	71
異文化接触論	篠 原 愛 人	72
異文化ビジネス論	中 島 直 嗣	73
English for TOEFL	皆 本 智 美	75
English for TOEFL	大原関 一 浩	76

科目名	担当者	ページ
イングリッシュ プレゼンテーション I b	フーバー トッド	77
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ダニエル マリンズ	78
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ニール カー	80
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マシュー ケーパー	81
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マーティン オイクル	82
イングリッシュ プレゼンテーション I b	アレク ニール	83
English Language Teaching	齋 藤 安以子	84
インターンシップ I	石 井 三 恵	1136
インターンシップ II	石 井 三 恵	1137
Integrated Skills Training	鳥 居 祐 介	85
Integrated Skills Training	松 田 早 恵	86
インドネシア・マレー語圏概論	森 田 良 成	87
インドネシア・マレー語圏近現代史	森 田 良 成	88
インドネシア・マレー語圏の諸言語	山 口 真佐夫	89
インドネシア・マレー社会論	上 田 達	90
インドネシア語 I	山 口 玲 子	1047
インドネシア語 I	エニ レスタリ	1048
インドネシア語 II	エニ レスタリ	1049
インドネシア語 II	山 口 玲 子	1050
インドネシア語 II a	山 口 玲 子	91
インドネシア語 II b	エニ レスタリ	92
インドネシア語 III a	山 口 真佐夫	93
インドネシア語 III b	山 口 真佐夫	94
インドネシア語 IV a	浦 野 崇 央	95
インドネシア語 IV b	浦 野 崇 央	96
インドネシア語コムニカシ II a	エニ レスタリ	97
インドネシア語コムニカシ II b	エニ レスタリ	99
インドネシア語コムニカシ I a	エニ レスタリ	100
インドネシア語コムニカシ I b	エニ レスタリ	101
インドネシア語コムニカシ II a (1)	エニ レスタリ	102
インドネシア語コムニカシ II a (2)	エニ レスタリ	104
インドネシア語コムニカシ II b (1)	大 坪 紀 子	105
インドネシア語コムニカシ II b (2)	大 坪 紀 子	106
インドネシア語コムニカシ III a	大 坪 紀 子	108
インドネシア語コムニカシ III b	大 坪 紀 子	109
インドネシア語コムニカシ IV a	エニ レスタリ	110
インドネシア語コムニカシ IV b	エニ レスタリ	111
インドネシア語入門 a (1)	山 口 真佐夫	112
インドネシア語入門 a (2)	浦 野 崇 央	113
インドネシア語入門 b (1)	山 口 真佐夫	114
インドネシア語入門 b (2)	浦 野 崇 央	115
インドネシア語入門 b (3)	大 坪 紀 子	116
インドネシア語表現法	大 坪 紀 子	117
インドネシア語表現法 a	大 坪 紀 子	118
インドネシア語ボキャブラリー a	山 口 玲 子	119
インドネシア語ボキャブラリー b	大 坪 紀 子	120
インドネシアトピックス	大 坪 紀 子	121

<b>エ</b>		
エアラインビジネス論	塩 崎 裕 司	123
エアラインビジネス論 I	塩 崎 裕 司	125
エアラインビジネス論 II	塩 崎 裕 司	127

科目名	担当者	ページ
映画のスペイン語Ⅰ	物部 七穂 矢野 勉	129
映画のスペイン語Ⅰ	穂 原 三 佳	130
映画のスペイン語Ⅰ	物部 七穂 矢野 勉	131
映画のスペイン語Ⅰ	マツダイラ キーメル	132
映画のスペイン語Ⅱ	穂 原 三 佳	133
映画のスペイン語Ⅱ	物部 七穂 矢野 勉	134
映画のスペイン語Ⅲ	オラシオ ゴメス	135
映画のスペイン語Ⅲ	ディアス イバン	136
映画のスペイン語Ⅳ	ディアス イバン	137
映画のスペイン語Ⅳ	オラシオ ゴメス	138
英語Ⅰ	東 野 厚 子	1051
英語Ⅰ	関 初 海	1052
英語Ⅰ	小 川 一 美	1054
英語Ⅰ	クリストファー ジョンソン	1055
英語Ⅰ	曾 我 直 隆	1056
英語Ⅰ	ショーン マクガバン	1058
英語Ⅰ	鈴 木 大 介	1059
英語Ⅰ	フーパー トッド	1061
英語Ⅱ	高 橋 章 夫	1062
英語Ⅱ	関 初 海	1063
英語Ⅱ	小 川 一 美	1065
英語Ⅱ	クリストファー ジョンソン	1066
英語Ⅱ	曾 我 直 隆	1067
英語Ⅱ	ショーン マクガバン	1068
英語Ⅱ	鈴 木 大 介	1069
英語Ⅱ	フーパー トッド	1071
英語Ⅲ	表 谷 純 子	1072
英語Ⅳ	表 谷 純 子	1073
英語意味論・語用論	後 藤 一 章	139
英語科教育法Ⅰ	家 口 美智子	1277
英語科教育法Ⅱ	齋 藤 安以子	1278
英語科教育法Ⅲ	齋 藤 安以子	1280
英語科教育法Ⅳ	家 口 美智子	1282
英語学Ⅰ	家 口 美智子	140
英語学Ⅱ	後 藤 一 章	141
英語学Ⅲ	田 中 秀 毅	142
英語学概論	家 口 美智子	143
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	神 崎 舞	144
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	フーパー トッド	145
英語圏概論	神 崎 舞	146
英語圏概論	フーパー トッド	147
英語構造論	田 中 秀 毅	148
映像中国語 a	中 西 正 樹	149
映像中国語 b	中 西 正 樹	150
英米文学	皆 本 智 美	152
エコツアーリズム論	原 秀 禎	153
エリアスタディーズ（アフリカ）	伊 東 未 来	154
エリアスタディーズ（オセアニア）	杉 浦 秀 行	155
エリアスタディーズ（北アメリカ）	大原関 一 浩	156
エリアスタディーズ（東南アジア）	原 秀 禎	157
エリアスタディーズ（日本）	赤 澤 春 彦	158
エリアスタディーズ（東アジア）	瀬 戸 宏	159

科目名	担当者	ページ
エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	林 田 敏 子	160
エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	北 條 ゆかり	161
エンプロイメントデザインⅠ	石 井 三 恵	1253
エンプロイメントデザインⅡ	水 野 武	1255

## オ

オーラル コミュニケーションⅠ a	田浦 アマンダ	162
オーラル コミュニケーションⅠ a	クロー オーエン	163
オーラル コミュニケーションⅠ a	アイビス ウイリアム	164
オーラル コミュニケーションⅠ a	ジョセフ シウンシ	165
オーラル コミュニケーションⅠ a	フーパー トッド	166
オーラル コミュニケーションⅠ a	リチャード ダイアース	167
オーラル コミュニケーションⅠ a	スコット ライリー	168
オーラル コミュニケーションⅠ a	アーサー ロリングスン	170
オーラル コミュニケーションⅠ a	宮久保 まゆみ	171
オーラル コミュニケーションⅠ a	中 道 英美子	172
オーラル コミュニケーションⅠ a	松 下 乃 垂	173
オーラル コミュニケーションⅠ a	久 田 步	175
オーラル コミュニケーションⅠ a	ショーン マクガバン	176
オーラル コミュニケーションⅠ a	鈴 木 大 介	177
オーラル コミュニケーションⅠ b	田浦 アマンダ	178
オーラル コミュニケーションⅠ b	クロー オーエン	179
オーラル コミュニケーションⅠ b	アイビス ウイリアム	180
オーラル コミュニケーションⅠ b	ジョセフ シウンシ	181
オーラル コミュニケーションⅠ b	フーパー トッド	182
オーラル コミュニケーションⅠ b	リチャード ダイアース	183
オーラル コミュニケーションⅠ b	スコット ライリー	184
オーラル コミュニケーションⅠ b	アーサー ロリングスン	185
オーラル コミュニケーションⅠ b	宮久保 まゆみ	186
オーラル コミュニケーションⅠ b	中 道 英美子	187
オーラル コミュニケーションⅠ b	松 下 乃 垂	188
オーラル コミュニケーションⅠ b	久 田 步	189
オーラル コミュニケーションⅠ b	ショーン マクガバン	190
オーラル コミュニケーションⅠ b	鈴 木 大 介	191
オーラル コミュニケーションⅡ a	スティーブ トマシェフスキー	192
オーラル コミュニケーションⅡ a	曾 我 直 隆	194
オーラル コミュニケーションⅡ b	スティーブ トマシェフスキー	195
オーラル コミュニケーションⅡ b	曾 我 直 隆	197
音声学	中 島 直 嗣	198

## カ

海外インターンシップ	岩 間 香	199
海外実習	マイケル ハーキー	200
海外実習	兪 鳴 蒙	201
海外実習	篠 原 愛 人	202
海外実習	北 條 ゆかり	203
海外実習	山 口 真佐夫	204
海外留学事前演習	住 吉 誠	205
海外留学事前演習	天 野 貴 史	207
海外留学事前演習	神 崎 舞	208
海外留学事前演習	後 藤 一 章	209
海外留学事前演習	西 川 真由美	211

科目名	担当者	ページ
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	212
海外留学事前演習	杉 浦 秀 行	213
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	214
海外留学事前演習	安 達 直 樹	215
海外留学事前演習	浦 野 崇 央	216
海外留学事前演習	上 田 達	217
海外ワークキャンプ	浅 野 英 一	218
カレント イングリッシュ a	サトラー トニー	219
カレント イングリッシュ b	サトラー トニー	221
環境学	原 秀 禎	1139
観光中国語 a	孫 輝	222
観光中国語 b	孫 輝	223
韓国語 I	千 英 子	1074
韓国語 I	沈 明 姫	1075
韓国語 II	千 英 子	1076
韓国語 II	沈 明 姫	1077
韓国語 II a	千 英 子	224
韓国語 II a	沈 明 姫	225
韓国語 II b	千 英 子	226
韓国語 II b	沈 明 姫	227
韓国語 III a	北 島 由紀子	229
韓国語 III b	北 島 由紀子	230
韓国語 IV a	千 英 子	231
韓国語 IV b	千 英 子	232
歓待の哲学	森 本 誠 一	233

## キ

基礎演習 I	北 條 ゆかり	235
基礎演習 I	神 崎 舞	236
基礎演習 I	兪 鳴 蒙	237
基礎演習 I	赤 澤 春 彦	238
基礎演習 I	大原関 一 浩	239
基礎演習 I	神 崎 舞	240
基礎演習 I	田浦 アマンダ	241
基礎演習 I	フーパー トッド	242
基礎演習 I	中 島 直 嗣	243
基礎演習 I	兪 鳴 蒙	244
基礎演習 I	橋 本 正 俊	245
基礎演習 I	林 田 敏 子	246
基礎演習 I	マイケル ハーキー	247
基礎演習 I	門 脇 薫	248
基礎演習 I	西 川 眞由美	249
基礎演習 I	有 馬 善 一	250
基礎演習 I	住 吉 誠	251
基礎演習 I	門 脇 薫	252
基礎演習 II	フーパー トッド	253
基礎演習 II	天 野 貴 史	254
基礎演習 II	原 秀 禎	255
基礎演習 II	小 川 豊 生	256
基礎演習 II	松 田 早 恵	257
基礎演習 II	田浦 アマンダ	258
基礎演習 II	岩 間 香	259

科目名	担当者	ページ
基礎演習 II	門 脇 薫	260
基礎演習 II	浦 野 崇 央	261
基礎演習 II	大原関 一 浩	262
基礎演習 II	橋 本 正 俊	263
基礎演習 II	吉 村 征 洋	264
基礎演習 II	山 口 真佐夫	265
基礎演習 II	後 藤 一 章	266
基礎演習 II	大原関 一 浩	267
基礎演習 II	齋 藤 安以子	268
基礎演習 II	橋 本 正 俊	269
基礎演習 II	中 西 正 樹	270
基礎教養演習 II a	原 秀 禎	271
基礎教養演習 II b	赤 澤 春 彦	272
基礎ゼミナール	赤 澤 春 彦	273
基礎ゼミナール	浅 野 英 一	274
基礎ゼミナール	安 達 直 樹	275
基礎ゼミナール	天 野 貴 史	276
基礎ゼミナール	有 馬 善 一	277
基礎ゼミナール	上 田 達	278
基礎ゼミナール	門 脇 薫	279
基礎ゼミナール	神 崎 舞	280
基礎ゼミナール	後 藤 一 章	281
基礎ゼミナール	鈴 木 大 介	282
基礎ゼミナール	住 吉 誠	283
基礎ゼミナール	瀬 戸 宏	284
基礎ゼミナール	鳥 居 祐 介	285
基礎ゼミナール	中 島 直 嗣	286
基礎ゼミナール	橋 本 正 俊	287
基礎ゼミナール	林 田 敏 子	288
基礎ゼミナール	松 田 早 恵	289
基礎ゼミナール	皆 本 智 美	290
基礎マレー語 a	上 田 達	291
基礎マレー語 b	上 田 達	292
北河内を知る	尾 山 廣	1140
キャリアデザイン	亀 田 峻 宣	1257
キャリアプランニング	中 西 正 樹	1259
キャリアプランニング	田浦 アマンダ	1261
キャリアプランニング	赤 澤 春 彦	1263
教育課程論	大 野 順 子	1283
教育経営論	朝 日 素 明	1285
教育原理	小 山 裕 樹	1287
教育実習 I	大 野 順 子	1289
教育実習 II	朝 日 素 明	1291
教育実習 III	朝 日 素 明	1292
教育社会学	大 野 順 子	1293
教育心理学	吉 田 佐治子	1295
教育相談	吉 田 佐治子	1296
教育方法論	林 茂 樹	1297
教職実践演習 (中・高)	吉 田 佐治子	1299
教師論	朝 日 素 明	1301

科目名	担当者	ページ
<b>ク</b>		
暮らしの中の文化	林 田 敏 子	293
グラマー	杉 浦 秀 行	294
クリエイティブビジネス論	針 尾 大 嗣	295
Global Issues	大原関 一 浩	297
Global Issues	久 田 歩	298
Global Issues	田浦 アマンダ	299
グローバル経済論	野 口 義 直	300

<b>ケ</b>		
経済学入門	平 野 泰 朗	1141
経済のしくみ	平 野 泰 朗	1142
芸術論	岩 間 香	1143
芸能と文化	岩 間 香	301
芸能文化論	岩 間 香	302
健康科学	藤 林 真 美	1145
健康論	西 村 和 恵	1079
言語学	山 口 真佐夫	303
現代学術論	小 川 豊 生	304
現代社会と法	小 野 晃 正	1147
現代社会論	浦 野 崇 央	305
現代中国論	大 西 紀	306
現代東南アジア論	上 田 達	307
現代ラテンアメリカ論	北 條 ゆかり	308

<b>コ</b>		
国際関係の基礎理解	早 川 真 悠	309
国際関係論	早 川 真 悠	310
国際機構論	浅 野 英 一	311
国際協力論	浅 野 英 一	312
国際貢献実習演習	浅 野 英 一	313
国際社会論	有 馬 善 一	314
国際文化概論 I	有 馬 善 一	315
国際文化概論 II	赤 澤 春 彦	316
国際平和論	伊 東 未 来	317
国際ボランティア論	浅 野 英 一	318
ことばと意味	西 川 真由美	319

<b>シ</b>		
視覚芸術論	中 川 馨	320
時事インドネシア・マレー語 a	上 田 達	321
時事インドネシア・マレー語 b	浦 野 崇 央	323
時事問題 I	西 垣 有	1080
時事問題 I	堂 馬 隆 之	1081
時事問題 I	早 川 真 悠	1082
時事問題 I	伊 東 未 来	1083
時事問題 II	西 垣 有	1084
時事問題 II	堂 馬 隆 之	1085
時事問題 II	早 川 真 悠	1086
時事問題 II	伊 東 未 来	1087
自然科学の理解	青 笹 治	1149

科目名	担当者	ページ
自然科学の理解	坂 本 淳 二	1151
自然科学の理解	西 惠 理	1152
自然科学の理解	安 井 幸 則	1154
思想と文化	小 川 豊 生	324
実践インドネシア・マレー語 a	大 坪 紀 子	325
実践インドネシア・マレー語 b	上 田 達	326
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1156
就職実践基礎	永 見 誠 二	1157
就職実践基礎	津 村 忠	1158
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1159
生涯学習概論	橋 本 孝 成	327
生涯学習論	橋 本 孝 成	328
上級検定インドネシア語	山 口 玲 子	329
情報処理 I	星 山 幸 子	1088
情報処理 I	藤 木 健 史	1089
情報処理 I	星 山 幸 子	1090
情報処理 I	藤 木 健 史	1091
情報処理 II	星 山 幸 子	1092
情報処理 II	藤 木 健 史	1094
情報処理 II	星 山 幸 子	1095
情報処理 II	藤 木 健 史	1096
初級検定インドネシア語	山 口 玲 子	330
食品機能学	青 笹 治	1160
初年次ゼミナール	赤 澤 春 彦	331
初年次ゼミナール	浅 野 英 一	332
初年次ゼミナール	天 野 貴 史	333
初年次ゼミナール	有 馬 善 一	334
初年次ゼミナール	岩 間 香	335
初年次ゼミナール	浦 野 崇 央	336
初年次ゼミナール	大原関 一 浩	337
初年次ゼミナール	小 川 豊 生	338
初年次ゼミナール	門 脇 薫	339
初年次ゼミナール	神 崎 舞	340
初年次ゼミナール	篠 原 愛 人	341
初年次ゼミナール	杉 浦 秀 行	342
初年次ゼミナール	田 中 秀 毅	343
初年次ゼミナール	中 西 正 樹	344
初年次ゼミナール	橋 本 正 俊	345
初年次ゼミナール	林 田 敏 子	346
初年次ゼミナール	山 口 真佐夫	347
初年次ゼミナール	吉 村 征 洋	348
人体の構造と機能	松 浦 哲 郎	1161
心理学	吉 田 佐治子	1162

<b>ス</b>		
数的能力開発	山 岡 亮 太	1265
スキルズ トレーニング I a	吉 村 征 洋	349
スキルズ トレーニング I b	ショーン マクガバン	350
スキルズ トレーニング a	鳥 居 祐 介	351
スキルズ トレーニング a	神 崎 舞	352
スキルズ トレーニング a	田 中 秀 毅	353
スキルズ トレーニング a	松 田 早 恵	354

科目名	担当者	ページ
スキルズ トレーニング a	後藤 一章	355
スキルズ トレーニング a	吉村 征洋	356
スキルズ トレーニング b	松田 早恵	357
スキルズ トレーニング b	後藤 一章	358
スキルズ トレーニング b	鳥居 祐介	359
スキルズ トレーニング b	田中 秀毅	360
スキルズ トレーニング b	神崎 舞	361
スキルズ トレーニング b	大原 関一 浩	362
スキルズ トレーニング b	ショーン マクガバン	363
スピーキング I a	ジョセフ シウンシ	364
スピーキング I b	ジョセフ シウンシ	366
スピーキング II a	グラント バーミンハム	368
スピーキング II b	グラント バーミンハム	369
スピーキング&ライティング I a	マイケル ハーキー	370
スピーキング&ライティング I a	フーパー トッド	371
スピーキング&ライティング I a	マシュー クーパー	372
スピーキング&ライティング I a	アレン ニール	374
スピーキング&ライティング I a	ニール カー	375
スピーキング&ライティング I a	ジェーン パーメンター	376
スピーキング&ライティング I a	ダニエル マリンズ	377
スピーキング&ライティング I a	マーティン オイクル	378
スピーキング&ライティング I a	グラント バーミンハム	379
スピーキング&ライティング I a	ショーン マクガバン	380
スピーキング&ライティング I a	ジョセフ シウンシ	381
スピーキング&ライティング I b	マイケル ハーキー	382
スピーキング&ライティング I b	マシュー クーパー	383
スピーキング&ライティング I b	グラント バーミンハム	385
スピーキング&ライティング I b	マーティン オイクル	386
スピーキング&ライティング I b	ダニエル マリンズ	387
スピーキング&ライティング I b	ニール カー	388
スピーキング&ライティング I b	ジェーン パーメンター	389
スピーキング&ライティング I b	アレン ニール	390
スピーキング&ライティング I b	ショーン マクガバン	391
スピーキング&ライティング I b	リチャード ダイアース	392
スピーキング&ライティング I b	ジェフリー ベル	393
スピーキング&ライティング I b	フーパー トッド	394
スピーキング&ライティング I b	ジョセフ シウンシ	395
スピーキング&ライティング II a	マイケル ハーキー	396
スピーキング&ライティング II a	田浦 アマンダ	397
スピーキング&ライティング II a	フーパー トッド	398
スピーキング&ライティング II a	ブルース ライリー	399
スピーキング&ライティング II a	ジョン カール	400
スピーキング&ライティング II a	グラント バーミンハム	401
スピーキング&ライティング II a	プライアン スレーター	402
スピーキング&ライティング II a	アイビス ウイリアム	403
スピーキング&ライティング II b	マイケル ハーキー	404
スピーキング&ライティング II b	田浦 アマンダ	405
スピーキング&ライティング II b	フーパー トッド	406
スピーキング&ライティング II b	ブルース ライリー	407
スピーキング&ライティング II b	ジョン カール	408
スピーキング&ライティング II b	グラント バーミンハム	409
スピーキング&ライティング II b	プライアン スレーター	410

科目名	担当者	ページ
スピーキング&ライティング II b	アイビス ウイリアム	411
スペイン語 I	穂原 三佳	1097
スペイン語 I	ササド 七花 ダニエル 久	1098
スペイン語 I	マツダイラ キーメル	1099
スペイン語 II	ササド 七花 ダニエル 久	1100
スペイン語 II	マツダイラ キーメル	1101
スペイン語 II	穂原 三佳	1102
スペイン語 II a	穂原 三佳	412
スペイン語 II b	ササド 七花 ダニエル 久	413
スペイン語 III a	岡 あゆみ	414
スペイン語 III b	岡 あゆみ	415
スペイン語 IV a	ササド 七花 ダニエル 久	416
スペイン語 IV b	ササド 七花 ダニエル 久	417
スペイン語応用 I	磯野 吉美	418
スペイン語応用 I	酒井 真梨奈	419
スペイン語応用 I	西村 初美	420
スペイン語応用 II	酒井 真梨奈	421
スペイン語応用 II	西村 初美	422
スペイン語応用 II	磯野 吉美	423
スペイン語オラル II A	宮多良 ディスネル	424
スペイン語オラル II A	オラシオ ゴメス	426
スペイン語オラル I	オラシオ ゴメス	428
スペイン語オラル I	ササド 七花 ダニエル 久	430
スペイン語オラル I	宮多良 ディスネル	432
スペイン語オラル I	ディアス イバン	434
スペイン語オラル II	宮多良 ディスネル	436
スペイン語オラル II	ディアス イバン	438
スペイン語オラル II	オラシオ ゴメス	440
スペイン語オラル II	ササド 七花 ダニエル 久	442
スペイン語オラル III	トロヌ カルラ	444
スペイン語オラル III	宮多良 ディスネル	445
スペイン語オラル III	ササド 七花 ダニエル 久	446
スペイン語オラル IV	宮多良 ディスネル	447
スペイン語オラル IV	ササド 七花 ダニエル 久	448
スペイン語オラル IV	トロヌ カルラ	449
スペイン語オラル I A	オラシオ ゴメス	450
スペイン語オラル I A	宮多良 ディスネル	452
スペイン語オラル III A	トロヌ カルラ	454
スペイン語オラル III A	宮多良 ディスネル	455
スペイン語オラル III B	マツダイラ キーメル	456
スペイン語オラル IV A	宮多良 ディスネル	457
スペイン語オラル IV A	ササド 七花 ダニエル 久	458
スペイン語オラル IV B	マツダイラ キーメル	459
スペイン語オラル V	ディアス イバン	460
スペイン語オラル V	トロヌ カルラ	461
スペイン語オラル VI	トロヌ カルラ	462
スペイン語オラル VI	ディアス イバン	463
スペイン語オラル VII	オラシオ ゴメス	464
スペイン語オラル VIII	オラシオ ゴメス	465
スペイン語学	安達 直樹	466
スペイン語基礎 A	西村 初美	467
スペイン語基礎 A	岡 あゆみ	468

科目名	担当者	ページ
スペイン語基礎A	西村 初美	469
スペイン語基礎A	岡 あゆみ	470
スペイン語基礎A	北條 ゆかり	471
スペイン語基礎B	宮多良 ディスネル	472
スペイン語基礎B	篠原 愛人	473
スペイン語基礎B	宮多良 ディスネル	474
スペイン語基礎B	篠原 愛人	475
スペイン語基礎B	三浦 知佐子	476
スペイン語基礎C	安達 直樹	477
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	478
スペイン語基礎C	安達 直樹	479
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	480
スペイン語基礎C	穂原 三佳	481
スペイン語圏概論	篠原 愛人	482
スペイン語圏トピックスⅢ	林 安紀子	483
スペイン語圏トピックスⅣ	北條 ゆかり	484
スペイン語圏トピックスⅣ	林 安紀子	485
スペイン語圏の芸術	オラシオ ゴメス	486
スペイン語講読Ⅰ	宮多良 ディスネル	487
スペイン語講読Ⅰ	三浦 知佐子	488
スペイン語講読Ⅱ	三浦 知佐子	489
スペイン語講読Ⅱ	篠原 愛人	490
スペイン語総合A	北條 ゆかり	491
スペイン語総合A	西村 初美	492
スペイン語総合A	岡 あゆみ	493
スペイン語総合B	三浦 知佐子	494
スペイン語総合B	篠原 愛人	495
スペイン語総合B	宮多良 ディスネル	496
スペイン語通訳ガイドⅠ	安達 直樹	497
スペイン語通訳ガイドⅠ	篠原 愛人	498
スペイン語通訳ガイドⅡ	篠原 愛人	499
スペイン語通訳ガイドⅡ	安達 直樹	500
スペイン語トピックス	北條 ゆかり	501
スペイン語トピックス	林 安紀子	502
スペイン語入門A	北條 ゆかり	503
スペイン語入門A	西村 初美	504
スペイン語入門A	北條 ゆかり	505
スペイン語入門A	西村 初美	506
スペイン語入門A	岡 あゆみ	507
スペイン語入門B	三浦 知佐子	508
スペイン語入門B	宮多良 ディスネル	509
スペイン語入門B	三浦 知佐子	510
スペイン語入門B	宮多良 ディスネル	511
スペイン語入門B	篠原 愛人	512
スペイン語入門C	穂原 三佳	513
スペイン語入門C	安達 直樹	514
スペイン語入門C	穂原 三佳	515
スペイン語入門C	安達 直樹	516
スペイン語入門C	酒井 真梨奈	517
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	518
スペイン語文章構成Ⅰ	安達 直樹	520
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	522

科目名	担当者	ページ
スペイン語文章構成Ⅰ	安達 直樹	524
スペイン語文章構成Ⅰ	北條 ゆかり	526
スペイン語文章構成Ⅱ	安達 直樹	528
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	529
スペイン語文章構成Ⅱ	安達 直樹	530
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	531
スペイン語文章構成Ⅱ	林 安紀子	532
スペイン語文章構成Ⅲ	磯野 吉美	533
スペイン語文章構成Ⅲ	安達 直樹	534
スペイン語文章構成Ⅳ	安達 直樹	535
スペイン語文章構成Ⅳ	磯野 吉美	536
スペイン語翻訳	北條 ゆかり	537
スペインの社会と文化	安達 直樹	538
スペシャリストインドネシア・マレー語	山口 玲子	539
スポーツ科学実習Ⅰ	川野 裕姫子	1103
スポーツ科学実習Ⅰ	川野 裕姫子	1104
スポーツ科学実習Ⅰ	横山 喬之	1163
スポーツ科学実習Ⅱ	川野 裕姫子	1105
スポーツ科学実習Ⅱ	川野 裕姫子	1106
スポーツ科学実習Ⅱ	横山 喬之	1164
住まいとデザイン	北本 裕之	1165
住まいとデザイン	鄭 弼溶	1167

## セ

生活のなかの数学	小林 俊公	1169
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	1170
生徒指導論	朝日 素明	1302
生命科学入門	大塚 正人	1171
生命と物質	松浦 哲郎	1173
世界の宗教	村上 司樹	540
世界の政治	森田 良成	1174
世界の地理	今野 泰三	541
世界の文化の比較	村上 司樹	543
世界の歴史	林田 敏子	544
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正治	1175
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕子	1176
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英一	1177
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保 貞也	1178
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂 貴恵	1179
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色 美博	1181
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田中 賢太郎	1182
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鳥居 祐介	1183
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	天野 貴史	1184
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木 紀哉	1185
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	安久 典宏	1186
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井 信輝	1187
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	内 部 昭彦	1188
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林 真美	1189
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	荻田 喜代一	1190
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正治	1191
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕子	1192
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英一	1193



科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久保貞也	1194
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鶴坂貴恵	1195
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	一色美博	1197
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	田中賢太郎	1198
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鳥居祐介	1199
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	天野貴史	1200
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	栢木紀哉	1201
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	安久典宏	1202
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石井信輝	1203
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	内 部 昭 彦	1204
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤 林 真 美	1205
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	荻 田 喜代一	1206
専門日本語FⅠ	中 岡 樹 里	1107
専門日本語FⅡ	中 岡 樹 里	1108
専門日本語R	中 岡 樹 里	1109

## ソ

総合インドネシア語a(1)	浦野崇央	545
総合インドネシア語a(2)	山口真佐夫	546
総合インドネシア語b(1)	浦野崇央	547
総合インドネシア語b(2)	山口真佐夫	548
総合スペイン語Ⅰ	磯野吉美	549
総合スペイン語Ⅰ	酒井真梨奈	550
総合スペイン語Ⅱ	酒井真梨奈	551
総合スペイン語Ⅱ	西村初美	552
総合スペイン語ⅢA	北條ゆかり	553
総合スペイン語ⅢA	西村初美	554
総合スペイン語ⅢB	三浦知佐子	555
総合スペイン語ⅢB	篠原愛人	556
総合中国語a	段 飛 虹	557
総合中国語b	段 飛 虹	558
総合マレー語a	上 田 達	559
総合マレー語b	上 田 達	560
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	1207
組織と経営	西之坊穂	1209
卒業研究Ⅰ	赤澤春彦	561
卒業研究Ⅰ	浅野英一	562
卒業研究Ⅰ	天野貴史	563
卒業研究Ⅰ	有馬善一	564
卒業研究Ⅰ	岩間香	565
卒業研究Ⅰ	上 田 達	566
卒業研究Ⅰ	浦野崇央	567
卒業研究Ⅰ	小川豊生	568
卒業研究Ⅰ	門脇薫	569
卒業研究Ⅰ	後藤一章	570
卒業研究Ⅰ	齋藤安以子	571
卒業研究Ⅰ	篠原愛人	572
卒業研究Ⅰ	ショーン マクガバン	573
卒業研究Ⅰ	住吉誠	574
卒業研究Ⅰ	瀬戸宏	575
卒業研究Ⅰ	田浦アマンダ	576
卒業研究Ⅰ	田中秀毅	577

科目名	担当者	ページ
卒業研究Ⅰ	鳥居祐介	578
卒業研究Ⅰ	中島直嗣	579
卒業研究Ⅰ	中西正樹	580
卒業研究Ⅰ	西川真由美	581
卒業研究Ⅰ	橋本正俊	582
卒業研究Ⅰ	林田敏子	583
卒業研究Ⅰ	原 秀 禎	584
卒業研究Ⅰ	北條ゆかり	585
卒業研究Ⅰ	マイケル ハーキー	586
卒業研究Ⅰ	松田早恵	587
卒業研究Ⅰ	皆本智美	588
卒業研究Ⅰ	家口美智子	589
卒業研究Ⅰ	兪 鳴 蒙	590
卒業研究Ⅰ	吉村征洋	591
卒業研究Ⅰ	山口真佐夫	592
卒業研究Ⅱ	赤澤春彦	593
卒業研究Ⅱ	浅野英一	594
卒業研究Ⅱ	天野貴史	595
卒業研究Ⅱ	有馬善一	596
卒業研究Ⅱ	岩間香	597
卒業研究Ⅱ	上田達	598
卒業研究Ⅱ	浦野崇央	599
卒業研究Ⅱ	小川豊生	600
卒業研究Ⅱ	門脇薫	601
卒業研究Ⅱ	後藤一章	602
卒業研究Ⅱ	齋藤安以子	603
卒業研究Ⅱ	篠原愛人	604
卒業研究Ⅱ	ショーン マクガバン	605
卒業研究Ⅱ	住吉誠	606
卒業研究Ⅱ	瀬戸宏	607
卒業研究Ⅱ	田浦アマンダ	608
卒業研究Ⅱ	田中秀毅	609
卒業研究Ⅱ	鳥居祐介	610
卒業研究Ⅱ	中島直嗣	611
卒業研究Ⅱ	中西正樹	612
卒業研究Ⅱ	西川真由美	613
卒業研究Ⅱ	橋本正俊	614
卒業研究Ⅱ	林田敏子	615
卒業研究Ⅱ	原 秀 禎	616
卒業研究Ⅱ	北條ゆかり	617
卒業研究Ⅱ	マイケル ハーキー	618
卒業研究Ⅱ	松田早恵	619
卒業研究Ⅱ	皆本智美	620
卒業研究Ⅱ	家口美智子	621
卒業研究Ⅱ	兪 鳴 蒙	622
卒業研究Ⅱ	吉村征洋	623
卒業研究Ⅱ	山口真佐夫	624

## タ

体験型特別実習A	沖中美喜	625
体験型特別実習B	中西正樹	626
大衆文化論	森本誠一	627

科目名	担当者	ページ
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	1211
旅と観光の地理	原秀禎	629
旅の文学	小川豊生	630
多文化の共生	林田敏子	631

## チ

地域環境論	原秀禎	632
地域研究論	森田良成	633
地域と国際ビジネス	中島直嗣	634
地域と私	鶴坂貴恵	1213
地域連携教育活動Ⅰ	浅野英一	1215
地域連携教育活動Ⅱ	浅野英一	1216
チームビルディング	水野武	1217
中級検定インドネシア語	山口玲子	636
中国語Ⅰ	兪鳴蒙	1110
中国語Ⅰ	今中崇文	1111
中国語Ⅱ	兪鳴蒙	1112
中国語Ⅱ	今中崇文	1113
中国語Ⅱ a	兪鳴蒙	637
中国語Ⅱ a	今中崇文	638
中国語Ⅱ b	兪鳴蒙	639
中国語Ⅱ b	今中崇文	640
中国語Ⅲ a	欒玉璽	641
中国語Ⅲ b	欒玉璽	642
中国語Ⅳ a	今中崇文	643
中国語Ⅳ b	今中崇文	644
中国語 L L I a	馮艶	645
中国語 L L I b	馮艶	646
中国語 L L II a	馮艶	647
中国語 L L II b	馮艶	648
中国語科教育法Ⅰ	瀬戸宏	1303
中国語科教育法Ⅱ	中西正樹	1304
中国語科教育法Ⅲ	瀬戸宏	1306
中国語科教育法Ⅳ	兪鳴蒙	1307
中国語圏概論	今中崇文	649
中国語会話Ⅰ a	曹櫻	650
中国語会話Ⅰ b	曹櫻	651
中国語会話Ⅱ a	欒玉璽	652
中国語会話Ⅱ b	欒玉璽	653
中国語会話表現法Ⅰ a	曹櫻	654
中国語会話表現法Ⅰ b	曹櫻	655
中国語会話表現法Ⅱ a	孫輝	656
中国語会話表現法Ⅱ b	孫輝	657
中国語学Ⅰ	中西正樹	659
中国語学Ⅱ	兪鳴蒙	660
中国語研究	兪鳴蒙	661
中国語原書講読Ⅰ a	大西紀	662
中国語原書講読Ⅰ b	大西紀	663
中国語原書講読Ⅱ a	李英杰	664
中国語原書講読Ⅱ b	李英杰	665
中国語講読Ⅰ a	瀬戸宏	666
中国語講読Ⅰ b	瀬戸宏	667

科目名	担当者	ページ
中国語講読Ⅱ a	段飛虹	668
中国語講読Ⅱ b	段飛虹	669
中国語コミュニケーション a	李英杰	670
中国語コミュニケーション b	李英杰	671
中国語作文Ⅰ a	兪鳴蒙	672
中国語作文Ⅰ b	兪鳴蒙	673
中国語作文Ⅱ a	李英杰	674
中国語作文Ⅱ b	李英杰	675
中国語視聴専科 a	中西正樹	676
中国語視聴専科 b	中西正樹	677
中国語トピックス a	馮艶	679
中国語トピックス b	馮艶	680
中国語を書くⅠ a	兪鳴蒙	681
中国語を書くⅠ b	兪鳴蒙	682
中国語を書くⅡ a	李英杰	683
中国語を書くⅡ b	李英杰	684
中国語を聞くⅠ a	馮艶	685
中国語を聞くⅠ a	兪鳴蒙	686
中国語を聞くⅠ b	馮艶	687
中国語を聞くⅠ b	兪鳴蒙	688
中国語を聞くⅡ a	馮艶	689
中国語を聞くⅡ b	馮艶	690
中国語を話すⅠ a	曹櫻	691
中国語を話すⅠ a	中西正樹	692
中国語を話すⅠ b	曹櫻	693
中国語を話すⅠ b	中西正樹	694
中国語を話すⅡ a	欒玉璽	695
中国語を話すⅡ b	欒玉璽	696
中国語を読むⅠ a	瀬戸宏	697
中国語を読むⅠ b	瀬戸宏	698
中国語を読むⅡ a	段飛虹	699
中国語を読むⅡ b	段飛虹	700
中国史学	森川裕貫	701
中国地誌学	瀬戸宏	702
中国文学	瀬戸宏	703

## ツ

通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山口真佐夫	704
ツーリズム論Ⅰ	原秀禎	705
ツーリズム論Ⅱ	塩崎裕司	706

## テ

ディスプレイ論	毛呂祐子	708
ディスプレイ論	毛呂祐子	709
ディベート	住吉誠	710
ディベート	ニールカー	711
ディベート	ジェフリーベル	712
哲学から学ぶ	有馬善一	1218

## ト

統計学	星山幸子	1219
道徳教育の研究	小山裕樹	1308

科目名	担当者	ページ
東南アジア史学	森田良成	713
東南アジア人類学	森田良成	714
東南アジア地誌学	原秀禎	715
東南アジア文化論	大坪紀子	716
特別活動の理論と方法	林茂樹	1310
トピック スタディーズI	アレン ニール	718
トピック スタディーズI	吉村征洋	719
トピック スタディーズI	ニール カー	720
トピック スタディーズI	サトラー トニー	721
トピック スタディーズI a	ニール カー	722
トピック スタディーズI a	プライアン スレーター	723
トピック スタディーズI a	サトラー トニー	725
トピック スタディーズI a	アレン ニール	726
トピック スタディーズI b	アレン ニール	727
トピック スタディーズI b	吉村征洋	728
トピック スタディーズI b	ニール カー	729
トピック スタディーズI b	サトラー トニー	730
トピック スタディーズII	ジョセフ シウンシ	731
トピック スタディーズII	谷脇康子	732
トピック スタディーズII	アーサー ロリングスン	734
トピック スタディーズII	アイビス ウィリアム	735
トピック スタディーズII a	フーパー トッド	736
トピック スタディーズII a	谷脇康子	737
トピック スタディーズII a	クロー オーエン	738
トピック スタディーズII a	リチャード ダイアース	739
トピック スタディーズII b	ジョセフ シウンシ	740
トピック スタディーズII b	谷脇康子	741
トピック スタディーズII b	アーサー ロリングスン	743
トピック スタディーズII b	アイビス ウィリアム	744
トピック スタディーズIII	皆本智美	745
トピック スタディーズIII	マイケル ハーキー	746
トピック スタディーズIII	松下乃亜	747
トピック スタディーズIII	中野華子	748
ドラマ	神崎舞	749
ドラマ	マーティン オイクル	750
ドラマ	ダニエル マリンズ	751
ドラマ	ニール カー	753
ドラマ	マシュー クーパー	754
ドラマI	神崎舞	755
ドラマI	マーティン オイクル	756
ドラマI	ダニエル マリンズ	757
ドラマI	ニール カー	759
ドラマI	マシュー クーパー	760
ドラマII	田浦アマンダ	761
ドラマII	吉村征洋	762
トランスレーション トレーニングa	久田歩	763
トランスレーション トレーニングa	湊由妃子	764
トランスレーション トレーニングa	瀧川宏樹	765
トランスレーション トレーニングa	内山知美	766
トランスレーション トレーニングa	鈴木三千代	767
トランスレーション トレーニングb	久田歩	768
トランスレーション トレーニングb	湊由妃子	769

科目名	担当者	ページ
トランスレーション トレーニングb	瀧川宏樹	770
トランスレーション トレーニングb	内山知美	771
トランスレーション トレーニングb	鈴木三千代	772
—		
日常の謎を解く心理学	牧野幸志	1220
日米関係論	有馬善一	773
日米比較文化	鳥居祐介	774
日米文化交流史	鳥居祐介	776
日中関係論	大西紀	778
日中観光文化と通訳法	中西正樹	779
日中翻訳法II a	曹櫻	781
日中翻訳法II b	曹櫻	783
日本語音韻論	橋本正俊	785
日本語会話F I	高井美穂	1114
日本語会話F II	高井美穂	1115
日本語会話R	高井美穂	1116
日本語学I	橋本正俊	786
日本語学II	橋本正俊	787
日本語学III	小川豊生	788
日本語教育実習演習	門脇薫	789
日本語教授法I	門脇薫	790
日本語教授法II	藤原京佳	791
日本語教授法III	宮崎玲子	792
日本国憲法	小野晃正	1221
日本語史概説	橋本正俊	793
日本語上級会話F I	高井美穂	794
日本語上級会話F II	高井美穂	795
日本語上級作文F I	中岡樹里	796
日本語上級作文F II	中岡樹里	797
日本語上級読解F I	古川由理子	798
日本語上級読解F II	古川由理子	799
日本語総合F I	古川由理子	1117
日本語総合F II	古川由理子	1118
日本語総合R	古川由理子	1119
日本語読解F I	中岡樹里	1223
日本語読解F II	中岡樹里	1120
日本語読解R	中岡樹里	1121
日本語能力開発I	澤野加奈	1266
日本語能力開発I	高嶋藍	1267
日本語能力開発I	田中教子	1268
日本語能力開発I	人形寺英利子	1269
日本語能力開発II	澤野加奈	1270
日本語能力開発II	高嶋藍	1271
日本語能力開発II	田中教子	1272
日本語能力開発II	人形寺英利子	1273
日本語表現作文F I	中岡樹里	1122
日本語表現作文F II	中岡樹里	1123
日本語表現作文R	中岡樹里	1124
日本語表現論	橋本正俊	800
日本語文法F I	中岡樹里	1125
日本語文法F II	中岡樹里	1126

科目名	担当者	ページ
日本語文法R	中 岡 樹 里	1127
日本史学	赤 澤 春 彦	801
日本史学	赤 澤 春 彦	1224
日本事情 F I	門 脇 薫	1128
日本事情 F II	門 脇 薫	1129
日本事情 R I	門 脇 薫	1130
日本事情 R II	門 脇 薫	1131
日本と世界の出会	村 上 司 樹	802
日本の思想	中 村 翼	803
日本の歴史	赤 澤 春 彦	804
日本文学	小 川 豊 生	805
人間の探求	池 田 清	1225

## ハ

博物館概論	谷 直 樹	806
博物館学 I	谷 直 樹	808
博物館学 II	岩 間 香	810
博物館学 III	赤 澤 春 彦	811
博物館教育論	毛 呂 祐 子	812
博物館実習	赤 澤 春 彦	814
博物館情報・メディア論	中 川 馨	815
博物館資料保存論	赤 澤 春 彦	816
博物館資料論	岩 間 香	817
パブリックスピーキング a	ステイブ トマシェフスキー	819
パブリックスピーキング a	ショーン マクガバン	821
パブリックスピーキング b	ステイブ トマシェフスキー	822
パブリックスピーキング b	ショーン マクガバン	824
犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	1226

## ヒ

ビジネス イングリッシュ a	リチャード ダイアース	825
ビジネス イングリッシュ a	ジェフリー ベル	826
ビジネス イングリッシュ a	マーティン オイクル	827
ビジネス イングリッシュ a	ダニエル マリンズ	828
ビジネス イングリッシュ a	梅 田 尋 道	830
ビジネス イングリッシュ b	リチャード ダイアース	831
ビジネス イングリッシュ b	ジェフリー ベル	832
ビジネス イングリッシュ b	マーティン オイクル	833
ビジネス イングリッシュ b	ダニエル マリンズ	834
ビジネス イングリッシュ b	梅 田 尋 道	836
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	837
ビジネス心理学	武 居 奈緒子	838
ビジネス中国語 II a	瀬 戸 宏	839
ビジネス中国語 II b	瀬 戸 宏	840
ビジネス中国語 III a	李 英 杰	841
ビジネス中国語 III b	今 中 崇 文	842
ビジネス中国語 a	大 西 紀	843
ビジネス中国語 b	大 西 紀	844
ビジネスマナー	仁 平 章 子	1228
美術の歩み	岩 間 香	845

科目名	担当者	ページ
<b>フ</b>		
風土と地理	原 秀 禎	847
武道論	横 山 喬 之	1230
Practical English Conversation	田浦 アマンダ	848
Practical English Conversation	アイビス ウイリアム	849
Practical English Conversation	アーサー ロリングスン	850
Practical English Conversation	ジョセフ シウンシ	851
フランス語 I	中 井 裕 之	1231
フランス語 II	中 井 裕 之	1232
フランス語 II a	中 井 裕 之	852
フランス語 II b	中 井 裕 之	853
フランス語 III a	藤 本 武 司	854
フランス語 III b	藤 本 武 司	855
フランス語 IV a	中 井 裕 之	856
フランス語 IV b	中 井 裕 之	857
プレゼンテーション	フーパー トッド	858
プレゼンテーション	ダニエル マリンズ	859
プレゼンテーション	ニール カー	861
プレゼンテーション	マシュー ケーパー	862
プレゼンテーション	マーティン オイクル	863
プレゼンテーション	アレン ニール	864
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	865
プレゼンテーション論	石 井 三 恵	1233
フレッシュマン イングリッシュ	田 中 秀 毅	866
文化演習 I	天 野 貴 史	867
文化演習 I	齋 藤 安以子	868
文化演習 I	住 吉 誠	869
文化演習 I	田浦 アマンダ	870
文化演習 I	田 中 秀 毅	871
文化演習 I	鳥 居 祐 介	872
文化演習 I	西 川 眞由美	873
文化演習 I	大原関 一 浩	874
文化演習 I	家 口 美智子	875
文化演習 I	篠 原 愛 人	876
文化演習 I	北 條 ゆかり	877
文化演習 I	上 田 達	878
文化演習 I	浦 野 崇 央	879
文化演習 I	山 口 眞佐夫	880
文化演習 I	赤 澤 春 彦	881
文化演習 I	浅 野 英 一	882
文化演習 I	有 馬 善 一	883
文化演習 I	岩 間 香	884
文化演習 I	門 脇 薫	885
文化演習 I	橋 本 正 俊	886
文化演習 I	林 田 敏 子	887
文化演習 I	後 藤 一 章	888
文化演習 I	中 島 直 嗣	889
文化演習 I	マイケル ハーキー	890
文化演習 I	松 田 早 恵	891
文化演習 I	皆 本 智 美	892
文化演習 I	吉 村 征 洋	893

科目名	担当者	ページ
文化演習 I	兪 鳴 蒙	894
文化演習 I	中 西 正 樹	895
文化演習 I	瀬 戸 宏	896
文化演習 I	小 川 豊 生	897
文化演習 I	神 崎 舞	898
文化演習 II	天 野 貴 史	899
文化演習 II	齋 藤 安以子	900
文化演習 II	住 吉 誠	901
文化演習 II	田浦 アマンダ	902
文化演習 II	田 中 秀 毅	903
文化演習 II	鳥 居 祐 介	904
文化演習 II	西 川 眞由美	905
文化演習 II	大原関 一 浩	906
文化演習 II	家 口 美智子	907
文化演習 II	篠 原 愛 人	908
文化演習 II	北 條 ゆかり	909
文化演習 II	上 田 達	910
文化演習 II	浦 野 崇 央	911
文化演習 II	山 口 真佐夫	912
文化演習 II	赤 澤 春 彦	913
文化演習 II	浅 野 英 一	914
文化演習 II	有 馬 善 一	915
文化演習 II	岩 間 香	916
文化演習 II	門 脇 薫	917
文化演習 II	橋 本 正 俊	918
文化演習 II	林 田 敏 子	919
文化演習 II	後 藤 一 章	920
文化演習 II	中 島 直 嗣	921
文化演習 II	マイケル ハーキー	922
文化演習 II	松 田 早 恵	923
文化演習 II	皆 本 智 美	924
文化演習 II	吉 村 征 洋	925
文化演習 II	兪 鳴 蒙	926
文化演習 II	中 西 正 樹	927
文化演習 II	瀬 戸 宏	928
文化演習 II	小 川 豊 生	929
文化演習 II	神 崎 舞	930
文化観光実習演習	原 秀 禎	931
文化人類学	西 垣 有	1235
文化と表現	橋 本 正 俊	932

## へ

平和の思想	西 垣 有	933
-------	-------	-----

## ホ

ボキャブラリー&グラマー a	松 田 早 恵	934
ボキャブラリー&グラマー a	後 藤 一 章	935
ボキャブラリー&グラマー a	中 島 直 嗣	936
ボキャブラリー&グラマー a	齋 藤 安以子	937
ボキャブラリー&グラマー a	鳥 居 祐 介	938
ボキャブラリー&グラマー a	西 川 眞由美	939
ボキャブラリー&グラマー a	家 口 美智子	940

科目名	担当者	ページ
ボキャブラリー&グラマー a	神 崎 舞	941
ボキャブラリー&グラマー a	皆 本 智 美	942
ボキャブラリー&グラマー a	杉 浦 秀 行	943
ボキャブラリー&グラマー a	田 中 秀 毅	944
ボキャブラリー&グラマー b	西 川 眞由美	945
ボキャブラリー&グラマー b	鳥 居 祐 介	946
ボキャブラリー&グラマー b	齋 藤 安以子	947
ボキャブラリー&グラマー b	家 口 美智子	948
ボキャブラリー&グラマー b	大原関 一 浩	949
ボキャブラリー&グラマー b	皆 本 智 美	950
ボキャブラリー&グラマー b	中 島 直 嗣	951
ボキャブラリー&グラマー b	天 野 貴 史	952
ボキャブラリー&グラマー b	田浦 アマンダ	953
ボキャブラリー&グラマー b	田 中 秀 毅	954
ボキャブラリー&グラマー b	松 田 早 恵	955
ボキャブラリー&グラマー b	後 藤 一 章	956
ボキャブラリー&グラマー b	杉 浦 秀 行	957
ホスピタリティ・インターンシップ	塩 崎 裕 司	958
ホスピタリティ演習	塩 崎 裕 司	959
ホスピタリティ論	沖 中 美 喜	961
ホスピタリティ論 I	沖 中 美 喜	962
ホスピタリティ論 II	沖 中 美 喜	963
ホテルビジネス論	塩 崎 裕 司	964
ホテルビジネス論 I	塩 崎 裕 司	966
ホテルビジネス論 II	塩 崎 裕 司	968
ボランティア論	浅 野 英 一	970
翻訳文化論	小 川 豊 生	971
翻訳文化論	小 川 豊 生	972

## マ

マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	1236
マーケティング入門	鶴 坂 貴 恵	1237
マイノリティ論	有 馬 善 一	973
マスコミ論	上 島 誠 司	974
マレー語圏トピックス	ノレハ ビンティ	975

## ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	1239
ミュージアムコレクション論	岩 間 香	976
ミュージアムへの招待	谷 直 樹	977
ミュージアムマネジメント論	赤 澤 春 彦	979

## メ

メディア イングリッシュ a	里 井 真理子	980
メディア イングリッシュ a	中 道 英美子	981
メディア イングリッシュ a	アーサー ロングスン	982
メディア イングリッシュ a	俣 野 裕 美	983
メディア イングリッシュ a	クロー オーエン	984
メディア イングリッシュ b	里 井 真理子	985
メディア イングリッシュ b	中 道 英美子	986
メディア イングリッシュ b	アーサー ロングスン	987
メディア イングリッシュ b	俣 野 裕 美	988

科目名	担当者	ページ
メディア イングリッシュ b	クロー オーエン	989
メディア中国語 a	中 西 正 樹	990
メディア中国語 b	中 西 正 樹	991
メディアのスペイン語 I	宮多良 ディスネル	992
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	993
メディアのスペイン語 I	宮多良 ディスネル	994
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	995
メディアのスペイン語 I	酒 井 真梨奈	996
メディアのスペイン語 II	磯 野 吉 美	997
メディアのスペイン語 II	三 浦 知佐子	998
メディアのスペイン語 II	篠 原 愛 人	999
メディアのスペイン語 II	宮多良 ディスネル	1000
メディアのスペイン語 III	磯 野 吉 美	1001
メディア文化論	森 本 誠 一	1002
メディアリテラシー論	有 馬 善 一	1004

## モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	1241
ものづくりインターンシップ基礎	川 野 常 夫	1243
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	1244
ものづくり海外インターンシップ	川 野 常 夫	1246

## ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	1247
---------	---------	------

## ヨ

ヨーロッパ史学	林 田 敏 子	1006
ヨーロッパ思想	池 田 清	1007

## ラ

ライティング a	鈴 木 大 介	1008
ライティング b	スコット ライリー	1009
ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	1249
ラテンアメリカ史学	篠 原 愛 人	1011
ラテンアメリカの社会と文化	北 條 ゆかり	1012
ラテンアメリカ文学	梶 原 三 佳	1013

## リ

リーディング I a	松 田 早 恵	1015
リーディング I a	瀧 川 宏 樹	1016
リーディング I a	湊 由 妃 子	1017
リーディング I a	住 吉 誠	1018
リーディング I a	西 谷 継 治	1019
リーディング I a	中 野 阿 佐 子	1020
リーディング I b	住 吉 誠	1021
リーディング I b	瀧 川 宏 樹	1022
リーディング I b	松 田 早 恵	1023
リーディング I b	西 谷 継 治	1024
リーディング I b	中 野 阿 佐 子	1025
リーディング I b	湊 由 妃 子	1026
リーディング I b	岩 橋 一 樹	1027
リーディング II a	木 村 ゆ み	1028

科目名	担当者	ページ
リーディング II a	湊 由 妃 子	1029
リーディング II a	ショーン マクガバン	1030
リーディング II a	ジェーン パーメンター	1031
リーディング II a	ジェフリー ベル	1032
リーディング II b	木 村 ゆ み	1033
リーディング II b	湊 由 妃 子	1034
リーディング II b	ショーン マクガバン	1035
リーディング II b	ジェーン パーメンター	1036
リーディング II b	ジェフリー ベル	1037
旅行インドネシア・マレー語	大 坪 紀 子	1038
旅行インドネシア語	大 坪 紀 子	1040

## レ

歴史に学ぶ	林 田 敏 子	1250
-------	---------	------

## ロ

ロマンス語研究 I	柱 本 元 彦	1042
ロマンス語研究 II	柱 本 元 彦	1043

# 專 門 科 目





科目名	アカデミック スタディーズ	科目名 (英文)	Academic Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	Academic Studies will focus on rhetorical devices (修辞的技巧) in English composition. Rhetoric is a foundational skill in language study. Well-known rhetorical devices include metaphor (隠喩), simile (比喩), and hyperbole (誇張). The study of rhetoric, along with grammar and logic, is essential to become a more effective communicator. Rhetoric is not only present in writing, but also visual communication, advertising and other media.
到達目標	Students will learn to identify and compose rhetorical devices and how to use them to make writing more effective and memorable.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	A greater understanding of rhetoric will lead to a better understanding of media and communication in general.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to the course	Orientation and introduction to rhetoric.	
	2	Repetition 1: Alliteration	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Repetition 2: Anaphora	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Metaphor	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Repetition 3: Epistrophe	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Simile	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Repetition 4: Anadiplosis	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	In class writing assignment 1	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Analogy	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Distinctio	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Eponym	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Allusion	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Sententia	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Term Review	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	In class writing assignment 2	Individual tasks, Pair work, and Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson

関連科目	Media Studies, Communication, Writing.
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Assignments 50% Classwork 30% Quizzes 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	This course will be particularly useful to 4th year students who are writing their graduation theses.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	Handouts will be provided in class. 授業の事前・事後の学習にかかる総時間はおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要なとなる書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業説明	リスニング課題
2	Unit 1 Right Brain or Left Brain パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
3	Unit 1 Right Brain or Left Brain パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文直し
4	Unit 2 The Shape of the Face パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
5	Unit 2 The Shape of the Face パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文直し
6	Unit 3 Potato パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
7	Unit 3 Potato パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文直し
8	Unit 4 Delicacy Food パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
9	Unit 4 Delicacy Food パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文直し
10	Unit 5 Persian New Year パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
11	Unit 5 Persian New Year パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文直し
12	Unit 6 Quincenera パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
13	Unit 6 Quincenera パラグラフライティング	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文直し
14	全体の復習	小テスト リスニング課題チェック 教科書講読 作文の書き方	リスニング課題、小テスト準備 作文
15	まとめ	まとめ	なし

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Weaving It Together II	宍戸・家口	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)とエッセイの成績を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	留学前に論理的に話したり書いたりする能力を身につけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階(家口研究室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and self-introduction	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	2	Introduction to process writing, paragraph format and paragraph structure	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	3	Creating topic sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	4	Improving topic sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	5	Creating supporting sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	6	Improving supporting sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	7	Creating detail sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	8	Improving detail sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	9	Creating concluding sentences	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	10	Unity	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	11	Coherence	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	12	Cohesion	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	13	Editing techniques	Individual Task, Pair work, and group work	Read the chapter of the next lesson in the textbook and prepare to discuss and write about the topics raised in the next lesson; and write a draft
	14	Introduction to essay writing	Individual Task, Pair work, and group work	Write a draft
15	Introduction to essay writing	Individual Task, Pair work, and group work	Write a draft	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Together	Mark D. Stafford	金
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	From Paragraph to Essay	Kate Elwood and Leonid Yoffe	南雲堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)とエッセイの成績を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	授業では、英語を書くことはもちろん、英語をたくさん使って話す活動を重視します!いっしょに授業を楽しみましょう!			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉浦研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	1年時で習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を読解する。
到達目標	一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1目標]。また多読活動を取り入れて、大量の英文をインプットする。
授業方法と留意点	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。共通単語テストおよび単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Making Connections 1	Jessica Williams	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動、単語学習課題等)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	We will be reading complex texts in this course. Come with an open mind and don't worry if you don't understand the readings 100%. You will learn strategies that will help make academic reading easier for you.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
----------	---------------

備考	You will need a dictionary in this class. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	1年時で習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を読解する。
到達目標	一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1目標]。また多読活動を取り入れて、大量の英文をインプットする。
授業方法と留意点	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。共通単語テストおよび単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Making Connections 1	Jessica Williams	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動、単語学習課題等)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	天野研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	You will need a dictionary in this class. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	アジア文化論	科目名(英文)	Asian Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	東南アジアの文化の多様性ということがしばしばいわれる。だが、一般的日本人にとっての東南アジアのイメージは、ごく偏った限られたものかもしれない。たとえばインドネシアについて説明するさい、「多民族国家」「多様な文化」という言葉はよく用いられる。しかし、多くの日本人が思い浮かべるインドネシアとは、実際にはジャワやバリなどのいくつかの限られた地域にすぎないだろう。この講義では、インドネシアの東部地域における人々の暮らしについて、各地域における人類学的研究の成果をもとに紹介していく。																																																																		
到達目標	インドネシアがいかに「多民族」で「多様」であるかを深く理解することで、東南アジアの「多民族」「多文化」の様相への理解を深めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	東南アジアについて基礎的な知識を習得済みであることが望ましいが、東南アジアに関する講義にまったく出たことがないという初学者も大いに歓迎する。各時間ごとに、感想や、こちらが提示する質問についての考えを書いてもらう。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジア、インドネシアの基礎知識1</td> <td>文化・経済・政治について概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東南アジア、インドネシアの基礎知識2</td> <td>文化・経済・政治について概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>インドネシア東部地域の基礎知識1</td> <td>地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>インドネシア東部地域の基礎知識2</td> <td>地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ティモール1</td> <td>ティモール島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ティモール2</td> <td>ティモール島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ティモール3</td> <td>ティモール島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ロテ1</td> <td>ロテ島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ロテ2</td> <td>ロテ島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>フローレス1</td> <td>フローレス島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>フローレス2</td> <td>フローレス島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>スンバ1</td> <td>スンバ島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>スンバ2</td> <td>スンバ島の歴史と文化</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体のまとめ</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。	2	東南アジア、インドネシアの基礎知識1	文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。	3	東南アジア、インドネシアの基礎知識2	文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。	4	インドネシア東部地域の基礎知識1	地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ	関連する文献を紹介するので読むこと。	5	インドネシア東部地域の基礎知識2	地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ	関連する文献を紹介するので読むこと。	6	ティモール1	ティモール島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	7	ティモール2	ティモール島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	8	ティモール3	ティモール島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	9	ロテ1	ロテ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	10	ロテ2	ロテ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	11	フローレス1	フローレス島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	12	フローレス2	フローレス島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	13	スンバ1	スンバ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	14	スンバ2	スンバ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。	15	まとめ	授業全体のまとめ	関連する文献を紹介するので読むこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
2	東南アジア、インドネシアの基礎知識1	文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
3	東南アジア、インドネシアの基礎知識2	文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
4	インドネシア東部地域の基礎知識1	地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
5	インドネシア東部地域の基礎知識2	地理、歴史、インドネシア国内における位置づけ	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
6	ティモール1	ティモール島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
7	ティモール2	ティモール島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
8	ティモール3	ティモール島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
9	ロテ1	ロテ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
10	ロテ2	ロテ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
11	フローレス1	フローレス島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
12	フローレス2	フローレス島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
13	スンバ1	スンバ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
14	スンバ2	スンバ島の歴史と文化	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
関連科目	東南アジアに関する講義科目すべて、文化人類学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30%、主に授業終了時に提出してもらおうコメント・感想から判断する)と、授業期間中に行うテスト(70%)から評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			



科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

**授業概要・目的**  
この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶと共に、会話に必要な語彙や多様な表現も習得する。

**到達目標**  
大量の英文から必要な情報を素早く正確に見出すことができるようになる。

**授業方法と留意点**  
毎回の出席とクラスでの積極的な参加が求められます。

**科目学習の効果 (資格)**  
読解力強化を中心とした総合的な英語力向上と、その結果としての英語資格試験等のスコアの向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Individual Task, Pair Work or Group Work	Extensive Reading 次週の予習
2	Unit 1 「Kawaii の美学」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
3	Unit 1 「Kawaii の美学」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
4	Unit 2 「ユニクロが蓄積したお宝データ」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
5	Unit 2 「ユニクロが蓄積したお宝データ」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
6	Unit 3 「味が勝負のB級グルメ」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
7	Unit 3 「味が勝負のB級グルメ」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
8	Unit 4 「くまのんの政治経済学」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
9	Unit 4 「くまのんの政治経済学」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
10	Unit 5 「福岡の屋台文化の歴史」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
11	Unit 5 「福岡の屋台文化の歴史」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
12	Unit 6 「ある芸術家の再生と成長」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
13	Unit 6 「ある芸術家の再生と成長」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
14	Unit 7 「ドラマ『半沢直樹』ヒットの要因」	Individual Task, Pair Work or Group Work Vocabulary Test 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Extensive Reading 今週の復習、次週の予習
15	Review Quiz 2 Wrap-up	Individual Task	Extensive Reading 今学期の復習

**関連科目**  
全ての英語科目, Global Issues など

**教科書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本で起きている15のあらゆること	宮本文	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	SEIBIDO
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(50点) + 課題(50点)			
学生への メッセージ	読書は英語力の基盤になります。たくさんの本を読んで下さい。			
担当者の 研究室等	7号館5階 後藤研究室			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行

**授業概要・目的**  
 大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。

**到達目標**  
 大量の英文から情報を的確に把握できるようになる。

**授業方法と留意点**  
 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

**科目学習の効果 (資格)**  
 . . .

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Reading assignment for Topic 1
2	Topic 1: Stereotypes and Racism	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 1)
3	Topic 1: Stereotypes and Racism	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 2
4	Topic 2: Information and Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 2)
5	Topic 2: Information and Communication	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 3
6	Topic 3: Culture and Fashion	Individual Task, Pair Work and Group Work Vocabulary Quiz for Topics 1-2	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 3)
7	Topic 3: Culture and Fashion	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 4
8	Topic 4: Health	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 4)
9	Topic 4: Health	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 5
10	Topic 5: Food	Individual Task, Pair Work and Group Work Vocabulary Quiz for Topics 3-4	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 5)
11	Topic 5: Food	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 6
12	Topic 6: A Sound Material-Cycle Society	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 6)
13	Topic 6: A Sound Material-Cycle Society	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 7
14	Topic 7: Global Warming	Individual Task, Pair Work and Group Work Vocabulary Quiz for Topics 5-6	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 7)
15	Topic 7: Global Warming	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for the final exam

**関連科目**  
 グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島茂 他	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 Vocabulary Quizzes : 10%、In-class presentations : 30%、Final exam : 60%

**学生へのメッセージ**  
 Enjoy discussing contemporary international issues in English!

**担当者の研究室等**  
 7号館5階 杉浦研究室

**備考**  
 授業の事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。集中的 (intensive) に読解を行うことで、文意を的確に把握しながら、ポイントをつかんでいく訓練をする。  This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations.
到達目標	時事的な英文を読むことで、英語読解力の増強だけでなく、多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず充分予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。 また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること  Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	N/A
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Elementary A1 student book (British edition)	Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson	CENGAGE Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	予習復習、課題の作成などに費やす時間を含めて、事前事後学習の総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美

**授業概要・目的** 大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。

**到達目標** 大量の英文の中から情報を的確に把握する能力の獲得。

**授業方法と留意点** 音声教材をふんだんに取り入れながら、英語力を伸ばす。また幅広い英字新聞の記事にも挑戦する。

**科目学習の効果 (資格)** TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises	Pair Work 音声を聞いて情報を拾い上げる	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises	Group Work 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	Individual Task 音声を聞いて情報を拾い上げる	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises	Pair Work 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises	Group Work 音声を聞いて情報を拾い上げる	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises	Individual Task 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	Pair Work 音声を聞いて情報を拾い上げる	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises	Group Work 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises	Individual Task 音声を聞いて情報を拾い上げる	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	Pair Work 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises	Group Work 音声を聞いて情報を拾い上げる	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises	Individual Task 記事から情報を絞上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

**関連科目** リーディング、オーラルコミュニケーション

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's on Japan? 10—映像で学ぶNHK 英語放送：日本を発信する 10	山崎達朗ほか	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

**評価方法 (基準)** 出席、授業態度、課題提出、定期試験の得点などを総合的に判断する。(1回目の授業時に詳しく説明する。)

**学生へのメッセージ**

**担当者の研究室等** 7号館 4階皆本研究室

**備考** 予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子

授業概要・目的	This is a pre-intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	さまざまなスキルを使って、大量の英文の中から情報を的確に把握する能力の獲得。
授業方法と留意点	Reading, listening, speaking and writing activities, done individually, as well as pair/small group work and class discussions.
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格試験 ( TOEIC など )

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and course orientation	Self-introduction, needs analysis grammar/vocabulary quiz, preview textbook	Buy the textbook
	2	Unit 1 Sales Can Be Like Acting	Useful language for talking about daily life and routines Textbook activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	3	Unit 1 Sales Can Be Like Acting	Listening, reading, speaking activities 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	4	Unit 2 Travel Opens Up the World	Talking about likes and dislikes. Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	5	Unit 2 Travel Opens Up the World	Listening, reading, speaking activities 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	6	Unit 3 Love Sells Cars	Making requests, responding to requests Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	7	Unit 3 Love Sells Cars	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
	8	Review (1)	Listening, reading, speaking activities, pairs/small group work, also review of vocabulary and grammar 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Review for mid-semester test (Units 1-3) grammar, vocabulary, reading comprehension
	9	Unit 4 Translating Is More Than Words	Mid-semester test (Units 1-3) Vocabulary, grammar, listening	Preview vocabulary for next lesson
	10	Unit 4 Translating Is More Than Words	Talking about hobbies and interests. Listening, reading, speaking activities 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	11	Unit 5 Serve Up the Best Possible Service	Describing events, using tense correctly, sequencing. Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	12	Unit 5 Serve Up the Best Possible Service	Listening, reading, speaking activities 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	13	Unit 6 Toast Your Success	Talking about celebrations and festivals. Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	14	Unit 6 Toast Your Success	Listening, reading, speaking activities. Review Units 4-6 for the end of semester test next week 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Review vocabulary and grammar for the end of semester test next week
15	Review (2) End of semester test	End of semester test (Units 4-6) Vocabulary, grammar, listening	Review	

関連科目	リーディング、オーラルコミュニケーション
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working in Japan	Alice Gordenker / John Rucynski	CENGAGE Learning
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、課題、提出物等) と確認テストの得点で総合的に評価する			
学生への メッセージ	努力は必ず報われます。頑張って取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	このクラス一番の目的は学生達の会話能力を伸ばす事にある。ペアになっての会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。そしてリスニング、語彙、文法などもそれらほどではないが扱っていく。 The objective of this class is for students to improve their oral English communication skills. Conversational pair work, dialogue practice and small group work will be emphasized. In addition to the textbook, a variety of conversational prints will be used for conversational practice. Vocabulary, grammar and listening will also be covered.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the language and grammar needed to express themselves in the topics studied: talking about memories, events that have changed your life, giving opinions, problems in your life, future events and plans.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as try to use English much as possible. Regular attendance is expected.
科目学習の効果(資格)	The content of this course is concerned with the language to express a variety of topics in daily life such as: talking about memories, events that have changed your life, giving opinions, problems in your life, future events and plans.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, explaining the class.	Introduction, explaining the class.	No preparation required.
	2	「思い出」 Unit 1 Memories.	Talking about memories. Past tense and "used to". Collocations. 記事の中から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 4-6, 102.
	3	「思い出」 Unit 1 Memories continued	Talking about memories continued. Agreeing. Common uses of "get". 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Pages 7-9.
	4	「生活スタイルの変化」 Unit 2 Life Changes.	Talking about events that changed your life. Present perfect. Prepositions. Reacting to news. 記事の中から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 10-12, 103.
	5	「生活スタイルの変化」 Unit 2 Life Changes continued.	Talking about events that changed your life. Talking about events that changed your life. 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Pages 13-15.
	6	「物の見方」 Unit 3 Viewpoints.	Expressing your opinions. Gerunds. Common verbs that use gerunds. 記事の中から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 16-18, 104.
	7	「物の見方」 Unit 3 Viewpoints continued.	Expressing your opinions continued. Dependent prepositions. Manners. Language for giving opinions. 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Pages 19-21
	8	Special topic. Mid-term test.	Special topic. Mid-term test.	Pages 22-23, 102-104. Study for test.
	9	「問題」 Unit 4 Problems.	Talking about problems. "Too much, many, enough, more, less". Women and work. Opposite adjectives. 記事の中から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 24-26, 105.
	10	「問題」 Unit 4 Problems continued.	Talking about problems continued. Language for giving advice. Common uses of "change". 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Pages 27-29.
	11	「計画的思考」 Unit 5 Thinking Ahead.	Predicting future events in your life. "Will, won't, may, might". Suffixes. 記事の中から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 30-32, 106.
	12	「計画的思考」 Unit 5 Thinking Ahead continued.	Won't, may, might". Suffixes. Short responses. Prefixes. 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Pages 33-35.
	13	「想像」 Unit 6 Imagine!	Talking about future plans. "If...will, until, unless, when, as soon as". 記事の中から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 36-38, 107.
	14	「想像」 Unit 6 Imagine! continued.	Are you an optimist or a pessimist? Talking about future plans. continued. Follow up questions. "make" vs "do".	Pages 39-41.



			音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	
	15	Final test.	Final test.	Study for test.
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 3	Miles Craven	MacMillan ISBN: 978-0-230-43826-2
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席授業参加態度 50%、 2 テスト 50%			
学生への メッセージ	ベストを尽くすこと！ 出来る限り英語を話すこと！ そしてミスを恐れず、わからないことをわからないと言う事を恥ずかしがらずにどんどんと質問して欲しい。 あと、出席と授業参加態度も大切です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室.			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美

授業概要・目的	この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶと共に、会話に必要な語彙や多様な表現も習得する。
到達目標	大量の英文から必要な情報を素早く正確に見出すことができるようになる。
授業方法と留意点	毎回の出席とクラスでの積極的な参加が求められます。
科目学習の効果 (資格)	読解力強化を中心とした総合的な英語力向上と、その結果としての英語資格試験等のスコアの向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方、評価方法などの説明	教科書に目を通しておくこと
2	Lesson 1 Psychology	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
3	Lesson 2 Women	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
4	Lesson 3 Young People	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
5	Lesson 4 The Environment	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
6	Lesson 5 Politics	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
7	Lesson 6 History	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
8	Lesson 7 Sports	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
9	中間テスト、今までの復習	新出単語テスト 総復習 中間テスト	中間テストの準備
10	Lesson 8 A World of Ideas	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
11	Lesson 9 Food	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
12	Lesson 10 Space	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
13	Lesson 11 Language	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
14	Lesson 12 Reading	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解
15	Lesson 13 Family	新出単語テスト 読解 まとめ	新出単語の暗記 (事前に範囲は指定) 指定範囲の読解

関連科目	全ての英語科目, Global Issues など
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界の視点を読む	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (50点) + 課題 (50点)
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	英語力は読書量に比例しますし、リスニング、ライティング、スピーキングの能力も英語読解力があれば向上しやすいと思います。予習は大変ですが、しっかりと準備して授業に臨んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行

**授業概要・目的**  
 大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。

**到達目標**  
 大量の英文から情報を的確に把握できる能力の獲得。

**授業方法と留意点**  
 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

**科目学習の効果 (資格)**  
 . . .

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Reading assignment for Topic 8
2	Topic 8: Energy	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 8)
3	Topic 8: Energy	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 9
4	Topic 9: Ecosystems and Humans	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 9)
5	Topic 9: Ecosystems and Humans	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 10
6	Topic 10: Endangered Species	Individual Task, Pair Work and Group Work Vocabulary quiz for Topics 8-9	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 10)
7	Topic 10: Endangered Species	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 11
8	Topic 11: International Relationships	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 11)
9	Topic 11: International Relationships	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 12
10	Topic 12: War and Peace	Individual Task, Pair Work and Group Work Vocabulary quiz for Topics 10-11	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 12)
11	Topic 12: War and Peace	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 13
12	Topic 13: Human Rights	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 13)
13	Topic 13: Human Rights	Individual Task, Pair Work and Group Work	Reading assignment for Topic 14
14	Topic 14: Global Citizenship	Individual Task, Pair Work and Group Work Vocabulary quiz for Topics 12-13	Prepare for discussion (See Writing-and-speaking section of Topic 14)
15	Topic 14: Global Citizenship	Individual Task, Pair Work and Group Work	Prepare for the final exam

**関連科目**  
 グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CLIL 英語で学ぶ国際問題	笹島	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 Vocabulary quizzes : 10%、In-class presentations : 30%、Final exam : 60%

**学生へのメッセージ**  
 Enjoy discussing contemporary international issues in English!

**担当者の研究室等**  
 7号館5階 杉浦研究室

**備考**  
 授業の事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。集中的 (intensive) に読解を行うことで、文意を的確に把握しながら、ポイントをつかんでいく訓練をする。  This course is designed to develop all four skills in English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations.
到達目標	時事的な英文を読むことで、英語読解力の増強だけでなく、多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。  The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations.
授業方法と留意点	必ず充分予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。 また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。  Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	•••

関連科目	N/A
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Elementary A1 student book (British edition)	Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson	CENGAGE Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
-----------	---

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	------------------------------

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。この授業では、リーディング II より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。また、速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	大量の英文から情報を的確に把握する能力の獲得。
授業方法と留意点	音声教材をふんだんに取り入れながら、英語力を伸ばす。また幅広い英字新聞の記事にも挑戦する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises	Pair Work 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises	Group Work 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	Individual Task 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises	Pair Work 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises	Group Work 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises	Individual Task 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	Pair Work 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises	Group Work 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises	Individual Task 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	Pair Work 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises	Group Work 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises	Individual Task 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session 音声を聞いて情報を拾い上げる訓練をする	...

関連科目	リーディング、オーラルコミュニケーション
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's on Japan? 10—映像で学ぶ NHK 英語放送：日本を発信する 10	山崎達朗ほか	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席、授業態度、課題提出、定期試験の得点など総合的に判断する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階皆本研究室
----------	------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子

授業概要・目的	This is a pre-intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	さまざまなスキルを使って、大量の英文の中から情報を的確に把握する能力の獲得。
授業方法と留意点	Reading, listening, speaking and writing activities, done individually, as well as pair/small group work and class discussions.
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格試験 ( TOEIC など )

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and course orientation	Self-introduction, needs analysis grammar/vocabulary quiz, preview textbook	Buy the textbook
	2	Unit 7. Teaching Is Helping Others Perform Their Best	Useful language for talking about daily life and routines Textbook activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	3	Unit 7. Teaching Is Helping Others Perform Their Best	Listening, reading, speaking activities 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	4	Unit 8. Build a Happy Life!	Talking about likes and dislikes. Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	5	Unit 8. Build a Happy Life!	Listening, reading, speaking activities 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	6	Unit 9. Life is Like Riding a Bicycle	Making requests, responding to requests Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	7	Unit 9. Life is Like Riding a Bicycle	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
	8	Review (1)	Listening, reading, speaking activities, pairs/small group work, also review of vocabulary and grammar 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Review for mid-semester test (Units 7-9) grammar, vocabulary, reading comprehension
	9	Unit 10. Trade Ideas for Positive Change	Mid-semester test (Units 1-3) Vocabulary, grammar, listening	Preview vocabulary for next lesson
	10	Unit 10. Trade Ideas for Positive Change	Talking about hobbies and interests. Listening, reading, speaking activities 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	11	Unit11. Connect Workers With Companies	Describing events, using tense correctly, sequencing. Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	12	Unit11. Connect Workers With Companies	Listening, reading, speaking activities 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	13	Unit 12. Necessity Is the Mother of Invention	Talking about celebrations and festivals. Listening, reading, speaking activities 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Preview vocabulary for next lesson
	14	Unit 12. Necessity Is the Mother of Invention	Listening, reading, speaking activities. Review Units 4-6 for the end of semester test next week 音声聞いて情報を拾い上げる訓練をする	Review vocabulary and grammar for the end of semester test next week
15	Review (2) End of semester test	End of semester test (Units 10-12) Vocabulary, grammar, listening	Review	

関連科目	リーディング、オーラルコミュニケーション
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Working in Japan	Alice Gordenker / John Rucynski	CENGAGE Learning
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、小テスト、課題、提出物等)と確認テストの得点で総合的に評価する			
学生への メッセージ	努力は必ず報われます。頑張って取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	このクラスの一歩の目的は学生達の会話能力を伸ばす事にある。ペアになっての会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。そしてリスニング、語彙、文法などもそれらほどではないが扱っていく。 The objective of this class is for students to improve their oral English communication skills. Conversational pair work, dialogue practice and small group work will be emphasized. In addition to the textbook, a variety of conversational prints will be used for conversational practice. Vocabulary, grammar and listening will also be covered.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the language and grammar needed to express themselves in the topics studied: talking about people, place and things, talking about experiences, feelings and emotions, wishes and possibilities, making deductions, and key events from the past.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as try to use English much as possible. Regular attendance is expected.
科目学習の効果 (資格)	The content of this course is concerned with the language to express a variety of topics in daily life such as: talking about people, place and things, talking about experiences, feelings and emotions, wishes and possibilities, making deductions, and key events from the past.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「世界」 Unit 7 My World.	Talking about people, places and things. Relative clauses: who/which/where.	Pages 44-46, 108.
2	「世界」 Unit 7 My World continued.	Talking about people, places and things continued. Tag questions. American vs British English. 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 47-49.
3	「過去」 Unit 8 Past Events.	Talking about your experiences. Narrative tenses: simple past, past continuous, past perfect. 音声を聞いて情報を拾い上げる	Pages 50-52, 109.
4	「過去」 Unit 8 Past Events continued.	Talking about your experiences continued. Adverbs of time and attitude. Responding with "That's..." 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 53-55.
5	「本音と意見」 Unit 9 Feelings and Opinions.	Talking about feelings and emotions. Participles as adjectives: -ed vs -ing. Kinds of TV shows. 音声を聞いて情報を拾い上げる	Pages 56-58, 110.
6	「本音と意見」 Unit 9 Feelings and Opinions continued.	Talking about feelings and emotions continued. Expressions for starting and ending a conversation. 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 59-61.
7	Special topic. Mid-term test.	Special topic. Mid-term test.	Pages 62-63, 108-110. Study for test.
8	「仮定」 Unit 10 What if...?	Talking about wishes and possibilities. Second conditional: "I wish + simple past." 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 64-66, 111.
9	「仮定」 Unit 10 What if...? continued.	Talking about wishes and possibilities continued. Vocabulary for moving to a new country. 音声を聞いて情報を拾い上げる	Pages 67-69.
10	「解決」 Unit 11 Work it Out.	Making deductions. Modals of deduction: could/might/must/etc. 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 70-72, 112.
11	「解決」 Unit 11 Work it Out continued.	Making deductions continued. Expressions for responding. Common proverbs. 音声を聞いて情報を拾い上げる	Pages 73-75.
12	「回顧」 Unit 12 Looking Back.	Talking about key events from the past. Passive tense. Telling a story with passive. 記事から情報を拾い上げる訓練をする	Pages 76-78, 113.
13	「回顧」 Unit 12 Looking Back continued.	Talking about key events from the past continued. Verb - noun collocations. 音声を聞いて情報を拾い上げる	Pages 79-81
14	Special topic and review of units 7-12.	Special topic and review of units 7-12.	Pages 82-83, 111-113.
15	Final test.	Final test.	Study for test.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 3	Miles Craven	MacMillan 978-0-230-43826-2
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			



評価方法 (基準)	出席授業参加態度 50%, 2テスト 50%
学生への メッセージ	ベストを尽くすこと！ 出来る限り英語を話すこと！ そしてミスを恐れず、わからないことをわからないと言う事を恥ずかしがらずにどんどんと質問して欲しい。 あと、出席と授業参加態度も大切です。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト ライティング a	科目名 (英文)	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。 エッセイ・ライティングの力を養う。
到達目標	・文法的に正確であるだけでなく、状況にあった表現方法を探す姿勢を身につける。 ・短文を組み合わせて構造を持ったパラグラフを書けるようになる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Purpose 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Purpose 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Purpose 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Target readers 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Target readers 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Target readers 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	logical structure 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	logical structure 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	logical structure 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	layout 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	layout 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	layout 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Review	Feedback session	・・・
15	Review	Feedback session	・・・	

関連科目	グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ	山内 信幸ほか	英宝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	active participation in class 30% assignments 50% quiz 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	・2年次のライティング a/b で学んだパラグラフ・ライティングのスキルを発展させ、エッセイ・ライティングのスキルを身につけます。 ・社会人として文書を作成するときの基本は、日本語でも英語でも共通するところがあります。成人となったみなさんにとって、これから長くよりどころとなるような言語使用への誠実な姿勢を、育んでいきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	・予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 ・道具として例文がたくさん載っている英和辞典、英英辞典、和英辞典が必要です。電子辞書も、「英語が専門の大学生」にふさわしい内容のものを入手しておきましょう。 ・日本語でも英語でも、まとまった内容を印刷物でたくさん読みましょう。よいお手本を知ることが、自分の文章をバージョンアップする助けになります。
----	--

科目名	アドバンスト ライティング a	科目名 (英文)	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美

授業概要・目的  
 大学入学までに学んださまざまな英語の基礎知識を、実際の音声コミュニケーションに活かせるよう練習する。発音記号と調音の仕組みを理解しリスニングやスピーキングに生かせるようにする。

到達目標  
 授業方法と留意点  
 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

科目学習の効果 (資格)  
 TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目  
 grammar, skills training, speaking

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Essay Writing from Scratch	Akiko Nakamoto 他	マクミラン・ランゲージハウス
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
 小テスト (毎回) 30%、授業態度 30%、まとめのテスト 40%を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
 宿題は必ずやってきてください。  
 辞書は必ず授業に持参してください。  
 一回一回の授業を大切に、「英語で書く」力をつけていきましょう。

担当者の研究室等  
 7号館 4階西川研究室

備考  
 授業の事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ 15 時間である。

科目名	アドバンスド ライティング a	科目名 (英文)	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	In the spring term of this advanced writing course students will learn to write in different genres that include descriptive writing (people and places) and narrative writing (personal experiences) and academic writing (short research reports that include graphs and other data). Part of the coursework will focus on vocabulary and grammar development related to these topics.
到達目標	This is an advanced writing class and students must have the ability to follow directions and participate in class using English.
授業方法と留意点	Students will gain experience in writing directly in English without translation. They will also learn to improve their writing skills using a computer that includes effectively incorporating, graphs photos and other visual information into their written work.

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Personal Questionnaire	Introducing oneself in writing.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
3	Personal Questionnaire 2	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
4	Mini research report	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
5	Vocabulary building	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
6	Photos and illustrations	Formatting and computer skills.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
7	Graphs	Writing and graphic design activities.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
8	Mini research report	Writing and graphic design activities.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
9	Paraphrasing	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
10	Mini research report	Writing and graphic design activities.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
11	Timed writing	Organizing a topic writing without translation.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
12	Mini research report	Writing and graphic design activity	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
13	Comprehensive term project	Organizing classwork into a comprehensive notebook report.	Students should review and study for the exam.
14	Vocabulary test	Vocabulary assessment	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
15	Timed writing	Writing without translation.	• • •

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades are based on reliable weekly attendance that includes active participation and quizzes, 50%; comprehensive notebook 40%; vocabulary examination 10%.
-----------	---

学生へのメッセージ	Be prepared to communicate using English. All the classwork and all course assignments will be in English.
-----------	--

担当者の研究室等	Herke 7号館5階
----------	-------------

備考	授業の事前・事後に学習する総時間はおよそ15時間程度である。
----	--------------------------------

科目名	アドバンスト ライティング a	科目名 (英文)	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。
到達目標	エッセイライティングの基礎を習得する。
授業方法と留意点	Regular attendance, active participation and reading outside the classroom are the three basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Purpose 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Purpose 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Purpose 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Target readers 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Target readers 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Target readers 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	logical structure 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	logical structure 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	logical structure 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	layout 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	layout 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	layout 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Review	Feedback session	...
15	Review	Feedback session	...	

関連科目	文法、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Weaving It Together: Connecting Reading and Writing	Milada Broukal	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 50% レポート 40% 共通単語試験 10%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	精確に書くことを楽しみましょう。
-----------	------------------

担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
----------	-------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	アドバンスト ライティング a	科目名 (英文)	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリノズ

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。 エッセイ・ライティングの力を養う。
到達目標	英語でエッセイを書く能力を身につける。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction. Assessment requirements and explanation.	Orientation and Self-Introduction	Preview course contents. Write first journal entry.
	2	Unit 1: Skills/Functions: Journal writing, freewriting, and composition format. Language focus: Journal writing, freewriting, and composition format.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	3	Unit 1: (cont.) Skill/Function: Journal writing, freewriting, and composition format. Language focus: Journal writing, freewriting, and composition format.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	4	Unit 2 Skills/Functions: freewriting; describing a person; writing interview questions; taking notes; using an idea web to organize information; editing: the writing process; revising: using the Correction Guide and rewriting based on peer feedback Language Focus: simple present tense; subject-verb agreement; using 'because'; combining sentences with 'and'; punctuation: using a comma before 'and'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	5	Unit 2 (cont.) Skills/Functions: freewriting; describing a person; writing interview questions; taking notes; using an idea web to organize information; editing: the writing process; revising: using the Correction Guide and rewriting based on peer feedback Language Focus: simple present tense; subject-verb agreement; using 'because'; combining sentences with 'and'; punctuation: using a comma before 'and'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	6	Unit 3 Skills/Functions: freewriting; writing questions; writing about experiences; taking notes; organizing information; writing an introduction; writing a conclusion; editing: irrelevant sentences and overuse of she or he; revising: rewriting based on peer feedback and common mistakes list. Language focus: present perfect; 'ever' and 'before' with present perfect; present perfect vs simple past; present perfect progressive; 'since' and 'for' with present perfect progressive; combining sentences with 'so'; punctuation: using a comma before 'so'.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	7	Unit 3 (cont.) Skills/Functions: freewriting; writing questions; writing about experiences; taking notes; organizing information; writing an introduction; writing a conclusion; editing: irrelevant sentences and overuse of she or he; revising: rewriting based on peer feedback and common mistakes list.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.

	<p>Language focus: present perfect; 'ever' and 'before' with present perfect; present perfect vs simple past; present perfect progressive; 'since' and 'for' with present perfect progressive; combining sentences with 'so'; punctuation: using a comma before 'so'.</p>		
8	<p>Unit 4</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing about an experience; organizing information in time order; giving background information to set up a story; writing an introduction; writing a conclusion; writing an outline; writing a title; including specific details to make a story more interesting; revising: checking verb tense, adding or taking out details, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: simple past tense; past progressive; combining sentences 'with' 'and'.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
9	<p>Unit 4 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing about an experience; organizing information in time order; giving background information to set up a story; writing an introduction; writing a conclusion; writing an outline; writing a title; including specific details to make a story more interesting; revising: checking verb tense, adding or taking out details, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: simple past tense; past progressive; combining sentences 'with' 'and'.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
10	<p>Unit 5</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing a recipe; describing food; revising: checking preposition usage, checking spelling and agreement, checking verb form, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: imperatives; vocabulary for describing food; prepositions; spelling; agreement.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
11	<p>Unit 5 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing a recipe; describing food; revising: checking preposition usage, checking spelling and agreement, checking verb form, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: imperatives; vocabulary for describing food; prepositions; spelling; agreement.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
12	<p>Unit 6</p> <p>Skills/Functions: freewriting; comparing and contrasting; writing questions with comparative forms; brainstorming and organizing information using a list; writing topic sentences; writing an outline; writing an introduction; writing a conclusion; revising: checking for usage of transitional phrases, checking spelling, checking comparative adjective forms, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: comparative form of adjectives; simple present tense; words and phrases to show comparison; words and phrases to show contrast; transitional phrases for introducing examples; punctuation: using commas with transitional phrases; spelling of comparative adjective forms.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
13	<p>Unit 6 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; comparing and contrasting; writing questions with comparative forms; brainstorming and</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.

	<p>organizing information using a list; writing topic sentences; writing an outline; writing an introduction; writing a conclusion; revising; checking for usage of transitional phrases, checking spelling, checking comparative adjective forms, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: comparative form of adjectives; simple present tense; words and phrases to show comparison; words and phrases to show contrast; transitional phrases for introducing examples; punctuation: using commas with transitional phrases; spelling of comparative adjective forms.</p>																		
14	Final writing composition and journal editing, rewriting, and submission.	Peer and teacher editing of final composition and journal submissions.	None.																
15	Final writing composition and journal feedback. Discussion of common errors and how to overcome them.	Feedback session	None.																
関連科目	文法、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Write Away Right Away (Second Edition)</td> <td>Martin, D.</td> <td>EFL Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Write Away Right Away (Second Edition)	Martin, D.	EFL Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Write Away Right Away (Second Edition)	Martin, D.	EFL Press																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>Writing assignment tasks・・・60%</p> <p>Textbook exercises and weekly journal・・・40%</p>																		
学生への メッセージ	<p>In order to pass this course, you must:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- complete at least ten, full page journal entries (complete with evidence of prewriting/brainstorming)</li> <li>- show evidence of prewriting and editing for each assignment</li> <li>- obtain an average of at least 60% for your best three assignments</li> <li>- not be absent for more than four lessons.</li> </ul> <p>Please use lined, B5 looseleaf writing paper (in a slim binder) for all notes and assignments.</p> <p>N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p>																		
担当者の 研究室等	Part-time faculty lounge, Bldg. 7, 2F																		
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。																		



科目名	アドバンスト ライティング b	科目名 (英文)	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。 エッセイ・ライティングの力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法的に正確であるだけでなく、状況にあった表現方法を探す姿勢を身に着ける。</li> <li>・パラグラフを積み上げて、構造を持ったエッセイを書けるようになる。</li> <li>・リサーチペーパーを書くための基礎を身に着ける。</li> </ul>
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Purpose 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Purpose 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Purpose 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Target readers 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Target readers 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Target readers 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	logical structure 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	logical structure 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	logical structure 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	layout 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	layout 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	layout 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Review	Feedback session	・・・
15	Review	Feedback session	・・・	

関連科目	グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ [前期と同じ]	山内信幸 ほか	英宝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	assignment 50% active participation in class 20% quiz 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	書く、読む、聞く、話す、はすべてつながっています。他の授業や、勉強時間以外に触れた「いつか使っていた言葉、表現」を、メモしていくと自分の言葉のストックが増えます。お気に入りの英語のドラマを日本語字幕付きでくりかえし見るのもおすすめです。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。</li> <li>・道具として例文がたくさん載っている英和辞典、英英辞典、和英辞典が必要です。電子辞書も、「英語が専門の大学生」にふさわしい内容のものを入手しておきましょう。</li> <li>・日本語でも英語でも、まとまった内容を印刷物でたくさん読みましょう。よいお手本を知ることが、自分の文章をバージョンアップする助けになります。</li> </ul>
----	--

科目名	アドバンスト ライティング b	科目名 (英文)	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美

授業概要・目的  
 大学入学までに学んださまざまな英語の基礎知識を、実際の音声コミュニケーションに活かせるよう練習する。発音記号と調音の仕組みを理解しリスニングやスピーキングに生かせるようにする。

到達目標  
 授業方法と留意点  
 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

科目学習の効果 (資格)  
 TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目  
 grammar, skills training, speaking

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Essay Writing from Scratch	Akiko Nakamoto 他	マクミラン・ランゲージハウス
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)  
 小テスト (毎回) 30%、授業態度 30%、まとめのテスト 40%を総合的に評価します。

学生へのメッセージ  
 宿題は必ずやってきてください。  
 辞書は必ず授業に持参してください。  
 一回一回の授業を大切に、「英語で書く」力をつけていきましょう。

担当者の研究室等  
 7号館 4階西川研究室

備考  
 授業の事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ 15 時間である。

科目名	アドバンスド ライティング b	科目名 (英文)	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	In the spring term of this advanced writing course students will learn to write in different genres that include descriptive writing (people and places) and narrative writing (personal experiences) and academic writing (short research reports that include graphs and other data). Part of the coursework will focus on vocabulary and grammar development related to these topics.
到達目標	This is an advanced writing class and students must have the ability to follow directions and participate in class using English.
授業方法と留意点	Students will gain experience in writing directly in English without translation. They will also learn to improve their writing skills using a computer that includes effectively incorporating, graphs photos and other visual information into their written work.

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course overview	Course objectives. Formatting and computer skills.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	2	Describing locations	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	3	Describing locations 2	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	4	Mini research report	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	5	Vocabulary building	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	6	Timed writing	Organizing a topic writing without translation.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	7	Questionnaires to graphs	Writing and graphic design activities.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	8	Mini research report	Writing and graphic design activities.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	9	Paraphrasing practice	Expanding topic vocabulary and improving grammar.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	10	Timed writing	Organizing a topic writing without translation.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	11	Holidays and events	Writing and graphic design activities.	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	12	Mini research report	Writing and graphic design activity	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
	13	Comprehensive term project	Organizing classwork into a comprehensive notebook report.	Students should review and study for the exam.
	14	Vocabulary test	Vocabulary assessment	Coming up with new ideas; writing a draft; or collecting data and other information to write about in the next class.
15	Timed writing	Writing without translation.	•••	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades are based on reliable weekly attendance that includes active participation and quizzes, 50%; comprehensive notebook 40%; vocabulary examination 10%.
-----------	---

学生へのメッセージ	Be prepared to communicate using English. All the classwork and all course assignments will be in English.
-----------	--

担当者の研究室等	Herke 7号館5階
----------	-------------

備考	授業の事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ15時間程度とする。
----	----------------------------------

科目名	アドバンスト ライティング b	科目名 (英文)	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。
到達目標	エッセイライティングの基礎を習得する。
授業方法と留意点	Regular attendance, active participation and reading outside the classroom are the three basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Purpose 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Purpose 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Purpose 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Target readers 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Target readers 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Target readers 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	logical structure 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	logical structure 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	logical structure 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	layout 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	layout 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	layout 3	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Review	Feedback session	...
15	Review	Feedback session	...	

関連科目 グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Weaving It Together: Connecting Reading and Writing	Milada Broukal	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 50% レポート 40% 共通単語試験 10%
学生へのメッセージ	精確に書くことを楽しみましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	アドバンスト ライティング b	科目名 (英文)	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリNZ

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。 エッセイ・ライティングの力を養う。
到達目標	英語でエッセイを書く能力を身につける。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction. Assessment requirements and explanation.	Orientation and Self-Introduction	Preview course contents. Write first journal entry.
	2	Unit 7:  Skills/Functions: freewriting; writing a narrative; organizing information in time order; revising: adding details to make your story more interesting, checking verb tense, adding adverbs, checking for usage of and, but, so, and because, and rewriting based on peer feedback.  Language focus: simple past tense; time transition words; direct speech; and, so, but, and because; adverbs: spelling of adverbs; punctuation: using a comma before so and but, punctuation of direct speech.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	3	Unit 7 (cont.)  Skills/Functions: freewriting; writing a narrative; organizing information in time order; revising: adding details to make your story more interesting, checking verb tense, adding adverbs, checking for usage of and, but, so, and because, and rewriting based on peer feedback.  Language focus: simple past tense; time transition words; direct speech; and, so, but, and because; adverbs: spelling of adverbs; punctuation: using a comma before so and but, punctuation of direct speech.	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	4	Unit 8  Skills/Functions: freewriting; writing emails; writing a letter to a penpal; writing a self-introduction; explaining why you are writing; writing questions; describing personality; describing preferences; writing a personal profile; revising: rewriting  Language focus: beginning and ending forms for email; adjectives for describing personality; relative clauses; 'I would like to...'; 'I'm looking for...'	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	5	Unit 8 (cont.)  Skills/Functions: freewriting; writing emails; writing a letter to a penpal; writing a self-introduction; explaining why you are writing; writing questions; describing personality; describing preferences; writing a personal profile; revising: rewriting  Language focus: beginning and ending forms for email; adjectives for describing personality; relative clauses; 'I would like to...'; 'I'm looking for...'	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
	6	Unit 9  Skills/Functions: freewriting; writing invitations; accepting or declining an invitation; giving reasons; writing directions  Language focus: formulaic expressions for inviting and accepting or declining an	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.

	invitation; present progressive with future meaning; imperatives; prepositions of location; 'How/What about (verb+ing)...'		
7	<p>Unit 9 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing invitations; accepting or declining an invitation; giving reasons; writing directions</p> <p>Language focus: formulaic expressions for inviting and accepting or declining an invitation; present progressive with future meaning; imperatives; prepositions of location; 'How/What about (verb+ing)...'</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
8	<p>Unit 10</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing a description of a restaurant; writing directions; writing a conclusion; writing a story (Fun Writing Activity); revising; checking spelling, checking agreement, checking vocabulary and pattern usage, adding details to make a description more interesting, rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: vocabulary and patterns for describing food and restaurants; descriptive adjectives; simple present tense; imperatives; agreement; spelling: common spelling mistakes.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
9	<p>Unit 10 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing a description of a restaurant; writing directions; writing a conclusion; writing a story (Fun Writing Activity); revising; checking spelling, checking agreement, checking vocabulary and pattern usage, adding details to make a description more interesting, rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: vocabulary and patterns for describing food and restaurants; descriptive adjectives; simple present tense; imperatives; agreement; spelling: common spelling mistakes.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
10	<p>Unit 11</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing a letter of request; writing a letter of confirmation; writing a thank-you letter; writing a postcard; filling out a disembarkation card; revising; rewriting.</p> <p>Language focus: formulaic expressions for business letters; 'I would like...'; 'I'll be (verb+ing)...'; '(We) look forward to...'; weather vocabulary; vocabulary to describe a holiday; expressions of gratitude; punctuation: commas.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
11	<p>Unit 11 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing a letter of request; writing a letter of confirmation; writing a thank-you letter; writing a postcard; filling out a disembarkation card; revising; rewriting.</p> <p>Language focus: formulaic expressions for business letters; 'I would like...'; 'I'll be (verb+ing)...'; '(We) look forward to...'; weather vocabulary; vocabulary to describe a holiday; expressions of gratitude; punctuation: commas.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.
12	<p>Unit 12</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing about advantages &amp; disadvantages; organizing information; brainstorming using a list; writing topic sentences; writing an introduction; writing a conclusion; using a variety of forms to make your writing more</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.

	<p>interesting; revising: checking usage of words that introduce a cause or effect, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: vocabulary and patterns used to introduce or list advantages &amp; disadvantages; signal words for listing or adding points; words that introduce a cause or effect; punctuation: using commas with signal words.</p>																		
13	<p>Unit 12 (cont.)</p> <p>Skills/Functions: freewriting; writing about advantages &amp; disadvantages; organizing information; brainstorming using a list; writing topic sentences; writing an introduction; writing a conclusion; using a variety of forms to make your writing more interesting; revising: checking usage of words that introduce a cause or effect, and rewriting based on peer feedback.</p> <p>Language focus: vocabulary and patterns used to introduce or list advantages &amp; disadvantages; signal words for listing or adding points; words that introduce a cause or effect; punctuation: using commas with signal words.</p>	Individual Task, Pair Work or Group Work	Finish textbook exercises that weren't completed in class and all specified homework/journal assignments.																
14	Final writing composition and journal editing, rewriting, and submission.	Peer and teacher editing of final composition and journal submissions.	None.																
15	Final writing composition and journal feedback. Discussion of common errors and how to overcome them.	Feedback session	None.																
関連科目	グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Write Away Right Away (Second Edition)</td> <td>Martin, D.</td> <td>EFL Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Write Away Right Away (Second Edition)	Martin, D.	EFL Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Write Away Right Away (Second Edition)	Martin, D.	EFL Press																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>Writing assignment tasks・・・60%</p> <p>Textbook exercises and weekly journal・・・40%</p>																		
学生への メッセージ	<p>In order to pass this course, you must:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- complete at least ten, full page journal entries (complete with evidence of prewriting/brainstorming)</li> <li>- show evidence of prewriting and editing for each assignment</li> <li>- obtain an average of at least 60% for your best three assignments</li> <li>- not be absent for more than four lessons.</li> </ul> <p>Please use lined, B5 looseleaf writing paper (in a slim binder) for all notes and assignments.</p> <p>N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p>																		
担当者の 研究室等	Part-time faculty lounge, Bldg. 7, 2F																		
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	アメリカ史学	科目名(英文)	American History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	アメリカの歴史を通史ではなく、いくつかのトピックに分けて、総合的なアメリカ史の理解をめざす。現代アメリカ社会に通じるさまざまな諸問題を考えながら、日本代社会についての理解を深めることをめざします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカの歴史における主要な問題についての理解を深める。</li> <li>・比較に視点を通じて、自らの生きる社会についての理解を深める。</li> <li>・自分の考えを伝えるためのアカデミックコミュニケーションスキルを向上させる。</li> </ul>
授業方法と留意点	ハンドアウトや図画資料を提示しながら授業をすすめる。教員が板書するアウトラインを書き写すだけでなく、それについて考えたこと、質問などを必要に応じて書き加え、分からない点は、積極的に教員に質問すること。
科目学習の効果(資格)	アメリカの歴史に関する基本的知識を身につけるとともに、現代社会を違った角度から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の方法、計画、課題などを、シラバスを使い説明	授業の復習
	2	アメリカの成り立ち	アメリカの起源と神話	授業の復習
	3	宗教の役割	ピューリタン、宗教革命など	授業の復習
	4	アメリカ西部	フロンティア、アメリカの膨張、先住民など	授業の復習
	5	黒人奴隷制度	アメリカ史における黒人、南部社会、南北戦争ほか	授業の復習
	6	工業化と都市化	金メッキ時代の社会と諸問題	授業の復習
	7	アメリカの移民	移民の移住、アメリカでの生活、ネイティブイズムなど	授業の復習
	8	確認テスト1	前半内容に関する小テストと解説	授業の復習
	9	アメリカ女性の経験1	植民地時代からアンテベラム期まで	授業の復習
	10	アメリカ女性の経験2	フェミニズム運動から現代まで	授業の復習
	11	冷戦と文化	冷戦と対抗文化(カウンターカルチャー)	授業の復習
	12	20世紀の人種関係	人種・移民をめぐる思想、多文化主義、ナショナル・アイデンティティなど	授業の復習
	13	犯罪、暴力	人種、階級、ジェンダーとの関係から犯罪問題について考える	授業の復習
	14	アメリカの格差問題	貧困・格差によるアメリカの社会問題について考える	授業の復習
	15	確認テスト2	後半内容に関する小テストと解説	全授業内容を復習しておく。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	確認テスト、提出物、授業への参加などを総合して評価する
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	歴史学とは、過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	大原関研究室7号館5階
----------	-------------

備考	授業スケジュール等に多少の変更の可能性があるため、初回の授業に必ず出席すること。事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	--



科目名	アメリカ文化論	科目名(英文)	American Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	本講義は、19世紀半ばから現在までのアメリカにおけるアジア系の人々の経験を辿り、その歴史的意義を考える。アジア人移住が発生した背景、渡航プロセス、アメリカにおける労働、コミュニティ形成過程、アジア人排斥運動、第二次大戦とアジア人移民への影響、戦後の新しい移民、モデル・マイノリティ神話の意義などを、グローバルな視点から理解することをめざす。アメリカ史の特定のテーマを取り扱うので、アメリカ史一般(1607年～現在)の基本的な知識があることが望ましい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ文化形成におけるアジア系アメリカ人の経験の意義を議論できる。</li> <li>・アジア系グループ間の関係、歴史的経験の類似点・相違点を理解できる。</li> <li>・テーマを設定し、それについて調べ、効果的に発表できる。</li> <li>・アジア系アメリカ人の歴史を学び、身近なエスニシティの問題に意識的になる。</li> </ul>
授業方法と留意点	統計・写真・地図などの資料を配布し、それらと合わせて講義を進める。意見交換の場を作るので、受講者の積極的な発言を重視する。また、講義内容の理解を促すため、小クイズも行う。授業内容に多少の変更の可能性があるので初回の授業に必ず出席すること。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なるバックグラウンドの人々と生活するために必要な素養を身につける</li> <li>・証拠を提示しながら自分の議論を展開するスキルを身につける</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明	授業内容の復習
2	移住、労働、コミュニティ、排斥	中国人	授業内容の復習
3	移住、労働、コミュニティ、排斥	日本人(ハワイ)	授業内容の復習
4	移住、労働、コミュニティ、排斥	日本人(西海岸)	授業内容の復習
5	アジア系移民女性	パイオニア女性たち	授業内容の復習
6	移住、労働、コミュニティ、排斥	韓国人/レポート中間報告	事前に報告の準備をしておくこと
7	移住、労働、コミュニティ、排斥	インド人/レポート中間報告	事前に報告の準備をしておくこと
8	移住、労働、コミュニティ、排斥	フィリピン人	授業内容の復習
9	移住、労働、コミュニティ、排斥	中国系ほか	授業内容の復習
10	第二次世界大戦とアジア系移民	日系アメリカ人収容	授業内容の復習
11	戦後のアジア系1	冷戦、公民権運動、アジア系運動	授業内容の復習
12	戦後のアジア系2	モデル・マイノリティ神話	授業内容の復習
13	戦後のアジア系3	ベトナム難民ほか	授業内容の復習
14	戦後のアジア系4	21世紀のアジア系	授業内容の復習
15	レポート内容報告	発表とディスカッション	事前に報告の準備をしておくこと

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし。統計・写真・地図などの資料を配布/表示。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アジア系アメリカ人—アメリカの新しい顔	村上 由見子	中公新書
2	Strangers from a Different Shore	Ronald Takaki	Little, Brown and Company	
3				

評価方法(基準)	授業中のパフォーマンス(質問、コメント、リアクション)、講義内容に関するクイズや小エッセイの得点、リサーチ・レポートなどをあわせて評価。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	大原関研究室7号館5階
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間

科目名	ESP (English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	本講義は英語のプロを目指す学生が本物の英語の実力を培うための、厳しい特訓授業とする。特にリスニングとリーディングに特化してたくさんの英文にふれる。
到達目標	TOEICに換算して100点あげることが目標とする。 英語を身に着けるためにはどんな方法があるかを身を持って体験する。
授業方法と留意点	リスニングの課題と教科書の予習は必ず行うこと
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業の紹介	授業の概要、目標、方法の説明	教科書を必ず購入して授業に臨むこと
2	Australia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
3	China	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
4	India	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
5	Soudi Arabia	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
6	Finland	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
7	United Kingdom	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
8	Germany	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
9	France	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
10	Caribbean Islands	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
11	Ecuador	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
12	Brazil	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
13	Nigeria	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
14	South Africa	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
15	まとめ	確認テスト	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Score Goals TOEIC Test Listening 400	Bramley, 河合	松柏社
	2	Stories from Around the World	染谷正一	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題+小テスト+確認テスト
-----------	---------------

学生へのメッセージ	決めたらとことんやりましょう
-----------	----------------

担当者の研究室等	7号館4F
----------	-------

備考	授業の事前・事後の学習時間は15時間程度である。
----	--------------------------

科目名	ESP (English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容や方法などについて説明する。	シバラスをしっかりと確認する。
2	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
3	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
4	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
5	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
6	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
7	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
8	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
9	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
10	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
11	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
12	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
13	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
14	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
15	総括 (まとめ)	これまで学んだ内容の要点を整理する。	学習の成果を英語関連の資格 (TOEIC など) にどのように活かしていくか考える。

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト、グループワークの成果、授業に取り組む姿勢などを合わせて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも協調的な姿勢を大切にしてほしいと願っています。
担当者の研究室等	7号館4階 (中島研究室)
備考	

科目名	ESP (English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です、よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光とホスピタリティについての調べ学習： 基本的な知識を増やす。</li> <li>・基礎英会話の練習： 簡単な英語が口から出てくるようにする。</li> <li>・英語を使ったアクティビティ： 空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。</li> <li>・ペアワークやグループワーク： コミュニケーション能力をつける。</li> </ul>
---------	---

到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界についての知識の習得。</li> <li>・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。</li> <li>・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。</li> <li>・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。</li> </ul>
------	--

授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。          テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。          国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)
--------------	--------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	Students should study the content of the day's lesson
	2	May I have your name, please?	Greeting guests	Students should study the content of the day's lesson
	3	May I have your name, please?	Asking for personal information	Students should study the content of the day's lesson
	4	I get to travel a lot.	Talking about occupations	Students should study the content of the day's lesson
	5	I get to travel a lot.	Expressing likes and dislikes	Students should study the content of the day's lesson
	6	It's on the third floor	Asking about facilities	Students should study the content of the day's lesson
	7	It's on the third floor	Describing locations	Students should study the content of the day's lesson
	8	We're open from 7:00 a.m. to 11:00 p.m.	Asking about schedules	Students should study the content of the day's lesson
	9	We're open from 7:00 a.m. to 11:00 p.m.	Telling time	Students should study the content of the day's lesson
	10	We're fully booked on Monday.	Talking about days and dates	Students should study the content of the day's lesson
	11	We're fully booked on Monday.	Asking about availability	Students should study the content of the day's lesson
	12	I'll repeat your reservation.	Asking about preferences	Students should study the content of the day's lesson
	13	I'll repeat your reservation.	Checking and confirming information	Students should study the content of the day's lesson
	14	Are you checking in?	Checking in at a hotel	Students should study the content of the day's lesson
	15	Are you checking in?	Asking and offering	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Class Service-English for the Tourism and Hospitality Industry	Stephen Hall/ Troy Blappert	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加 60%、小テスト 40% を目安に、総合的に評価します。
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
----------	-------------

備考	授業の事前・事後の学習の総時間はおおよそ15時間である。
----	------------------------------

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名(英文)	ESP(English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティー」を選択した学生を対象とした英語の授業です。このシラバスは (2) のクラス向けです。  日本と世界を観光の視点から見つめ、観光に関する情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。
到達目標	分野によって必要とされる英語が異なることを理解する。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。  「観光ホスピタリティー」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	特に観光ホスピタリティーの分野で必要とされる英語を中心に学習します。  国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。なお、観光
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEICなど)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Oriental: Japan: 湯布院	温泉のマナーを、初めての人に、英語でどう説明したらわかりやすいだろうか？ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
3	Oriental: Japan: 沖縄	名物料理をどうやっておいしそうに紹介しようか？ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
4	Oriental: Japan: 沖縄	名物料理をどうやっておいしそうに紹介しようか？ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
5	Asean: シンガポール	空港で迷子にならないように 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
6	Asean: シンガポール	空港で迷子にならないように 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
7	Asean: バリ	バリ島ってどんなところ？異文化との出会いを楽しめるようにサポートするには 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
8	Asean: バリ	バリ島ってどんなところ？異文化との出会いを楽しめるようにサポートするには 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
9	Oceania: シドニー	南半球って世界がさかさま？ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
10	Oceania: シドニー	南半球って世界がさかさま？ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
11	The Pacific Rim: ハワイ	あなたの知っているハワイ、まだ知らないハワイ 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
12	The Pacific Rim: ハワイ	あなたの知っているハワイ、まだ知らないハワイ 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
13	Europe: ロンドン	London A to Z 読解・ディスカッション	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
14	Europe: ロンドン	London A to Z 発表	観光ホスピタリティーに関する報道記事を探す テキスト復習
15	まとめ	ディスカッション・発表	ふりかえり

関連科目	ホスピタリティー論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論、エコツアーリズム論、ホスピタリティー・インターンシップ ほか
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for Tourism 101	一から学ぶ観光英語の基礎	Akiko Tsuda et.al
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	ディスカッション: 30% 小テスト: 30%
----------	----------------------------

	発表：40%
学生へのメッセージ	観光する側から、観光をサポートする側へ、視点に移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことを、外国から来た人たちに、成り立ちや隠された意味がわかるように英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？ あなたの大切な友人をもてなすときにどうするか、試行錯誤していきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	この科目の授業期間中に担当者がアジアとヨーロッパに出張に行く予定なので、実際に「外国にこんなものがあってびっくりした・おもしろかった・おいしかった・・・」という話もできるかと思います。 授業の事前・事後の学習の総時間はおよそ15時間である。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名(英文)	ESP(English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」および「国際ビジネス」およびプログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。グローバルな視点からボランティア、国際貢献やビジネスなどに関する英語の語彙や表現を習得したり、そのような内容を持った英語を理解したり、自分の意見を英語で発信できるようになることを目標とします。
到達目標	英語を仕事のツールと捉え、「国際貢献」や「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになること、簡単な語彙や英語の表現をつかっ、国際貢献やビジネスについて意見を述べられるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEICなど)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本ESPと関連するパッケージプログラムについて英語で意見を交換する	配布プリントの予習
	2	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	3	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	4	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	5	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	6	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	7	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	8	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
	9	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
	10	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	11	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	12	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	13	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	14	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	15	まとめ	確認のためのまとめのテスト	全体内容を復習し、後期のESPbに備える。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを使用する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	提出物など(20%) プレゼンテーション(20%) まとめの確認テスト(60%)
学生へのメッセージ	ESPはパッケージプログラムと連動する英語科目です。自分の将来をしっかり見据えて英語学習に取り組みましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室
備考	事前事後学習に要する総学習時間をおおよそ30時間とする。

科目名	ESP (English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」と「メディアビジネス」のプログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です（クラス編成の都合により、2つの分野を扱います）。グローバルな視点から教養とメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」と「メディアビジネス」に関連する基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	特に「国際教養」と「メディアビジネス」の分野で必要とされる英語を中心に学習します。2分野の教材に交互に取り組みます（授業計画の【教】は国際教養分野を、【メ】はメディアビジネスを表します）。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEICなど）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	【教】 Unit 1: Australia (1)	Warm-up, Story	予習・復習
3	Unit 1: Australia (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Australiaに関するプレゼン	予習・復習
4	【メ】 Lessons 1 & 2	数字の表し方、ニュースを聞く (1)	予習・復習
5	【教】 Unit 5: Finland (1)	Warm-up, Story	予習・復習
6	Unit 5: Finland (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Finlandに関するプレゼン	予習・復習
7	【メ】 Lessons 3 & 4	ニュースを聞く (2)、英字新聞を読む (1)	予習・復習
8	【教】 Unit 9: Caribbean Islands (1)	Warm-up, Story	予習・復習
9	Unit 9: Caribbean Islands (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Caribbean Islandsに関するプレゼン	予習・復習
10	【メ】 Lessons 5 & 6	英字新聞を読む (2)・(3)	予習・復習
11	【教】 Unit 12: Nigeria (1)	Warm-up, Story	予習・復習
12	Unit 12: Nigeria (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Nigeriaに関するプレゼン	予習・復習
13	【メ】 Lessons 7 & 8	会社の役職名と部署名、電話をかける	予習・復習
14	【教】 Unit 4: Saudi Arabia (1)	Warm-up, Story	予習・復習
15	Unit 4: Saudi Arabia (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Saudi Arabiaに関するプレゼン	予習・復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民話で学ぶ世界の文化</td> <td>染矢 正一ほか</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ニュース&amp;ビジネス・サプリメント</td> <td>小池 直己</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民話で学ぶ世界の文化	染矢 正一ほか	南雲堂	2	ニュース&ビジネス・サプリメント	小池 直己	南雲堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	民話で学ぶ世界の文化	染矢 正一ほか	南雲堂														
2	ニュース&ビジネス・サプリメント	小池 直己	南雲堂														
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)</td> <td></td> <td>ロングマン</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)</td> <td></td> <td>オックスフォード</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン	2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン														
2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード														
3																	

評価方法 (基準)	<p>【定期試験を実施】</p> <p>評価の対象 定期試験、異文化プレゼン、授業態度</p> <p>試験の頻度 期末試験は学期の最後、異文化プレゼンは単元ごと</p> <p>評価に対する重み 定期試験 (70%)、異文化プレゼン (15%)、平常点 (15%)</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	「国際教養」と「メディアビジネス」の分野は、どちらもグローバル社会で求められる知識やスキルを含んでいるのでぜひ積極的に取り組んでください。
担当者の研究室等	田中研究室 (7号館4階) ※チューデントアワーは木曜5時限です。

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>英和・英英辞典は最新版が望ましい。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。ただし、液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。英英辞典を用いたアクティビティを行うので、電子辞書に入っていない人は用意すること（参考書欄の英英辞典を推奨する）。</li> <li>欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補充しておくこと。</li> <li>遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> <li>配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。</li> </ol>
----	--



科目名	ESP (English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的  
本講義は英語のプロを目指す学生が本物の英語の実力を培うための、厳しい特訓授業とする。特にリスニングとリーディングに特化してたくさんの英文にふれる。

到達目標  
TOEICに換算して100点あげることが目標とする。

授業方法と留意点  
英語を身に着けるためにはどんな方法があるかを身を持って体験する。

科目学習の効果 (資格)  
リスニングの課題と教科書の予習は必ず行うこと

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	庞   ° 紹介	授業の概要、目標、方法の説明	教科書を必ず購入して授業に臨むこと
2	Multilingual Japan	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
3	Multilingual Japan	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
4	The Ainu Language Is Forever	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
5	The Ainu Language Is Forever	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
6	A British Boy Growing Up in Japan	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
7	A British Boy Growing Up in Japan	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
8	Signes Written in Multiple Languages	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
9	Signes Written in Multiple Languages	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
10	Brazilian Children at a Disadvantage	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
11	Brazilian Children at a Disadvantage	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
12	Foreign-language Education in Japan	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
13	Foreign-language Education in Japan	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
14	A Theme Park for a Multilingual World	小テスト リスニングの課題チェック 教科書の講読	小テストの準備 課題 教科書の予習
15	まとめ	確認テスト	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Score Goa's TOEIC Test Listening 400	Bramley, 河合	松柏社
2	Multicultural Japan	Wrught, Sloss, Kimura	南雲堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)  
課題+小テスト+確認テスト

学生へのメッセージ  
決めたらとことんやりましょう

担当者の研究室等  
7号館4F

備考  
授業の事前・事後の学習時間は15時間程度とする。

科目名	ESP (English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
3	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
4	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
5	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
6	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
7	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
8	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
9	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
10	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
11	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
12	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
13	ビジネスに関する長文読解	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
14	ビジネスに関する語彙や表現	提示された課題について、グループワーク形式で取り組む。	課題について、予習として語彙や文法・構文をチェックし、復習として小テストの対策を行う。
15	総括 (まとめ)	これまで学んだ内容の要点を整理する。	学習の成果を英語関連の資格 (TOEIC など) にどのように活かしていくか考える。

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a
------	---------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト、グループワークの成果、授業に取り組む姿勢などを合わせて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも協調的な姿勢を大切にしてほしいと願っています。
担当者の研究室等	7号館4階 (中島研究室)
備考	授業の事前・事後の学習の総時間はおよそ15時間である。

科目名	ESP (English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です、よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光とホスピタリティについての調べ学習： 基本的な知識を増やす。</li> <li>・基礎英会話の練習： 簡単な英語が口から出てくるようにする。</li> <li>・英語を使ったアクティビティ： 空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。</li> <li>・ペアワークやグループワーク： コミュニケーション能力をつける。</li> </ul>																																																																		
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界についての知識の習得。</li> <li>・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。</li> <li>・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。</li> <li>・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。          テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。          国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>I'll transfer your call.</td> <td>Listening to requests Directing calls</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>I'll transfer your call.</td> <td>Giving information</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>We'll be stopping for lunch at 12:00.</td> <td>talking about plans and itineraries</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>We'll be stopping for lunch at 12:00.</td> <td>Discussing tour activities</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>What can I get for you?</td> <td>Taking food and drink orders</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>What can I get for you?</td> <td>Confirming information</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>I'll send someone to check it.</td> <td>Listening and responding to complaints</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>I'll send someone to check it.</td> <td>Expressing intentions</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>May I take a message?</td> <td>Taling and relaying phone messages Touch tone navigation</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>May I take a message?</td> <td>Other telephone skills and knowledge in western cultures</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>I'll show you on the map.</td> <td>Talking about locations Giving directions</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>I'll show you on the map.</td> <td>Map reading skills</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>How much would you like to change?</td> <td>Talking about prices Changing money</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>The service is included.</td> <td>Paying for goods and services Dealing with bill inquiries</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>It's been a pleasure.</td> <td>Talking about service Saying good-bye to guests</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	I'll transfer your call.	Listening to requests Directing calls	Students should study the content of the day's lesson	2	I'll transfer your call.	Giving information	Students should study the content of the day's lesson	3	We'll be stopping for lunch at 12:00.	talking about plans and itineraries	Students should study the content of the day's lesson	4	We'll be stopping for lunch at 12:00.	Discussing tour activities	Students should study the content of the day's lesson	5	What can I get for you?	Taking food and drink orders	Students should study the content of the day's lesson	6	What can I get for you?	Confirming information	Students should study the content of the day's lesson	7	I'll send someone to check it.	Listening and responding to complaints	Students should study the content of the day's lesson	8	I'll send someone to check it.	Expressing intentions	Students should study the content of the day's lesson	9	May I take a message?	Taling and relaying phone messages Touch tone navigation	Students should study the content of the day's lesson	10	May I take a message?	Other telephone skills and knowledge in western cultures	Students should study the content of the day's lesson	11	I'll show you on the map.	Talking about locations Giving directions	Students should study the content of the day's lesson	12	I'll show you on the map.	Map reading skills	Students should study the content of the day's lesson	13	How much would you like to change?	Talking about prices Changing money	Students should study the content of the day's lesson	14	The service is included.	Paying for goods and services Dealing with bill inquiries	Students should study the content of the day's lesson	15	It's been a pleasure.	Talking about service Saying good-bye to guests	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	I'll transfer your call.	Listening to requests Directing calls	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	I'll transfer your call.	Giving information	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	We'll be stopping for lunch at 12:00.	talking about plans and itineraries	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	We'll be stopping for lunch at 12:00.	Discussing tour activities	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	What can I get for you?	Taking food and drink orders	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	What can I get for you?	Confirming information	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	I'll send someone to check it.	Listening and responding to complaints	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	I'll send someone to check it.	Expressing intentions	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	May I take a message?	Taling and relaying phone messages Touch tone navigation	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	May I take a message?	Other telephone skills and knowledge in western cultures	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	I'll show you on the map.	Talking about locations Giving directions	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	I'll show you on the map.	Map reading skills	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	How much would you like to change?	Talking about prices Changing money	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	The service is included.	Paying for goods and services Dealing with bill inquiries	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	It's been a pleasure.	Talking about service Saying good-bye to guests	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Class Service-English for the Tourism and Hospitality Industry</td> <td>Stephen Hall/ Troy Blappert</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Class Service-English for the Tourism and Hospitality Industry	Stephen Hall/ Troy Blappert	Cengage Learning	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	First Class Service-English for the Tourism and Hospitality Industry	Stephen Hall/ Troy Blappert	Cengage Learning																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加 60%、小テスト 40% を目安に、総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室																																																																		
備考	授業の事前・事後の学習の総時間はおよそ15時間である。																																																																		

科目名	ESP (English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	<p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージ・プログラムのうち、「観光ホスピタリティ」を選択した学生を対象とした英語の授業です。このシラバスは(2)のクラス向けです。</p> <p>日本と世界を観光の視点から見つめ、観光に関する情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。</p>
到達目標	<p>分野によって必要とされる英語が異なることを理解する。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。</p> <p>「観光ホスピタリティ」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、話したり、書いたりできるようになることを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>特に観光ホスピタリティの分野で必要とされる英語を中心に学習します。</p> <p>国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の復習</li> <li>プレゼンの準備</li> </ul>
2	Unit 1. Japan: Hokkaido (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアーパンフレットの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の復習及び指定された箇所の予習</li> <li>プレゼンテーションの準備</li> </ul>
3	Unit 1. Japan: Hokkaido (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアーパンフレットの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
4	Unit 2. Japan: Kyoto (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eメールの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
5	Unit 2. Japan: Kyoto (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eメールの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
6	Unit 10. Europe: France	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアーの広告文の読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
7	Unit 11. Europe: Museums in Europe	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術館案内のパンフレットの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
8	Unit 12. North America: New York, the USA (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージカルレビューの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
9	Unit 12. North America: New York, the USA (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミュージカルレビューの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
10	Unit 13. North America: Boston, the USA (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eメールの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
11	Unit 13. North America: Boston, the USA (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Eメールの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
12	Unit 14. North America: Canada (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストハウスのハンドブックとガイドラインの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
13	Unit 14. North America: Canada (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストハウスのハンドブックとガイドラインの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
14	Unit 15. Latin America: Rio de Janeiro, Brazil (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアーパンフレットの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上
15	Unit 15. Latin America: Rio de Janeiro, Brazil (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアーパンフレットの読み方</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	同上

関連科目: ホスピタリティ論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論、エコツーリズム論、ホスピタリティ・インターンシップ ほか

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for Tourism 101	津田晶子他	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)  
 平常点 (授業態度・課題への取り組みなど) : 30%  
 プレゼンテーション : 40%  
 小テスト : 30%

学生へのメッセージ  
 授業を通して、観光・ホスピタリティに役立つ英語の表現を学びましょう。

担当者の研究室等  
 7号館5階 神崎研究室

備考  
 授業の事前・事後の学習の総時間はおよそ15時間である。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名(英文)	ESP(English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」および「国際ビジネス」およびプログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。グローバルな視点からボランティア、国際貢献やビジネスなどに関する英語の語彙や表現を習得したり、そのような内容を持った英語を理解したり、自分の意見を英語で発信できるようになることを目標とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際貢献」や「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになること、簡単な語彙や英語の表現をつかっ、国際貢献やビジネスについて意見を述べられるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEICなど)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本ESPと関連するパッケージプログラムについて英語で意見を交換する	配布プリントの予習
	2	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	3	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	4	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	5	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	6	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	7	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	8	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
	9	中間発表	与えられたテーマについて調査したことを英語で発表する。	配布プリントの予習・復習
	10	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	11	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	12	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	13	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	14	国際ビジネス・国際貢献に関するリーディングおよびリスニング	国際ビジネスの現場、国際ボランティアの現場を英語で学ぶ	配布プリントの予習・復習
	15	まとめ	確認のためのまとめのテスト	全体内容を復習する

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを使用する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	提出物など(20%) プレゼンテーション(20%) まとめの確認テスト(60%)
学生へのメッセージ	ESPはパッケージプログラムと連動する英語科目です。自分の将来をしっかり見据えて英語学習に取り組みましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室
備考	事前事後学習に要する総学習時間をおおよそ30時間とする。

科目名	ESP (English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	特に「国際教養」と「メディアビジネス」の分野で必要とされる英語を中心に学習します。2分野の教材に交互に取り組みます（授業計画の【教】は国際教養分野を、【メ】はメディアビジネスを表します）。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」と「メディアビジネス」の分野に関連する基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	特に「国際教養」と「メディアビジネス」の分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	英語関連の資格（TOEIC など）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 【教】 Unit 8: France (1)	授業の進め方と評価方法等の説明 Warm-up, Story	
2	Unit 8: France (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Australiaに関するプレゼン	予習・復習
3	【メ】 Lessons 9 & 10	ビジネス会話 (1)・(2)	予習・復習
4	【教】 Unit 11: Brazil (1)	Warm-up, Story	予習・復習
5	Unit 11: Brazil (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Brazil に関するプレゼン	予習・復習
6	【メ】 Lessons 11 & 12	ビジネス会話 (3)・(4)	予習・復習
7	【教】 Unit 15: West Africa (1)	Warm-up, Story	予習・復習
8	Unit 15: West Africa (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, West Africa に関するプレゼン	予習・復習
9	【メ】 Lessons 13 & 14	ビジネス文書 (1)・(2)	予習・復習
10	【教】 Unit 3: India (1)	Warm-up, Story	予習・復習
11	Unit 3: India (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, India に関するプレゼン	予習・復習
12	【メ】 Lessons 15 & 16	ビジネスレター、ビジネスメール	予習・復習
13	【教】 Unit 7: Germany (1)	Warm-up, Story	予習・復習
14	Unit 7: Germany (2)	Story (つづき), Guess the Word, Put into English, Saudi Arabia に関するプレゼン	予習・復習
15	【メ】 Lessons 17 & 18	議事録など、日常的な会話	予習・復習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民話で学ぶ世界の文化	染矢 正一ほか	南雲堂
2	ニュース&ビジネス・サプリメント	小池 直己	南雲堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード
3			

評価方法 (基準)	【定期試験を実施】 評価の対象 定期試験、異文化プレゼン、授業態度 試験の頻度 期末試験は学期の最後、異文化プレゼンは単元ごと 評価に対する重み 定期試験 (70%), 異文化プレゼン (15%), 平常点 (15%)
-----------	--

学生へのメッセージ	「国際教養」と「メディアビジネス」の分野は、どちらもグローバル社会で求められる知識やスキルを含んでいるのでぜひ好みせず積極的に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	田中研究室 (7号館4階) ※スチューデントアワーは木曜5時限です。
----------	------------------------------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>英和・英英辞典は最新版が望ましい。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。ただし、液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。英英辞典を用いたアクティビティーを行うので、電子辞書に入っていない人は用意すること（参考書欄の英英辞典を推奨する）。</li> <li>欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。</li> <li>遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> <li>配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。</li> </ol>
----	---

科目名	異文化コミュニケーション論	科目名(英文)	Cross-Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>この科目は、「外国語専門職プログラム」「国際教養プログラム」科目です。</li> <li>人間の使う言葉・行動・価値の置き方には、文化の違いが反映されています。この授業では、自文化を知り、他文化を尊重し、価値観を尊重しながら、異なる文化を持つ人々とのようにつきあっていくかを考えること、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義や実践法を学びます。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。</li> <li>異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義 教科書の内容は熟読する。</li> <li>タスク 異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。グループワーク、発表も含まれる。(授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります)</li> </ul>

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
3	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
4	異文化適応	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
5	問題となる異文化コミュニケーション(1)	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
6	問題となる異文化コミュニケーション(2)	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
7	比較する	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
8	言語コミュニケーション(1)	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
9	言語コミュニケーション(2)	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
10	非言語コミュニケーション	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
11	外国語の学習	ゲストスピーカー(予定)・グループディスカッション	教科書熟読 授業で出された課題
12	異文化ビジネスコミュニケーション	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
13	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク	教科書熟読 授業で出された課題
14	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習
15	総復習・確認テスト	総復習・テスト	授業の振り返り

関連科目	外国語専門職プログラム・国際教養プログラム科目
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	課題・レポート・授業への参加度・テスト等により総合的に評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館4階(門脇研究室)
------------	--------------

科目名	異文化接触論	科目名(英文)	Cultural Interactions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<p>小学校低学年用の偉人伝にもコロンブスは必ずと言ってよいほど入っている。また3年生くらいでも「コロンブスは1492年にアメリカを発見した」のは半ば常識化しており、「歴史的事実」ととらえられている。果たしてそうだろうか。</p> <p>16世紀はじめ、後に新大陸と呼ばれる土地に住んでいた人びとは、顔つきや言葉、服装も異なる人間と出会った。この異文化接触によってラテンアメリカには独特な文化が生み出されることになった。異文化と遭遇したとき、人びとは他者を、また異文化をどのように理解し、どのように自文化と関連付けるのだろうか。</p> <p>本講義では、大航海時代にアメリカ大陸で遭遇した複数の文化がどのように相手を、またその文化を認識し、理解(誤解)したのかを資料を通してなぞっていく。</p>
到達目標	歴史資料の読み方を身につける。異文化理解のさまざまなあり方を知る。
授業方法と留意点	授業では毎回プリントを配布するが、必要に応じてレポート等の課題を課す。 専用のファイルを用意して資料を管理する必要がある。資料を事前に配布する場合は、よく読んでおくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
科目学習の効果(資格)	異文化とは何か、他者とは何かについて考えることをとおして、自文化や自己を相対化する視点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中世・ルネサンス時代のヨーロッパと異文化理解	コロンブスほどのような世界に出会えると想像していたか	配布資料を読んでおくこと
3	コロンブスの異文化理解(1)	航海日誌などを読む	配布資料を読んでおくこと
4	コロンブスの異文化理解(2)	航海日誌などを読む	配布資料を読んでおくこと
5	アメリゴ・ヴェスプッチの異文化理解	アメリゴの書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
6	その他の植民者の異文化理解	植民者らの書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
7	メソアメリカの人々と文化	ヨーロッパ人到来前のアメリカ大陸に存在していた社会について考える。	配布資料を読んでおくこと
8	メソアメリカの征服	アステカ王国の征服プロセス	配布資料を読んでおくこと
9	征服者の視点(1)	エルナン・コルテスの書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
10	征服者の視点(2)	一兵士の報告を読む	配布資料を読んでおくこと
11	精神的征服	カトリックの伝道事業	配布資料を読んでおくこと
12	修道士の視点(1)	修道士の書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
13	修道士の視点(2)	修道士の書簡を読む	配布資料を読んでおくこと
14	先住民の視点	先住民文書を読む	配布資料を読んでおくこと
15	おわりに	講義全体のまとめと試験(レポート)に関する手引き	試験(レポート)に備えること

関連科目	ラテンアメリカ史学、現代ラテンアメリカ論、ラテンアメリカの社会と文化
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ラテンアメリカの歴史	染田秀藤・篠原愛人	世界思想社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	<p>(1) 定期試験の実施。 (2) 授業で指示する課題(レポート)の達成状況。</p> <p>以上を評価基準とし、総合的に成績をつける。</p>
----------	--

学生へのメッセージ	異文化との接触を通して、相手を理解しようとするだけでなく、自分をよりよく知ることにつながればいいですね。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)
----------	--------------

備考	受講生の関心や予備知識によって授業内容を一部変更する可能性がある。
----	-----------------------------------



科目名	異文化ビジネス論	科目名(英文)	Cross-Cultural Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに位置づけられる授業です。よって、グローバルな視点と同時に、日本の特徴にも注目しながら、文化とビジネスの関係について学ぶことを目的とします。
到達目標	国や地域によって異なる文化について、日本の場合と比較しながら理解を深めるとともに、国際ビジネスの現状や今後の展開について考察することを目標とします。
授業方法と留意点	グループワークを中心に行います。また、全グループに、学外での取材活動と、それに基づく研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を義務づけます。よって、行動力と協調性が重視されることを忘れないでください。
科目学習の効果(資格)	文化演習（3ゼミ）、卒業研究（4ゼミ）の研究にも役立つでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	異文化とビジネスについて(1)	他の国や地域の文化とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・授業で扱ったテーマや事例についてさらに調べてみる。
3	異文化とビジネスについて(2)	他の国や地域の文化とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・授業で扱ったテーマや事例についてさらに調べてみる。
4	研究発表のテーマとグループについて	・研究発表のテーマおよびその発表方法を考える。 ・研究グループ（メンバー）を決める。 ・グループごとに、今後の研究計画について検討する。	研究発表のテーマについて調べてみる。
5	・レポート・論文、ビジネス文書・企画書の書き方について ・グループの研究活動	・アカデミックなレポート・論文と、ビジネス文書・企画書と比較しながら、その書式や要点について学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
6	・プレゼンテーションのスキルについて ・グループの研究活動	プレゼンテーションのスキルについて、具体例とともにその要点を整理する。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
7	・異文化とビジネスについて(3) ・グループの研究活動	他の国や地域の文化とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
8	・異文化とビジネスについて(4) ・グループの研究活動	他の国や地域の文化とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
9	研究発表と講評(1)	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
10	研究発表と講評(2)	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
11	研究発表と講評(3)	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
12	研究発表と講評(4)	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
13	研究発表と講評(5)	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
14	研究発表と講評(6)	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	研究やレポート・プレゼンテーションの手法について整理する。
15	総括(まとめ)	・研究発表の総評と表彰式を行う。 ・これまで学んだ内容を振り返って総括する。	これまで学んだ内容の要点を整理する。

関連科目	「地域と国際ビジネス」など、国際ビジネスプログラム科目。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

評価方法(基準)	研究発表（グループワーク）の成果、ワークシート、授業に取り組む姿勢などを合わせて総合的に評価します。
----------	--

学生への メッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも協調的な姿勢を大切にしてほしいと願っています。
担当者の 研究室等	7号館4階（中島研究室）
備考	事前および事後に1時間以上の学習を要する

科目名	English for TOEFL	科目名 (英文)	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的  
TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。

到達目標  
TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、4 技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。

授業方法と留意点  
TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)  
TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進行についての説明、TOEFL 概要の説明等	—
2	多聴・多読 (1)	Unit 1	指定された範囲の予習・復習
3	多聴・多読 (2)	Unit 2	指定された範囲の予習・復習
4	多聴・多読 (3)	Unit 3	指定された範囲の予習・復習
5	多聴・多読 (4)	Unit 4	指定された範囲の予習・復習
6	多聴・多読 (5)	Unit 5	指定された範囲の予習・復習
7	多聴・多読 (6)	Unit 6	指定された範囲の予習・復習
8	復習 (1)	Review 1	指定された範囲の予習・復習
9	多聴・多読 (7)	Unit 7	指定された範囲の予習・復習
10	多聴・多読 (8)	Unit 8	指定された範囲の予習・復習
11	多聴・多読 (9)	Unit 9	指定された範囲の予習・復習
12	多聴・多読 (10)	Unit 10	指定された範囲の予習・復習
13	多聴・多読 (11)	Unit 11	指定された範囲の予習・復習
14	多聴・多読 (12)	Unit 12	指定された範囲の予習・復習
15	復習 (2)	Review 2	指定された範囲の予習・復習

関連科目  
Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Intermediate Listening Comprehension Understanding and Recalling Spoken English	P. A. Dunkel/P. L. Lim	松柏社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) と TOEFL-ITP 等の成績を総合的に評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等  
7 号館 4 階 皆本研究室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	English for TOEFL	科目名 (英文)	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、4 技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容と説明	授業内容の復習
	2	Listening	Understanding agreement and disagreement (short dialogues)	第 2 回授業の予習
	3	Listening	Understanding gist (extended conversations/academic mini-talks)	第 3 回授業の予習
	4	Structure	Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)	第 4 回授業の予習
	5	Structure	Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)	第 5 回授業の予習
	6	Reading	Understanding gist	第 6 回授業の予習
	7	Reading	Understanding purpose	第 7 回授業の予習
	8	Listening	Understanding negatives (short dialogues)	第 8 回授業の予習
	9	Listening	Understanding specific information (extended conversations/academic mini-talks)	第 9 回授業の予習
	10	Structure	Articles	第 10 回授業の予習
	11	Structure	Comparatives and superlatives	第 11 回授業の予習
	12	Reading	Understanding specific information	第 12 回授業の予習
	13	Reading	Understanding pronoun reference	第 13 回授業の予習
	14	弱点克服 1	特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ	第 14 回授業の予習
	15	弱点克服 2	特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ	第 15 回授業の予習

関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Boost Your English	Makoto Shishido etc.	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) と TOEFL-ITP 等の成績を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 大原関研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Presentations	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Students should study the content of the day's lesson
	2	Presentations: Eye Contact	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Presentations: Gestures	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Presentations: Stage Position	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Presentation Planning and Visuals	Individual presentation preparation	Finish writing your presentation and practice it for next week
	6	Presentation 1	Present to the Class	Practice for your presentation
	7	Presentations: Projection	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Presentations: Enunciation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Presentations: Intonation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Presentations: Phrasing	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Presentation Planning and Visuals	Individual presentation preparation	Finish writing your presentation and practice it for next week
	12	Presentation 2	Present to the Class	Practice for your presentation
	13	Talks: Introduction and Preparation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Talks: Question and Answer Sessions	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Talk Presentations	Present to the Class	Practice for your talk

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations	Mark D. Stafford	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	You will gain confidence and experience as a public speaker. Be prepared to share your ideas with everyone in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
----------	---------------

備考	You will need a dictionary in this class.
----	---

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Orientation and self introductions	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	2	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Posture and Eye Contact	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	3	Class presentations	Gestures	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	4	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Voice Inflection	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	5	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Effective Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	6	Class presentations	Explaining Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	7	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Preparing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	8	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Making your presentation in the class	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	9	Class presentations	The Introduction	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	10	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Body	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	11	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Conclusion	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	12	Class presentations	Designing a presentation outline	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	13	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Effective use of palm cards	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	14	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Rehearsing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
15	Final class presentations	Making your presentation in the class	・・・	

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Present Yourself Level 1 Student's Book Experiences 2nd Edition (ISBN: 9781107435636)	Gershon, S.	Cambridge University Press

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	You will need a dictionary in this class.			

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的  
 ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。

到達目標  
 CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。

授業方法と留意点  
 学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果（資格）  
 TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Unit 1	Posture and Eye Contact	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Unit 2	Gestures	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Unit 3	Voice Inflection	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Unit 4	Effective Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Unit 5	Explaining Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Preparing for Presentation1	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Presentation1	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Unit 6	The Introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Unit 7	The Body	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Unit 8	The Conclusion	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Preparing for Presentation2	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Presentation2	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Preparing for Final Presentation	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Presentation	Making your presentation in the class	・・・	

関連科目  
 ドラマ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners	David Harrington and Charles LeBeau	Macmillan Education
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）  
 平常点（授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
 You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course.

担当者の研究室等  
 7号館2階非常勤講師室

備考  
 You will need a dictionary in this class.



科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マシュー クーパー

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Present yourself 1 2nd edition	Steven Gershon	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	英語での主張のために必要な証拠、事実について、それらの効果的な提示の方法について学びます。就職活動、仕事などに役立つ知識として身につけてほしいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	You will need a dictionary in this class.

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Informative Speech. Introducing your hometown.	Practice presenting the Informative Speech about your hometown.	Write a short speech about your hometown.
3	Physical message in presentation 1: gestures.	The importance of using the body for communication. DVD episode 2, The Layout Speech.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
4	The Layout Speech.	Perform the Layout Speech.	Write a Layout Speech about a place you know.
5	Physical message in presentation 2: voice inflection.	The importance in using voice inflection for emphasis in speech.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
6	The physical message in presentation 3: gestures and voice inflection.	DVD episode 3, The Demonstration Speech. Practice using gestures and voice inflection in explaining how to make a sandwich.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
7	The Demonstration Speech.	Perform the Demonstration Speech.	Write a Demonstration Speech about how to do something.
8	The Visual Message 1: effective visuals.	DVD episode 4, Effective Visuals. Using visuals in presentation, such as charts, graphs, photos and diagrams.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
9	The Visual Message 2, explaining visuals.	DVD episode 5, Explaining visuals. Language to explain visuals in English. Practice explaining graphs.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
10	The Story Message.	Overview of Introduction, Body and Conclusion of the presentation.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
11	The Comparison Speech.	Perform the Comparison Speech.	Write a speech comparing two places with graphs.
12	The Effective Introduction.	DVD episode 6, The Introduction.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
13	The Body of the Presentation.	DVD 7, The Body. Using evidence to prove your statements. Using transitions between main points.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
14	The Conclusion.	DVD episode 8, The Conclusion. Focus Points. Final Presentation topic and outline.	Final Presentation topic and outline.
15	Final Presentation.	Perform the Final Presentation.	Write Final Presentation.

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Learning about and giving presentations can be fun, and students can improve their confidence through giving speeches in English. Students can expect to write five presentations during the semester. Attendance is very important.
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	You will need a dictionary in this class.

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アレン ニール

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises : Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises:Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises:Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Handouts distributed in class		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 Herke 研究室
----------	-----------------

備考	You will need a dictionary in this class.
----	---

科目名	English Language Teaching	科目名(英文)	English Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	日本の小学生および中学生等の初級英語学習者を対象に、英語で英語を教える具体的な方法について学びます。母国語を介した外国語学習以外の方法を体験しながら理解するのが目的です。
到達目標	・外国語教育には学習者の第一言語を使っても、学習言語だけを使っても、どちらの方法にも長所や利点があるので、複数の教え方を使い分けできるようにしましょう。今の在学生のみなさんの多くは、第一言語を併用して学習言語を学んだ人たちが多く、授業では主に「英語で英語を学ぶ」初級の授業の仕組みを扱います。
授業方法と留意点	講義・演習・ディスカッションを併用します。  小学校教員志望、または外国語教育の教職課程を履修中の学生に、特に勧めます。また、海外インターンシップで日本語教育や幼稚園実習などを希望している場合も役にたつでしょう。
科目学習の効果(資格)	・教員免許取得を目指す学生にとっては、教育実習で会う生徒を理解する助けとして。  ・教員志望以外の学生にとっては、年下の子供たちが、自分とは異なる外国語教育を受けて育っている、というジェネレーションギャップを理解し、卒業後の仕事に生かす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学習言語と学習者の第一言語	講義・ディスカッション	ディスカッション内容をふりかえり、文字でまとめる
2	教室で使う教員の言葉(1)	Classroom English と その目的・使い方を学ぶ演習: 新出語彙の場合	自分が受けている言語科目を注意深く観察し、教員が使う言葉を記録する。
3	教室で使う教員の言葉(2)	Classroom English と その目的・使い方を学ぶ演習: 既習語彙の復習の場合	自分が受けている言語科目を注意深く観察し、教員が使う言葉を記録する。
4	説明しない教え方(1)	言葉で説明しないで、見せて伝える方法を学ぶ演習: 名詞	復習
5	説明しない教え方(2)	言葉で説明しないで、見せて伝える方法を学ぶ演習: 動詞	復習
6	説明しない教え方(3)	言葉で説明しないで、見せて伝える方法を学ぶ演習: 形容詞	復習
7	ゲームで「習った外国語を使う」機会を増やす(1)	少ない語彙でできるゲーム: ルール紹介から、ゲーム本番まで	復習
8	ゲームで「習った外国語を使う」機会を増やす(2)	少ない道具でできるゲーム: ルール紹介から、ゲーム本番まで	復習
9	ゲームで「習った外国語を使う」機会を増やす(3)	人数が定まらなくてもできるゲーム: ルール紹介から、ゲーム本番まで	復習
10	教材作り(1)	授業の目的と教材のデザインについて: 講義とサンプル分析	復習・次回の材料集め
11	教材作り(2)	実用に向けて考えるべき色と形、材質について: 講義とサンプル分析	次回の材料集め
12	教材作り(3)	目的に合わせて、教材を作る: 演習	作った教材の仕上げ
13	試作した教材を使ってみよう(1)	前回作った教材を使った授業を考える: 演習	再考と試作品を扱う練習
14	試作した教材を使ってみよう(2)	作った教材での授業を披露する: 発表	復習
15	まとめ	これまでの授業の振り返りと、講義内容への質疑応答	筆記テスト準備

関連科目: すべての言語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK プレキソ英語 (番組とNHKのHP参照)	NHK	
2				
3				

評価方法(基準)	授業中の学習活動への積極的な参加 50% 実技と筆記のテスト 50%
学生へのメッセージ	人は、自分が体験してきた学び方を中心に物事を考えがちですが、同じ目的(ここでは言語学習)をちがう方法で叶えることもできます。実際に体験しながら、学んでいきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	復習や教材作成のための材料収集などにかかる事前事後学習総時間を15時間程度とする。

科目名	Integrated Skills Training	科目名(英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	1年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICTを用いた所定のe-learning課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検, TOEFL等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 Getting Acquainted	The present perfect	授業中に指示
2	Unit 1 Getting Acquainted	The present perfect	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
3	Unit 1 Getting Acquainted	The present perfect	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
4	Unit 2 Going to the Movies	Wants and preferences	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
5	Unit 2 Going to the Movies	Wants and preferences	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
6	Unit 2 Going to the Movies	Wants and preferences	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
7	Unit 3 Staying in Hotels	The future with _will_ / The real conditional	テキスト準拠のオンライン教材より、指定された課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
8	Unit 3 Staying in Hotels	The future with _will_ / The real conditional	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
9	Unit 3 Staying in Hotels	The future with _will_ / The real conditional	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
10	Unit 4 Cars and Driving	The past continuous / Direct objects with phrasal verbs	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
11	Unit 4 Cars and Driving	The past continuous / Direct objects with phrasal verbs	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
12	Unit 4 Cars and Driving	The past continuous / Direct objects with phrasal verbs	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
13	Unit 5 Personal Care and Appearance	Indefinite quantities and amounts	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
14	Unit 5 Personal Care and Appearance	Indefinite quantities and amounts	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
15	Unit 5 Personal Care and Appearance	Indefinite quantities and amounts	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。

関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch 2A with My English Lab	Joan Saslow and Allen Ascher	Pearson (ISBN-13: 978-0-13-392896-9)
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)と成果物の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	Integrated Skills Training	科目名(英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	1年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICTを用いた所定のe-learning課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検, TOEFL等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 Getting Acquainted	The present perfect	授業中に指示
2	Unit 1 Getting Acquainted	The present perfect	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
3	Unit 1 Getting Acquainted	The present perfect	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
4	Unit 2 Going to the Movies	Wants and preferences	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
5	Unit 2 Going to the Movies	Wants and preferences	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
6	Unit 2 Going to the Movies	Wants and preferences	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
7	Unit 3 Staying in Hotels	The future with _will_ / The real conditional	テキスト準拠のオンライン教材より、指定された課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
8	Unit 3 Staying in Hotels	The future with _will_ / The real conditional	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
9	Unit 3 Staying in Hotels	The future with _will_ / The real conditional	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
10	Unit 4 Cars and Driving	The past continuous / Direct objects with phrasal verbs	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
11	Unit 4 Cars and Driving	The past continuous / Direct objects with phrasal verbs	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
12	Unit 4 Cars and Driving	The past continuous / Direct objects with phrasal verbs	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
13	Unit 5 Personal Care and Appearance	Indefinite quantities and amounts	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
14	Unit 5 Personal Care and Appearance	Indefinite quantities and amounts	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。
15	Unit 5 Personal Care and Appearance	Indefinite quantities and amounts	テキストの進度に合わせて指定されるオンラインの復習課題を消化する。また、指定された動画を視聴し、次回までに疑問点をリストアップする。

関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch 2A with My English Lab	Joan Saslow and Allen Ascher	Pearson (ISBN-13: 978-0-13-392896-9)
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)と成果物の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	留学前にどこまで基礎力をつけておくかで、留学中と後の伸びが変わります。様々な課題に果敢に取り組み、基礎力と実践力を高めましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階松田研究室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	インドネシア・マレー語圏概論	科目名(英文)	A Survey of the Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。インドネシアとマレーシアが話題の中心になるが、あわせて他の東南アジア諸国についても基礎的な情報を紹介する。
到達目標	将来、自らの関心に従ってテーマを見つけて研究を進めるための基礎的な知識を得る。インドネシア・マレー語圏の人々の現在の生活を、われわれの日常と地続きのものとして理解する。
授業方法と留意点	各時間ごとに、感想や、こちらが提示する質問についての考えを書いてもらう。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	東南アジア諸国の基礎知識1	東南アジアの地理的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	東南アジア諸国の基礎知識2	東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	信仰1	イスラム教の基礎知識	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	信仰2	イスラム教、およびキリスト教など他の宗教の基礎知識	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	西洋との出会い	諸王国と「香料諸島」の歴史	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	植民地支配と独立1	東南アジア各国における植民地支配の歴史と独立の過程	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	植民地支配と独立2	東南アジア各国における植民地支配の歴史と独立の過程	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	インドネシア政治史1	植民地支配と独立、独立後	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	インドネシア政治史2	スカルノとスハルト	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	インドネシアの現在	民族、経済、文化	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	マレーシア政治史1	植民地支配と独立、独立後	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	マレーシア政治史2	ラーマンとマハティール	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	マレーシアの現在	民族、経済、文化	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテストを行う	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目: インドネシア・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	東南アジアを知る事典		平凡社
2	民族大国インドネシア-文化継承とアイデンティティ	鏡味治也編	木犀社
3			

評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30%、提出してもらったコメント・感想など総合的に判断する)と、授業期間中に行うテスト(70%)から評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア・マレー語圏近現代史	科目名(英文)	History of the Modern Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏における近・現代の重要な事象について考察し、この地域の文化、政治、経済についての専門的な知識を習得する。
到達目標	インドネシア・マレー語圏の人々の現在の生活を、われわれの日常と地続きのものとしてとらえることができるようになる。自らの関心に従って研究を進めるための手がかりを得る。
授業方法と留意点	インドネシアとマレーシアについて基礎的な知識を習得済みであることが望ましいが、初学者も歓迎する。各時間ごとに、感想や、こちらが提示する質問についての考えを書いてもらう。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	インドネシアの基礎知識	インドネシアの文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。
3	マレーシアの基礎知識	マレーシアの文化・経済・政治について概説	関連する文献を紹介するので読むこと。
4	インドネシアの経済	中間層の拡大と消費市場としての注目	関連する文献を紹介するので読むこと。
5	インドネシアの政治1	インドネシア・ナショナリズムの誕生と現在	関連する文献を紹介するので読むこと。
6	インドネシアの政治2	民主化、地方分権化	関連する文献を紹介するので読むこと。
7	インドネシアにおける文化の多様性1	「多民族国家」インドネシア	関連する文献を紹介するので読むこと。
8	インドネシアにおける文化の多様性2	都市の暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。
9	インドネシアにおける文化の多様性3	地方の暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。
10	マレーシアの経済	「ビジョン2020」	関連する文献を紹介するので読むこと。
11	マレーシアの政治1	マレーシア・ナショナリズムの誕生と現在	関連する文献を紹介するので読むこと。
12	マレーシアの政治2	「プミブトラ政策」から「ビジョン2020」へ	関連する文献を紹介するので読むこと。
13	マレーシアにおける文化の多様性1	「多民族国家」マレーシア	関連する文献を紹介するので読むこと。
14	マレーシアにおける文化の多様性2	都市の暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。
15	マレーシアにおける文化の多様性3	地方の暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30%、主に授業終了時に提出してもらったコメント・感想から判断する)と、授業期間中に行うテスト(70%)から評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	インドネシア・マレー語圏の諸言語	科目名(英文)	Indonesian-Malay Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	この講義の目的はインドネシア、マレーシアおよびその周辺に分布するオーストロネシア語族の言語についての知識を習得することにある。系統、言語分類、歴史、文字等について講義する。なお、東南アジア大陸部の言語についても言及する。
到達目標	インドネシア・マレー語圏、およびその周辺の諸言語についての知識を習得することができる。
授業方法と留意点	授業は講義を中心にすすめるが、受講者に意見を求めたり、課題を与えることがあるので、積極的に参加するように。
科目学習の効果(資格)	東南アジアの言語事情がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	基礎知識1	・基本的用語の解説等	用語について復習しておくこと
2	インドネシア語、マレー語の音韻	・インドネシア語、マレー語の音韻を学ぶことを通して音韻論の基礎知識を得る。	内容について復習すること
3	世界の言語からみたインドネシア、マレー語圏の言語	・言語数、話者数	内容について復習すること
4	オーストロネシア語族言語の実際	・フィリピン語、ジャワ語等がどのような構造を持った言語か概観する。	内容について復習すること
5	インドネシア、マレー語圏の言語の系統1	・比較言語学の基礎知識 ・音韻対応	内容について復習すること
6	インドネシア、マレー語圏の言語の系統2	・語族、語派、語群 ・比較形態論	内容について復習すること
7	オーストロネシア語族の研究史とその分布	・オーストロネシア語族の故地	内容について復習すること
8	インドネシア語、マレー語の歴史	・古代マレー語、古典マレー語について研究する	インドネシア語あるいはマレー語の辞書を持っている場合は持参すること 内容について復習すること
9	インドネシア、マレー語圏の言語の文字1	・インドネシア語、マレー語の文字使用の歴史	内容について復習すること
10	インドネシア、マレー語圏の言語の文字2	・ジャワ文字1	ジャワ文字について復習しておくこと
11	インドネシア、マレー語圏の言語の文字3	・ジャワ文字2 ・プギス・マカッサル文字1	ジャワ文字、プギス・マカッサル文字について復習しておくこと
12	インドネシア、マレー語圏の言語の文字4	・プギス・マカッサル文字2	プギス・マカッサル文字について復習しておくこと
13	国語、公用語	・国語、公用語 ・多言語国家	授業内容を復習すること
14	東南アジア大陸部の言語	・東南アジア大陸部の言語についての概説	内容について復習すること
15	・理解度確認テスト ・まとめ	・理解度確認テスト ・授業全体についてのまとめを行う	内容について復習すること

関連科目 インドネシア語、マレー語関係の科目、音声学、言語学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを用意する。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜指示する。		
2				
3				

評価方法(基準) 平常点、参加度(発言等)、理解度確認テストの総合評価。

学生へのメッセージ この授業では、受講者の意見発表を重視するので、積極的に意見を述べることを期待する。

担当者の研究室等 7号館5階 山口室

備考 指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	インドネシア・マレー社会論	科目名(英文)	Studies on Malay Societies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	インドネシア・マレー語が話されている地域を事例に、社会という概念について考える。インドネシア・マレー語が話される地域は複数の国民国家から成立しており、それぞれの国民国家内部には文化的に多様な諸集団が暮らしている。こうした多様な集団が織りなす人と人との結びつきのありかたは、私たちの想定する社会という概念と重なるところがある一方で、多くの点で異なっている。本講義では、当該地域における人と人との結びつきの在り方を学ぶことを通じて、インドネシアやマレーシアを含む地域の「いま」をよりよく理解することを目指す。
到達目標	*インドネシア・マレー語が話されている地域の社会のあり方について理解する。 *事例研究を通じて、自分たちの生きる社会について考える視角を得る。
授業方法と留意点	・適宜、写真や映像資料を利用する。 ・小レポートを適宜課すので、積極的な参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	・インドネシア・マレー語を話す地域に生きる人びとの暮らしについて知見を深められる。 ・異なるものの見方や物事のとらえ方を身につけられる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や講義概要について説明する。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
2	社会とは	社会学や人類学における社会という言葉の捉え方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
3	東南アジアに関する基礎知識	東南アジア地域の地理・歴史を概観する。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
4	国民国家と社会 1	マレーシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
5	国民国家と社会 2	マレーシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
6	国民国家と社会 3	マレーシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
7	国民国家と社会 4	インドネシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
8	国民国家と社会 5	インドネシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
9	国民国家と社会 6	シンガポールとブルネイにおける多様な社会の在り方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
10	社会を越える社会 1	宗教を媒介とする新たな社会性の在り方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
11	社会を越える社会 2	宗教を媒介とする新たな社会性の在り方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
12	社会を越える社会 3	種々のメディアに焦点を当てて、新たな社会性の想像について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
13	社会を越える社会 4	種々のメディアに焦点を当てて、新たな社会性の想像について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
14	社会を越える社会 5	人の移動にともなう社会の変容について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。到達度の確認を図る課題のために、授業の内容全体について復習すること。
15	まとめ	到達度の確認を図る課題を出し、それについての講評と授業全体のまとめを行う。	到達度の確認を図る課題を出すので準備しておくこと

関連科目	インドネシア・マレー語コースの開講する講義科目。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小レポート(20%)と報告(30%)による平常点と、到達度の確認を図る課題(50%)から総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	積極的に授業に関わってください。わからないことがあれば質問して下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階上田研究室
----------	------------

備考	
----	--

科目名	インドネシア語Ⅱ a	科目名(英文)	Indonesian IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと
4	挨拶(1)	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	挨拶(2)	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	紹介(1)	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	紹介(2)	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	紹介(3)	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テスト	これまでに学んだことの再確認
10	数詞(1)	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	数詞(2)	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	数詞(3)	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	数詞(4)	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回から13回までの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	総復習

関連科目	インドネシアⅡ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解度確認テスト等に基づき総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
-----------	------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎週の子習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも1時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	--

科目名	インドネシア語Ⅱ b	科目名 (英文)	Indonesian IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	曜日 ①	曜日、月の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
3	曜日 ②	季節の表現方法	プリントの会話部分を練習し覚えること
4	時間 ①	時間の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
5	時間 ②	時間を使った会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
6	色 ①	色および形容詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
7	色 ②	助数詞	プリントの会話部分を練習し覚えること
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
9	ショッピング ①	値段の尋ね方	プリントの会話部分を練習し覚えること
10	ショッピング ②	店での会話	プリントの会話部分を練習し覚えること
11	ショッピング ③	その他役に立つ表現	プリントの会話部分を練習し覚えること
12	位置 ①	位置の表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること
13	位置 ②	道を尋ねる	プリントの会話部分を練習し覚えること
14	9回～13回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習	9回～13回までに学んできたことの再確認
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解度確認テスト等に基づき総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業へは積極的に'加'しましょう。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	毎週の前習は基本的に必要ないが復讐については毎週少なくとも1時間は行うこと。半期中の事後学習は30時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	--

科目名	インドネシア語Ⅲ a	科目名(英文)	Indonesian IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明および会話の練習を行う。また、テキストを通してインドネシアの文化も紹介する。
到達目標	中級レベルの運用能力。
授業方法と留意点	講読、会話の練習とも、積極的に参加してもらう。プリントを適宜用意する。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インドネシア語とは	インドネシア語の概要や、インドネシア語が話されている地域の概要を確認する。	指示された復習には充分時間をかけること。
	2	易しい講読 1	各受講生のインドネシア語能力の確認。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	3	易しい講読 2	各受講生のインドネシア語能力の確認。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	4	易しい講読 3 および文法説明	各受講生のインドネシア語能力の確認。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	5	中級レベルの講読および文法説明 1	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	6	中級レベルの講読および文法説明 2	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	7	中級レベルの講読および文法説明 3	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	8	インドネシアの日常と関連する講読 1	会話練習と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	9	インドネシアの日常と関連する講読 2	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	10	インドネシアの日常と関連する講読 3	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	11	インドネシアの日常と関連する会話 1	会話練習。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	12	インドネシアの日常と関連する会話 2	会話練習。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	13	インドネシアの日常と関連する会話 3	会話練習。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	14	まとめ	第 13 回までに学習した項目をまとめて復習する。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
	15	復習と臨時試験	復習を行う。 臨時試験を行う。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。

関連科目	インドネシア語Ⅳa
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点、積極性、臨時試験による総合評価。
学生へのメッセージ	インドネシア語は人口 2 億 5 千万人のインドネシアの国語です。運用能力を身につけ将来に役立てましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 山口室
備考	

科目名	インドネシア語Ⅲ b	科目名 (英文)	Indonesian IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明および会話の練習を行う。また、テキストを通してインドネシアの歴史、地理、経済も紹介する。
到達目標	中級レベルの運用能力。
授業方法と留意点	講読、会話の練習とも、積極的に参加してもらおう。プリントを適宜用意する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	これまでの復習	これまでに学習したインドネシア語能力を確認する。	指示された復習には充分時間をかけること。
2	インドネシアの歴史に関する講読 1	講読と関連する文法説明。インドネシアの歴史に関する説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
3	インドネシアの歴史に関する講読 2	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
4	インドネシアの歴史に関する講読 3	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
5	インドネシアの地理に関する講読 1	講読と関連する文法説明。インドネシアの地理に関する説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
6	インドネシアの地理に関する講読 2	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
7	インドネシアの地理に関する講読 3	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
8	インドネシアの経済と関連する講読 1	講読と関連する文法説明。インドネシアの経済に関する説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
9	インドネシアの経済と関連する講読 2	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
10	インドネシアの経済と関連する講読 3	講読と関連する文法説明。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
11	インドネシアの歴史、地理、経済と関連する会話 1	会話練習。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
12	インドネシアの歴史、地理、経済と関連する会話 2	会話練習。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
13	インドネシアの歴史、地理、経済と関連する会話 3	会話練習。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
14	まとめ	第 13 回までに学習した項目をまとめて復習する。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。
15	復習と臨時試験	復習を行う。 臨時試験を行う。	指示された予習・復習には充分時間をかけること。

関連科目	インドネシア語Ⅳa
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点、積極性、臨時試験による総合評価。
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	インドネシア語は人口 2 億 5 千万人のインドネシアの国語です。運用能力を身につけ将来に役立てましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 山口室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	インドネシア語IV a	科目名(英文)	Indonesian IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語の実践的な運用能力の修得を目的とする。特に、日常生活のさまざまな場面において役に立つ会話表現を学ぶ。また、授業ではインドネシアの習慣や社会生活についての理解も深め、ビジネスにおいて即戦力として活躍できるようにしたい。
到達目標	この授業では、これまでに学んできたインドネシア語の基礎的な運用能力を踏まえ、インドネシアへ旅行に出かけたり、生活したり、働いたりする機会において不自由のない実力をつけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書を用いて基本的な文法事項をマスターしながら、基礎会話を中心とした学習を行う。インドネシア語の学習においては単語力の増強が欠かせない。そこで、毎週、単語テストを行う。自身で単語帳を作成するなど、努力する必要がある。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についてインドネシア語の特徴を把握する。	学んだことの再確認 (インドネシアという国について調べてみる)
2	発音と人称	インドネシア語の発音を再確認し、人称代名詞について復習する。	学んだことの再確認 (正しく発音できるようにすること)
3	文の基本構造①	平叙文、疑問文、修飾構造、前置詞、接続詞について再確認する。	学んだことの再確認 (単文の構造を確認すること)
4	文の基本構造②	比較の表現、助動詞、単純動詞について再確認する。	学んだことの再確認 (できるだけ多くの単語を覚え、いろいろな表現ができるように復習すること)
5	文の基本構造③	接頭辞・接尾辞のついた文章の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (インドネシア語文法を再確認すること)
6	時の表現	時刻と時間の表現、時制について学ぶ。	学んだことの再確認 (数字を覚え、時間の表現が不自由なくできるようにすること)
7	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	これまでに学んだことの再確認
8	挨拶表現	人と出会う時に使われる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (selamatを使った挨拶表現を復習すること)
9	自己紹介と他己紹介の表現	自己紹介、他己紹介の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (自己紹介のフレーズを覚え、自分の家族を他人に紹介できるようにすること)
10	謝意・謝罪の表現	謝意や謝罪の際の表現について学ぶ。	学んだことの再確認 (感謝の気持ちを表現したり、謝ったり、気持ちを表現するフレーズを復習すること)
11	オフィスにて①	指示や報告など、オフィスで使われる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (指示や報告の際のフレーズを復習すること)
12	オフィスにて②	商談の際など、オフィスで使われる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (商談の際の表現を復習すること)
13	オフィスにて③	電話でのやり取りなど、オフィスで使われる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (電話連絡の際の表現を復習すること)
14	オフィスにて④	オフィスでトラブルが起きた際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (状況の説明、対応策を説明できるようにすること)
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目: インドネシア語IVbほか、インドネシア語科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	聞いて丸暗記! インドネシア語入門	荻原道子	実業之日本社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の単語テスト、学期途中に行う中間テストおよび学期末の理解度確認テストの結果、授業への積極的な参加の度合いなどをもとに、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今注目のインドネシアへ出かけ、学んだインドネシア語で語りかけてみましょう。言葉が通じると、必ずや自信につながります。
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも1時間程度以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は60時間程度である。

科目名	インドネシア語IV b	科目名(英文)	Indonesian IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語の実践的な運用能力の修得を目的とする。特に、日常生活のさまざまな場面において役に立つ会話表現を学ぶ。また、授業ではインドネシアの習慣や社会生活についての理解も深め、ビジネスにおいて即戦力として活躍できるようにしたい。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語IVa」に引き続き、実践的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアで生活したり、働いたりする機会において不自由のない実力をつけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書を用いて基本的な文法事項をマスターしながら、さまざまな状況に応じた基礎会話を中心とした学習を行う。 毎回の復習が欠かせないので、よく留意のこと。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の「インドネシア語IVa」で学んだことの復習	インドネシア語の基本的な文法事項や基本単語を再確認すること。
2	工場にて①	朝礼、点呼、終業の際の表現を学ぶ	学んだことの再確認 (他者とのコミュニケーションの際の表現を復習すること)
3	工場にて②	会社・工場で使われる専門用語を使った表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (会社で使われる専門用語の復習をすること)
4	工場にて③	工場での人材教育の場面の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (技術移転を念頭においた表現の復習をすること)
5	店舗にて①	販売店、飲食店で使われる表現を学ぶ	学んだことの再確認 (接客の際の表現を復習すること)
6	店舗にて②	身だしなみやマニュアル指導など、従業員対応の際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (従業員と接する際の表現を復習すること)
7	店舗にて③	店舗で起こり得る事態に対する対応の際に使われる表現を学ぶ	学んだことの再確認 (いろいろな場面を想定した表現法を復習すること)
8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの復習をすること
9	日常生活の場面ごとの表現①	外食する際の表現や買い物をする際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (学んだフレーズの単語を入れ替えて復習すること)
10	日常生活の場面ごとの表現②	旅行に行く際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (学んだフレーズの単語を入れ替えて復習すること)
11	日常生活の場面ごとの表現③	病気になった際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (学んだフレーズの単語を入れ替えて復習すること)
12	コミュニケーションをより深めるための表現①	自身のことを語る際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (学んだフレーズの単語を入れ替えて復習すること)
13	コミュニケーションをより深めるための表現②	学校を話題にする際の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (学んだフレーズの単語を入れ替えて復習すること)
14	コミュニケーションをより深めるための表現③	困った時の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (学んだフレーズの単語を入れ替えて復習すること)
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目 インドネシア語IVaほか、インドネシア語科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	聞いて丸暗記!	インドネシア語入門	萩原道子
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2				
3				

評価方法(基準)	学期中に行う中間テストおよび学期末の理解度確認テストの結果、授業への積極的な参加の度合いなどをもとに、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今注目のインドネシアへ出かけ、学んだインドネシア語で語りかけてみましょう。言葉が通じると、必ずや自信につながります。
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも30分程度以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は60時間程度である。



科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ a	科目名(英文)	Indonesian Communication II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。この授業では過去1年間で得た能力をさらに開花させつつ、日本に住むあなたが、日本に住むインドネシア人と、インドネシア語でコミュニケーションを深めることを目的とします。
到達目標	相手の発言に対して自分が答えることも重要であるが、まずは過去1年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。積極的な発言と態度で臨んでください。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	自己紹介	1. 手短かに自己紹介をおこなう。 2. Bermain peran.	自己紹介をおこなううえで必要な事項を、事前に想定しておくこと。 自己紹介された時の返答も事前に考えておくこと。	
3	「ありがとう」 「ごめんなさい」	1. 感謝をあらわす会話表現 2. 過失を詫げる会話表現 3. Bermain peran	感謝の意を言葉で表さなければならない状況のかずかずと、過失を詫げなければいけない状況のかずかずを事前に想定しておくこと。	
4	「失礼します」 「お願いします」	1. 依頼の会話表現。 2. 「失礼します」を用いた会話表現 3. Bermain peran	「お願いします」を言葉で表さなければならない状況や事態を事前に想定しておくこと。	
5	「～を知りません」 「～がわかりません」 「～を教えてください」	1. 「～がわかりません」の会話表現。 2. 「～を教えてください」の会話表現 3. Bermain peran	belum mengerti と tidak mengerti に代表される tidak と belum の使い分けを事前に復習しておくこと。 「～を教えてください」を使用するいくつかの状況を事前に想定しておくこと。	
6	小試験および第2回から第5回までの復習	第2回から第5回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習	
7	日本に住むインドネシア人の家に電話をかける①	1. 挨拶、相手方の確認、自己紹介、呼び出し、会話等の電話をかける時の表現。 2. Bermain peran	家へ電話をかける場合に、どのような会話およびコミュニケーションをとらなければならないのか、事前に想定しておくこと。	
8	日本に住むインドネシア人の家に電話をかける②	1. 挨拶、相手方の確認、自己紹介、呼び出し、伝達依頼など、電話をかける時の会話表現。 2. Bermain peran	復習	
9	日本に住むインドネシア人へ電話をかけて、地下鉄「なんば」駅で会う約束をする①	1. 場所、時刻、日付、曜日、交通手段、入口、出口などの正確な説明と表現 2. Bermain peran	約束する際に必要な、「時間、場所、相手や自分の希望」などの事項を事前に想定しておくこと。	
10	日本に住むインドネシア人へ電話をかけて、地下鉄「なんば」駅で会う約束をする②	1. 場所、時刻、日付、曜日、交通手段、入口、出口などの正確な説明と表現 2. Bermain peran	復習	
11	小試験および第7回から第10回までの復習	第7回から第10回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習	
12	日本に住むインドネシア人と「なんば」で会ったあと、飲食施設で一緒に食事をとることになった①	1. 食材、料理法を説明する表現 2. Bermain peran	相手の信仰する宗教や信条、体質を想定しておくこと。話し合って相談する可能性があることも事前に想定しておくこと。	
13	日本に住むインドネシア人と「なんば」で会ったあと、飲食施設で一緒に食事をとることになった②	1. 食材、料理法を説明する表現 2. Bermain peran	授業内容の復習	
14	インドネシア人観光客が梅田で困っている	1. 位置の表現 2. Bermain peran	困っている人に話しかける言葉や、旅行者が何に困りやすいのかを事前に想定しておくこと。	
15	総復習試験	全回で学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。	

関連科目 主言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	フェリダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ
2	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社	
3				

評価方法 積極的な授業態度および平常点、小テスト、第15回の総復習試験の結果をあわせた総合評価。

(基準)	詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ b	科目名(英文)	Indonesian Communication II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	インドネシア語のコミュニケーション能力を育成する。会話によく使われる表現を学び、ネイティブスピーカーの話すインドネシア語を理解し、適切に対応できるようになることを目標とする。
到達目標	日常に様々な場面をテーマにして、そのテーマによる会話文を作成・会話練習を行う。
授業方法と留意点	歌やドラマの一場面など視聴覚資料を用いて、生のインドネシア語を聞き取る練習を行う。また、重要な口語表現を学び、これを用いた会話練習をする。積極的に授業に参加してください。
科目学習の効果(資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インドネシアへ行く ①	飛行機に乗る場面の会話練習。	授業内容に関する単語を覚える。
	2	インドネシアへ行く ②	入館と会話やり取り。	授業内容に関する語彙を取得する。
	3	インドネシアへ行く③	税関のやり取り会話場面。	授業内容に関する語彙を取得する。
	4	宿泊探す	空港からホテル予約する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	5	ホテルに到着する	フロントと会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	6	ホテルでクリーニング	ルームサービスと会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	7	タクシーに乗る	運転手との会話。	授業内容に関する語彙を取得する。
	8	第 ① ～ ⑦ までの復讐。	前授業内容の小テスト。	基本文と授業内容に関する語彙を取得する。
	9	観光案内所	観光名所を訪ねる。	授業内容に関する語彙を取得する。
	10	鉄道に乗る	駅係り人と会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	11	レストランにて。	料理を注文する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	12	病気 ①	病院で医者・看護師と会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	13	病気 ②	薬局にて。薬の買い方など。	授業内容に関する語彙を取得する。
	14	郵便局にて	荷物を送る。	授業内容に関する語彙を取得する。
	15	第⑨～⑭までの復習	基本文を作成・小テスト。	授業内容に関する語彙を取得する。

関連科目 主言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	株式会社三修社
	2	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダ イドリスノ・好光 智子	株式会社ナガセ
	3			

評価方法(基準) 毎回の授業における参加度、および適宜行う小テストによって総合的に評価する。  
授業参加 20%  
クラス活動 30%  
小テスト 50%

学生へのメッセージ 口語表現の基本を身につければ、ネイティブの話が聞き取れるようになり、自然なやりとりができるようになります。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	インドネシア語コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	日常会話ができる能力をつける。
到達目標	挨拶にはじまる基本会話を出来る能力をつける。
授業方法と留意点	会話を学習。積極的に会話を練習すること。
科目学習の効果 (資格)	挨拶にはじまる基本的な日常会話ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	アルファベット文字と発音	母音と子音の発音	二重母音と子音の発音を確認して練習する。
	2	挨拶	日常に使われる挨拶	日常の挨拶練習。
	3	お礼とお詫び	お礼とお詫びの表現	お礼と謝る場合の表現を練習する。
	4	自己紹介	人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。	授業内容を復習すること。
	5	自己紹介	疑問詞”誰”・家族に関する単語を学習・家族に付いての自己紹介。	前回の授業の内容を使って会話の練習をする。
	6	第1～5までの復習	小テスト・聞き取り会話テスト	事前に全部の授業内容を復習すること。。
	7	基本文・肯定文・否定文・疑問文	名詞・名詞の否定詞	周りにあるものの名前を覚える。
	8	基本文・肯定文・否定文・疑問文	動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。	日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。
	9	位置・疑問詞”どこ”・場所に表す前置詞①	前置詞・色々な位置・場所の名前を学習し、その文を使用し、聞き取り会話練習を行う。	授業内容を復習すること。
	10	位置・疑問詞”どこ”・場所に表す前置詞②	方向・場所を尋ねる・道を案内する、聞き取り会話練習。	授業内容を復習すること。
	11	第6～10までの復習	小テスト。聞き取りテストを行う。	前回の授業で学んだ単語を文書を作成。
	12	数詞・記号の読み方・助数詞	数字の言い方・分数および小数の言い方。	授業内容を復習すること。
	13	数詞・記号の読み方・助数詞	記号の言い方・電話番号と年語の言い方。疑問詞”berapa”を使用し、会話文を作成する。数字を覚える。	授業内容の復習。
	14	数詞・記号の読み方・助数詞	助数詞の言い方。聞き取り会話練習。	全部の授業内容の復習。
	15	第11～14までの復習	小テスト	学習した語彙・会話文テスト。

関連科目	主言語インドネシア語科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ&好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	クラスの参加 20% クラス活動 (会話) 30% 小テスト 50%
-----------	--

学生へのメッセージ	授業で学んだ語彙を覚える為には、毎日インドネシア語の挨拶から学習した会話文を使用する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	インドネシア語コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	日常会話の出来る能力をつける。
到達目標	日常に使われる表現と基本会話文をマスター出来る。
授業方法と留意点	会話文を学習して、会話練習をすること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常コミュニケーションが出来るようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習。	これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。	前期の授業内容の事前に復習する。
	2	誕生日 ①	日付・曜日・時間	インドネシア式の日付・曜日を覚える。
	3	一日の過ごし方 ②	日付・曜日・時間	前回の授業内容と時計の読み方を覚える。
	4	私の暮らし ③	日付・曜日・時間を使って会話文を作る。	聞き取り会話練習すること。
	5	選択の表現 ①	比較・選ぶ・示す	基本文を学習。
	6	選択の表現 ②	比較・選ぶ・示す	聞き取り会話練習。
	7	第①～⑥までの復習	会話文を作成	小テスト。
	8	なぜ～なぜならば の表現		買い物の仕方を練習する。
	9	伝聞と理由説明の表現	マナーの表現	会話練習
	10	誘う・許可・依頼の表現 ①	注文する表現	会話練習
	11	誘う・許可・依頼の表現 ②	インドネシア料理、食べ方など。	インドネシアと日本の共通点をまとめる。
	12	誘う・許可・依頼の表現 ③	地方の食べ物。	インドネシアと日本の共通点をまとめる。
	13	人の体・特徴に関する表現 ①	体の部分の名前。	授業内容を覚える。
	14	人の体・特徴に関する表現 ②	体の部分・特徴をに関する会話。	会話練習。
	15	第⑧～⑭までの復習	事前に学んだ事を復習する。	聞き取り会話テスト。

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目のすべて
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ／好光 智子	株式会社ナガセ◎ブックス
	2	インドネシア語リスニング	ホラス 由美子	株式会社三修社
	3			

評価方法 (基準)	クラス参加 20% クラス活動 (会話練習) 30% 小テスト 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	会話文だけではなく、インドネシアの文化や生活習慣などを理解し、コミュニケーション能力を上達する。出来る限りクラスメートと先生との会話をインドネシア語で。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡa (1)	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIa(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。この授業では過去1年間で得た能力をさらに開花させつつ、日本に住むあなたが、日本に住むインドネシア人と、インドネシア語でコミュニケーションを深めることを目的とします。
到達目標	相手の発言に対して自分が答えることも重要であるが、まずは過去1年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。積極的な発言と態度で臨んでください。

科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定
--------------	-------------

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	自己紹介	1. 手短かに自己紹介をおこなう。 2. Bermain peran.	自己紹介をおこなううえで必要な事項を、事前に想定しておくこと。 自己紹介された時の返答も事前に考えておくこと。	
3	「ありがとう」 「ごめんなさい」	1. 感謝をあらわす会話表現 2. 過失を詫げる会話表現 3. Bermain peran	感謝の意を言葉で表さなければならない状況のかずかずと、過失を詫げなければいけない状況のかずかずを事前に想定しておくこと。	
4	「失礼します」 「お願いします」	1. 依頼の会話表現。 2. 「失礼します」を用いた会話表現 3. Bermain peran	「お願いします」を言葉で表さなければならない状況や事態を事前に想定しておくこと。	
5	「～を知りません」 「～がわかりません」 「～を教えてください」	1. 「～がわかりません」の会話表現。 2. 「～を教えてください」の会話表現 3. Bermain peran	belum mengerti と tidak mengerti に代表される tidak と belum の使い分けを事前に復習しておくこと。 「～を教えてください」を使用するいくつかの状況を事前に想定しておくこと。	
6	小試験および第2回から第5回までの復習	第2回から第5回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習	
7	日本に住むインドネシア人の家に電話をかける①	1. 挨拶、相手方の確認、自己紹介、呼び出し、会話等の電話をかける時の表現。 2. Bermain peran	家へ電話をかける場合に、どのような会話およびコミュニケーションをとらなければならないのか、事前に想定しておくこと。	
8	日本に住むインドネシア人の家に電話をかける②	1. 挨拶、相手方の確認、自己紹介、呼び出し、伝達依頼など、電話をかける時の会話表現。 2. Bermain peran	復習	
9	日本に住むインドネシア人へ電話をかけて、地下鉄「なんば」駅で会う約束をする①	1. 場所、時刻、日付、曜日、交通手段、入口、出口などの正確な説明と表現 2. Bermain peran	約束する際に必要な、「時間、場所、相手や自分の希望」などの事項を事前に想定しておくこと。	
10	日本に住むインドネシア人へ電話をかけて、地下鉄「なんば」駅で会う約束をする②	1. 場所、時刻、日付、曜日、交通手段、入口、出口などの正確な説明と表現 2. Bermain peran	復習	
11	小試験および第7回から第10回までの復習	第7回から第10回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習	
12	日本に住むインドネシア人と「なんば」で会ったあと、飲食施設で一緒に食事をとることになった①	1. 食材、料理法を説明する表現 2. Bermain peran	相手の信仰する宗教や信条、体質を想定しておくこと。話し合って相談する可能性があることも事前に想定しておくこと。	
13	日本に住むインドネシア人と「なんば」で会ったあと、飲食施設で一緒に食事をとることになった②	1. 食材、料理法を説明する表現 2. Bermain peran	授業内容の復習	
14	インドネシア人観光客が梅田で困っている	1. 位置の表現 2. Bermain peran	困っている人に話しかける言葉や、旅行者が何に困りやすいのかを事前に想定しておくこと。	
15	総復習試験	全回で学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。	

関連科目	主言語インドネシア語科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ
	2	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
	3			

評価方法	積極的な授業態度および平常点、小テスト、第15回の総復習試験の結果をあわせた総合評価。
------	---

(基準)	詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡa(2)	科目名(英文)	Indonesian Communication IIa(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	インドネシア語のコミュニケーション能力を育成する。会話によく使われる表現を学び、ネイティブスピーカーの話すインドネシア語を理解し、適切に対応できるようになることを目標とする。
到達目標	日常に様々な場面をテーマにして、そのテーマによる会話文を作成・会話練習を行う。
授業方法と留意点	歌やドラマの一場面など視聴覚資料を用いて、生のインドネシア語を聞き取る練習を行う。また、重要な口語表現を学び、これを用いた会話練習をする。積極的に授業に参加してください。
科目学習の効果(資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インドネシアへ行く ①	飛行機に乗る場面の会話練習。	授業内容に関する単語を覚える。
	2	インドネシアへ行く ②	入館と会話やり取り。	授業内容に関する語彙を取得する。
	3	インドネシアへ行く③	税関のやり取り会話場面。	授業内容に関する語彙を取得する。
	4	宿泊探す	空港からホテル予約する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	5	ホテルに到着する	フロントと会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	6	ホテルでクリーニング	ルームサービスと会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	7	タクシーに乗る	運転手との会話。	授業内容に関する語彙を取得する。
	8	第 ① ～ ⑦ までの復讐。	前授業内容の小テスト。	基本文と授業内容に関する語彙を取得する。
	9	観光案内所	観光名所を訪ねる。	授業内容に関する語彙を取得する。
	10	鉄道に乗る	駅係り人と会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	11	レストランにて。	料理を注文する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	12	病気 ①	病院で医者・看護師と会話する。	授業内容に関する語彙を取得する。
	13	病気 ②	薬局にて。薬の買い方など。	授業内容に関する語彙を取得する。
	14	郵便局にて	荷物を送る。	授業内容に関する語彙を取得する。
	15	第⑨～⑭までの復習	基本文を作成・小テスト。	授業内容に関する語彙を取得する。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	株式会社三修社
	2	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダ イドリスノ・好光 智子	株式会社ナガセ
	3			

評価方法(基準)	毎回の授業における参加度、および適宜行う小テストによって総合的に評価する。 授業参加 20% クラス活動 30% 小テスト 50%
----------	--

学生へのメッセージ	口語表現の基本を身につければ、ネイティブの話が聞き取れるようになり、自然なやりとりができるようになります。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------



科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡb(1)	科目名(英文)	Indonesian Communication IIB(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	この授業では、あなたがインドネシアに滞在していると想定したうえで、インドネシアのひとつひとつ、インドネシア語でコミュニケーションを深めることを目的とします。
到達目標	相手の発言内容をより深く理解し、自分の意思や感想も伝えて、会話能力をいっそう高めることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。 毎回のテーマに応じて、インドネシアならびにインドネシア各地の習慣や様子を事前に簡単に調べておいてください。そしてどのような会話がやりとりされるのかを想像し、会話をかわすために必要なインドネシア語の単語を事前に考え、自分で短文を作ってみるなどの予習しておくこと。間違いを恐れずに、積極的な発言と態度で臨んでください。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。
1	プロローグ		
2	同年代の友人との会話① 友人が「出かけよう」と誘いに来た	1. 挨拶表現 2. 勧誘表現 3. 数に関する表現	中部ジャワや東部ジャワの乗り物について先に調べておくこと。
3	同年代の友人との会話②	1. 数に関する表現 2. 仮定の表現	乗り物の値段交渉を事前に想定しておくこと。 助数詞や数字にまつわる表現を事前に復習しておくこと。
4	同年代の友人との会話③	1. yang を用いた表現の復習 2. 第2回と第3回の復習	授業内容の復習
5	近所の人との会話① 道端で	1. 相手の話を聞いて理解する 2. 時系列の表現 3. さまざまな挨拶表現を理解する	授業内容の復習
6	近所の人との会話② ワルンで	1. 相手の話を聞いて理解する 2. 時系列の表現 3. 助動詞を使いこなす	授業内容の復習
7	近所の人との会話③	1. 相手の話を聞いて理解する 2. 助動詞を使いこなす 3. さまざまな挨拶表現を使いこなす	授業内容の復習
8	小試験①	第2回から第7回までに学習した項目をもとに、或る場を想定した会話を課す。	第2回から第7回までの授業内容の総復習
9	友人と中心街へ出かける① ショッピングモールで買い物をする	1. 自分の要望を的確に伝える 2. 相手の話を聞いて理解する 2. 助動詞を使いこなす	授業内容の復習
10	友人と中心街へ出かける② 食事をする	1. 自分の要望を的確に伝える。 2. 相手の話を聞いて理解する 3. 時系列の表現	授業内容の復習
11	友人と中心街へ出かける③ 自分からの希望で一緒にパサールへ行く	1. 第9回と第10回の復習	授業内容の復習
12	小試験②	第5回から第7回までと、第9回から第11回までに学習した項目をもとに、或る状況を想定した会話を課す。	第5回から第7回までと、第9回から第11回までの授業内容の総復習
13	冠婚葬祭に関する儀礼・儀式に招待される①	1. 相手の話を聞いて理解する。 2. エチケットやマナーを質問する。 3. 第3者に説明する。	さまざまな宗教や信仰、儀礼、慣習について、あらかじめ調べておくこと。
14	冠婚葬祭に関する儀礼・儀式に招待される②	1. 相手の話を聞いて理解する。 2. エチケットやマナーを質問する。 3. 第3者に説明する。	授業内容の復習。
15	総復習試験	全回で学習した内容をもとに、或る状況を想定した会話を課す。	全授業内容の復習

関連科目 主言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	積極的な授業態度および平常点、小試験、第15回の総復習試験の結果をあわせた総合評価。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、とにかく何かを言ってみましょう。間違いは「気づき」のもと、「きっかけ」です。 日々の地道な学習と努力、勇気は必ず大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室で随時受け付ける。またメールでも受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡb(2)	科目名(英文)	Indonesian Communication IIB(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	この授業では受講者がジャワ島にホームステイをしていると想定したうえで、インドネシア語の会話能力を深めることを目的とします。書き言葉とは異なる口語的な表現についても学びます。
到達目標	相手の発言内容をより深く理解し、自分の意思や感想も伝えて、会話能力をいっそう高めることが目標です。またそれぞれの土地や人びとの慣習も理解できるようになります。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じて、どのような会話がやりとりされるのかを想像し、会話をかわすために必要なインドネシア語の単語を事前に考え、自分で短文を作ってみるなどの予習をしてください。 間違いを恐れる必要はありません。 テキストならびにテキストに準ずるものは、毎回配布します。

科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定
-------------	-------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インドネシアでの生活 ① 自己紹介	1. ホームステイ先の家族ひとりひとりに伝わる内容の自己紹介をする。 2. 自己紹介にともなう会話。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
2	インドネシアでの生活 ② 料理教室に通う 1	1. ホームステイ先の家族に自分の予定を 5W1 Hで伝える。 2. 持ち物の準備	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
3	インドネシアでの生活 ③ 料理教室に通う 2	1. 交通機関の使い方 2. 講師と仲間へ自己紹介をおこなう。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
4	インドネシアでの生活 ④ 料理教室に通う 3	1. 食材と生産地に関する会話 2. 調理に関する会話	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
5	インドネシアでの生活 ⑤ 料理教室に通う 4	1. 調理に関する会話 2. 味覚を表現する	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
6	インドネシアでの生活 ⑥ 料理教室に通う 5	1. 今後の予定を打ち合わせする。 2. ホームステイ先の家族に今日のできごとを話す。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
7	・小試験 ・インドネシアでの生活 kebayaya を作る 1	・第1回から第6回までに学習した内容をもとにした会話の復習テスト。 ・kebayaya が欲しいことをホームステイ先の家族に伝え、入手方法を教えてもらう。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
8	インドネシアでの生活 kebayaya を作る 2	以下の各場面を想定した会話。 1. 布屋街へ行く 2. 仕立て屋へ行く 3. 採寸 4. デザイン	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
9	インドネシアでの生活 パティックを入手する	以下の各場面を想定した会話。 1. ホームステイ先の家族にどのようなパティックがふさわしいのか尋ねる。 2. パティック店へ行く 3. パティックの巻き方をホームステイ先の家族から学ぶ	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
10	インドネシアでの生活 結婚式に招待される 1	バリに住む友人から結婚式に招待された。ホームステイ先の家族に予定を説明し、マナーを尋ね、いろいろと教えてもらう。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
11	インドネシアでの生活 サロンへ行く	バリに到着したので、結婚式に参列するにふさわしい髪型を結うサロンへ行く。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
12	インドネシアでの生活 結婚式に招待される 2	Kebaya とパティックを見につけ、しかるべき髪型とマナーで結婚式に参列したので、食事の時に参列者たちから会話を誘われる。第一回よりも詳しい自己紹介と相手への質問を含んだ会話をおこなう。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
13	インドネシアでの生活 ホームステイ先へ帰る	1. ホームステイ先の家族に結婚式の様子とバリでの体験を話す。 2. パティックの取扱いをホームステイ先の家族から学ぶ。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
14	インドネシアでの生活 料理教室に通う 6 (復習試験)	料理教室の講師と仲間へお土産を渡し、バリで結婚式に参列するためにケバヤを作ることから始まりホームステイ先に戻ってくるまでのことを話す。	事前に必要な語彙を調べ、覚える。 授業内容の復習。
15	総まとめ	第14回の会話をもとに、陥りやすいミスをふりかえり、改善する。	いままでの授業内容の総復習。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	積極的な授業態度および平常点、第7回目の小試験、第14回目の復習試験の結果をあわせた総合評価。
------	---

(基準)	詳細は第1回目の授業で伝えます。
学生へのメッセージ	自分から「こういう状況の時は、こういうことを伝えたい。ならば、この単語が必要」と想像して単語を予習しておく、会話が身近に感じられ楽しくなります。予習・復習を欠かさずに一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室で随時受け付けます。メールでも受け付けます。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	この授業ではインドネシアの人びととの会話をいっそう深めるために、インドネシアの新聞や雑誌、メディア、SNS等から受講者がニュースや記事を取りあげて概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。
到達目標	1. インドネシア語である程度の発表ができるようになること。 2. インドネシア語である程度の小レポートが書けるようになること。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。復習も欠かせないこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習
2	会話表現 1	会話で交わされる独特の単語を理解する。	準備と予習、復習の徹底
3	会話表現 2	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。	準備と予習、復習の徹底
4	会話表現 3	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。	準備と予習、復習の徹底
5	SNSにおける表現 1	SNSで使われる独特の単語を理解する。	準備と予習、復習の徹底
6	SNSにおける表現 2	SNSで使われる独特の表現を理解する。	準備と予習、復習の徹底
7	SNSにおける表現 3	SNSを想定し、模擬のやりとりをおこなう。	準備と予習、復習の徹底
8	新聞における表現 1	新聞のレイアウトや、読み方を知る。	準備と予習、復習の徹底
9	新聞における表現 2	長文の内容を把握して、概要をまとめる練習。	準備と予習、復習の徹底
10	新聞における表現 3	長文の内容を把握して、概要をまとめる練習。	準備と予習、復習の徹底
11	新聞における表現 4	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底
12	インターネットで配信される記事の表現 1	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底
13	インターネットで配信される記事の表現 2	続々と配信される記事から概要をつかむ練習。	準備と予習、復習の徹底
14	インターネットで配信される記事の表現 3	記事をもとにディスカッションをおこなう。	準備と予習、復習の徹底
15	総復習	陥りやすいミスと癖を改善するために、今後の学習の課題をみつける。	準備と予習、復習の徹底

関連科目 主言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	1. 準備・予習・復習からなるホームワーク (50%) 2. 授業での発表とレポート (50%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、インドネシアの記事をより理解するために自ら参考文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コムニカシⅢb	科目名(英文)	Indonesian Communication IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	1. 前半はインドネシア国内で放送されている短いニュースと短編のドキュメンタリーを、中半と後半はインドネシアの作家が執筆した短いエッセイや短編の小説を取りあげる。 2. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 3. 随時、レポートを課す。 4. 随時、暗唱を課す。 5. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。
到達目標	1. 発表にふさわしいインドネシア語が運用できるようになること。 2. レポートにふさわしいインドネシア語の文章が書けるようになること。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。復習も欠かさないこと。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	短いニュース映像 ②	1. シェドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
3	短いニュース映像 ③	1. シェドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
4	短編ドキュメンタリー映像	1. ドキュメンタリーの内容を理解する 2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
5	Eka Kurniawan の短いエッセイを読む ①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
6	Eka Kurniawan の短いエッセイを読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
7	発表とディスカッション ①	第5回、第6回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習
8	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む ①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
9	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
10	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む ③	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
11	発表 ②	第8回、第9回、第10回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習
12	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
13	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
14	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ③	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
15	発表 ③	1. 第12回、第13回、第14回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習

関連科目 主言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)  
1. 授業での発表とディスカッション(60%)  
2. 暗唱とレポート(40%)  
詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ  
前期の『インドネシア語コムニカシⅢa』でインドネシア語運用能力が高まったかと思います。この授業ではいっそうの高みを目指しましょう。

担当者の研究室等  
7号館2階(非常勤講師室)

備考  
授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅣa	科目名(英文)	Indonesian Communication IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	Mahasiswa mampu berdiskusi tentang hal-hal yang berkaitan dengan Jepang. Kemampuan ini akan berguna untuk menerangkan tentang Jepang kepada orang Indonesia dalam berbagai situasi yang akan dialami di Indonesia. 本授業は、日本における様々な社会的なことをインドネシア語でインドネシア人に伝えることが出来る。
到達目標	Tiap pertemuan mahasiswa mempersiapkan bahan diskusi tentang tema yang ditentukan. 各テーマについて事前に準備しておくこと。
授業方法と留意点	Dalam kuliah ini, mahasiswa melakukan presentasi sesuai tema yang ditentukan. 各テーマに発表に対してディスカッションを行うので、積極的な発言をを求める。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語検定試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientasi	Penjelasan tentang Kuliah Ini	Ulangan Kuliah Kali Ini
	2	Tentang Kebudayaan Jepang 1	Presentasi Mahasiswa mengenai Geografi Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang geografi.
	3	Tentang Kebudayaan Jepang 2	Presentasi Mahasiswa mengenai tempat pariwisata terkenal dan budaya setempat	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang Pariwisata.
	4	Tentang Kebudayaan Jepang 3	Diskusi Tema tentang Kebudayaan Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang kebudayaan.
	5	Tentang Ekonomi Jepang 1	Presentasi Mahasiswa mengenai fluktuasi mata uang dan pengaruhnya terhadap perekonomian Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang ekonomi.
	6	Tentang Ekonomi Jepang 2	Presentasi Mahasiswa tentang hubungan ekonomi dan kerja sama luar negeri	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang kerjasama luar negeri.
	7	Tentang yang sedang populer di Jepang & Indonesia	Presentasi mahasiswa sesuai tema	Memperhatikan istilah khusus yang populer di dalam masyarakat.
	8	Ulangan : test mid semester tentang kata dan kalimat khusus.	Test Mid Semester	Mengulang dan mengingat kembali kata / kalimat khusus dalam bidang tertentu.
	9	Sejarah Jepang 1	Presentasi Mahasiswa tempat bersejarah Kyoto	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sejarah
	10	Tentang Sejarah Jepang 2	Presentasi Mahasiswa tempat bersejarah Nara	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sejarah
	11	Tentang Sejarah Jepang 3	Diskusi Tema tentang Sejarah Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sejarah
	12	Tentang Masalah Sosial Jepang 1	Presentasi Mahasiswa tentang kesenjangan usia	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sosial
	13	Tentang Masalah Sosial Jepang 2	Presentasi Mahasiswa tentang bantuan pemerintah dalam berbagai masalah sosial	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sosial
	14	Tentang Masalah Sosial Jepang 3	Diskusi Tema tentang Masalah Sosial Jepang	Memperhatikan istilah khusus yang digunakan dalam bidang sosial
	15	Ulangan	Mengulang tentang sejarah dan sosial. Ujian akhir semester	Mempersiapkan ujian akhir semester.

関連科目	インドネシア語の全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Kehadiran dan akativitas 50% Test tengah semester, test akhir semester 50%
----------	---

学生へのメッセージ	Mahasiswa harus berpartisipasi aktif dalam kegiatan kuliah.
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	インドネシア語コミュニケーションIV b	科目名 (英文)	Indonesian Communication IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	Memberikan pengetahuan dan kemampuan memahami bahasa dan sastra Indonesia. Mahasiswa mampu mempraktekkan bahasa Indonesia dalam dunia sastra. 本授業は、インドネシアの文学やメディアなどについて知識を持つ。文学的な表現を学ぶ。			
到達目標	Dalam kuliah ini, mahasiswa selain membaca karya sastra juga praktek komunikasi melalui media TV, radio serta sandiwara. 本授業では文学を読むことに加えて、テレビ、ラジオ、劇を通してコミュニケーションを実践しています。			
授業方法と留意点	Menggunakan karya sastra, media dan sandiwara sebagai alat komunikasi. コミュニケーションの手段として、文学、メディアとドラマを使用します。			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定試験			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientasi	Penjelasan tentang Kuliah Ini	Penjelasan tentang materi, jalannya perkuliahan dan ujian praktek
	2	Membaca karya sastra	Sastra lama (pantun)	Memahami isi dan mencoba membuat sesuai contoh.
	3	Membaca karya sastra	Sastra lama (syair & puisi)	Memahami isi karya sastra.
	4	Membuat karya sastra. puisi 1.	Diskusi Tema tentang Perbandingan Kebudayaan Indonesia dan Jepang	Memahami isi karya sastra.
	5	Membuat - menghafal puisi	Presentasi karya puisi mahasiswa.	Membaca puisi hasil karya sendiri atau karya pengarang yang terkenal
	6	Membaca puisi	Ujian membaca puisi di depan kelas.	Menghafal puisi.
	7	Bahasa Media 1	Membaca berita di koran	Membaca berita melafalkan dengan benar dan memahami isi.
	8	Bahasa Media 2	Menyimak berita di TV	Membaca berita melafalkan dengan benar dan memahami isi.
	9	Bahasa Media 3	Mendengarkan siaran radio.	Membaca berita melafalkan dengan benar dan memahami isi.
	10	Bahasa Media 4	Mempraktekkan siaran radio	Menyimak isi siaran radio, serta mengamati cara penyampaian siaran.
	11	Sandiwara 1	Mendengarkan dialog..	Berlatih dialog.
	12	Sandiwara 2	Praktek menghafal dialog	Berlatih menghafalkan dialog
	13	Sandiwara 3	mempersiapkan setting, musik dan sebayanya.	Berlatih memainkan peran.
	14	Sandiwara 4	Gladi resik, pementasan sandiwara	Berlatih memainkan peran
	15	Pementasan Sandiwara	Pentas Sandiwara	Ulangan penguasaan dialog dan peran.
関連科目	通訳・翻訳インドネシア語・マレー語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Kehadiran danAktivitas Kelas 50% Praktek 50%			
学生へのメッセージ	Mahasiswa harus berpartisipasi aktif dalam kegiatan kuliah.			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	インドネシア語入門 a (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	インドネシア語の綴りと発音の説明1	本課の復習を必ずすること
	2	第2課	インドネシア語の綴りと発音の説明2	本課の復習を必ずすること
	3	第3課	名詞の文法説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	4	第4課	形容詞文法説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	5	第5課	動詞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	6	第6課	数詞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	7	第7課	時の表現の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	8	第8課	その他の品詞の文法1の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	9	第9課	その他の品詞の文法2説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	10	第10課	修飾語、被修飾語の位置の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	11	第11課	文形の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	12	第12課	インドネシア語の接辞の説明	本課の予習・復習を必ずすること
	13	第13課	接頭辞 ber- の役割、使い方の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	14	第14課	接尾辞 -an の文法説明 人称接辞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
	15	総復習	これまでに学習したことの総復習を行う	本課の復習を必ずすること

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (2,000円程度)	浦野崇央、山口真佐夫	
	2	インドネシア語辞典ポケット版 (8,000円+税)	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) を実施する。 平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1年次の基本となる授業なので、欠席せずにしっかり出席すること。
担当者の研究室等	7号館5階 山口室
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。



科目名	インドネシア語入門 a (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。			
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることを目的とする。 本授業では、特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。			
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携帯すること。			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	インドネシア共和国におけるインドネシア語の位置づけについての説明 インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認
	2	第2課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認
	3	第3課	名詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	4	第4課	形容詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	5	第5課	動詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	6	第6課	数詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	7	第7課	時の表現についての文の講読・作文	学んだことの再確認
	8	第8課	その他の品詞を使った文の講読・作文①	学んだことの再確認
	9	第9課	その他の品詞を使った文の講読・作文②	学んだことの再確認
	10	第10課	語順①	学んだことの再確認
	11	第11課	語順②	学んだことの再確認
	12	復習 中間テスト	これまでに学んだことの復習 中間テスト	学んだことの再確認
	13	第13課	接頭辞 ber-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	14	第14課	接尾辞-an、人称接辞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	15	復習	これまでに学んだことの再確認	学んだことの再確認
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 a(1)」)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (第3版)	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) および「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。			
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。			
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)			
備考	毎回の予習は基本的に必要ないが、少なくとも毎週30分程度以上の復習は欠かさず行うこと。			

科目名	インドネシア語入門 b (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的  
人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。

到達目標  
インドネシア語文法の基礎をマスターすること。

授業方法と留意点  
本授業は、「インドネシア語入門 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。

科目学習の効果 (資格)  
インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第15課	綴りの規則の説明、講読	本課の復習を必ずすること
2	第16課	接頭辞 se-、共接辞 se--nya、ke--an、接尾辞 -nya の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
3	第16課	接頭辞 se-、共接辞 se--nya、ke--an、接尾辞 -nya の講読、作文	本課の復習を必ずすること
4	第17課、第18課	接頭辞 me- の講読 接頭辞 di- の文法説明	両課の復習を必ずすること
5	第19課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
6	第20課	共接辞 ber--an、per--an の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
7	第21課	接頭辞 pe-、共接辞 pe--an の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
8	中間テスト対策講座	中間テストのための準備を行う	復習をすること
9	第22課	接尾辞 -i、-kan の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
10	第23課	接頭辞 member- の文法的説明、講読	本課の復習を必ずすること
11	第23課 インドネシア語でスピーチしてみよう	接頭辞 member- の講読、作文 インドネシア語で話すことの実践演習	本課の復習を必ずすること
12	第24課	能動文と受動文の文法説明	本課の復習を必ずすること
13	第25課	重複の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
14	第26課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
15	第27課 総復習	接辞のまとめおよびその他の接辞 総復習	もう一度教科書全体を見ておくこと

関連科目  
専攻言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (前期に購入済み)	浦野崇央、山口真佐夫	
2	インドネシア語辞典ポケット版 (前期に購入済み)	末永晃	大学書林	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)  
定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) を実施する。  
平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。  
詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ  
1年次の基本となる授業なので、欠席せずにしっかり出席すること

担当者の研究室等  
7号館5階 山口室

備考  
指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	インドネシア語入門 b (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基本的な運用能力の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「インドネシア語入門 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 授業時は辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第15課	綴りの規則に基づいた文の講読・作文	学んだことの再確認
	2	第16課	接頭辞 se-、共接辞 se-nya、ke--an、接尾辞-nya を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	3	第17課	接頭辞 me- を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	4	第18課	接頭辞 di- を使った文の講読	学んだことの再確認
	5	第18課	接頭辞 di- を使った文の作文	学んだことの再確認
	6	第19課	接頭辞 ter- を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	7	第20課	共接辞 ber- -an、per- -an を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	8	第21課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	9	復習 中間テスト	これまでに学んだことの復習 中間テスト	学んだことの再確認
	10	第22課	接尾辞-i、-kan を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	11	復習	インドネシア語暗唱コンテスト 中間テスト返却指導	学んだことの再確認
	12	第24課	能動文と受動文の使い分け練習と講読	学んだことの再確認
	13	第25課	重複の文の講読・作文	学んだことの再確認
	14	第26課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	15	総復習 (講読・作文実践練習)	これまでに学んだ構文の講読・作文練習	学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 b(1)」)
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門第3版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) および「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、毎週少なくとも30分程度以上の復習は欠かさないこと。

科目名	インドネシア語入門 b (3)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(3)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	本授業では「インドネシア語入門 b (1)、(2)」で学んだ基礎、すなわち「読み」「書き」の徹底をはかる。		
到達目標	平易な文章で書かれた短編が読める程度のインドネシア語能力を身につけること。		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。</li> <li>2. 毎回辞書を携帯すること。</li> <li>3. 適宜、小試験を実施する。</li> <li>4. 毎回かならず予習・復習をおこなうこと。</li> <li>5. 受講者の習得度によっては、授業テーマおよび内容を修正しながら行なうことがある。</li> </ol>		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	第 15 課	綴りの規則 復習と予習
	2	第 16 課	接頭辞 se-, 共接辞 se--nya, ke--an、 接尾辞-nya 復習と予習
	3	第 17 課	接頭辞 me- 復習と予習
	4	第 18 課	接頭辞 di- 復習と予習
	5	第 19 課	接頭辞 ter- 復習と予習
	6	第 20 課	共接辞 ber--an, per--an 復習と予習
	7	第 21 課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe--an 復習と予習
	8	整理と復習	これまでに学んだことの復習 復習と予習。 疑問点や理解の難しいところを見つけておき、質問事項を考えておくこと。
	9	第 22 課	接尾辞-i, -kan 復習と予習
	10	第 23 課	接頭辞 memper- 復習と予習
	11	第 24 課	能動文と受動文 復習と予習
	12	第 25 課	重複 復習と予習
	13	第 26 課	接辞の例外的変化・不規則変化 復習と予習
	14	第 27 課	これまでに学んだ語彙や構文を使った 文章の読解と作文 復習と予習
	15	第 28 課	1. 総復習「まとめ試験」 2. ミスの解明と理解の徹底 復習
関連科目	主言語インドネシア語科目のすべて		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	適宜実施される小テストと毎日のホームワーク (25%) 授業での発表 (25%) まとめ試験 (50%) 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。		
学生へのメッセージ	すでにインドネシア語にかなり慣れ親しんだかと思いますが、この授業を通じて「読み」「書き」の理解力をいっそう高めましょう。		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤研究室)		
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に 7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。		

科目名	インドネシア語表現法	科目名(英文)	Indonesian Expression
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的 日常会話レベルで用いる基本的な表現(フレーズや言い回し)について学ぶ。日常生活で用いられる何気ない表現をできるだけ平易な言葉で言い表すための文例をしっかりとマスターし、語学運用能力の向上を目指す。

到達目標 日常生活で用いられている基本的な表現を習得すること。

授業方法と留意点  
 1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。  
 2. 毎回辞書を携帯すること。  
 3. 適宜、小テストを実施する。

科目学習の効果(資格) インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明を行う	—————
2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明を行う	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
3	あいさつの表現①	あいさつで用いる表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
4	あいさつの表現②	同上	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
5	お礼の表現	お礼をする際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
6	謝罪の表現	謝罪する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
7	許可の表現	許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
8	禁止・依頼の表現	禁止したり、依頼する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
9	誘いの表現	誘う際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
10	肯定・否定の表現	肯定したり否定する際の表現を習得する。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
11	命令の表現	命令を下す際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
12	希望・意志の表現	希望や意志を伝える際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
13	推量の表現	推量する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
14	感情の表現	種々の感情表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する
15	1. 総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを行う 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。	1. 理解度確認テストに向けての学習 2. 事後学習の徹底

関連科目 インドネシア語科目すべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) ホームワークと授業での発表(25%)  
 小テスト(25%)  
 理解度確認テスト(50%)  
 詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ インドネシア語は学習しやすく、親しみやすいのが特徴です。しかし初心者レベルに留まらず、さらなる高みを目指して積極的に学びましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 1. 確実に身につけるために、事前・事後学習および課題には十分な時間をかけること。  
 2. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語表現法 a	科目名 (英文)	Indonesian Expressions a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	日常会話レベルで用いる基本的な表現（フレーズや言い回し）について学ぶ。日常生活で用いられる何気ない表現をできるだけ平易な言葉で言い表すための文例をしっかりとマスターし、語学運用能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	日常生活で用いられている基本的な表現を習得すること。																																																																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。</li> <li>2. 毎回辞書を携帯すること。</li> <li>3. 適宜、小テストを実施する。</li> </ol>																																																																		
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>今後の授業の進め方についての説明を行う</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文字と発音</td> <td>文字と発音および簡単な文法説明を行う</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>あいさつの表現①</td> <td>あいさつで用いる表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>あいさつの表現②</td> <td>同上</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>お礼の表現</td> <td>お礼をする際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>謝罪の表現</td> <td>謝罪する際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>許可の表現</td> <td>許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>禁止・依頼の表現</td> <td>禁止したり、依頼する際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>誘いの表現</td> <td>誘う際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>肯定・否定の表現</td> <td>肯定したり否定する際の表現を習得する。</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>命令の表現</td> <td>命令を下す際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>希望・意志の表現</td> <td>希望や意志を伝える際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>推量の表現</td> <td>推量する際の表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>感情の表現</td> <td>種々の感情表現を習得する</td> <td>授業内容を復習し、習った表現を暗記する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>1. 総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善</td> <td>1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを行う 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。</td> <td>1. 理解度確認テストに向けての学習 2. 事後学習の徹底</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明を行う	—————	2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明を行う	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	3	あいさつの表現①	あいさつで用いる表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	4	あいさつの表現②	同上	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	5	お礼の表現	お礼をする際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	6	謝罪の表現	謝罪する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	7	許可の表現	許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	8	禁止・依頼の表現	禁止したり、依頼する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	9	誘いの表現	誘う際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	10	肯定・否定の表現	肯定したり否定する際の表現を習得する。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	11	命令の表現	命令を下す際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	12	希望・意志の表現	希望や意志を伝える際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	13	推量の表現	推量する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	14	感情の表現	種々の感情表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する	15	1. 総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを行う 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。	1. 理解度確認テストに向けての学習 2. 事後学習の徹底
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明を行う	—————																																																																
2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明を行う	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
3	あいさつの表現①	あいさつで用いる表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
4	あいさつの表現②	同上	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
5	お礼の表現	お礼をする際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
6	謝罪の表現	謝罪する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
7	許可の表現	許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
8	禁止・依頼の表現	禁止したり、依頼する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
9	誘いの表現	誘う際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
10	肯定・否定の表現	肯定したり否定する際の表現を習得する。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
11	命令の表現	命令を下す際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
12	希望・意志の表現	希望や意志を伝える際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
13	推量の表現	推量する際の表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
14	感情の表現	種々の感情表現を習得する	授業内容を復習し、習った表現を暗記する																																																																
15	1. 総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを行う 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。	1. 理解度確認テストに向けての学習 2. 事後学習の徹底																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	ホームワークと授業での発表(25%) 小テスト(25%) 理解度確認テスト(50%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語は学習しやすく、親しみやすいのが特徴です。 しかし初心者レベルに留まらず、さらなる高みを目指して積極的に学びましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確実に身につけるために、事前・事後学習および課題には十分な時間をかけること。</li> <li>2. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。</li> </ol>																																																																		

科目名	インドネシア語ボキャブラリー a	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	語彙の強化をはかるとともに、日常生活に必要なインドネシア語の単語や表現を理解し、使えるようになることを目的とする。
到達目標	日常生活に必要な語彙を習得することができる。
授業方法と留意点	毎回、テーマに関連したプリントを配布する。授業で十分に練習を行って語彙の定着をはかる。必ず復習をすること。毎回、前週で学んだことの小テストを実施する。また、適宜復習テストも実施する。
科目学習の効果 (資格)	日常生活に欠かせない単語や表現が身に付く。 インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入、挨拶表現	授業の進め方の説明 インドネシア語の語彙の特徴と簡単な挨拶について	指示された復習項目には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
2	教室、道具	教室で使う基本的な表現と文房具の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	基本的な親族名称、動物の名前	基本的な親族名称と身近な動物の名前	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	基本的な飲食物、味覚、色彩	基本的な飲食物の名前、調味料の名前、味覚表現・色彩表現について	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	基本的な形容詞	大きさ・広さ・重さ・高さ・長さなどを表す基本的な形容詞、数字の0～10まで	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	基本的な基語動詞、場所(1)	接辞を使わない動詞と身近な場所を表す名詞や月の名前、数字の11～99まで	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	数、助数詞、時間、曜日と日付	数字の101～100000まで、助数詞、時間・曜日・日付を表す表現	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	助動詞、頻度・確実性・位置関係	助動詞、頻度や確実性を表す表現、位置関係を表す表現	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	方角、各種の商店、食材	方角、各種の商店、食材(野菜・加工食品・果物)の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	場所(2)、服飾関係用語	山や海などの地形を表す表現、服飾関係の名詞と形容詞	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	乗り物、大陸・地域・国	乗り物の名称、陸・地域・国の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	身体名称(1)	身体の各部分の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	身体名称(2)、病気・けが・治療	内臓などの器官名称、病気・けが・治療に関する基本的な表現	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	インターネット関連用語やデジタル機器に関する用語 総まとめ(1)	日常よく使われるインターネット用語やデジタル機器に関する代表的な用語、前期の授業をふりかえる	これまでに習得した語彙やその用法を再確認し、復習テストに備えること
15	総まとめ(2)	前期の授業をふりかえり、学習項目の確認、復習テスト	復習テストで間違えた項目を再度学習し直すこと

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて、東南アジア関係の講義科目、文化人類学
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎週の小テスト、積極的な授業の参加の度合い、復習テスト等の結果から、総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	インドネシア語を使いこなすには、語彙を増やすことも欠かせません。どんどん単語を覚えて、使ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも1時間以上は行うこと。半期中の事後学習時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	--

科目名	インドネシア語ボキャブラリーb	科目名(英文)	Indonesian Vocabulary b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	インドネシア語を学ぶにあたり、語彙の増加および単語力の強化はたいへん重要である。本授業では、インドネシア語の単語力を増強し、よりいっそう豊かな表現力と理解力を身に付けることを目的とする。
到達目標	インドネシア語の単語力を増強し、よりいっそう豊かな表現力と理解力を身に付けること。 11月17日に実施される学内「インドネシア語ボキャブラリーコンテスト」で、高得点の獲得を目指す。
授業方法と留意点	1. テキストは毎回プリントを用意する。 2. 毎回辞書を携帯すること。 3. 毎回小テストを実施する。 4. 授業内での間違いに無用なものはない。間違いを恐れずにしっかり発音すること。間違いを恐れずに書くこと。 5. 授業時間内に質疑応答時間を設ける。 6. 受講者の単語習得状況に応じて、授業テーマおよび講義内容を変更する場合がある。

科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定
-------------	-------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行なう。	—————
2	人間	人間(個人)をめぐる単語を習得する。	復習
3	家族・友人・親戚	自分との立場や関係をめぐる単語を習得する。	復習
4	政治・経済	政治・経済分野にかかわる単語を習得する。	復習
5	運輸・通信	運輸・通信にかかわる単語を習得する。	復習
6	社会・生活	社会・生活にかかわる単語を習得する。	復習
7	基本動詞の単語	基本動詞の単語を習得する。	復習
8	形容詞の単語	形容詞の単語を習得する。	復習
9	音楽・伝統芸能・映画・美術・スポーツ	音楽、伝統芸能、映画、美術、スポーツにかかわる単語を習得する。	復習
10	世界の国ぐにとインドネシアの地域	世界の国ぐにとインドネシアの各地域などの名称を習得する。	復習
11	文学・学問	文学や学問にかかわる単語を習得する。	復習
12	自然	自然にかかわる単語を習得する。	復習
13	テレビ、SNS、インターネット	テレビ、そしてSNSやwebサービスにかかわる単語を習得する。	復習
14	流行語	流行語、若者言葉、頻繁に使われる略語の1部を紹介する。	復習
15	まとめ	単語習得状況の確認およびまとめ(到達度テスト)	復習

関連科目	インドネシア語科目すべて
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の小テストおよび毎日のホームワーク(25%) 授業での発表(25%) 単語習得到達度テストと11月17日に実施されるボキャブラリーコンテスト(50%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
----------	---

学生へのメッセージ	インドネシア語は印象的で親しみやすく、学びやすい言語です。そこでついマスターした気持ちになってしまいがちですが、インドネシア語の運用能力の向上にあたっては語彙の増強が欠かせません。日頃から単語の暗記を心がけましょう。また間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。日々の地道な学習と努力は、自分では想像できなかった大きな成果を必ずもたらします。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	1. 徹底した復習を毎日おこなうこと。 2. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。
----	---



科目名	インドネシアトピックス	科目名(英文)	Indonesian Topics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語およびインドネシアの知識を深めるためにインドネシアの新聞や雑誌等から、マンガ、美術、芸術、芸能にかんする記事を抜粋し、精読する。インドネシア語運用能力だけでなく、インドネシアにかんする知識をいっそう増やすことも目的である。
到達目標	1. インドネシアの歴史・社会・文化・生活習慣・政治などにかんする語彙をいっそう増やすこと。 2. インドネシアにかんする知識をいっそう増やすこと。
授業方法と留意点	1. 毎回テーマに即したインドネシア語の記事を精読する。事前にプリントを配布するので、新出単語などは必ず予習をしておくこと。 2. 随時、小レポートを課す。
科目学習の効果(資格)	1. より実践的、実用的なインドネシア語の表現が身につく。 2. インドネシアのポピュラー・カルチャーや近代史、社会問題にかんする知識が得られる。 3. インドネシア語技能検定に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	今後の授業の進め方や留意点、評価基準について説明する。	配布したインドネシア語資料を読んでおくこと。
2	マンガ ①	1. Raden Ahmad Kosasih の短い評伝を読む。 2. 内容の把握、語彙、文法について説明する。	1. 新出語彙を調べる。 2. 授業内容の復習。
3	マンガ ②	1. Raden Ahmad Kosasih の短い評伝を読む。 2. Raden Ahmad Kosasih の作品に触れる。	1. アメリカの有名なコミックにどのようなものがあるか調べておくこと(予習)。 2. 授業内容の復習。
4	伝統音楽・伝統芸能	インドネシアでパフォーマンスされている、各地の伝統音楽や伝統芸能にかんする記事を読む。	1. 新出語彙を調べる。 2. 授業内容の復習。
5	マンガとワヤン、二次創作、インディーズ系マンガ	ワヤンで描いた二次創作、およびその作者にかんする記事を読む。	1. 新出語彙を調べる。 2. 授業内容の復習。
6	1. 復習テスト 2. マンガと宗教	1. これまでに学んだことの理解度を確認するためのテスト。 2. マンガと宗教のかかわりに関する記事を読む。	1. 授業内容の復習。 2. 新出語彙を調べる。
7	武術 ①	インドネシアの武術にかんする記事を読む。	1. 新出語彙を調べる。 2. 授業内容の復習。
8	武術 ②	1. インドネシアの武術にかんする記事を読む。 2. 内容の把握、語彙、文法について説明する。	1. 新出語彙を調べる。 2. 授業内容の復習。
9	武術と伝統芸能	1. Sunda 地方の Jaipongan にかんする記事を読む。	1. 新出語彙を調べる。 2. 授業内容の復習。
10	1. 復習テスト 2. アート、美術 ①	1. これまでに学んだことの理解度を確認するためのテスト。 2. 美術家 Sindoesoedarsono Soedjojono にかんする記事を読む。	1. 授業内容の復習。 2. 新出語彙を調べる。
11	アート、美術 ②	1. 美術家 Sindoesoedarsono Soedjojono にかんする記事を読む。 2. 内容の把握、語彙、文法について説明する。	新出語彙を調べる。
12	アート、美術 ③	1. 美術家 Sindoesoedarsono Soedjojono が画家 Affandi について書いた短いエッセイを読む。 2. 内容の把握、語彙、文法について説明する。	授業内容を復習すること。
13	アート、美術 ④	1. 美術家 Sindoesoedarsono Soedjojono が画家 Affandi について書いた短いエッセイを読む。 2. 内容の把握、語彙、文法について説明する。	新出語彙を調べる。
14	アート、美術 ⑤	1. Yogyakarta を本拠地とするアート集団 Taring Padi に関する記事を読む。 2. 内容の把握、語彙、文法について説明する。	授業内容を復習すること。
15	1. 総まとめ試験 2. 陥りやすいミスと癖の克服	1. 授業全体のまとめおよび確認テスト 2. 陥りやすいミスと癖をみつけて克服する。	1. これまでの総復習を行っておくこと。 2. 疑問点、質問を準備しておくこと。

関連科目 インドネシア語科目および東南アジア関係の講義科目すべて。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	平常点、確認テスト、小テストなどによる総合評価。		
学生への メッセージ	この授業ではジャワ島が中心となりがちですが、この授業で得た新たな視点は、今後、他の地域を知る際にも活かすことができます。		
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）		
備考	1. 事前に調べる等、じゅうぶんな予習をおこなうこと。 2. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。		

科目名	エアラインビジネス論	科目名(英文)	Airline Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	<p>社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種との役割や協力体制について講義することを通し、航空企業での業務実態を説明する。</p> <p>※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つです。</p>
到達目標	<p>航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。</p>
授業方法と留意点	<p>主にパワーポイントを使用しての授業となる。 教科書は特に指定しないが、よく授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記載することも可。 受講に当たっては、日ごろから航空業界に関する報道(新聞、TVニュース等)に関心を払う事。</p>
科目学習の効果(資格)	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する(特に公的資格取得には直接繋がらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和まで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠なOPEN SKY政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	我が国の航空自由化	45・47体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	ハブ&スポーク(自由化の産物)	格安航空の対極にあるネットワークキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社を実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足(CS)を満たすには、まず従業員満足(ES)を満たす必要がある。CSとESの重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多義に亘る。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく機内サービスの努力と工夫について解	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

			説する。																	
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度入学生）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数字で見る航空（2015）</td> <td>国土交通省航空局</td> <td>航空振興財団</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エアラインオペレーション入門</td> <td>ANA総合研究所</td> <td>ぎょうせい</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の空を問う</td> <td>伊藤元重他</td> <td>日本経済新聞社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数字で見る航空（2015）	国土交通省航空局	航空振興財団	2	エアラインオペレーション入門	ANA総合研究所	ぎょうせい	3	日本の空を問う	伊藤元重他	日本経済新聞社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	数字で見る航空（2015）	国土交通省航空局	航空振興財団																	
2	エアラインオペレーション入門	ANA総合研究所	ぎょうせい																	
3	日本の空を問う	伊藤元重他	日本経済新聞社																	
評価方法 （基準）	最低10回以上の出席を成績評価の条件とする。 定期試験、レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分り易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。																			
担当者の 研究室等	7号館4階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）																			
備考																				

科目名	エアラインビジネス論 I	科目名 (英文)	Airline Industry I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	<p>社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種との役割や協力体制について講義することを通し、航空企業での業務実態を説明する。</p> <p>※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つです。</p>
到達目標	<p>航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。</p>
授業方法と留意点	<p>主にパワーポイントを使用しての授業となる。 教科書は特に指定しないが、よく授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記載することも可。 受講に当たっては、日ごろから航空業界に関する報道（新聞、TVニュース等）に関心を払う事。</p>
科目学習の効果（資格）	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がらない）。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和まで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	我が国の航空自由化	45・47 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	ハブ&スポーク(自由化の産物)	格安航空の対極にあるネットワークキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社を実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足(CS)を満たすには、まず従業員満足(ES)を満たす必要がある。CS と ES の重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多義に亘る。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく機内サービスの努力と工夫について解	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

			説する。																	
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度入学生）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数字で見る航空（2015）</td> <td>国土交通省航空局</td> <td>航空振興財団</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エアラインオペレーション入門</td> <td>ANA総合研究所</td> <td>ぎょうせい</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の空を問う</td> <td>伊藤元重他</td> <td>日本経済新聞社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数字で見る航空（2015）	国土交通省航空局	航空振興財団	2	エアラインオペレーション入門	ANA総合研究所	ぎょうせい	3	日本の空を問う	伊藤元重他	日本経済新聞社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	数字で見る航空（2015）	国土交通省航空局	航空振興財団																	
2	エアラインオペレーション入門	ANA総合研究所	ぎょうせい																	
3	日本の空を問う	伊藤元重他	日本経済新聞社																	
評価方法 (基準)	最低10回以上の出席を成績評価の条件とする。 定期試験、レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分かり易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。																			
担当者の 研究室等 備考	7号館4階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）																			

科目名	エアラインビジネス論Ⅱ	科目名(英文)	Airline Industry II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	航空会社の経営がどのような経緯をたどり、どのような課題と展望を抱えているのかを解説する。 また、収益を改善するための努力や社会貢献など航空会社の経営をととし、広く一般企業の経営活動や社会的責任について理解する。
到達目標	航空事業の経営環境や社会的貢献などを学ぶことにより、航空業界に働くための知識や感性を修得することを目標とする。また、航空会社の経営をととして、戦略的思考やマーケティング的発想について身につける。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 教科書は特に指定しないが、よく授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については都度受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記入することも可。 受講に当たっては、日ごろから航空業界に関する報道(新聞、TVニュース等)に関心を払う事。
科目学習の効果(資格)	航空業界が抱える課題や将来展望を学習することにより、将来の進路選択の判断材料に資する(特に公的資格取得には直接繋がらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	航空の歴史	飛行機の歴史は即ち航空の歴史、戦後の航空技術の発展、空の大衆化までを説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	我が国の航空の歴史	戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政から規制緩和まで、民間航空の歴史について説明を行う。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	航空の自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響をおよぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠なOPEN SKY政策について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	我が国の航空自由化	45・47体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化合意の意味などについて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在最も航空業界で注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	羽田自由化と関西3空港	自由化に伴い、国際線の新たなハブとなる羽田空港、伊丹空港と関西空港の統合など、現状と将来への課題について説明を行う。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	ハブ&スポーク(自由化の副産物)	格安航空の対極にあるネットワークキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットを分り易く解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義について、成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット、デメリットについて分り易く解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	収入を増やす努力(顧客管理)	顧客を囲い込む絶対条件となったマイレージプログラム、航空会社の利益向上への貢献度やユーザーとして得する情報等も含めて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	収入を増やす努力(運賃設定)	何故、同じ区間、同じ日に搭乗するのに違う運賃が存在するのか。運賃設定の自由化に伴い、今、航空会社が実施している料金政策について解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	支出を減らす努力	航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるかを、原油価格のヘッジや重量の軽減化など航空会社の費用削減策等について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	国際航空物流	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目されている国際物流について基本的な航空貨物の仕組みや航空貨物代理店の仕事の紹介等、分り易く説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	企業の社会的責任	企業の社会的責任とは何か、企業の社会貢献などについて具体例を挙げて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
15	航空会社と顧客、従業員	企業ブランドとは? 顧客満足とは? 顧客満足を満たすためには、まず従業員満足を満たす必要がある。ESとCSの重要性について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

関連科目	ツーリズム論Ⅰ、Ⅱ エアラインビジネス論Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数字でみる航空2015	国土交通省航空局監修	航空振興財団
	2	航空産業入門	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
	3	あなたが創る顧客満足	佐藤知恭	日経ビジネス人文庫
評価方法 (基準)	最低10回以上の出席を成績評価の条件とする。 定期試験、レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。			
学生への メッセージ	日々変動する航空産業を実務者の視点から分かり易く解説します。航空関連産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。また、そうでない方々にとっても社会インフラの一つである航空産業の状況が学べ、興味深い授業だと思います。			
担当者の 研究室等	7号館4階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)			
備考	エアラインビジネス論Iとの直接の関連はありませんので、必ずしもエアラインビジネス論Iを受講している必要はありません。			



科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	サウロ・セガミダニエル・ダニエル

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。まずショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプターで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーション。そうして、原語である日本語とスペイン語字幕、スペイン語音声との間の差を検討することで、日本語→スペイン語へのヒントを把握し、会話や作文に役立てられるようにしたい。また、おりにふれて別の映画も利用する。
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。
授業方法と留意点	スペイン語の映画を用いる。取り扱う映画は検討中なので、授業開始時に発表する。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	—————
2	Actividades con películas (1)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
3	Actividades con películas (1)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
4	Actividades con películas (2)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
5	Actividades con películas (2)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
6	Actividades con películas (3)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
7	Actividades con películas (3)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
8	Actividades con películas (4)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
9	Actividades con películas (4)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
10	Actividades con películas (5)	単語テスト。	単語の暗記
11	Actividades con películas (5)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
12	Actividades con películas (6)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
13	Actividades con películas (6)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
14	Actividades con películas (7)	単語テスト。ヒアリング、ディクテーション、和訳	単語の暗記
15	Actividades con películas (7)	総復習および聞き取り確認テスト	単語の暗記

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回のディクテーション
-----------	-------------

学生へのメッセージ	集中力を養うのには最適
-----------	-------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	----------------------------

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	映画を利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、提出物および確認テストの成績に基づいて評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	----------------------------

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR 2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サウビド セガミ タニエル ダン

授業概要・目的	映画を利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業での発表、提出物および確認テストの成績に基づいて評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	----------------------------

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マツダイラ キーメル

授業概要・目的	映画を利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での発表、提出物および確認テストの成績に基づいて評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書は必携 事前・事後に各 60 分の学修を要する
----	------------------------------

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	映画を利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、提出物および確認テストの成績に基づいて評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	----------------------------

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サウロ・セガミダニエル・ダニエル

授業概要・目的	映画を利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、提出物および確認テストの成績に基づいて評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	----------------------------

科目名	映画のスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Spanish through the Movies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的  
 スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。

到達目標  
 スペイン語のヒアリング力を高める。

授業方法と留意点  
 スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌』を用いる。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	—————	—————

関連科目  
 スペイン語と関連のあるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
 毎回のディクテーション

学生へのメッセージ  
 事前・事後学修に各1時間を要する。

担当者の研究室等  
 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	映画のスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Spanish through the Movies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン

授業概要・目的  
 スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。

到達目標  
 スペイン語のヒアリング力を高める。

授業方法と留意点  
 スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌』を用いる。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
15	まとめ	—————	—————

関連科目  
 スペイン語と関連のあるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
 毎回のディクテーション

学生へのメッセージ  
 事前・事後学修に各1時間を要する。

担当者の研究室等  
 7号館2階(非常勤講師室)

備考



科目名	映画のスペイン語IV	科目名(英文)	Spanish through the Movies IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン

授業概要・目的  
 スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。

到達目標  
 スペイン語のヒアリング力を高める。

授業方法と留意点  
 スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌』を用いる。

科目学習の効果(資格)  
 .

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Repaso del argumento	Escena 6 までの復習	授業内容を復習する。
	2	Escena 7	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	3	Escena 7	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	4	Escena 8	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	5	Escena 8	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	6	Escena 9	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	7	Escena 9	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	8	Escena 10	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	9	Escena 10	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	10	Escena 11	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	11	Escena 11	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	12	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	13	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	14	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	15	まとめ	_____	_____

関連科目  
 スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)  
 毎回のディクテーション

学生へのメッセージ  
 . 事前・事後学修に各1時間を要する。

担当者の研究室等  
 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	映画のスペイン語Ⅳ	科目名(英文)	Spanish through the Movies Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的  
 スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。

到達目標  
 スペイン語のヒアリング力を高める。

授業方法と留意点  
 スペインの映画監督ホセ・ルイス・クエルダ作品『蝶の舌』を用いる。

科目学習の効果(資格)  
 .

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Repaso del argumento	Escena 6 までの復習	授業内容を復習する。
	2	Escena 7	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	3	Escena 7	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	4	Escena 8	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	5	Escena 8	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	6	Escena 9	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	7	Escena 9	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	8	Escena 10	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	9	Escena 10	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	10	Escena 11	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	11	Escena 11	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	12	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	13	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	14	Escena 12	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	15	まとめ	_____	_____

関連科目  
 スペイン語と関連のあるすべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)  
 毎回のディクテーション

学生へのメッセージ  
 .

担当者の研究室等  
 7号館2階(非常勤講師室)

備考  
 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	英語意味論・語用論	科目名(英文)	English Semantics and Pragmatics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的  
本授業では、英語と日本語を比較しながら、ことばの意味、語彙、文法などのメカニズムについて学びます。英日言語を対照することで、英語だけでなく、日本語についても新たな発見があるはずです。

到達目標  
英語と日本語の特徴的な差異について、具体的な事例を用いながら、説明することができるようになる。

授業方法と留意点  
授業は講義形式で行われるが、受け身の姿勢にならず、積極的に参加すること。

科目学習の効果(資格)  
教職員免許

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。	予習
2	言語と語	「ことば」の多義性について学ぶ。	復習・予習
3	語義と指示物	語形と語義について学ぶ。	復習・予習
4	文構造と語彙構造	単語間の意味的關係について学ぶ。	復習・予習
5	類義語と反意語	同義語の定義や反意語について学ぶ。	復習・予習
6	同音語と多義語	同音語と多義語のまぎらわしさについて学ぶ。	復習・予習
7	文法と語法	動詞と構文の關係について学ぶ。	復習・予習
8	コンテキスト	文とテキスト、談話について学ぶ。	復習・予習
9	テキスト成立の基準	テキスト成立の基準と原則について学ぶ。	復習・予習
10	意味の変化	単語を巡る日英言語の変化について学ぶ。	復習・予習
11	意味変化の分類	類似性や近接性に基づいた意味変化について学ぶ。	復習・予習
12	メタファーとメトニミー	語義の類似性や近接性について学ぶ。	復習・予習
13	言語の普遍性	自然な表現・不自然な表現について学ぶ。	復習・予習
14	英日間の表現の差異	英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現について学ぶ。	復習・予習
15	総まとめ	総まとめのテストを行う。	総復習

関連科目  
スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
平常点(10%)  
まとめのテスト(90%)

学生へのメッセージ  
新しいことを知る楽しさを知って下さい。

担当者の研究室等  
7号館5階(後藤研究室)

備考  
配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数を15時間程度とする。

科目名	英語学 I	科目名 (英文)	English Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	英語学概論では、主に文法の誤用に焦点を当てながら、合わせて英語学周辺領域を学ぶ。文法を中心に英語の歴史や単語の歴史、文法理論などを学習するだけでなく、女性言葉・男性言葉の違いや日英比較などについても学習する。英語は単に受験のためだけでなく、長い歴史をつむいできた生きた人間の使う生き物であることを理解する。
到達目標	授業の到達目標及びテーマ 1. 文法は生きた人間が使う生きたものであることを認識する。 2. 英語のレジスターや男言葉・女言葉がどのようなものであるかを知る。 3. 日英比較と通じて、それぞれの言語に共通するものがあることを認識する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。目的意識をもって内容の理解に努めること。また、教員免許のための認定科目としても指定されている。よってレベルの高い文法事項を勉強するので、要求されたことには真摯に取り組むこと。毎回の小テストで平均 60% ない学生には単位を与えない。また欠席は 2 回までとする。これは病欠も含む。欠席した場合は、指定された時間帯に追試を受けにくること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許と関連する科目である。TOEIC 対策にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	英語学について: 文法とは何か	授業の概要と進め方について・学習にあたっての留意事項 リンガフランカとしての英語を概観する。	
2	英語の歴史	英語の歴史に関して概略を知る。	教科書 p. 1~p. 6 (1h)
3	名詞の誤り (1) 語形成	英語の名詞の性質について学習する 小テスト	教科書 p. 7~p. 12 (1h)
4	名詞の誤り (2) (不) 加算名詞と (Un) boundedness という考え方	名詞について学習する 小テスト	教科書 p. 13~p. 18 (1h)
5	冠詞の誤り	冠詞について学習する 小テスト	教科書 p. 19~p. 24 (1h)
6	動詞の誤り (1) 構文とは何か	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p. 25~p. 30 (1h)
7	動詞の誤り (2) 意味と動詞の構文の関係	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p. 31~p. 36 (1h)
8	時制の誤り 日英比較	日・英時制のずれ 小テスト	教科書 p. 37~p. 42 (1h)
9	英語の語順	英語の語順の規則を学習する 小テスト	復習 (2h)
10	準動詞の誤り	準動詞について学ぶ 小テスト	教科書 p. 43~p. 48 (1h)
11	英語の意味	語や文の意味について考える。 小テスト	教科書 p. 49~p. 54 (1h)
12	形容詞の誤り (1) different from/to にみられる性別における言葉使いの違い	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p. 55~p. 60 (1h)
13	形容詞の誤り (2) 形容詞の構文と意味	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p. 61~p. 66 (1h)
14	前置詞と接続詞の誤り	前置詞と接続詞に関して学習する 小テスト	総復習 (1h)
15	まとめ: 人間が使用する言語としての英語	まとめを行う 小テスト	総復習 (1h)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Common Errors in English Writing 6th edition</td> <td>木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャ</td> <td>ネリーズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Common Errors in English Writing 6th edition	木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャ	ネリーズ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Common Errors in English Writing 6th edition	木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャ	ネリーズ														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	課題+小テスト+確認テストの成績を合わせて評価するものとする。
学生へのメッセージ	こつこつやりさえすれば英語はものにできます。学習の習慣をつけてください。No pain, no gain.
担当者の研究室等	7号館 4階(家口研究室)
備考	小テストを遅刻・欠席に理由で受けなかった場合は、次回の授業までに必ず追試を受けにくること。 この授業を履修しなくても、英語意味論・語用論(英語学 II)、英語構造論(英語学 III)は履修可能である。 授業の事前・事後の学習時間は 15 時間程度とする。

科目名	英語学Ⅱ	科目名(英文)	English Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的  
 本授業では、英語と日本語を比較しながら、ことばの意味、語彙、文法などのメカニズムについて学びます。英日言語を対照することで、英語だけでなく、日本語についても新たな発見があるはずです。

到達目標  
 英語と日本語の特徴的な差異について、具体的な事例を用いながら、説明することができるようになる。

授業方法と留意点  
 授業は講義形式で行われるが、受け身の姿勢にならず、積極的に参加すること。

科目学習の効果(資格)  
 教職員免許

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。	予習
2	言語と語	「ことば」の多義性について学ぶ。	復習・予習
3	語義と指示物	語形と語義について学ぶ。	復習・予習
4	文構造と語彙構造	単語間の意味的關係について学ぶ。	復習・予習
5	類義語と反意語	同義語の定義や反意語について学ぶ。	復習・予習
6	同音語と多義語	同音語と多義語のまぎらわしさについて学ぶ。	復習・予習
7	文法と語法	動詞と構文の關係について学ぶ。	復習・予習
8	コンテキスト	文とテキスト、談話について学ぶ。	復習・予習
9	テキスト成立の基準	テキスト成立の基準と原則について学ぶ。	復習・予習
10	意味の変化	単語を巡る日英言語の変化について学ぶ。	復習・予習
11	意味変化の分類	類似性や近接性に基づいた意味変化について学ぶ。	復習・予習
12	メタファーとメトニミー	語義の類似性や近接性について学ぶ。	復習・予習
13	言語の普遍性	自然な表現・不自然な表現について学ぶ。	復習・予習
14	英日間の表現の差異	英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現について学ぶ。	復習・予習
15	総まとめ	総まとめのテストを行う。	総復習

関連科目  
 スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
 平常点(10%)  
 まとめテスト(90%)

学生へのメッセージ  
 新しいことを知る楽しさを知って下さい。

担当者の研究室等  
 7号館5階(後藤研究室)

備考  
 配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数を15時間程度とする。

科目名	英語学Ⅲ	科目名(英文)	English Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	日本人が英語を見るときには、日本語との相違点にばかり目がいきがちである。日英語の相違点を見つけるのは容易だが、詳細に見てみると両言語には同じ人間言語であるがゆえの共通点も数多く存在する。本講義は、英語と日本語を比較分析することで両言語の相違点と共通点を理解し、それによって今よりも1段上のレベルから英語をとらえられるようになることを目標とする。
到達目標	1. 英語を英語学・言語学の視点で観察できるようになる。 2. 日本語の意味や構造を意識できるようになる。 3. 英語と日本語を比較し、相違点と共通点が見出せるようになる。
授業方法と留意点	講義内容の理解を深められるようにプリントを配布する。講義形式で進めるが、疑問・質問の時間を適宜取り、受講生との対話も組み入れたい。  1. 本講義は受講生として言語(特に、構造や意味)に興味がある学生を想定している。英語学Ⅰや英語学Ⅱを履修済みであることが望ましい。 2. 授業用プリントは順次配布するので可能な範囲で予習を行うこと(例文の意味を調べたり、関連する文法事項の復習したりする)。プリントはファイルにして既習のものでも授業中に参照できるようにすること。 3. 積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること(ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい)。

科目学習の効果(資格)	言語の構造・意味の理解, 3年次以降のゼミ, 教職や大学院進学
-------------	---------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 英語学入門①	授業の進め方と注意事項 ことばのあいまい性	プリントの復習
	2	英語学入門②	道具表現と場所表現の日英比較	プリントの復習と次回の予習
	3	英語学入門③	移動表現の日英比較	プリントの復習と次回の予習
	4	実例で比べる英語と日本語 ①	英語と日本語の発想の違い	プリントの復習と次回の予習
	5	実例で比べる英語と日本語 ②	ジブリアニメによる実証	プリントの復習と次回の予習
	6	結果構文①	結果構文と日本語の対応表現	プリントの復習と次回の予習
	7	結果構文②	結果構文の意味的特徴	プリントの復習と次回の予習
	8	結果構文③	非対格性の仮説	プリントの復習と次回の予習
	9	統語分析入門	統語構造の表記法	プリントの復習と次回の予習
	10	have 構文①	存在を表す have と経験を表す have の関連性	プリントの復習と次回の予習
	11	have 構文②	have 構文の概念構造	プリントの復習と次回の予習
	12	have 構文③	統語構造と意味の対応	プリントの復習と次回の予習
	13	中間構文①	中間構文の意味的特徴	プリントの復習と次回の予習
	14	中間構文②	中間構文の成立条件	プリントの復習と次回の予習
	15	まとめ	総復習	プリントの復習と次回の予習

関連科目	英語学Ⅰ、英語学Ⅱ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配付		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD
	2	コンサイス英文法辞典	安井稔	三省堂
	3	現代英文法講義	安藤貞雄	開拓社

評価方法(基準)	【定期試験を実施】 評価の対象 定期試験, 授業態度 試験の頻度 学期の最後 評価に対する重み 定期試験 (90%), 平常点 (10%)
----------	--

学生へのメッセージ	英語を理解のレベルを日本語の理解を含めた「言語の理解」にまで高めてみましょう。そうすれば、日英語の相違点や共通点が見えてきます。それと同時に、これまで意識にのぼりにくかった日本語の理解も深まるでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	田中(秀)研究室(7号館4階) ※スケジュール・アワーは木曜5時限です。
----------	--------------------------------------

備考	1. 英語の分析には英英辞典が不可欠である(電子辞書に入っていない人には参考書欄の英英辞典を推奨する)。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 2. 欠席は授業に出席しなかった場合(公欠・忌引き・病欠を含む)のすべてを対象とする(ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。 4. 配付したプリントはフォルダにして毎回持参すること。欠席等でプリントを受け取られなかったときは、事前に田中研究室のプリント・ボックスから必要なプリントを入手し、ほかの受講者から内容を聞くなどして自分の責任で補完して授業に臨むこと。 5. 配布資料の読み込みなどを含めて、事前事後学習にかかる総時間を15時間程度とする。
----	---

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	英語学概論では、主に文法の誤用に焦点を当てながら、合わせて英語学周辺領域を学ぶ。文法を中心に英語の歴史や単語の歴史、文法理論などを学習するだけでなく、女性言葉・男性言葉の違いや日英比較などについても学習する。英語は単に受験のためでなく、長い歴史をつむいできた生きた人間の使う生き物であることを理解する。
到達目標	授業の到達目標及びテーマ 1. 文法は生きた人間が使う生きたものであることを認識する。 2. 英語のレジスターや男言葉・女言葉がどのようなものであるかを知る。 3. 日英比較と通じて、それぞれの言語に共通するものがあることを認識する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。目的意識をもって内容の理解に努めること。また、教員免許のための認定科目としても指定されている。よってレベルの高い文法事項を勉強するので、要求されたことには真摯に取り組むこと。毎回の小テストで平均60%ない学生には単位を与えない。また欠席は2回までとする。これは病欠も含む。欠席した場合は、指定された時間帯に追試を受けにくること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許と関連する科目である。TOEIC 対策にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	英語学について: 文法とは何か	授業の概要と進め方について・学習にあたっての留意事項 リンガフランカとしての英語を概観する。	
2	英語の歴史	英語の歴史に関して概略を知る。	教科書 p. 1~p. 6 (1h)
3	名詞の誤り (1) 語形成	英語の名詞の性質について学習する 小テスト	教科書 p. 7~p. 12 (1h)
4	名詞の誤り (2) (不) 加算名詞と (Un) boundedness という考え方	名詞について学習する 小テスト	教科書 p. 13~p. 18 (1h)
5	冠詞の誤り	冠詞について学習する 小テスト	教科書 p. 19~p. 24 (1h)
6	動詞の誤り (1) 構文とは何か	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p. 25~p. 30 (1h)
7	動詞の誤り (2) 意味と動詞の構文の関係	頻繁に使う動詞について学習する 小テスト	教科書 p. 31~p. 36 (1h)
8	時制の誤り 日英比較	日・英時制のずれ 小テスト	教科書 p. 37~p. 42 (1h)
9	英語の語順	英語の語順の規則を学習する 小テスト	復習 (2h)
10	準動詞の誤り	準動詞について学ぶ 小テスト	教科書 p. 43~p. 48 (1h)
11	英語の意味	語や文の意味について考える。 小テスト	教科書 p. 49~p. 54 (1h)
12	形容詞の誤り (1) different from/to にみられる性別における言葉使いの違い	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p. 55~p. 60 (1h)
13	形容詞の誤り (2) 形容詞の構文と意味	形容詞について学習する 小テスト	教科書 p. 61~p. 66 (1h)
14	前置詞と接続詞の誤り	前置詞と接続詞に関して学習する 小テスト	総復習 (1h)
15	まとめ: 人間が使用する言語としての英語	まとめを行う 小テスト	総復習 (1h)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Common Errors in English Writing 6th edition</td> <td>木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャ</td> <td>ネリーズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Common Errors in English Writing 6th edition	木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャ	ネリーズ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Common Errors in English Writing 6th edition	木塚 晴夫 ノースリッジ ロジャ	ネリーズ														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	課題+小テスト+確認テストの成績を合わせて評価するものとする。
学生へのメッセージ	こつこつやりさえすれば英語はものにできます。学習の習慣をつけてください。No pain, no gain.
担当者の研究室等	7号館 4階(家口研究室)
備考	小テストを遅刻・欠席に理由で受けなかった場合は、次回の授業までに必ず追試を受けにくること。 この授業を履修しなくても、英語意味論・語用論(英語学 II)、英語構造論(英語学 III)は履修可能である。 授業の事前・事後の学習時間は15時間程度とする。

科目名	英語圏概論 (北米・ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	本授業では、視聴覚資料を用いながら、北米（アメリカ・カナダ）文化について幅広く学ぶことが目的である。																																																																		
到達目標	大衆文化に焦点を当てて、北米（アメリカ・カナダ）文化への理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに応じて、原作や映像を用いながら、授業を進める。</li> <li>・グループ・プレゼンテーションをしてもらう。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員</li> <li>・異文化理解</li> <li>・教養</li> </ul>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アメリカ</td> <td>アメリカに関する基本的知識</td> <td>アメリカの基本的情報を収集する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アメリカの舞台芸術</td> <td>ミュージカルの歴史</td> <td>ミュージカルについて調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アメリカの映画</td> <td>ハリウッド映画</td> <td>ハリウッド映画について調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アメリカのテーマ・パーク</td> <td>ディズニー・ランド</td> <td>ディズニー・ランドについて調べる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アメリカのアニメ</td> <td>ディズニー・アニメと原作の比較（1）</td> <td>ディズニー・アニメと原作について調べる（1）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アメリカのアニメ</td> <td>ディズニー・アニメと原作の比較（2）</td> <td>ディズニー・アニメと原作について調べる（2）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>カナダ</td> <td>カナダに関する基本的知識</td> <td>カナダの基本的情報を収集する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>カナダの先住民</td> <td>先住民の文化</td> <td>先住民の文化について調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>カナダの文学</td> <td>『赤毛のアン』</td> <td>『赤毛のアン』について調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>カナダの舞台芸術（演劇）</td> <td>カナダにおけるシェイクスピア</td> <td>カナダにおけるシェイクスピアについて調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>カナダの舞台芸術（サーカス）</td> <td>シルク・ドゥ・ソレイユ</td> <td>シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>カナダの映画と音楽</td> <td>『タイタニック』とセリーヌ・ディオン</td> <td>『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>アメリカとカナダの祝祭日</td> <td>ハロウィーンやクリスマスなど</td> <td>ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>確認テストと解説</td> <td>前期の授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する	2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する	3	アメリカの舞台芸術	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる	4	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる	5	アメリカのテーマ・パーク	ディズニー・ランド	ディズニー・ランドについて調べる	6	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較（1）	ディズニー・アニメと原作について調べる（1）	7	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較（2）	ディズニー・アニメと原作について調べる（2）	8	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する	9	カナダの先住民	先住民の文化	先住民の文化について調べる	10	カナダの文学	『赤毛のアン』	『赤毛のアン』について調べる	11	カナダの舞台芸術（演劇）	カナダにおけるシェイクスピア	カナダにおけるシェイクスピアについて調べる	12	カナダの舞台芸術（サーカス）	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる	13	カナダの映画と音楽	『タイタニック』とセリーヌ・ディオン	『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる	14	アメリカとカナダの祝祭日	ハロウィーンやクリスマスなど	ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる	15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する																																																																
2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する																																																																
3	アメリカの舞台芸術	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる																																																																
4	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる																																																																
5	アメリカのテーマ・パーク	ディズニー・ランド	ディズニー・ランドについて調べる																																																																
6	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較（1）	ディズニー・アニメと原作について調べる（1）																																																																
7	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較（2）	ディズニー・アニメと原作について調べる（2）																																																																
8	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する																																																																
9	カナダの先住民	先住民の文化	先住民の文化について調べる																																																																
10	カナダの文学	『赤毛のアン』	『赤毛のアン』について調べる																																																																
11	カナダの舞台芸術（演劇）	カナダにおけるシェイクスピア	カナダにおけるシェイクスピアについて調べる																																																																
12	カナダの舞台芸術（サーカス）	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる																																																																
13	カナダの映画と音楽	『タイタニック』とセリーヌ・ディオン	『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる																																																																
14	アメリカとカナダの祝祭日	ハロウィーンやクリスマスなど	ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる																																																																
15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する																																																																
関連科目	国際関係論、アメリカ文化論など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（授業態度、課題への取り組み） 20%</li> <li>・グループ・プレゼンテーション 40%</li> <li>・確認テスト 40%</li> </ul>																																																																		
学生へのメッセージ	アメリカやカナダの文化を学ぶことで、異文化への理解を深めましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする																																																																		



科目名	英語圏概論 (北米・ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	This is an introduction to the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with presenting in front of a large audience
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, N検.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	History of the United States	Lecture and discussion on important historical events in America's history	Quiz
3	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz
4	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz
5	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz
6	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz
7	Test 1	Take a test on the contents of weeks 1-6	Review the notes for weeks 1-6
8	Government and Politics	Lecture and discussion on the American political system	Quiz
9	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiracial society	Quiz
10	Education in America	Lecture and discussion on the education system in America	Quiz
11	The American Family	Lecture and discussion on the role of family in American society	Quiz
12	Test 2	Take a test on the contents of weeks 8-11	Review the notes for weeks 8-11
13	Group Presentation Preparation	Work with a group to write a presentation to be given in front of the class	.Practice for your presentation
14	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation
15	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Test 1: 35% Test 2: 35% Group Presentation: 30%
-----------	---

学生へのメッセージ  
Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes. Your success in this class will depend on your note taking skills.

担当者の研究室等  
7号館3F

備考  
授業の事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ15時間である。

科目名	英語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	本授業では、視聴覚資料を用いながら、北米（アメリカ・カナダ）文化について幅広く学ぶことが目的である。																																																																		
到達目標	大衆文化に焦点を当てて、北米（アメリカ・カナダ）文化への理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに応じて、原作や映像を用いながら、授業を進める。</li> <li>・グループ・プレゼンテーションをしてもらう。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員</li> <li>・異文化理解</li> <li>・教養</li> </ul>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アメリカ</td> <td>アメリカに関する基本的知識</td> <td>アメリカの基本的情報を収集する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アメリカの舞台芸術</td> <td>ミュージカルの歴史</td> <td>ミュージカルについて調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アメリカの映画</td> <td>ハリウッド映画</td> <td>ハリウッド映画について調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>アメリカのテーマ・パーク</td> <td>ディズニー・ランド</td> <td>ディズニー・ランドについて調べる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アメリカのアニメ</td> <td>ディズニー・アニメと原作の比較(1)</td> <td>ディズニー・アニメと原作について調べる(1)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アメリカのアニメ</td> <td>ディズニー・アニメと原作の比較(2)</td> <td>ディズニー・アニメと原作について調べる(2)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>カナダ</td> <td>カナダに関する基本的知識</td> <td>カナダの基本的情報を収集する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>カナダの先住民</td> <td>先住民の文化</td> <td>先住民の文化について調べる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>カナダの文学</td> <td>『赤毛のアン』</td> <td>『赤毛のアン』について調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>カナダの舞台芸術(演劇)</td> <td>カナダにおけるシェイクスピア</td> <td>カナダにおけるシェイクスピアについて調べる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>カナダの舞台芸術(サーカス)</td> <td>シルク・ドゥ・ソレイユ</td> <td>シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>カナダの映画と音楽</td> <td>『タイタニック』とセリーヌ・ディオン</td> <td>『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>アメリカとカナダの祝祭日</td> <td>ハロウィーンやクリスマスなど</td> <td>ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>確認テストと解説</td> <td>前期の授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する	2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する	3	アメリカの舞台芸術	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる	4	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる	5	アメリカのテーマ・パーク	ディズニー・ランド	ディズニー・ランドについて調べる	6	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較(1)	ディズニー・アニメと原作について調べる(1)	7	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較(2)	ディズニー・アニメと原作について調べる(2)	8	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する	9	カナダの先住民	先住民の文化	先住民の文化について調べる	10	カナダの文学	『赤毛のアン』	『赤毛のアン』について調べる	11	カナダの舞台芸術(演劇)	カナダにおけるシェイクスピア	カナダにおけるシェイクスピアについて調べる	12	カナダの舞台芸術(サーカス)	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる	13	カナダの映画と音楽	『タイタニック』とセリーヌ・ディオン	『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる	14	アメリカとカナダの祝祭日	ハロウィーンやクリスマスなど	ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる	15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する																																																																
2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する																																																																
3	アメリカの舞台芸術	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる																																																																
4	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる																																																																
5	アメリカのテーマ・パーク	ディズニー・ランド	ディズニー・ランドについて調べる																																																																
6	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較(1)	ディズニー・アニメと原作について調べる(1)																																																																
7	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較(2)	ディズニー・アニメと原作について調べる(2)																																																																
8	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する																																																																
9	カナダの先住民	先住民の文化	先住民の文化について調べる																																																																
10	カナダの文学	『赤毛のアン』	『赤毛のアン』について調べる																																																																
11	カナダの舞台芸術(演劇)	カナダにおけるシェイクスピア	カナダにおけるシェイクスピアについて調べる																																																																
12	カナダの舞台芸術(サーカス)	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる																																																																
13	カナダの映画と音楽	『タイタニック』とセリーヌ・ディオン	『タイタニック』とセリーヌ・ディオンについて調べる																																																																
14	アメリカとカナダの祝祭日	ハロウィーンやクリスマスなど	ハロウィーンやクリスマスなどについて調べる																																																																
15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する																																																																
関連科目	国際関係論、アメリカ文化論など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(授業態度、課題への取り組み) 20%</li> <li>・グループ・プレゼンテーション 40%</li> <li>・確認テスト 40%</li> </ul>																																																																		
学生へのメッセージ	アメリカやカナダの文化を学ぶことで、異文化への理解を深めましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする																																																																		

科目名	英語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	This is an introduction to the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with presenting in front of a large audience
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, N検.

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	History of the United States	Lecture and discussion on important historical events in America's history	Quiz
3	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz
4	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz
5	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz
6	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz
7	Test 1	Take a test on the contents of weeks 1-6	Review the notes for weeks 1-6
8	Government and Politics	Lecture and discussion on the American political system	Quiz
9	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiracial society	Quiz
10	Education in America	Lecture and discussion on the education system in America	Quiz
11	The American Family	Lecture and discussion on the role of family in American society	Quiz
12	Test 2	Take a test on the contents of weeks 8-11	Review the notes for weeks 8-11
13	Group Presentation Preparation	Work with a group to write a presentation to be given in front of the class	.Practice for your presentation
14	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation
15	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	Test 1: 35% Test 2: 35% Group Presentation: 30%
----------	---

学生へのメッセージ	Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes. Your success in this class will depend on your note taking skills.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3F
----------	-------

備考	授業の事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ15時間である。
----	--------------------------------

科目名	英語構造論	科目名(英文)	English Syntax
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	日本人が英語を見るときには、日本語との相違点にばかり目がいきがちである。日英語の相違点を見つけるのは容易だが、詳細に見てみると両言語には同じ人間言語であるがゆえの共通点も数多く存在する。本講義は、英語と日本語を比較分析することで両言語の相違点と共通点を理解し、それによって今よりも1段上のレベルから英語をとらえられるようになることを目標とする。
到達目標	1. 英語を英語学・言語学の視点で観察できるようになる。 2. 日本語の意味や構造を意識できるようになる。 3. 英語と日本語を比較し、相違点と共通点が見出せるようになる。
授業方法と留意点	講義内容の理解を深められるようにプリントを配布する。講義形式で進めるが、疑問・質問の時間を適宜取り、受講生との対話も組み入れたい。  1. 本講義は受講生として言語(特に、構造や意味)に興味がある学生を想定している。英語学Ⅰや英語学Ⅱを履修済みであることが望ましい。 2. 授業用プリントは順次配布するので可能な範囲で予習を行うこと(例文の意味を調べたり、関連する文法事項の復習したりする)。プリントはファイルにして既習のものでも授業中に参照できるようにすること。 3. 積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること(ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい)。

科目学習の効果(資格)	言語の構造・意味の理解, 3年次以降のゼミ, 教職や大学院進学
-------------	---------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 英語学入門①	授業の進め方と注意事項 ことばのあいまい性	プリントの復習
	2	英語学入門②	道具表現と場所表現の日英比較	プリントの復習と次回の予習
	3	英語学入門③	移動表現の日英比較	プリントの復習と次回の予習
	4	実例で比べる英語と日本語 ①	英語と日本語の発想の違い	プリントの復習と次回の予習
	5	実例で比べる英語と日本語 ②	ジブリアニメによる実証	プリントの復習と次回の予習
	6	結果構文①	結果構文と日本語の対応表現	プリントの復習と次回の予習
	7	結果構文②	結果構文の意味的特徴	プリントの復習と次回の予習
	8	結果構文③	非対格性の仮説	プリントの復習と次回の予習
	9	統語分析入門	統語構造の表記法	プリントの復習と次回の予習
	10	have 構文①	存在を表す have と経験を表す have の関連性	プリントの復習と次回の予習
	11	have 構文②	have 構文の概念構造	プリントの復習と次回の予習
	12	have 構文③	統語構造と意味の対応	プリントの復習と次回の予習
	13	中間構文①	中間構文の意味的特徴	プリントの復習と次回の予習
	14	中間構文②	中間構文の成立条件	プリントの復習と次回の予習
	15	まとめ	総復習	プリントの復習と次回の予習

関連科目	英語学Ⅰ、英語学Ⅱ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配付		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD
	2	コンサイス英文法辞典	安井稔	三省堂
	3	現代英文法講義	安藤貞雄	開拓社

評価方法(基準)	【定期試験を実施】 評価の対象 定期試験, 授業態度 試験の頻度 学期の最後 評価に対する重み 定期試験 (90%), 平常点 (10%)
----------	--

学生へのメッセージ	英語を理解のレベルを日本語の理解を含めた「言語の理解」にまで高めてみましょう。そうすれば、日英語の相違点や共通点が見えてきます。それと同時に、これまで意識にのぼりにくかった日本語の理解も深まるでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	田中(秀)研究室(7号館4階) ※スケジュール・アワーは木曜5時限です。
----------	--------------------------------------

備考	1. 英語の分析には英英辞典が不可欠である(電子辞書に入っていない人には参考書欄の英英辞典を推奨する)。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 2. 欠席は授業に出席しなかった場合(公欠・忌引き・病欠を含む)のすべてを対象とする(ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。 4. 配付したプリントはフォルダにして毎回持参すること。欠席等でプリントを受け取られなかったときは、事前に田中研究室のプリント・ボックスから必要なプリントを入手し、ほかの受講者から内容を聞くなどして自分の責任で補完して授業に臨むこと。 5. 配布資料の読み込みなどを含めて、事前事後学習にかかる総時間を15時間程度とする。
----	---

科目名	映像中国語 a	科目名 (英文)	Film Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできることを目指す。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルへの到達を具体的な目標とする。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果(資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中国語知識 (1)	地理・民族・人口	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。
2	第1課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
3	第2課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
4	第3課	声調パタンの反復練習。 練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
5	第4課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
6	第5課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
7	第6課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
8	第7課	形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
9	第8課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
10	第9課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
11	第10課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
12	第11課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
13	第12課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
14	第13課	程度補語の使い方。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
15	第14課	復習	

関連科目 必修中国語科目(週4コマ)を必ず履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 単元ごとに実施する小テストと3つの単元の到達度を測るテストなどをもとに評価する(中国語必修科目との共通テスト)。

学生へのメッセージ 選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各60分の学修を要する。

担当者の研究室等 7号館3階(中西研究室)

備考 教科書は中国語必修科目用のものと共通。

科目名	映像中国語 b	科目名 (英文)	Film Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	11月下旬の中国語検定4級試験受験までに、そのリスニング試験問題で6割以上の正答率を達成することを目標とする。12月以降は4級試験の長文読解問題レベルの文章を教材として、これを正しくディクテーションしたりシャドーイングすることを目指す。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果(資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11月に実施される中国語検定試験4級に合格することを可能とする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	時をかける少女(2/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
3	時をかける少女(3/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
4	時をかける少女(4/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
5	時をかける少女(5/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
6	時をかける少女(6/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
7	時をかける少女(7/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
8	時をかける少女(8/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
9	時をかける少女(9/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
10	時をかける少女(10/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
11	時をかける少女(11, 12/12)	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
12	サマーウォーズ(1/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
13	サマーウォーズ(2/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

	14	サマーウォーズ(3/4) CALL システムを利用した タイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ペースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。																
	15	サマーウォーズ(4/4) 中国語検定 3 級模擬テスト	最新の試験問題を解きながら、6 月に受験する検定への対策を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。																
関連科目	必修中国語科目（週 4 コマ）を必ず履修していること。																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語 I a</td> <td>摂南大学外国語学部</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	単元ごとに実施する小テストと 3 つの単元の到達度を測るテストなどをもとに評価する(中国語必修科目との共通テスト)。																			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。																			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)																			
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。																			

科目名	英米文学	科目名(英文)	English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	「文学は社会を映す」と言われることがある。本講義では、英文学史を概観しながら、特にルネサンス期・ロマン主義時代・19世紀に焦点をあて、アメリカ文学を適宜参照することによって、社会変化と文学との関係について考察を深めることを目的とする。
到達目標	英文学の歴史的流れをつかみ、英米文学・文化についての理解を深めることを目標とする。
授業方法と留意点	授業中に原文を読むことがある。必ず辞書と教科書を持参すること。 授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。
科目学習の効果(資格)	教職課程科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション・イギリス社会と文学	授業方法・成績評価の説明、階級についての概説、イギリス文学についての基礎知識、アメリカ文学との比較	—————
2	ルネサンスまでの文学	中世の英語と文学、ルネサンス期についての基礎知識、アメリカ大陸発見が文学に与えた影響	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
3	シェイクスピア(1)	シェイクスピアの活躍した時代についての概説、シェイクスピアの詩、歴史劇等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
4	シェイクスピア(2)	シェイクスピアの喜劇	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
5	シェイクスピア(3)	四大悲劇等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
6	17世紀の文学	シェイクスピア以外の劇作家、詩の発展等	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
7	18世紀までの文学(1)	小説の誕生・同時代のアメリカにおける文学	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
8	18世紀までの文学(2)	小説ジャンルの発展	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
9	ロマン主義(1)	ロマン主義の詩	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
10	ロマン主義(2)	ロマン主義時代の小説(Jane Austen、ゴシック小説など)	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
11	19世紀の文学(1)	ヴィクトリア朝時代の小説家(1)、アメリカの小説(1)	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
12	19世紀の文学(2)	ヴィクトリア朝時代の小説家(2)、ヴィクトリア朝時代の詩人、アメリカの小説(2)	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
13	19世紀の文学(3)	ヴィクトリア朝時代の小説家(3)、アメリカの小説(3)	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
14	20世紀の文学(1)	20世紀の詩と劇、アイルランドや旧植民地の文学	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること
15	20世紀の文学(2)、21世紀の文学の可能性と授業のまとめ	20世紀の小説(イギリスとアメリカ、21世紀以降の文学とまとめ)	教科書の指定部分を読んでくること・配布資料を復習すること

関連科目	英米文学史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリス文学史入門	川崎寿彦	研究社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業に対する姿勢(私語や携帯使用は大幅に減点します)、レポート等の課題、定期試験で評価。
----------	--

学生へのメッセージ	英米文学の作品を読みたくなる授業を目指しています。実際に英米文学の本を読まなければできない課題を課しますが、何よりもまず、文学の魅力を味わってもらいたいと思っています。主にアメリカ文学を扱う「英米文学史」の授業とあわせて受講することをおすすめします。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(皆本研究室)
----------	--------------

備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を15時間程度とする。
----	--------------------------------------



科目名	エコツーリズム論	科目名(英文)	Ecotourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコツーリズムの意味とその歴史的な発展過程を明らかにする。</li> <li>・海外におけるエコツーリズムの4つの事例を考察する。</li> <li>・日本におけるエコツーリズムの4つの事例を考察する。</li> <li>・エコツーリズムの効果と環境保全との関係を分析する。</li> <li>・グループでエコツアーの企画を行う。</li> </ul> <p>※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つです</p>
到達目標	エコツーリズムの発展過程を理解し、エコツアーの実態を把握する。エコツアーと観光産業との関係を明らかにし、観光関連業界で働くにはどうしたら良いのか、どういう意識を持てば良いのか等就業意識を高める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリントを中心に、エコツアーについて解説する。</li> <li>・ビデオ教材を毎回使用し、具体的な地域像を把握できるように努めたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	観光業や観光産業を学習・理解することによって、将来の職業選択の材料として役立てることが出来る(旅行業務取扱管理者)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション エコツーリズムとは何か	授業方法・到達点の説明。 エコツーリズムの定義。	エコツーリズムの定義をまとめる。
	2	エコツーリズムの歴史	エコツーリズムの歴史を明らかにし、その発展過程を考察する。	エコツーリズムの歴史をまとめる。
	3	海外におけるエコツーリズムの事例①	ガラパゴス諸島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	ガラパゴスにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	4	海外におけるエコツーリズムの事例②	オーストラリアにおけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	オーストラリアにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	5	海外におけるエコツーリズムの事例③	スイスにおけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	スイスにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	6	海外におけるエコツーリズムの事例④	イギリスにおけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	イギリスにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	7	日本におけるエコツーリズムの事例①	小笠原諸島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	小笠原諸島におけるエコツアーの実態をまとめる。
	8	日本におけるエコツーリズムの事例②	屋久島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	屋久島におけるエコツアーの実態をまとめる。
	9	日本におけるエコツーリズムの事例③	北海道知床におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	知床におけるエコツアーの実態をまとめる。
	10	日本におけるエコツーリズムの事例④	沖縄県西表島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	西表島におけるエコツアーの実態をまとめる。
	11	エコツーリズムの効果と環境保全	エコツアーの種類とその例を類型化し、環境保全とどのように関係するか明らかにする。	環境保全の実情をまとめる。
	12	エコツーリズムの企画①	グループで企画を立てるツアー地の選定を行う。	ツアー地を選定する。
	13	エコツーリズムの企画②	エコツアー資料の収集法を解説する。	ツアー資料の収集を行う。
	14	エコツーリズムの企画③	エコツアー実施の方法と企画書の作成を行う。	ツアー企画書を作成する。
	15	エコツーリズムの企画発表	グループに分かれて企画案を発表する。	グループで発表する。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目(～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目(2015年度入学生)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新観光地理学	山村順次	大命堂
	2	エコツーリズム推進法の解説	愛知和男・盛山正仁	ぎょうせい
	3	エコツーリズム	環境省	日本交通公社

評価方法(基準)	小テストの成績、レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリントを中心に教科書を併用して、各国別に解説する。</li> <li>・ビデオ教材を毎回使用し、具体的な東南アジア像を把握できるように努めたい。</li> <li>・事前・事後に各1時間の学修を要する。</li> </ul>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	エリアスタディーズ (アフリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (Africa)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	伊東 未来

授業概要・目的	本講義では、アフリカの歴史や諸社会に暮らす人々の暮らしについて学ぶ。 日本で一般的に触れるアフリカについてのトピック (政治的混乱や貧困や資源開発など) だけでなく、テレビや新聞だけではなかなか知りえない、同時代に生きるアフリカの人々の日常生活 (食、衣服、音楽など) についても理解を深めることを目指す。
到達目標	全講義を通じて、以下の事柄について知り、同時代のアフリカについて自身の関心にひきつけて考える。 ○アフリカの歴史 ○アフリカの地域ごとの地理的・社会的特徴 ○現代アフリカの諸相 (開発援助、政治、経済、文化など) ○日本を含めた世界とアフリカのつながり
授業方法と留意点	講義形式。パワーポイントを板書代わりに用いるので、それを各自ノートにとること。必要に応じて適宜、補助資料プリントを配布する。トピックによっては、ディスカッションやグループ・ワーク等もあるので、受身ではなく能動的に授業参加して欲しい。ノートは原則、筆記具でとること (パソコン等でノート・テイクをする事情がある場合には、初回の講義で個別に要相談)。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	今後の授業内容の概要 イントロダクション 履修者の興味関心の質問	【事前】アフリカについて、今現在じぶんが知っていることは何か、今後何を知りたいのかを考えておくこと。
2	アフリカの歴史	アフリカの歴史についての講義	【事前】アフリカ大陸の面積・人口を予想し、実際に調べ、予想と実際にどれくらいの違いがあったのかメモしておくこと。
3	アフリカの地理	アフリカの地理についての講義	【事前】アフリカの気候について知っていることを調べ、メモしておくこと。
4	アフリカの政治・経済 (1)	アフリカの政治・経済についての講義	【事前】講義前一週間に報道されたアフリカの政治・経済に関するニュースを調べ、その内容を10行程度にまとめておくこと。
5	アフリカの政治・経済 (2)	アフリカの開発援助問題についての講義	【事前】講義前一週間に報道されたアフリカの政治・経済に関するニュースを調べ、その内容を10行程度にまとめておくこと。
6	アフリカの人々 (1)	アフリカの集団と言語の多様性についての講義	【事前】アフリカ大陸で用いられる言語はいくつあるのか調べておくこと。
7	アフリカの人々 (2)	東アフリカに暮らすアフリカの人々の社会や日常生活についての講義	【事前】東アフリカに区分される国家の名前を調べておくこと
8	アフリカの人々 (3)	南部アフリカに暮らすアフリカの人々の社会や日常生活についての講義	【事前】南部アフリカに区分される国家の名前を調べておくこと
9	アフリカの人々 (4)	西アフリカに暮らすアフリカの人々の社会や日常生活についての講義	【事前】西アフリカに区分される国家の名前を調べておくこと
10	アフリカの人々 (5)	北アフリカに暮らすアフリカの人々の社会や日常生活についての講義	【事前】北アフリカに区分される国家の名前を調べておくこと
11	アフリカと世界のかかわり (1)	世界とアフリカの社会・経済的な関係についての講義	【事前】アフリカから一国を選び、その国の最大貿易国を調べておくこと
12	アフリカと世界のかかわり (2)	アフリカの社会・経済的な関係についての講義	【事前】アフリカ出身で世界的に名を知られる人 (政治家・スポーツ選手・芸術家など) を一人選び、その来歴について10行程度にまとめておくこと
13	アフリカと日本のかかわり	アフリカと日本の関係についての講義	【事前】日本在住のアフリカ出身者の概数を調べておくこと。
14	アフリカの豊かさ (1)	これまでの講義をふまえ、アフリカの豊かさや可能性について考える	【事前】これまでの講義を受けて、アフリカに対するイメージや知識がいかに変化したかを、10行程度にまとめておくこと。
15	総合ディスカッション 臨時試験	これまでの講義をふまえて受講者でディスカッションをおこなう。臨時試験を実施する	【事前】これまでの講義を受けて、行ってみたいアフリカの国を挙げ、その国について10行程度にまとめておくこと。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	臨時試験の得点 (60%) と平常点 (事前学習の成果、授業態度などで40%) で評価。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																
備考																	

科目名	エリアスタディーズ (オセアニア)	科目名 (英文)	Area Studies (Oceania)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民、マイノリティ政策、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オセアニアという地域の特徴を把握できる</li> <li>・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業ではグループ活動（授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が求められます</li> <li>・自分の興味のある内容についてプロジェクトを企画し、その内容についての発表とレポート作成が求められます</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	・より発展的なオセアニア地域の研究につながる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明	次回の授業内容についての下調べ
	2	オセアニアという地域	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	3	オセアニアの歴史と今	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	4	オセアニアの歴史と今	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	5	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	6	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	7	オーストラリア英語とニュージーランド英語	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	8	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	9	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	10	オーストラリア、ニュージーランドの先住民について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	11	オーストラリア、ニュージーランドのマイノリティ政策	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	12	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	13	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	14	オセアニアと日本との係わり	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ、発表準備、グループ・プロジェクトの準備
	15	プロジェクト発表会	グループ活動	レポートの準備

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法（基準）	グループ活動（授業内容の下調べ、プレゼンテーション）：20%、グループ・プロジェクトの発表：30%、レポート：50%
学生へのメッセージ	オセアニア、特に、オーストラリアとニュージーランドの魅力について、いっしょに学びましょう！
担当者の研究室等備考	7号館5階 杉浦研究室

科目名	エリアスタディーズ (北アメリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (North America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	アメリカの歴史はヨーロッパ人が入植してから 400 年ほどですが、ダイナミックな変化を経験してきました。この授業では、アメリカという国の社会・文化を、歴史、地理、民族、精神、生活、人間関係、日米関係など、さまざまな視点から考察し理解を深めていきます。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ社会・文化を多角的な視点から理解する。</li> <li>・アメリカという国の理念とその実現の試みを批判的に理解する。</li> <li>・日本人としてアメリカ社会・文化を学ぶ意義を説明できる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	各回のテーマに沿って、統計・写真・地図などの資料を参照しながら、講義を進める。授業内容の理解を促すための小クイズも予定している。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	・アメリカに関する多くの情報のなかから、正しいものを選ぶ力をつける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業内容・方法説明</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>アメリカの歴史1</td><td>植民地時代から独立まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>アメリカの歴史2</td><td>領土拡張、奴隷制、南北戦争</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカの歴史3</td><td>金びか時代から第二次大戦まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>アメリカの歴史4</td><td>戦後のアメリカ、現在まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>アメリカの地理1</td><td>北部・南部</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>アメリカの地理2</td><td>中西部・西部</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>アメリカの民族1</td><td>ヨーロッパ系</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>アメリカの民族2</td><td>アジア系</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>アメリカの民族3</td><td>ラティーノ/ネイティブほか</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>アメリカの精神</td><td>ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>アメリカ人の生活</td><td>衣食住、祝祭</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>人間関係</td><td>子供、家族、LGBT など</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>日米関係</td><td>中浜万次郎から現在まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>確認テストと解説</td><td>前期範囲の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習	2	アメリカの歴史1	植民地時代から独立まで	授業内容の復習	3	アメリカの歴史2	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習	4	アメリカの歴史3	金びか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習	5	アメリカの歴史4	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習	6	アメリカの地理1	北部・南部	授業内容の復習	7	アメリカの地理2	中西部・西部	授業内容の復習	8	アメリカの民族1	ヨーロッパ系	授業内容の復習	9	アメリカの民族2	アジア系	授業内容の復習	10	アメリカの民族3	ラティーノ/ネイティブほか	授業内容の復習	11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習	12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習	13	人間関係	子供、家族、LGBT など	授業内容の復習	14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習	15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習																																																																
2	アメリカの歴史1	植民地時代から独立まで	授業内容の復習																																																																
3	アメリカの歴史2	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習																																																																
4	アメリカの歴史3	金びか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習																																																																
5	アメリカの歴史4	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習																																																																
6	アメリカの地理1	北部・南部	授業内容の復習																																																																
7	アメリカの地理2	中西部・西部	授業内容の復習																																																																
8	アメリカの民族1	ヨーロッパ系	授業内容の復習																																																																
9	アメリカの民族2	アジア系	授業内容の復習																																																																
10	アメリカの民族3	ラティーノ/ネイティブほか	授業内容の復習																																																																
11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習																																																																
12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習																																																																
13	人間関係	子供、家族、LGBT など	授業内容の復習																																																																
14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習																																																																
15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし。統計・写真・地図などの資料を配布/表示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし。統計・写真・地図などの資料を配布/表示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	なし。統計・写真・地図などの資料を配布/表示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点、授業態度、課題への取り組み、小クイズ、レポート、確認テストなどを総合して評価																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館5階 大原関研究室																																																																		
備考	授業スケジュール等に多少の変更の可能性があるため、初回の授業に必ず出席すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																																																																		

科目名	エリアスタディーズ (東南アジア)	科目名 (英文)	Area Studies (Southeast Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの国について、歴史的背景、工業、農業、貿易、交通、人口、都市、村落、観光、宗教、民族等を解説する。</li> <li>現在の観光問題や日系企業の海外進出、現地生産の状況、民族独立問題などについても言及していく。</li> <li>特に、東南アジア各国の首都と世界遺産について詳細に解説する。</li> <li>毎回ビデオ教材を多数使用し、具体的な各国紹介を行う。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジア各国の現況を理解し、日本との関係を把握する。</li> <li>東南アジアの世界遺産と観光について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布プリントを中心に教科書を併用して、各国別に解説する。</li> <li>ビデオ教材を毎回使用し、具体的な東南アジア像を把握できるように努めたい。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	東南アジア各国の現況を把握できる。旅行業界に就職を希望する学生諸君にとっては、地理的知識の修得につながる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	東南アジアの地域区分	自然・人文環境による地域区分、各国の分布	地域区分を整理する
2	メコンデルタの開発とベトナム	ベトナム戦争後の復興とドイモイ政策、エビ養殖の現状、世界遺産と観光	ベトナムの特色をまとめる
3	内陸国ラオス	ラオスの農業と開放政策、熱帯林の伐採問題、世界遺産と観光	ラオスの特色をまとめる
4	クメール文化とカンボジア	内戦の終結と地雷撤去問題、アンコールワットの観光問題、世界遺産と観光	カンボジアの特色をまとめる
5	小乗仏教の国タイ	タイの工業化とエイズ問題、リゾート開発とブーケット、世界遺産と観光	タイの特色をまとめる
6	ヒンズー文化とミャンマー	軍事政権とスーチャーさん問題、首都移転と経済	ミャンマーの特色をまとめる
7	第1回から第6回までのまとめと理解度確認テスト	第1回から第6回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	解答できなかった内容を復習する
8	半島国マレーシアとプランテーション	ルックイースト政策と工業化、ベナン島・ランカウイ島の観光開発、世界遺産と観光	マレーシアの特色をまとめる
9	ビジネスセンターとしてのシンガポール	工業化と観光、シンガポール開発とラッフルズホテル	シンガポールの特色をまとめる
10	集団島嶼群フィリピン	出稼ぎ問題と工業化、日比混血児問題、世界遺産と観光	フィリピンの特色をまとめる
11	石油国家ブルネイ	石油開発と市民生活、観光開発の現状	ブルネイの特色をまとめる
12	回教徒の国インドネシア I	工業開発と東チモール問題、世界遺産と観光	インドネシアの特色をまとめる
13	回教徒の国インドネシア II	バリ島の観光とテロ問題	バリ観光の特色をまとめる
14	第8回から第13回までのまとめと理解度確認テスト	第8回から第13回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	解答できなかった内容を復習する
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	東南アジア地域の特色と地域性	東南アジアの地域性を整理する

関連科目	風土と地理、地域環境論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016・データブック・オブ・ザ・ワールド	二宮健二	二宮書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアの自然	高谷好一	弘文堂
2	東南アジアの自然と土地利用	岩田慶治・他	勁草書房	
3				

評価方法 (基準)	2回の理解度確認テストの成績を中心に、授業参加、講義態度も加味して、総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	板書した内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオの内容もしっかり要約して、メモする習慣をつけてください。事前・事後に各1時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	エリアスタディーズ (日本)	科目名 (英文)	Area Studies (Japan)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは「和食」「名前」といった身近なものです。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果 (資格)	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	和食の歴史 (1)	和食に対するイメージや考えをみなで考え、整理します。	復習
3	和食の歴史 (2)	和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	復習
4	和食の歴史 (3)	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	復習
5	和食の歴史 (4)	現代における和食の実態や問題点について考えます。	復習
6	名前の歴史と文化 (1)	日本における姓名の歴史について考えます。	復習
7	名前の歴史と文化 (2)	日本における家族の歴史と文化について考えます。	復習
8	名前の歴史と文化 (3)	日本における共同体と家について考えます。	復習
9	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (1)	エミシの世界 「日本」の枠組みについて考えます。	復習
10	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (2)	ヤマトの世界 モデルとなった室町時代の村、町場、戦争などについて考えます。	復習
11	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (3)	タタラ場の世界 タタラ製鉄や石火矢について考えます。	復習
12	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (4)	シシガミの世界 日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	復習
13	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (5)	『もののけ姫』世界の構成 4つの世界の関係について考えます。	復習
14	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (6)	『もののけ姫』とは何か？ この映画を通じてどのような事を語れるのか、講義参加者がそれぞれ考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います (持ち込み可)	今までのノートをまとめておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	講義最終日に行う論述試験 (持ち込み可)、講義中に課す小レポート、小テストなどによって評価します。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Webや図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	7号館4階 (赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	エリアスタディーズ (東アジア)	科目名 (英文)	Area Studies (East Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏、北島 由紀子

授業概要・目的	中国と韓国を中心とした東アジアの地域社会・文化の概要を学び、これらの地域への理解を深めます。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回の出席を重視します。
科目学習の効果 (資格)	東アジアへの理解が深まります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中国の現代社会①瀬戸	映画「きれいなお母さん」を鑑賞し、変化する中国社会を理解する。	二〇世紀末から二一世紀初めの中国社会について調べる。
2	中国の現代社会②瀬戸	映画「きれいなお母さん」の背景にある市場経済の浸透、学校教育のあり方について考える。	中国の障害者教育、母子家庭の現状について調べる。
3	中国の現代社会③瀬戸	映画「生きる」を鑑賞し、中華民国期から文化大革命までの中国社会の歩みを理解する。	中華民国から中華人民共和国への社会変化について調べる。
4	中国の現代社会④瀬戸	映画「生きる」の背景にある現代中国人の生き方について考える。	大躍進、文化大革命など中華人民共和国の歴史について調べる。
5	中国の伝統社会①瀬戸	映画「紅夢」を鑑賞し、旧時代の家庭の有り様を理解する。	旧中国の家庭制度、結婚制度について調べる。
6	中国の伝統社会②瀬戸	映画「紅夢」の背景にある封建家庭の構造、そこでの人々の思考について考える。	中国旧家庭の構造について調べる。
7	中国の伝統社会③瀬戸	映画「ヒーロー」を鑑賞し、古代の人々の状況を理解する。	中国古代の歴史について調べる。
8	中国の伝統社会④瀬戸	映画「ヒーロー」の背景にある中国古代社会の構造を考える。	中国古代の社会状況について調べる。
9	まとめ 瀬戸	これまでの授業で理解した中国社会と日本社会を比較し、その共通点と相違点を考える。	これまでの授業に関するレポートを書く。
10	新しい韓国文化①北島	韓流はどのように浸透したのか	近年の韓国文化の流れや日本への影響を知る
11	新しい韓国文化②北島	韓流の変化	韓流の変化を通して、日本における韓国文化について考える
12	古い伝承からみる朝鮮半島①北島	神話に登場する神々	朝鮮半島の説話を知る
13	古い伝承からみる朝鮮半島②北島	古代国家の建国神話	朝鮮半島の古代国家についてより深く知る
14	古い伝承からみる朝鮮半島③北島	昔話・動物説話	昔話にあらわれる文化的特徴をみる
15	伝承からみる日本との関わり 北島	日韓昔話比較の一例	日本との関連性を考える

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	出席およびレポートで評価します。
学生へのメッセージ	いっしょに中国、韓国について勉強しましょう。
担当者の研究室等	7号館3階瀬戸研究室、7号館2階非常勤講師室
備考	授業の進行状況を見て、取り上げる作品などを変更することがあります。事前・事後に各60分の学修を要する。

科目名	エリアスタディーズ (ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Area Studies (Europe)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	20世紀末以来、ヨーロッパは、EUを中心に経済のみならず政治や文化の面でも結びつきを強化してきた。「国民国家の枠をこえ、一つのヨーロッパをつくる」というその目標は達成されたかに見えるが、移民や難民の流入とこれに対する排斥運動、域内の経済格差や失業問題、地域ナショナリズムの高揚など、ヨーロッパ諸国が抱える問題はいずれも深刻なものである。国境をこえ「ヨーロッパ」の再生・創造をめざすEUがわれわれに投げかける問題を、多文化、多民族の共生という観点から考える。
到達目標	EU (European Union)の歩みに関する基本的知識を習得し、現代の「ヨーロッパ」が抱えている問題の本質を理解する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像資料を活用しながら板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果 (資格)	EUの拡大と深化が社会に与えた影響を考察することで、現代の「ヨーロッパ」に対する多面的な理解が可能になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「ヨーロッパ」の境界はどこか	・地理的ヨーロッパ ・言語的ヨーロッパ ・宗教的ヨーロッパ ・民族的ヨーロッパ ・文化的ヨーロッパ	「ヨーロッパ世界」に含まれると思う国々を列挙し、その根拠を示す。
2	EUのあゆみ	EU誕生までの歴史	第二次世界大戦の終了からEU誕生までの歴史を年表化する。
3	EUの成り立ち	・従来の超国家連合との違い ・欧州議会が抱える問題	EUの行政機構とその役割について調べてくる。
4	EUに入らない国・入れない国	・永世中立国スイスとEU ・トルコの加盟問題 ～非ヨーロッパ世界との防波堤～	トルコの加盟問題を、トルコ側、EU側双方から考察する。
5	「ヨーロッパの創造」	・欧州市民権の付与 ・国境をこえるヒト・モノ・カネ	欧州市民権の付与をめぐる問題を授業の内容に即してまとめる。
6	欧州共通教科書をめぐる問題	共通の「神話」? 「記憶」? ～「ヨーロッパ人」はいかにして創られるか～	EU加盟国間で歴史解釈が異なる例の一つ挙げ、「欧州共通教科書」がそれにどう対処したのかじつさいの記述をもとにまとめる。
7	「国境なきヨーロッパ」の虚実	制度上の壁 ～国籍取得と選挙権の付与～	国籍取得法を大きく二つに分類し、それぞれの特性を整理する。
8	「一つのヨーロッパ」が抱える問題	・排外主義の台頭 ～極右勢力とEU～ ・小テストの実施	・これまでの授業内容をふりかえる。 ・極右勢力の台頭に注目しながら、EU加盟国の政治状況を調べてくる。
9	新たな衝突 ～定住移民をめぐる問題①～	・「外国人労働者」という名の定住移民 ～ドイツにおけるトルコ人移民問題～ ・小テストの解説	EU加盟国が抱える移民問題の全体像を調べてくる。
10	新たな衝突 ～定住移民をめぐる問題②～	フランスにおける移民問題 ～移民2世の社会統合をめぐる～	フランスにおける移民問題の特徴 (他の国と違う点) についてまとめる。
11	映画『憎しみ』にみる移民問題	移民社会と暴力	映画の解釈をレポートとしてまとめる。
12	EUと「地域」 ～国家の周辺地域からEUの中心地域へ～	・アルザスの可能性 ・スコットランド独立の「失敗」	スコットランド独立騒動の経緯について調べ、「独立失敗」の原因について考えてくる。
13	国境をこえるさまざまな試み	・EUと脱ナショナル化 ・留学と言語教育の可能性	EUの言語教育、留学制度について調べてくる。
14	ボーダレス社会の到来	広域経済圏・多国籍企業・NGO	国を越えた経済的、政治的、文化的パートナーシップのありかたについて自分の考えをまとめる。
15	まとめ	小テストの実施と解説	これまでの授業内容を復習しておく。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	第15回目に実施する小テスト (80%)、中間テスト (10%)、提出物 (10%) の結果を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	------------------------



科目名	エリアスタディーズ (ラテンアメリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (Latin America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べてより早く植民地支配からの独立を遂げたこの地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築可能性について展望できるようにすることをめざします。同時に、6つのサブ・リージョンに分け、視覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置しているが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しており、親日的な国々と人々のことをもっと知りましょう。なお、ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。
到達目標	広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。
授業方法と留意点	教材と参考文献一覧は授業で配布します。 毎回、質問票を書き提出してもらい、次の授業で解説を行います。
科目学習の効果 (資格)	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ラテンアメリカの地理 (1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
	2	ラテンアメリカの地理 (2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
	3	ラテンアメリカの地理 (3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
	4	ラテンアメリカの歴史 (1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
	5	ラテンアメリカの歴史 (2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	6	ラテンアメリカの歴史 (3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	7	ラテンアメリカの歴史 (4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	8	ラテンアメリカの文化 (1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	9	ラテンアメリカの文化 (2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	10	ラテンアメリカの文化 (3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史の変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	15	総括	達成度確認テスト	総復習

関連科目 1年次前期に「スペイン語圏概論」を履修することを推奨します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	達成度確認テストまたはレポートにより総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
担当者の研究室等	7号館5階 (北條研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	<p>In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.</p> <p>In this course students will study everyday conversational English in a series of different situations. They will create role plays and perform them to gain communicative competence and confidence in using English.</p>																																																																		
到達目標	<p>Students will improve their four skills - speaking through role plays, listening through using English in the class, reading by joining the reading marathon and reading books on a weekly basis, and writing in a language journal.</p> <p>By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.</p>																																																																		
授業方法と留意点	Regular, on-time attendance, a willingness to use English in class, reading outside the class and positive participation are the key to a good grade.																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Orientation and Self-Introduction</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Assessment Activity</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Final Assessment Activity</td> <td></td> <td>...</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	8	Midterm Assessment Activity			9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	15	Final Assessment Activity		...
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Midterm Assessment Activity																																																																		
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Final Assessment Activity		...																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Moving On with English</td> <td>Eric Bray</td> <td>Nan'undo</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Language Note (languagenote.com)</td> <td>Richard McMahon</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Moving On with English	Eric Bray	Nan'undo	2	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Moving On with English	Eric Bray	Nan'undo																																																																
2	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Class participation, role play presentations, enthusiasm to speak English, on-time attendance, homework, vocabulary quizzes and reading on a weekly basis will be graded.																																																																		
学生へのメッセージ	Don't be afraid to make mistakes - mistakes mean you remember for next time!																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																																																																		
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クロー オーエン

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング a・b スピーキング a・b デイバート ab
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard Day	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	40% Attendance; 30% Participation; 30% Test
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書を必ず持参すること。 配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	い
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  Students will gain fluency and confidence in expressing opinions and in English conversation
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Unit 1 Day 1 That's What Friends Are For	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Unit 1 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Unit 2 Day 1 Career Moves	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Unit 2 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit 3 Day 1 Could You Do Me a Favor?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Unit 3 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Midterm Test	Test	...
	9	Unit 4 Day 1 What a Story	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Unit 4 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Unit 5 Day 1 Crossing Cultures	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 5 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 6 Day 1 What's Wrong With It? (Describing problems)	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 6 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Test	Test	...

関連科目	None
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English in Common 2	Maria Vicoria Saumell	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Vocabulary Quizzes 20% Class work 20% Homework 20% Midterm Test 20% Final Test 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	う
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	<p>In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.</p> <p>In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.</p>																																																																		
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Review</td><td>Feedback sessionk</td><td>...</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	15	Review	Feedback sessionk	...
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Review	Feedback sessionk	...																																																																
関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイバート ab																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>SCD Carnival</td><td>Richard Rowat</td><td>Weissman Press</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SCD Carnival	Richard Rowat	Weissman Press	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	SCD Carnival	Richard Rowat	Weissman Press																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Grades are based on participation (50%) and performance (50%).																																																																		
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	If you have any questions, come see me anytime. 事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	え
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	<p>In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.</p> <p>In this course students will study everyday conversational English in a series of different situations. They will create role plays and perform them to gain communicative competence and confidence in using English.</p>																																																																		
到達目標	<p>Students will improve their four skills - speaking through role plays, listening through using English in the class, reading by joining the reading marathon and reading books on a weekly basis, and writing in a language journal.</p> <p>By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.</p>																																																																		
授業方法と留意点	Regular, on-time attendance, a willingness to use English in class, reading outside the class and positive participation are the key to a good grade.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, STEP																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Go over syllabus; Introduce typical activities in the class</td> <td>Prepare materials for note taking</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Theme: Friends</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Textbook Homework</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Theme: Movies and TV Shows</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Article Homework</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Role Play Writing and Performance 1</td> <td>Pair Work and Pair Presentation</td> <td>Prepare Role Play Ideas</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Theme: Free Time</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Textbook Homework</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Theme: Food and Regional Specialties</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Article Homework</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Role Play Writing and Performance 2</td> <td>Pair Work and Pair Presentation</td> <td>Prepare Role Play Ideas</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Theme: The Past</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Textbook Homework</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Theme: Art</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Article Homework</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Role Play Writing and Performance 3</td> <td>Pair Work and Pair Presentation</td> <td>Prepare Role Play Ideas</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Theme: The Family</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Textbook Homework</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Theme: Comics</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Article Homework</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Role Play Writing and Performance 4</td> <td>Pair Work and Pair Presentation</td> <td>Prepare Role Play Ideas</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Theme: Work</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Textbook Homework</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Final Role Play Presentation</td> <td>Pair Presentation</td> <td>Practice your presentation</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Prepare materials for note taking	2	Theme: Friends	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework	3	Theme: Movies and TV Shows	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework	4	Role Play Writing and Performance 1	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas	5	Theme: Free Time	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework	6	Theme: Food and Regional Specialties	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework	7	Role Play Writing and Performance 2	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas	8	Theme: The Past	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework	9	Theme: Art	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework	10	Role Play Writing and Performance 3	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas	11	Theme: The Family	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework	12	Theme: Comics	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework	13	Role Play Writing and Performance 4	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas	14	Theme: Work	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework	15	Final Role Play Presentation	Pair Presentation	Practice your presentation
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Prepare materials for note taking																																																																
2	Theme: Friends	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework																																																																
3	Theme: Movies and TV Shows	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework																																																																
4	Role Play Writing and Performance 1	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas																																																																
5	Theme: Free Time	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework																																																																
6	Theme: Food and Regional Specialties	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework																																																																
7	Role Play Writing and Performance 2	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas																																																																
8	Theme: The Past	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework																																																																
9	Theme: Art	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework																																																																
10	Role Play Writing and Performance 3	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas																																																																
11	Theme: The Family	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework																																																																
12	Theme: Comics	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework																																																																
13	Role Play Writing and Performance 4	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas																																																																
14	Theme: Work	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework																																																																
15	Final Role Play Presentation	Pair Presentation	Practice your presentation																																																																
関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイバート ab																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Communication Strategies 1</td> <td>David Paul</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Communication Strategies 1	David Paul	Cengage Learning	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Communication Strategies 1	David Paul	Cengage Learning																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Participation: 30% Role Plays: 40% Homework: 10% Final Role Play Presentation: 20%																																																																		
学生へのメッセージ	We will be speaking a lot in this class. You will need to share your ideas and opinions on various topics. Be prepared to actively participate, and don't be afraid of mistakes.																																																																		
担当者の研究室等	7号館3F																																																																		
備考	This course will focus on ideas over accuracy, so don't be afraid to express yourself. 事前事後学習の総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。																																																																		

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	お
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス

授業概要・目的	Students will practice talking about their everyday life and asking follow up questions. They will read and listen about a variety of topics and discuss their opinion about these.
到達目標	Students should be able to have a discussion about their everyday life. They should also be able to express opinions and discuss a variety of topics.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation and Self-Introduction	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	2	Cosmetic Surgery	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Cosmetic Surgery	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Friends or Lovers	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Friends or Lovers	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	The Environment	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	The Environment	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Housework	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Housework	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Abortion	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Abortion	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Earning Money	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Earning Money	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Review	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Test	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard Day	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Attendance 40%, Classwork 30%, Test 30%

学生へのメッセージ Please bring a dictionary.

担当者の研究室等 非常勤室

備考

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	か
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking strategies will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Conversation Strategies 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 1
3	Life Experiences 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 2
4	Life Experiences 2	Individual Task, Pair Work or Group Work. Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 3
5	Events 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 4
6	Events 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 5
7	Midterm Assessment Activity	Pair and Group Communication Tasks.	Students should study the content of the day's lesson
8	Conversation Strategies 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Opinions 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 6
10	Opinions 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 7
11	Customs 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 8
12	Customs 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 9
13	Professions and Skills 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 10
14	Professions and Skills 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson
15	Final Assessment	Conversation Assessment Activities	...

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイベート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 3 ISBN 978-0-19-460314-0	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Quizzes	10%
	Mini Presentations	10%
	Classwork	40%
	Midterm Assessment Task	20%
	Final Assessment Task	20%



学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	授業の事前・事後学習はおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	き
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アーサー ロングソン

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback sessionk	・・・

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイベート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on attendance, class participation and small tests.
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	There is no text, but I will make print outs and give assigned reading. 事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	く
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮久保 まゆみ

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイバート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class participation and oral performance tasks 45% Project work 20% Presentations 15% Final speaking assessment 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	- Students are required to review their notes regularly and to complete (submit) all homework (assignments) to the best of their ability by the due date. - Students are expected to speak English only in this class. - Students must not be absent more than one-third of the classes. - More than 30 minutes late is regarded as an absence.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	け
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.  To become a better speaker of English, you must speak up and take part in the activities in every class.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback sessionk	・・・

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイベート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interchange 3 (Forth Edition) Workbook	Jack C. Richards	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades are based on team work projects and student worksheets.
学生へのメッセージ	Please don't hesitate to speak out in class.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	こ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松下 乃亜

授業概要・目的	ロールプレイやテキスト演習の中で、日常会話やビジネスに必要な単語や表現を覚え、それを実際の場面で使えるようにする事を目標にします。様々なシチュエーションの設定でロールプレーをします。 学科の学習・教育到達目標との対応：[A]
到達目標	M科の学習・教育到達目標との対応：[B2]
授業方法と留意点	テキスト演習、ロールプレイ、発表が中心のクラスです。またリスニング力の向上を目指します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	U n i t 1 Japan's Top Three Castles	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
3	U n i t 1 Japan's Top Three Castles	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
4	U n i t 2 Japan's Top Three Festivals	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
5	U n i t 2 Japan's Top Three Festivals	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
6	U n i t 3 Japan's Top Three Mountains	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
7	U n i t 3 Japan's Top Three Mountains	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
8	U n i t 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱 発表のプリント提出
9	U n i t 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
10	U n i t 5 Japan's Top Three Gardens	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
11	U n i t 6 Japan's Top Three Pottery Styles	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
12	U n i t 7 Japan's Top Three Night Views	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
13	Presentation and Discussion	発表とD i s c u s s i o n	発表とD i s c u s s i o nのフィードバック
14	Presentation and Discussion	発表とD i s c u s s i o n	発表とD i s c u s s i o nのフィードバック
15	Listening Day	D i s c u s s i o n	発表のフィードバックの提出

関連科目	英語基礎会話 a
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touring Japan in English	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
2	辞書			
3				

評価方法 (基準)	授業への参加 (毎回の discussion、ロールプレーなど) 30% 課題 30% 発表、発表のプリント、D i s c u s s i o n のリード、他のグループ発表の discussion への参加、フィードバックの提出 40% 欠席は三回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。
-----------	--

学生へのメッセージ	間違っても構わないのでどんどん積極的に話して下さい。それが上達への鍵です。自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて、英語に触れる機会を増やして下さい。楽しみながら学習しましょう。
-----------	---

担当者の	7号館2階 非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。          ニュースでも映画でもいいので英語に触れる機会を毎日30分以上作ること。</p>

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	さ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング a・b スピーキング a・b デイバート ab
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard Day	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	40% Attendance; 30% Participation; 30% Test
-----------	---

学生へのメッセージ	難しいタスクはやりやすく段階にわけて行います。積極的に参加してください。教科書は必ず事前に購入してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書を必ず持参すること。 配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	し
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To increase fluency in spoken English

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング ab, ディベート ab
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and teacher-prepared materials		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	In this class students are graded on regular attendance with active participation, 50%; Speaking performances and short reports 50%.
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	マクガバン研究室 (7号館5階)
----------	------------------

備考	
----	--



科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	再
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	本演習では、伝達手段としての英語を通して、基礎的な運用能力及びコミュニケーション能力の向上を図る。英文からパラグラフまで、英語の構造を理解しながら、様々なタイプの演習を繰り返すことで、正しく読みやすい英語で書くための基本、さらには論理的な思考力を身につける。教科書では、現実的かつ具体的な場面や相手が想定され、その中で実際に用いられるような英文が豊富に含まれている。また、Common Errors として、似たような表現や類義語の使い分けに関する説明や例文が多いのが特長的であり、実際の場面で適切な表現を選択するための訓練にふさわしい内容となっている。
到達目標	Writingにおいて、英語の構造の仕組みを理解し、より英語らしい発想や表現を身につけることで、英作文の基礎となる能力の醸成を目指す。それに関し、最低限必要とされる実用的な語彙の習得も目標とする。
授業方法と留意点	Writingの技能を養うため、日常生活やビジネスで使われる語彙を幅広く学んで、それを繰り返し定着させることで実用的な英語の知識を一層確実なものとする。 授業ではほぼ毎回、小テストを実施するので、必ず前回の授業の復習とテスト対策をすること。また必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	実際の場面で適切な語彙選択ができること。 語彙や文法、Writingの基礎力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
2	Unit 1: For here, or to go?	教科書演習	Unitの予習、及び単語・文法や教科書内容の復習
3	Unit 1: For here, or to go? ②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
4	Unit 2: How many are in your party?	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
5	Unit 2: How many are in your party?②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
6	Unit 3: I'll be right back.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
7	Unit 3: I'll be right back. ②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
8	Exam: Unit 1-3	Unit 1-3の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-3のテスト勉強、及びテスト内容の復習
9	Unit 4: Would you like me to heat this up?	教科書演習	Unitの予習、及び単語・文法や教科書内容の復習
10	Unit 4: Would you like me to heat this up?②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
11	Unit 5: Your total comes to 3,240 yen.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
12	Unit 5: Your total comes to 3,240 yen. ②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
13	Unit 6: I'm truly sorry for the trouble.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
14	Unit 6: I'm truly sorry for the trouble. ②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
15	Exam: Unit 4-6	Unit 4-6の内容についてテストの実施とその解説	Unit 4-6のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	You're Welcome!-Communication with Tourists Made Easy	工藤多恵	センテージ ラーニング
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。授業への参加や貢献、小テスト、まとめのテストなどから総合的に評価を行う。
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近なテーマに関する英文に触れていきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5F
備考	スチューデントアワー：月曜日5時限 授業の事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	<p>In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.</p> <p>In this course students will study everyday conversational English in a series of different situations. They will create role plays and perform them to gain communicative competence and confidence in using English.</p>																																																																		
到達目標	<p>Students will improve their four skills - speaking through role plays, listening through using English in the class, reading by joining the reading marathon and reading books on a weekly basis, and writing in a language journal.</p> <p>By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.</p>																																																																		
授業方法と留意点	Regular, on-time attendance, a willingness to use English in class, reading outside the class and positive participation are the key to a good grade.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, STEP																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>Orientation and Self-Introduction</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Midterm Speaking Assessment</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Exercises</td> <td>Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Final Speaking Assessment</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	8	Midterm Speaking Assessment			9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson	15	Final Speaking Assessment		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Midterm Speaking Assessment																																																																		
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Final Speaking Assessment																																																																		
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Moving On with English</td> <td>Eric Bray</td> <td>Nan'undo</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Language Note (languagenote.com)</td> <td>Richard McMahon</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Moving On with English	Eric Bray	Nan'undo	2	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Moving On with English	Eric Bray	Nan'undo																																																																
2	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Class participation, role play presentations, enthusiasm to speak English, on-time attendance, homework, vocabulary quizzes and reading on a weekly basis will be graded.																																																																		
学生へのメッセージ	Don't be afraid to make mistakes - mistakes mean you remember for next time!																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																																																																		
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クロー オーエン

授業概要・目的	In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	スピーキング a・b スピーキング a・b ディベート ab
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard Day	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	40% Attendance; 30% Participation; 30% Test
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書を必ず持参すること。 配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	い
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  Students will increase confidence and fluency in expressing opinions and conversation in English
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To improve spoken English fluency

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class Orientation	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Unit 7 Day 1 The World We Live In	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Unit 7 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Unit 8 Day 1 Life-long Learning	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Unit 8 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Unit 9 Day 1 Self-improvement	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Unit 9 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Midterm Test	test	...
9	Unit 10 Day1 The Past and The Future	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Unit 10 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Unit 11 Day1 Life's Little Lessons	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Unit 11 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Unit 12 Day 1 The Right Stuff	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Unit 12 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Final Test	Test	...

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English in Common</td> <td>Maria Victoria Saumell</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English in Common	Maria Victoria Saumell	Pearson	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English in Common	Maria Victoria Saumell	Pearson													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	Vocabulary Quizzes 20% Class work 20% Homework 20% Midterm Test 20% Final Test 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	う
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイバート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Carnival	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades are based on participation (50%) and performance (50%).
-----------	--

学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	If you have any questions, come see me anytime. 配布資料の読み込みなど、事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	え
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English.  In this course students will study everyday conversational English in a series of different situations. They will create role plays and perform them to gain communicative competence and confidence in using English in various situations.
到達目標	Students will improve their four skills - speaking through role plays, listening through using English in the class, reading by joining the reading marathon and reading books on a weekly basis, and writing by writing in a class journal.
授業方法と留意点	Regular, on-time attendance, a willingness to use English in class, reading outside the class and positive participation are the key to a good grade.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, STEP

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Prepare materials for note taking
	2	Theme: Beliefs	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework
	3	Theme: Music	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework
	4	Role Play Writing and Performance 1	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas
	5	Theme: The Future	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework
	6	Theme: Sports	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework
	7	Role Play Writing and Performance 2	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas
	8	Theme: Marriage	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework
	9	Theme: Books	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework
	10	Role Play Writing and Performance 3	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas
	11	Theme: The Generation Gap	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework
	12	Theme: Dreams	Individual Task, Pair Work or Group Work	Article Homework
	13	Role Play Writing and Performance 4	Pair Work and Pair Presentation	Prepare Role Play Ideas
	14	Theme: Travel	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook Homework
	15	Final Role Play Presentation	Pair Presentation	Practice your presentation

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b ディベート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Communication Strategies 1	David Paul	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation: 30% Role Plays: 40% Homework: 10% Final Role Play Presentation: 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will be speaking a lot in this class. You will need to share your ideas and opinions on various topics. Be prepared to actively participate, and don't be afraid of mistakes.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3F
----------	-------

備考	This course will focus on ideas over accuracy, so don't be afraid to express yourself. 配布資料の読み込みなど、事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	お
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアース

授業概要・目的	Students will practice talking about their everyday life and asking follow up questions. They will read and listen about a variety of topics and discuss their opinion about these.
到達目標	Students should be able to have a discussion about their everyday life. They should also be able to express opinions and discuss a variety of topics.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Adult Children	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	2	Adult Children	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Dating at work	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Dating at work	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Career Choice	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Career Choice	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Immigration	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Immigration	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Women`s Role	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Women`s Role	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	War	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	War	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Divorce	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Divorce	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Test	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard Day	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Classwork 30%, Test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	非常勤室 7号館2F
----------	------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	か
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー

授業概要・目的	In the class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations. This course is designed to develop basic skills in conversational English. Students will increase confidence and fluency in expressing opinions and conversation in English
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking Strategies will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To improve spoken English fluency

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Class overview	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Conversation Strategies	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 1
3	Recent Activities 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 2
4	Recent Activities 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 3
5	Leisure Time 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 4
6	Leisure Time 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 5
7	Midterm Assessment Task	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Conversation Strategies	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Habits 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 6
10	Habits 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 7
11	Stories 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 8
12	Stories 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson Quiz 9
13	In the News 1	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 10
14	In the News 2	Individual Task, Pair Work or Group Work Mini Presentation	Students should study the content of the day's lesson
15	Final Assessment Task	Test	...

関連科目	None
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 3	ISBN 978-0-19-460314-0	Susan Stempleski
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Quizzes 10% Mini Presentations 10% Class Work 40% Midterm Assessment Task 20% Final Assessment Task 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	---



科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	き
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アーサー ロングス

**授業概要・目的**  
In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.

**到達目標**  
By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.

**授業方法と留意点**  
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

**科目学習の効果 (資格)**  
TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback sessionk	...

**関連科目**  
スピーキング I a・I b  
スピーキング II a・II b デイバート ab

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
Evaluation will be based on attendance, class participation and small tests.

**学生へのメッセージ**

**担当者の研究室等**  
7号館2階(非常勤講師室)

**備考**  
There is no text, but I will make print outs and give assigned reading.  
事前・事後学習にかかる総時間はおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	く
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮久保 まゆみ

授業概要・目的	In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイバート ab
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class participation and oral performance tasks 45% Project work 20% Presentations 15% Final speaking assessment 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	- Students are required to review their notes regularly and to complete (submit) all homework (assignments) to the best of their ability by the due date. - Students are expected to speak English only in this class. - Students must not be absent more than one-third of the classes. - More than 30 minutes late is regarded as an absence.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	け
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.																																																																		
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.  To become a better speaker of English, you must speak up and take part in the activities in every class.																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair Work or Group Work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Review</td><td>Feedback sessionk</td><td>...</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson	15	Review	Feedback sessionk	...
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Review	Feedback sessionk	...																																																																
関連科目	スピーキング I a・I b スピーキング II a・II b デイバート ab																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Interchange 3 (Forth Edition) Workbook</td> <td>Jack C. Richards</td> <td>Cambridge</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Interchange 3 (Forth Edition) Workbook	Jack C. Richards	Cambridge	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Interchange 3 (Forth Edition) Workbook	Jack C. Richards	Cambridge																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Grades are based on team work projects and student worksheets.																																																																		
学生へのメッセージ	Please don't hesitate to speak out in class.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	こ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松下 乃亜

授業概要・目的	ロールプレイやテキスト演習の中で、日常会話やビジネスに必要な単語や表現を覚え、それを実際の場面で使えるようにする事を目標にします。様々なシチュエーションの設定でロールプレーをします。 学科の学習・教育到達目標との対応：[A]
到達目標	M科の学習・教育到達目標との対応：[B2]
授業方法と留意点	テキスト演習、ロールプレイ、発表が中心のクラスです。またリスニング力の向上を目指します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	U n i t 8 Japan's Top Three Famous Foods	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
3	U n i t 8 Japan's Top Three Famous Foods	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
4	U n i t 9 Japan's Top Three Mountains	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文暗唱
5	U n i t 9 Japan's Top Three Mountains	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
6	U n i t 10 Japan's Top Three Scenic Spots	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
7	U n i t 10 Japan's Top Three Scenic Spots	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
8	U n i t 11 Japan's Top Three Waterfalls	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱 発表のプリント提出
9	U n i t 11 Japan's Top Three Waterfalls	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
10	U n i t 12 Japan's Top Three Disappointing Places	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
11	U n i t 13 Japan's Top Three Ekiben	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
12	U n i t 14 Japan's Top Three Udon	例文暗唱 ロールプレー テキスト演習	例文の暗唱
13	Presentation and Discussion	発表とD i s c u s s i o n	発表とD i s c u s s i o nのフィードバック
14	Presentation and Discussion	発表とD i s c u s s i o n	発表とD i s c u s s i o nのフィードバック
15	Listening Day	D i s c u s s i o n	発表のフィードバックの提出

関連科目	英語基礎会話 a
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Touring Japan in English	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
2	辞書			
3				

評価方法 (基準)	授業への参加 (毎回の discussion、ロールプレーなど) 30% 課題 30% 発表、発表のプリント、D i s c u s s i o nのリード、他のグループ発表の discussion への参加、フィードバックの提出 40% 欠席は三回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。
-----------	---

学生へのメッセージ	間違っても構わないのでどんどん積極的に話して下さい。それが上達への鍵です。自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて、英語に触れる機会を増やして下さい。楽しみながら学習しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 ニュースでも映画でもいいので英語に触れる機会を毎日30分以上作ること。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	さ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩

授業概要・目的	In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes.
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To build up your speaking, listening, reading and writing skills in a variety of activities.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	スピーキング a・b スピーキング a・b ディベート ab
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard Day	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	40% Attendance; 30% Participation; 30% Test
-----------	---

学生へのメッセージ	前期に続いての授業となります。練習すればするほど結果もです。ただ出席するだけでなく積極的に参加してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	辞書を必ず持参すること。 配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	し
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ショー ン マクガバン

授業概要・目的	"In this course students will study the various types of English used in social, business, and academic situations. The goal of this course is to gain communicative competence and confidence in using English for various purposes."
到達目標	By the end of this course students should have learned new vocabulary, and be able to use it in conversational situations. As well a number of new speaking techniques will be learned by students, so they will be able to communicate more effectively in real life situations.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	To increase fluency in spoken English

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson (1h)
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	スピーキング ab, ディベート ab
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and teacher-prepared materials		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	In this class students are graded on regular attendance with active participation, 50%; Speaking performances and short reports 50%.
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	マクガバン研究室 (7号館5階)
----------	------------------

備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	再
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	本演習では、伝達手段としての英語を通して、基礎的な運用能力及びコミュニケーション能力の向上を図る。英文からパラグラフまで、英語の構造を理解しながら、様々なタイプの演習を繰り返すことで、正しく読みやすい英語で書くための基本、さらには論理的な思考力を身につける。教科書では、現実的かつ具体的な場面や相手が想定され、その中で実際に用いられるような英文が豊富に含まれている。また、Common Errorsとして、似たような表現や類義語の使い分けに関する説明や例文が多いのが特長的であり、実際の場面で適切な表現を選択するための訓練にふさわしい内容となっている。
到達目標	Writingにおいて、英語の構造の仕組みを理解し、より英語らしい発想や表現を身につけることで、英作文の基礎となる能力の醸成を目指す。それに関し、最低限必要とされる実用的な語彙の習得も目標とする。
授業方法と留意点	Writingの技能を養うため、日常生活やビジネスで使われる語彙を幅広く学んで、それを繰り返し定着させることで実用的な英語の知識を一層確実なものとする。 授業ではほぼ毎回、小テストを実施するので、必ず前回の授業の復習とテスト対策をすること。また必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	実際の場面で適切な語彙選択ができること。 語彙や文法、Writingの基礎力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
2	Unit 7: Do you have a reservation?	教科書演習	Unitの予習、及び単語・文法や教科書内容の復習
3	Unit 7: Do you have a reservation?②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
4	Unit 8: Wi-Fi is available in this area.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
5	Unit 8: Wi-Fi is available in this area.②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
6	Unit 9: I highly recommend Sakura Restaurant.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
7	Unit 9: I highly recommend Sakura Restaurant.②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
8	Exam: Unit 7-9	Unit 7-9の内容についてテストの実施とその解説	Unit 7-9のテスト勉強、及びテスト内容の復習
9	Unit 10: Turn right at the first intersection.	教科書演習	Unitの予習、及び単語・文法や教科書内容の復習
10	Unit 10: Turn right at the first intersection.②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
11	Unit 11: Take the subway to Hommachi.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
12	Unit 11: Take the subway to Hommachi.②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
13	Unit 12: First, put money in the machine.	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
14	Unit 12: First, put money in the machine.②	単語・文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び単語・文法や教科書内容の復習
15	Exam: Unit 10-12	Unit 10-12の内容についてテストの実施とその解説	Unit 10-12のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	You're Welcome!-Communication with Tourists Made Easy	工藤多恵	センゲージ ラーニング
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。授業への参加や貢献、小テスト、まとめのテストなどから総合的に評価を行う。
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近なテーマに関する英文に触れていきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5F
備考	スチューデントアワー：月曜日5時限 授業の事前事後学習の総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	オーラル コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Oral Communication Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スティーブ トマシェフスキー

授業概要・目的	In this course the students will participate in exercises to improve the oral and aural competency of material already familiar to them. In addition advanced communicative tasks using grammar that may be unfamiliar will be introduced. This will be achieved through use of materials and activities that focus on the successful completion of communicative functions. Students will be expected to give oral presentations to small groups, exchange information with single partners, and perform reading and research activities designed to reinforce information dealt with in the class.
到達目標	Students will be able to express their needs smoothly in an English speaking environment.
授業方法と留意点	20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Self introduction, checking information	Wh-questions, statements with be	Students should have prepared a self-portrait photograph 30mm. wide X 35mm. high
2	Asking about someone; exchanging personal information	Yes /no questions, short answers w/ be;	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
3	Describing work & school	Simple present Wh-questions and statements	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
4	Asking for and giving opinions; talking about daily schedules Review Quiz- Short Presentation / Discussion	time expressions; at, in, on, around, until, etc. Short presentation about daily life	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 3 previous lessons before they come to class.
5	Talking about prices; giving opinions, preferences	Demonstratives; This, that, these, etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
6	Comparisons; buying/ selling	Questions; How much, which adjective comparisons	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
7	Review quiz- Short Presentation Likes and dislikes	Simple present Yes / no, Wh questions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
8	Giving opinions, invitations, excuses Review Quiz- Short Presentation / Discussion	Wh questions with do, what kind ; object pronouns; modal verb would Short role-play concerning an invitation and opinions of entertainment	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 3 previous lessons before they come to class.
9	Family information	Present continuous yes /no and Wh-questions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
10	Exchanging information about the present	Wh-questions /statements-short answers;determiners: all, nearly all, most, many, etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
11	Describing routines & exercise	Adverbs of frequency; always, almost, usually, etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
12	Describing frequency of activity, ability Review Quiz- Short Presentation / Discussion	Questions with How: How long, How often, etc. Short discourse concerning personal daily schedules	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 3 previous lessons before they come to class.
13	Discussing past events	Past tense yes / no, Wh-questions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
14	Discussing past experiences	Statements w/ short answers and regular and irregular verbs	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
15	Review Quiz- Short Presentation / Discussion	Asking about and describing locations.Use of There; There is, There are, etc. Short discourse concerning locations and places of interest	Students should review the vocabulary and homework tasks of the 2 previous lessons before they come to class.

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interchange -Full Contact - Fourth Edition	Jack C. Richards	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other



				respected publisher
	2			
	3			
評価方法 (基準)	20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.			
学生への メッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English. I ask that students try to make their best efforts in completing and discussing the tasks assigned in this class. It will also be necessary for students to have access to a computer in which they can upload the Video and other DVD-ROM self-study materials that will be used in this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	オーラル コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Oral Communication IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆

授業概要・目的	「聞く」「話す」力を伸ばすための様々な訓練を行う。 授業では： ① 簡単に短い基本例文を覚える ② 基本例文を組み合わせて複雑な内容を表現できるようになる ことを重点に、さまざまな演習を行っていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号を読めるようになる。</li> <li>複雑な内容を、簡単な表現を組み合わせて表現できるようになる。</li> <li>自分とは異なる他者の話を聞き、自分の考えを深め、それを主張できるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	演習中心の実技科目
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音記号の読み方</li> <li>基本例文の暗唱</li> <li>演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本例文の暗唱</li> <li>応用演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本例文の暗唱</li> <li>応用演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本例文の暗唱</li> <li>応用演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本例文の暗唱</li> <li>応用演習</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>総まとめ</li> </ul>	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	鳥居・松田・ハーキー・後藤	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト、課題、提出物等の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。
-----------	--

学生へのメッセージ	倦まず弛まず楽しみながら、少しづつ力をつけていきましょう。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	オーラル コミュニケーションⅡ b	科目名 (英文)	Oral Communication IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スティーブ トマシェフスキー

授業概要・目的	In this course the students will participate in exercises to improve the oral and aural competency of material already familiar to them. In addition advanced communicative tasks using grammar that may be unfamiliar will be introduced. This will be achieved through use of materials and activities that focus on the successful completion of communicative functions. Students will be expected to give oral presentations to small groups, exchange information with single partners, and perform reading and research activities designed to reinforce information dealt with in the class.
到達目標	Students will be able to express their needs smoothly in an English speaking environment.
授業方法と留意点	20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.
科目学習の効果 (資格)	...

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Describing places	quantities prepositions of place, How-questions countable-uncountable nouns	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	2	Asking about and describing appearance	Questions about physical features What.....look like, how old etc.	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	3	Describing past experiences;	Present perfect yes/no questions, statements	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	4	Exchanging information about past experiences and events. Short discourse & Progress Evaluation	Regular and irregular past participles, already and yet	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 3 lessons before they come to class.
	5	Describing cities, asking/giving suggestions, discussing tourism	Adverbs/ adjectives; conjunctions conjunctions	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	6	Discussing health problems	infinitive complements, modal verbs can, could and may for requests	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	7	Expressing likes / dislikes ordering a meal	So, neither, too, and either; modal verbs would and will for requests	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	8	Describing countries, comparing Short discourse & Progress Evaluation	Comparative and superlative of adjectives	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 3 lessons before they come to class.
	9	Describing countries, expressing opinions	Questions w/ How. How big, How tall discussing distance and measurements	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	10	Short Presentation- A Country Profile	Self Evident	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	11	Discussing plans, invitations, refusals	Future with present continuous and be going to	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	12	Telephone messages Short discourse & Progress Evaluation	messages with tell and ask	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 3 lessons before they come to class.
	13	Exchanging Personal Information	Describing changes with present tense and comparatives	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	14	Future Plans	Discuss hopes and future activities	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous lesson before they come to class.
	15	Short Presentation- Future Hopes Short discourse & Progress Evaluation	Self Evident	Students should review the vocabulary and homework tasks of the previous 2 lessons before they come to class.

関連科目	...
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interchange Full Contact - Fourth Edition	Jack C. Richards	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
	2			

	3			
評価方法 (基準)	Grades will be based on student preparation, in-class performance and short speaking quizzes given periodically during the course.			
学生への メッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English. I ask that students try to make their best efforts in completing and discussing the tasks assigned in this class. It will also be necessary for students to have access to a computer in which they can upload the Video and other DVD-ROM self-study materials that will be used in this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	オーラル コミュニケーションⅡb	科目名(英文)	Oral Communication IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆

授業概要・目的	<p>「聞く」「話す」力を伸ばすための様々な訓練を行う。</p> <p>授業では：                  ① 簡単に短い基本例文を覚える                  ② 基本例文を組み合わせる複雑な内容を表現できるようになる                  ことを重点に、さまざまな演習を行っていく。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な内容を、簡単な表現を組み合わせる表現できるようになる。</li> <li>自分とは異なる他者の話を聞き、自分の考えを深め、それを主張できるようになる。</li> </ul>																																																																		
授業方法と留意点	演習中心の実技科目																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ 授業概要の説明 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ 基本例文の暗唱 ・ 演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ 応用演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ 応用演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ 応用演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ 応用演習</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ 総まとめ</td> <td>個人・ペア・グループワークなど</td> <td>授業内で指示</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ 授業概要の説明 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	2	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	3	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	4	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	5	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	6	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	7	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	8	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	9	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	10	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	11	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	12	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	13	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	14	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示	15	・ 総まとめ	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ 授業概要の説明 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
2	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
3	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
4	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
5	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
6	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
7	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
8	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
9	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
10	・ 基本例文の暗唱 ・ 演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
11	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
12	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
13	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
14	・ 応用演習	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
15	・ 総まとめ	個人・ペア・グループワークなど	授業内で指示																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>暗唱英文100</td> <td>鳥居・松田・ハーキー・後藤</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文100	鳥居・松田・ハーキー・後藤	摂南大学外国語学部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文100	鳥居・松田・ハーキー・後藤	摂南大学外国語学部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト、課題、提出物等の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	倦まず弛まず楽しみながら、少しずつ力をつけていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																																																																		
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	音声学	科目名 (英文)	Phonetics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	主に日本語や英語の音声（発音）を中心に、調音音声学に関する基本的な知識を学びます。また、それに基づいて音声・音韻現象にみられる規則性についても考察していきます。
到達目標	まずは発音記号の習得が基本となります。さらに、音声・音韻に関するデータから規則性を導き出すといった科学的手法を理解することも目標の一つとします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を織り交ぜながら行います。また、必要に応じて音声教材を用います。</li> <li>・（電子）辞書を必ず持参すること。</li> <li>・難易度の高い科目ですので、特に復習に力を入れることをお勧めします。</li> </ul>
科目学習の効果（資格）	語学検定試験のリスニング対策など。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	母音と子音 有声音と無声音	音声学の基礎となる母音と子音、有声音と無声音の違いについて具体例とともに学ぶ。	音声学に関する基本的概念を確認する。
3	母音について (1)	母音の発音記号と、実際の発音の特徴について学ぶ。	扱った母音について具体例とともに確認する。
4	母音について (2)	母音の発音記号と、実際の発音の特徴について学ぶ。	扱った母音について具体例とともに確認する。
5	母音について (3)	母音の発音記号と、実際の発音の特徴について学ぶ。	扱った母音について具体例とともに確認する。
6	子音について (1)	子音の発音記号と、実際の発音の特徴について学ぶ。	扱った子音について具体例とともに確認する。
7	子音について (2)	子音の発音記号と、実際の発音の特徴について学ぶ。	扱った子音について具体例とともに確認する。
8	子音について (3) 音素と異音について	子音の発音記号と、実際の発音の特徴について学ぶ。 音素と異音の違いについて、日英語の例に基づいて考察する。	扱った子音、および音素と異音の違いについて具体例とともに確認する。
9	音連続による変化	音の同化、連結、脱落などを中心に、日英語の例を用いて考察する。	同化、連結、脱落などの音変化について具体例とともに確認する。
10	音節とアクセント (強勢)	音節の構造と、アクセント・強勢について、日英語の例を用いて考察する。	音節とアクセント (強勢) について具体例とともに確認する。
11	英語のアクセント (強勢) と接尾辞	英語のアクセント (強勢) と接尾辞の関係について考察する。	英語のアクセント (強勢) と接尾辞の関係について具体例とともに確認する。
12	音韻論と形態論 (語形成)	英語のアクセント (強勢) を中心に音韻論と形態論 (語形成) の関係について考察する。	品詞や語形成がアクセント・強勢に及ぼす影響について理解する。
13	内容語と機能語 強形と弱形	内容語と機能語の違いに着目するとともに、英語の強形と弱形について考察する。	内容語と機能語、強形と弱形の関係について具体例とともに確認する。
14	リズムとイントネーション	リズムとイントネーションについて日本語や英語の違いに注目しながら考察する。	リズムとイントネーションについて具体例とともに要点を整理する。
15	まとめ	学習した内容の要点を整理するとともに、語学学習のリスニングにどのように活かせるか検証する。	要点の整理 定期試験対策

関連科目	他の語学科目など。
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (100%) の成績によって評価します。
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	難易度の高い科目ですので、まずはしっかりとしたやる気が必要です。知的好奇心を持った学生の受講を期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 4階 (中島研究室)
----------	----------------

備考	事前および事後に1時間以上の学習を要する
----	----------------------

科目名	海外インターンシップ	科目名(英文)	Overseas Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	外国語学部では、次代の国際ビジネスで活躍する人材の育成を目指している。このプログラムでは、将来、語学力を生かして国際ビジネスに携わることを目標とする学生が、海外企業の現場を視察したり、実際に就業体験することによって、ビジネスで実際に使われている言葉遣いを学ぶとともに、そこで働く人たちの現状・意識を正しく認識することを目的としている。同時に、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それらを尊重できる態度を身に付けるとともに、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
到達目標	日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解する。 それらを尊重できる態度を身につける。 自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を身につける。																		
授業方法と留意点	本学内での事前・事後授業と実習先での研修(約2～3週間)による。 事前・事後授業には必ず出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【2015年度実績】</b></p> <p>コース/米国・ロサンゼルス</p> <p>(1) 事前・事後指導 本学内での事前指導を出発前に5回、事後指導を帰国後に1回行う。また、体験報告書の提出を求める。渡航に必要な手続きや研修受入企業とのマッチング、企業訪問上のマナー、実習先の社会・経済事情等の予備知識などを解説する。このほか、安全面を中心とした注意事項(リスクマネジメント)の指導も行う。</p> <p>(2) 現地実習 ・米国・ロサンゼルス(春休み19日間) 北米・ロサンゼルスサウスベイ地区に存在する日系企業・公立小学校・福祉施設等(希望研修先を選択する)での研修プログラム。言葉をはじめ、様々な文化が交わる北米エリアでの海外生活と一般企業・施設での職場体験を通し、社会に必要な職業観と社会性の習得を目指す。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	各コースとも、現地研修先での研修状況および事前・事後授業の参加状況、体験報告書の提出による。 なお、事前・事後授業の出席状況が悪い者、受講態度・マナーの悪い者には、本プログラムへの参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。																		
学生へのメッセージ	将来、海外を生活の拠点に働いてみたいと考えている人も、まだ漠然としかイメージできない人も、国際ビジネスの現場の雰囲気を直に体感してもらいたい。そうすれば、海外で実際に働くうえで、今の自分に何が足りないのかを発見できるし、就職活動を開始するまでに対策を講じることができるだろう。米国コースは2年次春休みに参加するのが望ましい。																		
担当者の研究室等																			
備考	今年度の詳細は説明会で説明します。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外語学実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。</li> <li>・事前指導には必ず出席すること。</li> </ul> ※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬）の実施となる予定。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。  (2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。  <b>【実習先と実習時期（予定）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスバーク校]）（8月中旬～9月初旬）</li> <li>・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）</li> <li>・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬）</li> <li>・インドネシア・マレー語コース（マレーシア国民大学）（8月中旬～9月初旬）</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントなどを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントなどを配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントなどを配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	※主言語と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語のコースに参加する場合は文化科目として認定する。 ・事前授業の出席、現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F																		
備考	(1) 英語圏のコースは参加者が多く団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 (2) 参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。																		



科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外語学実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。</li> <li>・事前指導には必ず出席すること。</li> </ul> ※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬）の実施となる予定。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 (2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 <b>【実習先と実習時期（予定）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスパーバー校]）（8月中旬～9月初旬）</li> <li>・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）</li> <li>・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬）</li> <li>・インドネシア・マレー語コース（マレーシア国民大学）（8月中旬～9月初旬）</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントなどを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントなどを配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントなどを配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	※主言語と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語のコースに参加する場合は文化科目として認定する。 ・事前授業の出席、現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F																		
備考	(1) 英語圏のコースは参加者が多く団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 (2) 参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外語学実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。</li> <li>・事前指導には必ず出席すること。</li> </ul> ※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬）の実施となる予定。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 (2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 <b>【実習先と実習時期（予定）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスパーバー校]）（8月中旬～9月初旬）</li> <li>・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）</li> <li>・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬）</li> <li>・インドネシア・マレー語コース（マレーシア国民大学）（8月中旬～9月初旬）</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントなどを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントなどを配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントなどを配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	※主言語と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語のコースに参加する場合は文化科目として認定する。 ・事前授業の出席、現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F																		
備考	(1) 英語圏のコースは参加者が多く団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 (2) 参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外語学実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。</li> <li>・事前指導には必ず出席すること。</li> </ul> ※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬）の実施となる予定。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。  (2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。  <b>【実習先と実習時期（予定）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスパーバー校]）（8月中旬～9月初旬）</li> <li>・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）</li> <li>・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬）</li> <li>・インドネシア・マレー語コース（マレーシア国民大学）（8月中旬～9月初旬）</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントなどを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントなどを配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントなどを配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	※主言語と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語のコースに参加する場合は文化科目として認定する。 ・事前授業の出席、現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F																		
備考	(1) 英語圏のコースは参加者が多く団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 (2) 参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外語学実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。</li> <li>・事前指導には必ず出席すること。</li> </ul> ※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬）の実施となる予定。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。 (2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 <b>【実習先と実習時期（予定）】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスパーバー校]）（8月中旬～9月初旬）</li> <li>・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）</li> <li>・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬）</li> <li>・インドネシア・マレー語コース（マレーシア国民大学）（8月中旬～9月初旬）</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントなどを配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントなどを配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントなどを配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	※主言語と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語のコースに参加する場合は文化科目として認定する。 ・事前授業の出席、現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F																		
備考	(1) 英語圏のコースは参加者が多く団体行動に特に規律を求められることから、申請時に書類審査・面接を行い、志望動機や一般常識が著しく欠如している者には参加を認めない。 (2) 参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	北米圏に留学する学生のための留学準備クラスです。願書の書き方やビザの申請といった様々な手続きや、海外留学に向けての心構えや注意点を理解して、留学の準備を行います。																		
到達目標	願書提出やビザの取得を行う。 留学に必要な知識や技術の獲得に努める。 安全で有意義な留学にするための心構えやリスクマネジメントについて理解する。																		
授業方法と留意点	毎回の授業で手続き申請や作業を行うことが多くなるので、欠席をしないこと。この授業の単位を未修得のものは、留学が許可されないので注意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) 留学準備の重要性について 各校担当教員（留学委員）への挨拶メール 日本語メールの基本的な書き方指導 英語で自己紹介（日本の授業における自己紹介でなく、海外で自己紹介する場面を想定）</p> <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas counties/Exchange rates) クレジット・カードの注意点 外国為替・為替レートについて</p> <p>3～4. 入学手続など・各種提出書類 (How to fill in English application forms) 入学書類の書き込み方を示す見本を参照しながら作成</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an e-mail in English) 英文メールの構成 ホームステイ先と海外大学担当者宛てに英文メールを作成</p> <p>8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 関連書籍を参考に、空港や機内、ホストファミリーとの顔合わせ、ホストファミリーとのトラブル、病院、危機的状況等の場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9. 研修先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表</p> <p>10. 研修先事情(2)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表</p> <p>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ・英語での口頭発表 ・自分について（家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など）：モノや写真を用いて説明 ・日本社会・文化について：モノや写真を用いて説明 土産選びのポイント</p> <p>12. 留学先で受ける可能性のあるテストについて (On TOEFL and IELTS) 英語の様々なテストの種類について解説</p> <p>13. 安全対策 (Measures of safety) リスクマネジメントについて・保険会社からの説明 レポート提出</p> <p>14. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいことなどについて英語で口頭発表</p> <p>15. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Question and Answer : Talk with returnees)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリントを使用する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリントを使用する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	プリントを使用する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名												
番号	書籍名	著者名	出版社名																

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のクラスワーク、宿題、提出物などを総合的に判断して評価する。			
学生への メッセージ	欠席が目立つ学生は留学を許可しないなど、厳しい処置をとる。必ず出席し、毎回の授業中の作業を着実にこなすこと。授業内容を理解してそれをきちんと実行に移すことが望まれる。			
担当者の 研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室			
備考				

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	留学の諸手続きをはじめ、留学に必要な言語・文化・社会などの基本的な知識について学ぶ。実用英語の技能を高めるとともに、文化的違いや国際社会への関心を深めることを目的とする。																
到達目標	留学するのにふさわしい姿勢を身につける。																
授業方法と留意点	留学手続きに必要な書類などを教材にしながら、講義と演習を織り交ぜながら行う。正当な理由なく欠席する場合には留学許可を取り消すので注意すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction)</li> <li>2. 研修先の一般情報：アメリカ・カナダ・イギリス・ニュージーランド・オーストラリア (General information about your destinations)</li> <li>3. 入学手続など・各種提出書類(1) (How to fill in English application forms 1)</li> <li>4. 入学手続など・各種提出書類(2) (How to fill in English application forms 2)</li> <li>5. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas counties/Exchange rates)</li> <li>6. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</li> <li>7. 安全対策 (Measures of safety)</li> <li>8. 研修先事情(1)：社会・習慣 (Social customs in different countries/Etiquette and good manner)</li> <li>9. 研修先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure)</li> <li>10. 現地での人的交流 (How to communicate cross-culturally)</li> <li>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture)</li> <li>12. 情報通信機器：スカイプ、Eメール、インターネット、携帯電話の活用法 (Communication tools)</li> <li>13. 学習の成果と留学先での目標についてプレゼンテーション(1) (Paper presentation 1)</li> <li>14. 学習の成果と留学先での目標についてプレゼンテーション(2) (Paper presentation 2)</li> <li>15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure)</li> </ol>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点 100%																
学生へのメッセージ	留学は準備が大切です。																
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室																
備考																	

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	北米（アメリカ・カナダ）留学に必要な準備をすることが目的である。																		
到達目標	・現地での学習及び生活を円滑に行えるようになる。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15回の授業への参加を必須とする。</li> <li>・留学手続きを行う。</li> <li>・留学先で役立つ表現等を学ぶ。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認</li> <li>2. 留学先の一般情報</li> <li>3. 経費・送金・換金方法</li> <li>4～5. 入学手続など・各種提出書類</li> <li>6. 出入国・渡航手続き</li> <li>7. 英文メールの書き方</li> <li>8. サバイバル・イングリッシュ</li> <li>9. 留学先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇</li> <li>10. 留学先事情(2)：医療・衣食・交通・余暇</li> <li>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方</li> <li>12. 情報通信機器の活用法</li> <li>13. 安全対策</li> <li>14. 最終確認と総括</li> <li>15. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	事前授業の出席や受講態度、さらに課題への取り組みなどを総合的に評価。																		
学生へのメッセージ	実り多い留学生活を送るための準備をしましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																		
備考																			



科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。実りの多い留学にするよう、海外生活を送るうえで知っておくべきことを把握し、現地の人々と意思疎通を図るコミュニケーション能力を少しでも育成しておきます。また、渡航までのスケジュールの確認や大学提出書類の作成など、留学のための準備を万全に整えます。																
到達目標	自信をもって留学に臨めるようになる。																
授業方法と留意点	主体的に授業に参加すること。些細なことでも、きちんとメモを取ること。遅刻や欠席をしないこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) 留学準備の重要性について 各校担当教員（留学委員）への挨拶メール 日本語メールの基本的な書き方指導 英語で自己紹介（日本の授業における自己紹介でなく、海外で自己紹介する場面を想定）</p> <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas counties/Exchange rates) クレジット・カードの注意点 外国為替・為替レートについて</p> <p>3～4. 入学手続など・各種提出書類 (How to fill in English application forms) 入学書類の書き込み方を示す見本を参照しながら作成</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an e-mail in English) 英文メールの構成 ホームステイ先と海外大学担当者宛てに英文メールを作成</p> <p>8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 関連書籍を参考に、空港や機内、ホストファミリーとの顔合わせ、ホストファミリーとのトラブル、病院、危機的状況等の場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9. 研修先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表</p> <p>10. 研修先事情(2)：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表</p> <p>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ・英語での口頭発表 ・自分について（家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など）：モノや写真を用いて説明 ・日本社会・文化について：モノや写真を用いて説明 土産選びのポイント</p> <p>12. 留学先で受ける可能性のあるテストについて (On TOEFL and IELTS) 英語の様々なテストの種類について解説</p> <p>13. 安全対策 (Measures of safety) 浅野先生によるビデオを用いた解説・保険会社からの説明 レポート提出</p> <p>14. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみようことなどについて英語で口頭発表</p> <p>15. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Question and Answer : Talk with returnees)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	受講態度や課題を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	海外留学にトラブルは付きものですが、この授業を受けることでそのリスクを軽減することができます。充実した留学生活を送れるように、真剣に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	7号館5F 後藤研究室			
備考				

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	To prepare students for study overseas, giving them the opportunity to learn how to apply for an overseas program, obtain a visa, request a plane ticket, understand the responsibilities of going to another country, get to know what problems to expect, give them coping strategies, and help them to have the underlying language to deal with the issues that may arise, and the confidence to seek people out to ask for help.																
到達目標	Students should upon completion of the course, be ready to leave for their overseas experience with knowledge to help them enjoy their experience safely.																
授業方法と留意点	100% attendance is required. Students must attend EVERY class in order to be able to go overseas. This is necessary to allow enough time to prepare applications, visas, airplane travel, and the knowledge of what to expect.																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) 留学準備の重要性について 担当教員(留学委員)への挨拶メール 日本語メールの基本的な書き方指導 英語で自己紹介(日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定)</p> <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates)</p> <p>3~4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms)</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an e-mail in English) 英文メールの構成 海外大学担当者あてに英文メールを作成</p> <p>7. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9~10. 研修先事情(1):医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) 学生による下調べ、口頭発表 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 ・自分について(家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など):物や写真を用いて説明 ・日本社会・文化について:物や写真を用いて説明</p> <p>12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees) 留学先で受ける可能性のあるテストについて (On TOEFL nad IELTS) 英語の様々なテストの種類についての解説</p> <p>13. 安全対策 (Measures of safety) 近畿日本ツーリストによるビデオを用いた解説・保険会社からの説明 レポート提出</p> <p>14~15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいことなどについて英語で口頭発表)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	Students will receive permission to go overseas once they have passed this preparatory course. Passing the class is based on on-time attendance at the class, 100% participation in doing everything that is necessary to prepare for their overseas departure, quickly, and efficiently, at-home assignments, and a presentation. This will be a steep learning curve before leaving, and students should approach everything with a positive attitude.																
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室																
備考																	

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	<p>海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。</p>																
到達目標	万全な留学準備を整える。																
授業方法と留意点	メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。</p> <p>2回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。</p> <p>3回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出(日本円)、支払上の注意事項。</p> <p>4回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。</p> <p>5回目：日中文化の相違について。</p> <p>6回目：留学先の歴史と最近の情勢について。</p> <p>7回目：留学先での生活上知っておくべきこと。</p> <p>8回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。</p> <p>9回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。</p> <p>10回目：安全対策(外務省の事例集)</p> <p>11回目：医療関連の用語の中国語指導。</p> <p>12回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。</p> <p>13回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。</p> <p>14回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。</p> <p>15回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	受講態度による。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																
備考																	

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	オセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）留学に向けて、学生個々人の留学目的やプランニングを明確にし、充実した留学生活が送れるように導く。また、この授業では、グループ活動を通じて、オセアニアの文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深めたり、海外生活に必要な英語についても学んでいく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 留学アクション・プランを策定すること</li> <li>・ 海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ること</li> <li>・ 渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ること</li> <li>・ 渡航先で出会う人々に日本の文化について英語で説明するための基礎的な表現力を修得する</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業では、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 留学目的・プランニングについて考える</li> <li>3. 留学の手続きについて、英文メールの書き方</li> <li>4. オーストラリア・ニュージーランドの文化</li> <li>5. 留学先の大学について</li> <li>6. 現地での生活について①</li> <li>7. 現地での生活について②</li> <li>8. サバイバル英語</li> <li>9. 英語で自分や日本について紹介する①</li> <li>10. 英語で自分や日本について紹介する②</li> <li>11. TOEFL、IELTS などについて</li> <li>12. 危機管理について①</li> <li>13. 危機管理について②</li> <li>14. 異文化適応について</li> <li>15. 留学アクション・プランの発表</li> </ol> <p>授業方法：講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）</p> <p>事前、事後学習課題：次の回の授業内容について、グループで下調べをし、発表の準備をする。また、15回目の留学アクション・プランの発表に向けて、下調べや発表の準備をする</p>																		
関連科目	エアスタディーズ（オセアニア）																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）、留学アクション・プランの内容等を総合して評価する																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコースの説明、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。																		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き）</li> <li>・生活習慣や守るべきマナーについて</li> <li>・留学先事情（グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について）</li> <li>・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介</li> <li>・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係</li> <li>・留学帰国者を招いての質疑応答</li> <li>・日本の社会・文化についての知識と伝え方</li> <li>・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現</li> <li>・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等）</li> </ul> <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、授業に積極的に取り組めたかどうかによって評価し、留学許可を失うこともある。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学およびアリカンテ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコースの説明、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。																		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き）</li> <li>・生活習慣や守るべきマナーについて</li> <li>・留学先事情（サラゴサ／アリカンテの歴史・地理、両大学について）</li> <li>・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介</li> <li>・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係</li> <li>・留学帰国者を招いての質疑応答</li> <li>・日本の社会・文化についての知識と伝え方</li> <li>・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現</li> <li>・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等）</li> </ul> <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、授業に積極的に取り組めたかどうかによって評価し、留学許可を失うこともある。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	<p>海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけていくことを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。</p>																
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。</p> <p>第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。          第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。          第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。          第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。          第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。          第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。          第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。          第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。          第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。          第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。          第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。          第12回目：危機管理ガイダンスを行う。          第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。          第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。          第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。</p>																
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目すべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	積極的な学習姿勢により判断する。																
学生へのメッセージ	留学生生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																
担当者の研究室等	浦野研究室（7号館4階）																
備考	留学で得られることはとても多く、幅広いです。留学を成功させるために、この授業でイメージを膨らませていきましょう。																



科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュール等 etc.)</li> <li>・マナーについて (誤解と理解)</li> <li>・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む)</li> <li>・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報)</li> <li>・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る)</li> <li>・マレー語の単語・表現について</li> <li>・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について)</li> </ul> <p>授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。</p>																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への取り組み状況から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外ワークキャンプ	科目名(英文)	Overseas Work Experience
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	①フィリピン・ミンダナオにある NGO ハウスオブジョイ (HOJ) 児童養護施設での実践型貢献実習と②ミンダナオ国際大学での英語実習を複合的に組み合わせた3週間の海外プログラムである。参加メンバー(履修生)との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。																		
到達目標	①使える語学力(英語)や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体に活動ができる。																		
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育 4回程度(生活環境・語学・習慣・ハートアクティビティプログラム*の習得) 現地活動 2017年2月中旬～3月上旬の3週間を予定している。</p> <p>*ハートアクティビティ(Human Relation Training)プログラム:いろいろなゲームを通して、緊張をほぐし、お互いに尊重することを学び、コミュニケーションや協力関係、豊かな人間関係を築いていくためのプログラム。</p> <p>履修登録時の注意事項:</p> <p>受け入れ施設に宿泊制限があるため、上限は最大15名とする。履修希望者が15名を超えた場合、オリエンテーションの時に、履修希望調査レポートを提出し、履修理由とモチベーションを総合的に判断し15名を決定する。履修人数が5名に達しない場合は開講しない。履修希望者は、シラバス内容だけでなく、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けずに履修申請した場合、履修を取り消すことがある。</p>																		
関連科目	国際協力論、国際関係論、ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	成績評価は、事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	JICA ボランティア(青年海外協力隊)に参加したい場合、国内外のボランティア経験が「合格」の鍵となる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修希望者は、事前に担当教員の研究室を訪問し、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。																		

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	サトラー トニー

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。集中的 (intensive) に読解を行うことで、文意を的確に把握しながら、ポイントをつかんでいく訓練をする。 This is a pre-intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	時事的な英文を読むことで、英語読解力の増強だけでなく、多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず充分予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。 また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。 Reading, listening, speaking and writing activities, done individually, as well as pair/small group work and class discussions.
科目学習の効果 (資格)	Students will develop the skills and confidence to use English more fluently and accurately.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction and course orientation	Self-introduction, needs analysis grammar/vocabulary quiz, preview textbook	Buy the textbook
2	Unit 1 Lifestyles	Useful language for talking about daily life and routines. Textbook activities	Preview vocabulary for next lesson
3	Unit 1 continue	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
4	Unit 2 Leisure	Talking about likes and dislikes. Listening, reading, speaking activities	Study for U1 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
5	Unit 2 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
6	Unit 3 Getting along	Making requests, responding to requests, phrasal verbs. Listening, reading, speaking activities	Study for U2 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
7	Unit 3 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
8	Unit 4 Interests	Talking about activities which people enjoy. Listening, reading, speaking activities, review of vocabulary and grammar for Units 1-3 exam	Study for U3 vocab/grammar quiz Review Units 1-3 grammar, vocabulary for exam next week.
9	Mid-semester exam (Units 1-3)	Mid-semester exam (Units 1-3) Vocabulary, grammar, listening	Preview Units 1-3 vocabulary, grammar for exam
10	Unit 4 cont.,	Review students exam results. Talking about hobbies and interests. Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
11	Unit 5 Telling a story	Describing events, using tense correctly, sequencing. Listening, reading, speaking activities	Study for U4 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
12	Unit 5 cont.,	Listening, reading, speaking activities	Preview vocabulary for next lesson
13	Unit 6 Celebrations	Talking about celebrations and festivals. Listening, reading, speaking activities	Study for U5 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
14	Unit 6 cont.,	Listening, reading, speaking activities. Review Units 4-6 for the end of semester exam next week	Study for U6 vocab/grammar quiz. Review vocabulary and grammar for the end of semester exam next week
15	End of semester exam (Units 4-6)	End of semester exam (Units 4-6) Vocabulary, grammar, listening	Review Units 4-6 for exam.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 2	Miles Craven	Macmillan
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) Attendance/attitude/effort (30%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Small tests/quizzes, assessed homework (20%)

学生へのメッセージ This is a communication course, so students should try to use English as much as possible. Students are expected to be courteous to one another and to the teacher, and to demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders

	will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student is responsible for making a copy of someone else's textbook for that lesson. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. There will be a number of short quizzes/tests throughout the course which will count towards a student's grade.
担当者の 研究室等	Building 7, 2nd floor.
備考	予習復習を含めた事前事後学習の総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サトラー トニー

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。集中的 (intensive) に読解を行うことで、文意を的確に把握しながら、ポイントをつかんでいく訓練をする。 This is a pre-intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	時事的な英文を読むことで、英語読解力の増強だけでなく、多角的なものの考え方、教養を身につけることを狙いとする。
授業方法と留意点	必ず充分予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。 また、毎日必ず新聞を読み、現代社会の動きに注意を払うようにすること。 Reading, listening, speaking and writing activities, done individually, as well as pair/small group work and class discussions.
科目学習の効果 (資格)	Students will develop the skills and confidence to use English more fluently and accurately.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 7 Food and Drink	Discussing food/drink preferences. Listening, reading, speaking activities. Questionnaire.	Preview vocabulary for next lesson
2	Unit 7 continue,	Listening, reading, speaking activities.	Preview vocabulary for next lesson
3	Unit 8 Rules	Talking about various kinds of rules, college rules. Listening, reading, speaking activities.	Study for U7 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
4	Unit 8 cont.,	Listening, reading, speaking activities.	Preview vocabulary for next lesson
5	Unit 9 Adventures	Talking about adventurous things you've done. Listening, reading, speaking activities.	Study for U8 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
6	Unit 9 cont.,	Listening, reading, speaking activities.	Preview vocabulary for next lesson
7	Unit 10 Health	Talk about health, natural remedies. Review Units 7-9 for mid-term exam.	Study for U9 vocab/grammar quiz. Review Units 7-9 for mid-term exam.
8	Mid-term exam (Units 7-9)	Mid-term exam (Units 7-9). Vocabulary, grammar, listening.	Review Units 7-9 vocabulary and grammar for mid term exam
9	Unit 10 cont.,	Review students exam results. Reading, listening, speaking activities.	Preview vocabulary and grammar for next lesson.
10	Unit 11 Comparisons	Comparing things and expressing preferences. Listening, reading, speaking activities.	Study for U10 vocab/grammar quiz. Preview vocabulary for next lesson
11	Unit 11 cont.,	Reading, listening, speaking activities.	Preview vocabulary for next lesson
12	Unit 12 The Modern World	Talking about the impact of technology on our lives. Listening, reading, speaking activities.	Study for U11 vocab/grammar quiz Preview vocabulary for next lesson
13	Unit 12 cont.,	Listening, reading, speaking activities.	Review vocabulary, grammar for next lesson.
14	Unit 12 cont.,	Review Units 10-12 for end of term exam. Listening, speaking, reading activities.	Study for U12 vocab/grammar quiz. Review Units 10-12 for end of term exam next week.
15	End of term exam (Units 10-12)	End of term exam (Units 10-12) Vocabulary, grammar, listening	Review Units 10-12 vocabulary and grammar for exam.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 2	Miles Craven	Macmillan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance/attitude/effort (30%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Assessed homework, small tests/quizzes (20%)
-----------	---

学生へのメッセージ	This is a communication course, so students should try to use English as much as possible. Students are expected to be courteous to one another and to the teacher, and to demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, it is the student's responsibility to copy someone else's textbook for that lesson. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. There will be a number of small quizzes in class testing students vocabulary and grammar.
-----------	---

担当者の研究室等	Building 7, 2nd floor.
----------	------------------------

備考	まとめの確認テストなど学習を含め、事前事後学習の総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	観光中国語 a	科目名 (英文)	Tourism Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がろう。本講義は、中国一番の大都市―上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。																																																																		
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課</td> <td>LOVE! 上海 1 の復習課</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第1課 虹橋空港にて</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第2課 地下鉄に乗って</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第3課 上海の交通は便利です</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第4課 2週間上海にいます</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第5課 豫園でショッピング</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>復習1、総合練習、小テスト</td> <td>第5課までの内容を復習する</td> <td>第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第6課 道を尋ねる</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第7課 オールドジャズバンド</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第8課 ジャズバーで飲みながら</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第9課 上海人の友達の家で</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第10課 朝食後は何をしますか？</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第11課 市場にて</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習2、総合練習、小テスト</td> <td>第6課から第11課までの内容を復習する</td> <td>第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表会</td> <td>発表の内容をチェックする</td> <td>発表の内容を暗唱する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE! 上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。	2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。	8	第6課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	12	第10課 朝食後は何をしますか？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	14	復習2、総合練習、小テスト	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE! 上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	第6課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第10課 朝食後は何をしますか？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	復習2、総合練習、小テスト	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。																																																																
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>LOVE! 上海 2 初級～中級編</td> <td>楊凱榮・張麗群</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後に各60分の学修を要する																																																																		

科目名	観光中国語 b	科目名 (英文)	Tourism Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がる。本講義は、中国一番の大都市―上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。																																																																		
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課 上海人も好きです</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第13課 日本料理を食べてみたい</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第14課 お寺に興味はありますか</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第15課 日本料理を食べて</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>復習3、総合練習、小テスト</td> <td>第12課から第15課までの内容を復習する</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第16課 散歩から帰って</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第17課 列車のチケット</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第18課 周庄は遠いですか</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第19課 帰国前のひととき</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>復習4、総合練習、小テスト</td> <td>第16課から第19課までの内容を復習する</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第20課 留学したいですか</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第21課 何時に出発しますか</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第22課 また来てください</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習5、総合練習、小テスト</td> <td>第20課から第22課までの内容を復習する</td> <td>発表の内容を準備する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表会</td> <td>発表の内容をチェックする</td> <td>発表の内容を暗唱する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	2	第13課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	3	第14課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	4	第15課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	5	復習3、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。	6	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	7	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。	8	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	9	第19課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	10	復習4、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。	11	第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	14	復習5、総合練習、小テスト	第20課から第22課までの内容を復習する	発表の内容を準備する。	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	第13課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	第14課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	第15課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
5	復習3、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	第19課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	復習4、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	復習5、総合練習、小テスト	第20課から第22課までの内容を復習する	発表の内容を準備する。																																																																
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>LOVE! 上海2 初級～中級編</td> <td>楊凱榮・張麗群</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えていますが、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	韓国語Ⅱa	科目名(英文)	KoreanⅡa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	千 英子

授業概要・目的	韓国語は日本語と酷似しており、日本語を話す人には学習しやすい言語である。本授業は初めて韓国語を学ぶ人のために、初歩的な日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行なうことで、学習者が主体になって会話できるように指導する。ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一步一步確実に養ってゆこうというねらいである。																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー (Role Play) も行なう。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-pop や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。																																																																		
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国語とは</td> <td>韓国語の歴史、文字構成</td> <td>テキスト p. 1-2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ハングル文字について</td> <td>基本母音</td> <td>テキスト P. 3-4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ハングル文字について</td> <td>複合母音</td> <td>テキスト p. 5-6</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ハングル文字について</td> <td>子音(平音)</td> <td>テキスト p. 7-8</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ハングル文字について</td> <td>子音(濃音、激音)</td> <td>テキスト p. 9-10</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>パッチム</td> <td>文字と発音</td> <td>テキスト p. 11-12</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>発音規則について</td> <td>連音化、濃音化</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発音規則について</td> <td>激音化、鼻音化、流音化</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>まとめ</td> <td>前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマ鑑賞</td> <td>テキスト p. 14-15</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>出会い</td> <td>単語、文法</td> <td>テキスト p. 16-17</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>出会い</td> <td>文法、本文</td> <td>テキスト p. 18-19</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自己紹介</td> <td>単語、文法</td> <td>テキスト P. 20-21</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自己紹介</td> <td>文法、本文</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>前期のまとめ、交流会</td> <td>韓国留学生と韓国語で会話の練習をしながら交流する。 前期の内容について、総合的な復習をする。</td> <td>プリントの配布</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韓国ドラマの鑑賞</td> <td>韓国ドラマの鑑賞、質疑回答</td> <td>後期試験の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	韓国語の歴史、文字構成	テキスト p. 1-2	2	ハングル文字について	基本母音	テキスト P. 3-4	3	ハングル文字について	複合母音	テキスト p. 5-6	4	ハングル文字について	子音(平音)	テキスト p. 7-8	5	ハングル文字について	子音(濃音、激音)	テキスト p. 9-10	6	パッチム	文字と発音	テキスト p. 11-12	7	発音規則について	連音化、濃音化	プリント配布	8	発音規則について	激音化、鼻音化、流音化	プリント配布	9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマ鑑賞	テキスト p. 14-15	10	出会い	単語、文法	テキスト p. 16-17	11	出会い	文法、本文	テキスト p. 18-19	12	自己紹介	単語、文法	テキスト P. 20-21	13	自己紹介	文法、本文	プリント配布	14	前期のまとめ、交流会	韓国留学生と韓国語で会話の練習をしながら交流する。 前期の内容について、総合的な復習をする。	プリントの配布	15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、質疑回答	後期試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	韓国語の歴史、文字構成	テキスト p. 1-2																																																																
2	ハングル文字について	基本母音	テキスト P. 3-4																																																																
3	ハングル文字について	複合母音	テキスト p. 5-6																																																																
4	ハングル文字について	子音(平音)	テキスト p. 7-8																																																																
5	ハングル文字について	子音(濃音、激音)	テキスト p. 9-10																																																																
6	パッチム	文字と発音	テキスト p. 11-12																																																																
7	発音規則について	連音化、濃音化	プリント配布																																																																
8	発音規則について	激音化、鼻音化、流音化	プリント配布																																																																
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマ鑑賞	テキスト p. 14-15																																																																
10	出会い	単語、文法	テキスト p. 16-17																																																																
11	出会い	文法、本文	テキスト p. 18-19																																																																
12	自己紹介	単語、文法	テキスト P. 20-21																																																																
13	自己紹介	文法、本文	プリント配布																																																																
14	前期のまとめ、交流会	韓国留学生と韓国語で会話の練習をしながら交流する。 前期の内容について、総合的な復習をする。	プリントの配布																																																																
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、質疑回答	後期試験の準備																																																																
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>みんなで学ぶ韓国語 会話編</td> <td>金真 など</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		



科目名	韓国語Ⅱa	科目名(英文)	Korean IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなってほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	韓国語について	韓国語の歴史、文字構成を説明。授業の進め方についてのガイダンス及び、受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
2	ハングル文字について	基本母音字	テキストP. 16-19
3	ハングル文字について	基本子音字	テキスト. 20-27
4	ハングル文字について	複合母音字	テキストp. 28-32
5	ハングル文字について	激音、濃音について。自分の名前と家族や友達の名3をハングルで書いてみる	テキストp. 30-39
6	ハングル文字について	パッチムについて。	テキストp. 40-47
7	ハングル文字総合まとめ	ハングルの覚える際に使っていた単語を覚える。韓国で使われている外来語を読んで、意味を予測してみたり、日本語との発音の違い調べてみる。	テキストp. 16-47
8	ハングル文字総合まとめ	中間単語テスト	中間単語テスト勉強
9	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
10	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
11	基本的な助詞をまなぶ。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	宿題;各助詞を使った作文を書いて次回の授業時間に提出する。
12	第6課 こんにちは。	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。	テキスト P. 52-54
13	第6課 こんにちは。	職業は何ですか? 用言の終止形	テキスト p. 55-59
14	前期総合まとめ	ハングル文字の復習 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える。 前期定期試験の準備	テキスト p. 16-59
15	まとめ	前期定期試験	前期定期試験に備えての勉強

関連科目 韓国語基礎会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業参加状況、講義時の対応、小テスト、期末試験の成績などを総合的に評価する。

学生へのメッセージ 楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生生活の最高の思い出になるでしょう！

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

科目名	韓国語 II b	科目名 (英文)	Korean IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	千 英子

授業概要・目的	日韓交流の発展に伴い、韓国語ができる人材がたくさん必要になるだろう。本授業では前期に引き続き、日常会話の能力を養成することを目指している。授業中に学んだ会話パターンや熟語などを用いて会話練習を行ない、ネイティブ先生による指導によって、韓国語の会話能力を一步一步確実に養ってゆこうというねらいである。学期の終わりには韓国語で簡単な韓国ドラマを理解できるようになるだろう。																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	教科書を中心に、ロールプレー (Role Play) も行なう。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、K-POP や韓国ドラマも紹介する。毎回の講義では日常生活における様々な場面を想定した会話を学習し、常に会話の内容と関わる文法や発音の説明を加えながら授業を行なう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>日課</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 22-25</td></tr> <tr><td>2</td><td>日課</td><td>文法、本文</td><td>テキスト p. 26-28</td></tr> <tr><td>3</td><td>道で</td><td>単語、本文</td><td>テキスト p. 29</td></tr> <tr><td>4</td><td>道で</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 30-31</td></tr> <tr><td>5</td><td>お店で</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 32-33</td></tr> <tr><td>6</td><td>お店で</td><td>文法、本文</td><td>テキスト p. 34-35</td></tr> <tr><td>7</td><td>電話で約束</td><td>単語、文法</td><td>テキスト p. 36-37</td></tr> <tr><td>8</td><td>電話で約束</td><td>文法、本文</td><td>テキスト p. 38-39</td></tr> <tr><td>9</td><td>まとめ</td><td>前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞</td><td>プリント配布</td></tr> <tr><td>10</td><td>食堂で</td><td>単語、本文、練習</td><td>テキスト p. 40-43</td></tr> <tr><td>11</td><td>食堂で、友達の紹介</td><td>文法、本文</td><td>テキスト P.44-46</td></tr> <tr><td>12</td><td>友達の紹介、冬休みの計画</td><td>文法、本文、練習</td><td>テキスト P. 47-50</td></tr> <tr><td>13</td><td>冬休みの計画、休み中の出来事</td><td>単語、文法、本文</td><td>テキスト P.52-53</td></tr> <tr><td>14</td><td>前期・後期のまとめ</td><td>日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して</td><td>小テストの準備</td></tr> <tr><td>15</td><td>前期・後期のまとめ</td><td>韓国ドラマの鑑賞、まとめ</td><td>定期試験の準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	日課	単語、文法	テキスト p. 22-25	2	日課	文法、本文	テキスト p. 26-28	3	道で	単語、本文	テキスト p. 29	4	道で	単語、文法	テキスト p. 30-31	5	お店で	単語、文法	テキスト p. 32-33	6	お店で	文法、本文	テキスト p. 34-35	7	電話で約束	単語、文法	テキスト p. 36-37	8	電話で約束	文法、本文	テキスト p. 38-39	9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	プリント配布	10	食堂で	単語、本文、練習	テキスト p. 40-43	11	食堂で、友達の紹介	文法、本文	テキスト P.44-46	12	友達の紹介、冬休みの計画	文法、本文、練習	テキスト P. 47-50	13	冬休みの計画、休み中の出来事	単語、文法、本文	テキスト P.52-53	14	前期・後期のまとめ	日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して	小テストの準備	15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、まとめ	定期試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	日課	単語、文法	テキスト p. 22-25																																																																
2	日課	文法、本文	テキスト p. 26-28																																																																
3	道で	単語、本文	テキスト p. 29																																																																
4	道で	単語、文法	テキスト p. 30-31																																																																
5	お店で	単語、文法	テキスト p. 32-33																																																																
6	お店で	文法、本文	テキスト p. 34-35																																																																
7	電話で約束	単語、文法	テキスト p. 36-37																																																																
8	電話で約束	文法、本文	テキスト p. 38-39																																																																
9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	プリント配布																																																																
10	食堂で	単語、本文、練習	テキスト p. 40-43																																																																
11	食堂で、友達の紹介	文法、本文	テキスト P.44-46																																																																
12	友達の紹介、冬休みの計画	文法、本文、練習	テキスト P. 47-50																																																																
13	冬休みの計画、休み中の出来事	単語、文法、本文	テキスト P.52-53																																																																
14	前期・後期のまとめ	日韓における言語と文化の類似性と相違性に関して	小テストの準備																																																																
15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、まとめ	定期試験の準備																																																																
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>みんなで学ぶ韓国語 会話編</td> <td>金真 など</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	みんなで学ぶ韓国語 会話編	金真 など	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	韓国語を多言語の一つとして選択し、就職活動への活用はもとより、日韓を中心とした東アジア経済圏の発展における主役になることを期待します。日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストも開催し、韓国の留学生を招いて、日韓両国の文化について教えあう交流会も行います。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	韓国語Ⅱb	科目名(英文)	Korean IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話ができるようになる。 2. 200文字以上の自己紹介の作文ができるようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第7課 はじめまして。	国の名前、言語について学び、読み書きができるようにする。	テキスト p. 63、プリント
2	第7課 はじめまして。	どの国の人ですか？ 一ではありません。 助詞 -は、-がについて練習。	テキスト p. 62-64
3	第7課 はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 65-68
4	第8課 これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 家族構成員について学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 70-72 次回の授業中会話練習用の、日常で使う頻度の高い物を用意して来る。
5	第8課 これは何ですか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞-のについて学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 73-77
6	第8課 これは何ですか？ 第9課 週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 テキスト p. 79 私の家族を勉強し、「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 79
7	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
8	韓国映画を見ながら言葉や文化になれる。	「カンナさん大成功」	映画を見ながら聞き取れた韓国語を5つノートに書き、意味を調べる。
9	第9課 週末に何をしますか？	助詞-を、-にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞20個を覚え、その終止形の活用について学ぶ。 “-と一緒に”という言い方を練習する。	テキスト p. 82-87
10	第9課 週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 いつ、誰と、何を、しますか？ について多数の例文を用いて練習をし、作文をする。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 88-91
11	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 漢数字について学び、漢数字を用いて数える単位を付けて練習する。 位置を表す名詞を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 94-101
12	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 固有数字について学び、固有数字を用いて数える単位を付けて練習する。 時計の読み方を練習する。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 94-101
13	第11課 電話番号は何番ですか？	時計の読み方のテストをする。 数字がスムーズに言えるように練習する。 助詞-は、-も、-のみの使い方を練習する。	時計の読み方を練習する。 テキスト p. 104-111
14	後期総合まとめ	後期授業の中で勉強した全ての単語をテストする。 後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	後期授業の中で勉強した単語を覚える。 テキスト p. 62-111
15	まとめ	後期定期試験	後期定期試験の勉強

関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト、定期試験の成績などを総合的に評価する。			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	韓国語Ⅲ a	科目名(英文)	Korean IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子

授業概要・目的	初級授業で習得した韓国語の知識を確認し、さらに日常会話でよく使う表現や文法を新たに学んでいく。韓国語を運用する上で不可欠な基本的文法事項を確認しながら、特に読み書きに重点をおいて進めていく。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。																																																																		
到達目標	日常会話で使える様々な韓国語の基本表現を身につける																																																																		
授業方法と留意点	韓国語初級授業で学んだことを基礎に、教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、なるべく欠席しないこと。 (韓国語初級を受けていることが望ましい)																																																																		
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識や様々な表現を習得しながら、語学を通して韓国への理解を深めることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎構文の復習 1</td> <td>語尾表現の復習</td> <td>教科書 6課、8課</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>基礎構文の復習 2</td> <td>過去形</td> <td>教科書 13課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「～してください」</td> <td>依頼の表現</td> <td>教科書 17課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「～しても良いですか」</td> <td>許可をする、許可を求める表現</td> <td>教科書 18課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「～しなければなりません」</td> <td>義務の表現</td> <td>教科書 19課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文法確認</td> <td>文法確認</td> <td>既習文法の確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「～しましょう」</td> <td>勧誘</td> <td>教科書 14課</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「～しています」</td> <td>現在進行形</td> <td>教科書 15課</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「～できます」・「～できません」</td> <td>可能・不可能</td> <td>教科書 16課</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「～したいです」</td> <td>意志・感情を表す表現</td> <td>教科書 17課</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「～しないでください」</td> <td>禁止の表現</td> <td>教科書 18課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「～するつもりです」・「～と思います」</td> <td>意志・推量の表現</td> <td>教科書 19課、20課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>文の練習</td> <td>簡単な作文・読解</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>既習文法の総確認</td> <td>既習文法の総確認</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韓国語の実際</td> <td>韓国のドラマを見る</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	基礎構文の復習 1	語尾表現の復習	教科書 6課、8課	2	基礎構文の復習 2	過去形	教科書 13課	3	「～してください」	依頼の表現	教科書 17課	4	「～しても良いですか」	許可をする、許可を求める表現	教科書 18課	5	「～しなければなりません」	義務の表現	教科書 19課	6	文法確認	文法確認	既習文法の確認	7	「～しましょう」	勧誘	教科書 14課	8	「～しています」	現在進行形	教科書 15課	9	「～できます」・「～できません」	可能・不可能	教科書 16課	10	「～したいです」	意志・感情を表す表現	教科書 17課	11	「～しないでください」	禁止の表現	教科書 18課	12	「～するつもりです」・「～と思います」	意志・推量の表現	教科書 19課、20課	13	文の練習	簡単な作文・読解	—————	14	既習文法の総確認	既習文法の総確認	—————	15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	基礎構文の復習 1	語尾表現の復習	教科書 6課、8課																																																																
2	基礎構文の復習 2	過去形	教科書 13課																																																																
3	「～してください」	依頼の表現	教科書 17課																																																																
4	「～しても良いですか」	許可をする、許可を求める表現	教科書 18課																																																																
5	「～しなければなりません」	義務の表現	教科書 19課																																																																
6	文法確認	文法確認	既習文法の確認																																																																
7	「～しましょう」	勧誘	教科書 14課																																																																
8	「～しています」	現在進行形	教科書 15課																																																																
9	「～できます」・「～できません」	可能・不可能	教科書 16課																																																																
10	「～したいです」	意志・感情を表す表現	教科書 17課																																																																
11	「～しないでください」	禁止の表現	教科書 18課																																																																
12	「～するつもりです」・「～と思います」	意志・推量の表現	教科書 19課、20課																																																																
13	文の練習	簡単な作文・読解	—————																																																																
14	既習文法の総確認	既習文法の総確認	—————																																																																
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	—————																																																																
関連科目	韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版</td> <td>木内明</td> <td>国書刊行会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点、授業時の各種テスト等、総合的に判断して評価																																																																		
学生へのメッセージ	日常韓国語の運用能力を高めながら、授業を通じて語学を学ぶことの楽しさを感じてもらえれば良いと思います。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		

科目名	韓国語Ⅲb	科目名(英文)	Korean IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の様々な表現、文法を学習する。様々な表現を含む、ある程度長いまとまった文の「読む・書く」能力を養う。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常生活で使う様々な表現を学習し、活用できるように練習をしていく。
授業方法と留意点	文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、なるべく欠席しないこと。辞書を持参すること。(韓国語初級、中級aを受けておくことが望ましい)
科目学習の効果(資格)	韓国語の様々な表現を学びながら、文章読解やある程度まとまった文を作れるようになることを目指す。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習1	前期の復習	既習の単語、文法の復習
	2	復習2	前期の復習	既習の単語、文法の復習
	3	用言文(変格活用)	変格活用の用言	教科書 p174、175
	4	用言文(変格活用)	変格活用の用言	教科書 p176、177
	5	連体形1	形容詞の連体形	教科書p.178 およびプリントを使って、形容詞の連体形を学習
	6	連体形2	動詞・存在詞の現在連体形	形容詞と動詞の連体形を区別できるようにしておくこと。
	7	連体形3	動詞・存在詞の過去連体形	動詞の連体形を時制で区別できるようにしておくこと。
	8	連体形4	動詞・存在詞の未来連体形	動詞の連体形を時制で区別できるようにしておくこと。
	9	既習文法の確認	既習文法の確認	既習文法の確認
	10	「～して」・「～なので」	文の接続(並列・理由)	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
	11	「～であるが」	文の接続(逆説)	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
	12	「～なので」	文の接続(理由)	接続詞の使い方を理解し、ある程度長い文を作れるように。
	13	文の練習	ある程度まとまった文の購読・作文	ある程度の長さをもつ文章の読解
	14	総合確認	総合確認	—————
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る。	—————	

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点、授業時の各種テスト等、総合的に判断して評価
学生へのメッセージ	これまでの韓国語の授業で培った能力を伸ばすため、より意欲的に学習してほしいと思います。韓国のドラマや歌なども使って、習得した知識を確認できる機会も持ちたいと思います。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	前半の数回は教科書も使うが、多くはプリントでの学習となる。

科目名	韓国語IV a	科目名(英文)	Korean IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	千 英子

授業概要・目的	韓国語基礎の知識をベースにして、「話す」・「書く」・「聞く」・「読む」の4つの総合技能を、より高度なレベルへと向上させることを目指す。語学の4技能である「話す」・「書く」・「聞く」・「読む」の伸長に加えて、資料を交えながら韓国の社会・文化・サブカルチャーまで取り上げて学習する。「ハングル能力検定試験」4級・「韓国語能力試験」1・2級に合格できるレベルを目指す。
到達目標	
授業方法と留意点	韓国に関する様々な資料を取り上げて、語学の4技能をトレーニングする。学生にはテーマを与えて発表・討論してもらい、学生が積極的に授業に参加するよう指導し、学習者の能力に応じて個人指導も実施する。必要に応じて画像(DVD, ビデオ)を活用して授業を行なう。
科目学習の効果(資格)	「ハングル能力検定試験」4級・「韓国語能力試験」1・2級に合格し資格をとって、韓国語・言語文化の知識を生かして、商社や旅行業やサービス業、国際関連業務など、就職にも活用できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義の概要	講義時の対応・課題など、ビデオ観賞	テキスト p. 14-17
	2	第1課 こんにちは	文法、単語	テキスト p. 14-17
	3	第1課 こんにちは	本文、練習問題	テキスト p. 18-21
	4	第2課 家族	文法、単語	テキスト p. 18-21
	5	第2課 家族	本文、練習問題	テキスト p. 22-25
	6	第3課 空港で	単語、文法	テキスト p. 22-25
	7	第3課 空港で	本文、練習問題	テキスト p. 26-29
	8	第4課 交通	単語、文法	テキスト p. 26-29
	9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	テキスト p. 26-29
	10	第4課 交通	本文、練習問題	テキスト p. 30-33
	11	第5課 道を探る	単語、文法	テキスト p. 30-33
	12	第5課 道を探る	本文、練習問題	テキスト p. 34-37 プリント配布
	13	第6課 ホテルで	単語、文法	テキスト p. 34-37
	14	第6課 ホテルで	本文、練習問題	テキスト p. 38-41
	15	前期復習、質疑回答、韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマを鑑賞し、前期の内容に関する質疑回答をする。	後期の準備

関連科目	韓国語初級・中級、韓国語基礎会話
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コミュニケーション韓国語 入門編1	呉英元	第三書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義時の対応、授業参加、レポート、小テストなどを総合的に評価する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	<p>1. 検定試験に関心を持っている学生は是非受講してください！韓国語基礎で学んだ内容をベースにして、資格の獲得という一つの目標に向かって、楽しみながら頑張ってみませんか。</p> <p>2. 日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストと韓国留学生との交流会も開催します。自分の実力を確認するためにも、ぜひ参加してみてください。</p> <p>3. 毎年、夏休みの間3週間の短期留学機会があります。留学先の韓国では学費を払う必要はなく、無料で寮が提供されます。詳しいことは、国際交流センターにまで尋ねてください。</p> <p>4. グローバル化時代の到来とともに、東アジアにおいても日韓が経済統合を模索しています。両国関係のさらなる進歩が進められ、日本では韓国語を駆使できる人材の需要増加が見込まれます。ぜひ資格をとって、韓国語・言語文化の知識を生かして、就職にも活用し、活動の舞台を広げていきましょう！一人でも多くの学生の受講を待っています。</p>
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)

科目名	韓国語IV b	科目名 (英文)	Korean IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	千 英子

授業概要・目的	韓国語基礎の知識をベースにして、「話す」・「書く」・「聞く」・「読む」の4つの総合技能を、より高度なレベルへと向上させることを目指す。語学の4技能である「話す」・「書く」・「聞く」・「読む」の伸長に加えて、資料を交えながら韓国の社会・文化・サブカルチャーまで取り上げて学習する。「ハングル能力検定試験」4級・「韓国語能力試験」1・2級に合格できるレベルを目指す。
到達目標	
授業方法と留意点	韓国に関する様々な資料を取り上げて、語学の4技能をトレーニングする。学生にはテーマを与えて発表・討論してもらい、学生が積極的に授業に参加するよう指導し、学習者の能力に応じて個人指導も実施する。必要に応じて画像 (DVD, ビデオ) を活用して授業を行なう。
科目学習の効果 (資格)	「ハングル能力検定試験」4級・「韓国語能力試験」1・2級に合格し資格をとって、韓国語・言語文化の知識を生かして、商社や旅行業やサービス業、国際関連業務など、就職にも活用できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第7課 電話	文法、単語	テキスト p. 38-41
	2	第7課 電話	本文、練習問題	テキスト p. 41-45
	3	第8課 食堂で	文法、単語	テキスト p. 41-45
	4	第8課 食堂で	本文、練習問題	テキスト p. 46-49
	5	第9課 薬局	単語、文法	テキスト p. 46-49
	6	第9課 薬局	本文、練習問題	テキスト p. 50-53
	7	第10課 約束と時間	文法、単語	テキスト p. 50-53
	8	第10課 約束と時間	本文、練習問題	テキスト p. 54-57
	9	まとめ	前半のまとめ、小テスト、韓国ドラマの鑑賞	テキスト p. 54-57
	10	第11課 日付と天気	文法、単語	テキスト p. 58-61
	11	第11課 日付と天気	本文、練習問題	テキスト p. 58-61
	12	第12課 買い物	文法、単語	テキスト p. 58-61
	13	第12課 買い物	本文、練習問題	テキスト p. 61-65
	14	第13課 市内観光	文法、単語、本文	テキスト p. 61-65
	15	前期復習、質疑回答、韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマを鑑賞し、前期の内容に関する質疑回答をする。	小テストの準備

関連科目	韓国語初級・中級、韓国語基礎会話
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コミュニケーション韓国語 入門篇 1	呉英元	第三書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義時の対応、授業参加、レポート、小テストなどを総合的に評価する。
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	<p>1. 検定試験に関心を持っている学生は是非受講してください！韓国語基礎で学んだ内容をベースにして、資格の獲得という一つの目標に向かって、楽しみながら頑張ってみませんか。</p> <p>2. 日ごろの学習の成果を発表するスピーチコンテストと韓国留学生との交流会も開催します。自分の実力を確認するためにも、ぜひ参加してみてください。</p> <p>3. 毎年、夏休みの間3週間の短期留学機会があります。留学先の韓国では学費を払う必要はなく、無料で寮が提供されます。詳しいことは、国際交流センターにまで尋ねてください。</p> <p>4. グローバル化時代の到来とともに、東アジアにおいても日韓が経済統合を模索しています。両国関係のさらなる進化が進められ、日本では韓国語を駆使できる人材の需要増加が見込まれます。ぜひ資格をとって、韓国語・言語文化の知識を生かして、就職にも活用し、活動の舞台を広げていきましょう！一人でも多くの学生の受講を待っています。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	



科目名	歓待の哲学	科目名(英文)	Philosophy of Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一

**授業概要・目的**  
2020年のオリンピック開催地を決める最終プレゼンテーションを機に「おもてなし」ということが広く使われるようになりました。2013年の新語・流行語大賞には「お・も・て・な・し」が選ばれました。なぜいまおもてなしが問題となるのか、15回の授業を通じてさまざまな角度から考察します。また、グローバルな時代において私たちに求められる人間関係とはどのようなものなのか、そのあり方を考えます。

**到達目標**  
物事を相手の立場に立って考えられるようになること。

**授業方法と留意点**  
この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握する。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認する。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	巡礼と歓待	巡礼と歓待の関係について学修します。	授業中に指示します。
3	商業主義とホスピタリティー	歓待、ホスピタリティー、おもてなし。歓待と同じような意味で使われることはいろいろありますが、近年、サービス業の世界では「ホスピタリティー」「おもてなし」が注目されています。この回では、企業の研修に用いられている資料などをもとに、ホスピタリティーについて考えます。	授業中に指示します。
4	歓待で成り立つ社会(1)	日本は超高齢社会にあつて、資本主義、商業主義だけではとても社会がまわらない状況にあります。第4回は、超高齢社会を手がかりに、歓待があることではじめて成り立つ社会の構造について学修します。	授業中に指示します。
5	歓待で成り立つ社会(2)	超高齢社会の背景には、私たちの寿命が伸びてきたということもありますが、女性の社会進出や経済的な理由により子どもを産んで育てにくい社会になってきたということもあります。第5回は、少子化の問題に焦点を当てて歓待について考えます。	授業中に指示します。
6	猜疑心と歓待(1)	世の中が猜疑心、不安、敵意に満ちたものになったらどうなるでしょうか。第6回と第7回の授業では、人狼というゲームを通じて猜疑心、不安、敵意に満ちた社会で過ごすことがどのようなものなのか、またそれがどのような結果へと通じるのかを体験し学修します。第6回の授業ではゲームのルールと授業の趣旨について確認します。	授業中に指示します。
7	猜疑心と歓待(2)	世の中が猜疑心、不安、敵意に満ちたものになったらどうなるでしょうか。第6回と第7回の授業では、人狼というゲームを通じて猜疑心、不安、敵意に満ちた社会で過ごすことがどのようなものなのか、またそれがどのような結果へと通じるのかを体験し学修します。第7回の授業では実際にゲームを体験します。	授業中に指示します。
8	中間のふり返り	前回までの内容をひと通り理解し、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業中に指示します。
9	想像の共同体	私たちは味方とそうでないものをどのようにして分けているのでしょうか。	授業中に指示します。
10	寛容と歓待	何ごとにつけても「グローバル」ということがしきりに言われるようになってきましたが「グローバルな視点」とはどのような視点なのでしょうか、また「グローバルな人間」とはどのような人間なのでしょうか。この回では、多様な価値観を認め受け入れる寛容さを手がかりに歓待について考えます。	授業中に指示します。
11	手仕事と歓待(1)	大量生産、大量消費の時代にあつて、私たちの周りにはいつでも誰がどのようにして作ったのかも分からない製品があふれかえています。それは私たちが毎日口にする食べ物についても同様です。第11回と第12回の授業では手仕事と歓待の関係について学修します。	授業中に指示します。
12	手仕事と歓待(2)	大量生産、大量消費の時代にあつて、私たちの周りにはいつでも誰がどのようにして作ったのかも分からない製品があふれかえています。それは私たちが毎日口にする食べ物についても同様です。第11回と第12回の授業では手仕事と歓待の関係について学修します。	授業中に指示します。
13	歓待と報酬	第3回の授業ではサービス業における歓待がテ	授業中に指示します。

			ーマでした。そもそも歓待、ホスピタリティー、おもてなしといったものは、見返りがあるから提供されたりその精神が発揮されたりするものなのでしょうか。この回では、動物行動学、進化経済学の知見などをとくに歓待と報酬の関係について学修します。	
	14	無条件の命法としての歓待	目の前に困っている人がいたら、無条件に助けなければという感情を抱くことがあるでしょう。これまでの授業で学修したことを踏まえ、無条件の命法という観点から歓待について考えます。	授業中に指示します。
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようなようになっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。
関連科目	基礎、教養科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リフレクションシート)30%、期末試験70%で評価します。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考				

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり, 瀬戸 宏, 家口 美智子

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞・鳥居 祐介・山口 真佐夫

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一, 大原関 一浩, 兪 鳴蒙

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子, 赤澤 春彦, フーパー トッド

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹, 大原関 一浩, 吉村 征洋

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋, 岩間 香, 神崎 舞

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			



科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵, 田浦 アマング, 林田 敏子

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心に進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達・中島 直嗣・フーパー トッド

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣, 安達 直樹, 原 秀禎

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙, 後藤 一章, 田中 秀毅

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子, 杉浦 秀行, 橋本 正俊

授業概要・目的	1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子・後藤 一章・鈴木 大介

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生, 安達 直樹, マイケル ハーキー

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫, 有馬 善一, 住吉 誠

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	



科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美, 鈴木 大介, 中西 正樹

授業概要・目的	1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美, 有馬 善一, 田浦 アマンダ

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史, 浅野 英一, 住吉 誠

授業概要・目的	1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅, 小川 豊生, 門脇 薫

授業概要・目的	1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章, 門脇 薫, フーバー トッド

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一, 天野 貴史, 皆本 智美

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行・田中 秀毅・原 秀禎

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋, 赤澤 春彦, 小川 豊生

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			



科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり, 天野 貴史, 松田 早恵

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美, 浅野 英一, 田浦 アマンダ

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香, 安達 直樹, 齋藤 安以子

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 門脇 薫, 田中 秀毅

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央, 瀬戸 宏, 鳥居 祐介

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 大原関 一浩, 杉浦 秀行

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介, 神崎 舞, 橋本 正俊

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子, 林田 敏子, 吉村 征洋

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			



科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介, 皆本 智美, 山口 真佐夫

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一・後藤 一章・マイケル ハーキー

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関一浩, マイケルハーキー, 兪鳴蒙

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子, 上田 達, 西川 眞由美

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠, 橋本 正俊, 松田 早恵

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>			
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)			
備考				

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞, 住吉 誠, 中西 正樹

授業概要・目的	1年次・2年次前期のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、より専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。</li> <li>・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。</li> </ul>		
授業方法と留意点	5回を1名の教員が担当する。したがって、全部で3名の教員が担当する。各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>*事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 30h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	各研究室(7号館3～5階)		
備考			

科目名	基礎教養演習Ⅱ a	科目名(英文)	Fundamental Skills Seminar IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として活躍する上で必要な、また企業や社会から求められる基礎教養を身につける。</li> <li>・本クラスでは現代社会についての基礎知識と教的処理を扱う。</li> <li>・地理、歴史、政治、経済、法律、教的処理などを学習し、学生それぞれの弱点を克服する。</li> </ul>
到達目標	就職活動時の採用試験に出題される「一般常識に関する問題」について解説していく。
授業方法と留意点	就職活動時の採用試験に出題される「一般常識に関する問題」について解説していく。
科目学習の効果(資格)	社会人になる上で必須の教養が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、プレ・テスト	授業の目的、進め方の説明、スタート時の実力の確認	間違った箇所の復習
	2	日本の地理	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	3	世界の地理	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	4	日本の歴史	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	5	世界の歴史	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	6	文化	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	7	憲法	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	8	政治①	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	9	政治②	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	10	法律	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	11	経済	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	12	国際社会のしくみ	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	13	教的処理①	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	14	教的処理②	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違った箇所の復習
	15	復習テスト	これまでの授業内容から復習テストを行う(応用問題を含む)	間違った箇所の復習

関連科目	基礎教養演習Ⅱb
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	使用しない		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜紹介する		
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への取り組み姿勢と復習テストの結果を合わせて総合的に評価する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	就職活動に役立ててください。事前・事後に各1時間の学修を要する。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	基礎教養演習Ⅱb	科目名(英文)	Fundamental Skills Seminar IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	社会人として活躍する上で欠かせなく、また企業や社会から求められる基礎教養を身につける。 本クラスでは現代社会についての基礎知識と数的処理を扱う。 地理、歴史、政治、経済、法律、数的処理などを学習し、学生それぞれの弱点を克服する。
到達目標	苦手意識を取り除き、就職活動時の採用試験で出される問題に慣れることができる。
授業方法と留意点	就職活動時の採用試験で出されるような一般常識に関する問題を解いて、解説していく。
科目学習の効果(資格)	社会人になる上で必須の教養が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、プレ・テスト	授業の目的、進め方の説明、スタート時の実力の確認	間違ったところの復習
	2	日本の地理	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	3	世界の地理	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	4	日本の歴史	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	5	世界の歴史	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	6	文化	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	7	憲法	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	8	政治①	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	9	政治②	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	10	法律	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	11	経済	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	12	国際社会のしくみ	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	13	数的処理①	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	14	数的処理②	前回の内容の確認、実力チェック問題、解答と解説	間違ったところの復習
	15	復習テスト	これまでの授業内容から復習テストを行う(応用問題を含む)	間違ったところの復習

関連科目	基礎教養演習Ⅱa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への取り組みなど(30%)、復習テスト(70%) *復習テストは応用問題を含む。
----------	--

学生へのメッセージ	就職活動に役立ててください。
-----------	----------------

担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
----------	--------------

備考	
----	--



科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  【事前・事後学習課題】 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	浅野研究室 (7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	安達研究室 (7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	天野研究室(7号館3階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	有馬研究室 (7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	上田研究室(7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	門脇研究室 (7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	神崎研究室(7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																



科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鈴木研究室 (7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  【事前・事後学習課題】 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	住吉研究室(7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目以降：            本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する            取り組むテーマを決める            必要な資料を集める            資料を作成する            発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b>            毎回与えられた課題に取り組む。            日本語・時事問題テストの予習・復習をする。            発表のための資料作成・準備をする。            (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	瀬戸研究室(7号館3階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鳥居研究室 (7号館3階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	中島研究室(7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  <b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	林田研究室 (7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																



科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する  【事前・事後学習課題】 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30 h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	松田研究室 (7号館5階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	概要：大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 目的：日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																
到達目標	他者と話し合うことができる。 必要な情報を調べ、整理することができる。 分かりやすく発表することができる。																
授業方法と留意点	1 ゼミ当たり十数名のクラスで、プレゼンテーション、レシテーションなども交えて進める。個人ないしはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 また、「日本語テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目以降： 本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する 取り組むテーマを決める 必要な資料を集める 資料を作成する 発表する</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回与えられた課題に取り組む。 日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 発表のための資料作成・準備をする。 (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	皆本研究室 (7号館4階)																
備考	プリントを配布します。																

科目名	基礎マレー語 a	科目名 (英文)	Basic Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達

**授業概要・目的**  
本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。

**到達目標**  
マレー語の運用能力の基礎を得る。

**授業方法と留意点**  
確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。
2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
6	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
7	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
8	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
11	復習 2	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
14	復習 3	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
15	総合復習	確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストの復習と演習課題に取り組むこと。

**関連科目** 基礎マレー語 b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
2	基礎マレー語	上田達	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
二回実施する確認テスト (70%) と提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。

**学生へのメッセージ**  
わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。

**担当者の研究室等**  
7号館5階 (上田研究室)

**備考**  
拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は一回目の授業から使用するので購入しておくこと。

科目名	基礎マレー語 b	科目名 (英文)	Basic Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

**授業概要・目的**  
 本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。

**到達目標**  
 マレー語の基礎的な運用能力を獲得する。

**授業方法と留意点**  
 確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
5	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。
6	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
7	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
8	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
10	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。
11	演習	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。
14	復習 3	既習事項 (文法、表現) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。
15	総合復習	確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習と演習課題にとりくむこと。

**関連科目** 基礎マレー語 b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
2	基礎マレー語	上田達		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)**  
 二回実施する確認テスト (70%) と提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に判断する。

**学生へのメッセージ**  
 わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。

**担当者の研究室等**  
 7号館5階 (上田研究室)

**備考**  
 拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞典は初回から使用するので用意しておくこと。

科目名	暮らしの中の文化	科目名(英文)	Cultures in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	歴史上、人は日常の営みのなかでさまざまな知恵を出しあい、生活に彩りを与えるための文化を育んできた。そうした文化は、時代を超えて受け継がれる一方、社会構造やライフスタイル、そして価値観とともに刻々と変化している。本講義では、歴史と伝統を重んじる国「イギリス」に焦点をあて、住宅・食文化・娯楽という3つの観点から、日々の暮らしと文化との関わりについて考察する。 この科目は国際教養プログラム科目です(2015年度入学生)。
到達目標	日常的な暮らしの中で、どのような文化が育まれてきたのか、また、それがイギリスという国の特徴といかに関わっているかを理解する。
授業方法と留意点	プリントを用いて授業を進める。適宜、パワーポイントも使用する。
科目学習の効果(資格)	身近な生活のレベルから、文化の生成過程とその背景について学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス —イギリス人の暮らしと文化—	授業のすすめ方や概要について説明する。	【事前】イギリスの文化と聞いて連想するものを複数あげ、それぞれについて最新情報をネット検索してくる。
2	貴族の邸宅(その1)	16世紀から19世紀にかけて建てられたカントリーハウス(貴族の邸宅)の特徴を概観する。	【事後】イギリスにおける住宅の歴史についてまとめる。
3	貴族の邸宅(その2)	設計図をもとに、貴族の暮らしについて考える。	【事前】設計図と間取り図を見て気が付いたことをまとめてくる。
4	イギリスの住宅事情(その1)	住宅情報誌や不動産広告をもちいて、イギリスと日本の住宅を比較考察する。	【事前】「理想の住宅」の間取り図を書いてくる。
5	イギリスの住宅事情(その2)	家の間取り図をもちいて、住宅に対するイギリス独自の価値観をさぐる。	【事後】イギリスと日本の「理想の間取り」の違いについてまとめる。
6	イギリスの食文化(その1)	「まずい」と言われるイギリスの食を、食材の歴史の変遷から考察する。	【事前】イギリス料理と聞いて想像するものをネット検索し、その歴史についてまとめる。
7	中間テストと解説	中間テストを実施し、解説をおこなう。	【事前】これまでの授業内容を復習しておく。
8	イギリスの食文化(その2)	イギリスの食の特徴を、調理法と味付けの観点から考察する。	【事後】ヨーロッパや植民地との関係をふまえ、イギリス食文化の特徴についてまとめる。
9	イギリスの紅茶文化(その1)	イギリス独自の紅茶文化が成立するまでの歴史をたどる。	【事後】紅茶文化の成立について、輸入・定着・変容という3つの観点から小レポートを作成する。
10	イギリスの紅茶文化(その2)	砂糖・カップ・マナーの3つの観点から大英帝国が生み出した紅茶文化について考える。	【事前】紅茶のカップとマナーについてネット検索をしてくる。
11	イギリス人と娯楽(その1)	ナローボートでの生活を通して、イギリスの娯楽について考える。	【事後】娯楽のなかで育まれる文化の特性についてまとめる。
12	イギリス人と娯楽(その2)	スポーツと賭けの歴史を通して、娯楽と階級の関係について考える。	【事前】サッカーの歴史について調べてくる。
13	イギリス人とアンティーク	「古いもの」に価値をおくイギリス人の価値観をアンティークや古本を通して考える。	【事後】古さに価値をおく文化の特性を、アンティークや古本以外の事例をあげながら考える。
14	歴史的建造物の保存活動	「古いもの」をいかにして継承していくか、イギリスの取り組みについて学ぶ。	【事前】日本における歴史的建造物の保存活動を調べてくる。
15	総括	小テストの実施と、これまでの授業のまとめをおこなう。	【事前】これまでの授業内容を復習しておく。

関連科目 国際教養プログラム科目(2015年度入学生)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	提出物および中間テスト(20%)、小テスト(80%)で評価する。
学生へのメッセージ	雑誌や広告といった身近な素材から、文化を読み解いていきます。
担当者の研究室等	林田研究室(7号館4階)
備考	

科目名	グラマー	科目名(英文)	Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト(筆記)」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3	English Locomotion - 参加して学ぶ総合英語	JACET 教材開発研究会	成美堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)、共通テスト(筆記)・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト(筆記)、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	活動型の授業で一緒に楽しみましょう!
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	クリエイティブビジネス論	科目名(英文)	Creative Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣

授業概要・目的	この科目は、メディアビジネスプログラム科目である。 本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のメディア・コンテンツ業界（放送、映画、出版、音楽、ゲーム）の産業構造とビジネスモデル、および、メディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界（食品、アルコール飲料、コスメ、外食等）の企業による取り組み事例について、産業論とマーケティング論の観点から解説する。 本講義の目的は、ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な理解を行い、さらに製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新動向を学ぶことである。
到達目標	・ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な論述ができる。 ・製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新事例をあげ、ビジネスモデルとICT利用の特徴を説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の理解状況や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	主に以下について解説する。	――
2	メディア・コンテンツ業界の産業構造と市場概観	主に以下について解説する。 ・メディア・コンテンツ産業とは ・メディア・コンテンツ産業の市場規模 ・産業の情報化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
3	メディア・コンテンツ業界の動向（1）放送業界	主に以下について解説する。 ・テレビ放送の仕組み ・放送業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
4	メディア・コンテンツ業界の動向（2）映画業界その1	主に以下について解説する。 ・映画の仕組み ・映画業界のビジネスモデル ・資金調達法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
5	メディア・コンテンツ業界の動向（3）映画業界その2	主に以下について解説する。 ・ハリウッド映画と日本映画の違い ・ハリウッド映画のマーケティング戦略など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
6	メディア・コンテンツ業界の動向（4）出版業界	主に以下について解説する。 ・出版の仕組み ・出版業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
7	メディア・コンテンツ業界の動向（5）音楽業界	主に以下について解説する。 ・楽曲販売の仕組み ・音楽業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
8	メディア・コンテンツ業界の動向（6）ゲーム業界	主に以下について解説する。 ・ゲーム開発と販売の仕組み ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ハードとソフト ・スマホゲームなど	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
9	メディア・コンテンツ化する業界（1）食品業界	主に以下について解説する。 ・食品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア・コンテンツ化する業界（2）アルコール飲料業界	主に以下について解説する。 ・アルコール飲料メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
11	メディア・コンテンツ化する業界（3）自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
12	メディア・コンテンツ化する業界（4）外食サービス業界	主に以下について解説する。 ・外食サービス企業の取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
13	メディア・コンテンツ化する業界（5）ファッション・コスメ業界	主に以下について解説する。 ・アパレル販売メーカーの取り組み事例 ・化粧品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
14	コンテンツビジネスの課題	主に以下について解説する。 ・知的財産権等関連法 ・著作権管理技術 ・人材育成など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	――	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義に出した課題についてまとめておくこと。

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末テスト (80%)、小テスト・レポート (20%) で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義では、メディア・コンテンツ業界に限らず、メーカーやサービス業界を対象に広く取り扱います。就職活動に向けた業界研究を行うつもりで受講するとよいでしょう。			
担当者の 研究室等	1 1 号館 7 階 (針尾准教授室)			
備考				



科目名	Global Issues	科目名(英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	近年国家間の人やモノ、情報の動きが活発になり、一国内で起きている問題を、世界の動きのなかで理解する必要性が増えています。将来英語を使って世界の人々と交流していく皆さんには、こうしたグローバルな視点を身につけておくことが大切になります。各回異なるテーマを扱いながら、これから日本はどのように国内外の問題に取り組んでいくべきか、広い視点から考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界で起きている様々な問題についての理解を高める。</li> <li>関連する短い英文記事を読めるようになる。</li> <li>問題を設定し、それについて調べ、効果的に表現できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	テキストの読解により一般的な情報を得たあとで、具体例の考察を通じ、さらにテーマへの理解を深めていきます。
科目学習の効果(資格)	社会人に必要な時事問題の知識。問題を設定し、調べ、文章にまとめるスキルの習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・方法の説明	復習
2	Stereotype and Racism (ステレオタイプと人種差別)	Teaching children how to discriminate (子供への差別教育)	復習
3	Information and Communication (情報とコミュニケーション)	Do cell phones make our world convenient? (携帯電話は便利?)	復習
4	Culture and Fashion (文化とファッション)	Can fashion change the world? (ファッションは文化を作る)	復習
5	Health (健康)	Healthy food can improve mental health (健康な食事で健全な精神)	復習
6	Food (食料)	Food waste and hunger (余る食物、足りない食物)	復習
7	Food and Population (食糧問題と世界の人口)	Impact of population change (高齢化問題)	復習
8	確認テスト第1回	確認テストと解説	復習
9	Global Warming (温暖化)	Global climate change (地球規模の気候変動)	復習
10	Energy (エネルギー)	Energy resource (エネルギー源)	復習
11	Ecosystem and Humans (エコシステムと人間)	Coral reefs (サンゴ礁)	復習
12	International Relationships (国際関係)	Foreign aid: Why do we have to help other countries? (外国援助: 援助はなぜするのでしょうか?)	復習
13	War and Peace (戦争と平和)	Wars? past and present (戦争の今と昔)	復習
14	Human Rights (人権)	What are human rights? (人権とは?)	復習
15	確認テスト第2回 まとめ	確認テストと解説	復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『CLIL 英語で学ぶ国際問題』(CLIL Global Issues)	笹島茂他	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	レポート、確認テストを総合して評価
学生へのメッセージ	まず世界で起きていることへの意識を高めるために、新聞(とくに国際面)を毎日読む習慣を身につけましょう。興味を持った問題を、さらに本やネットなどで調べ、多角的な視点から考えてみることを望ましい。
担当者の研究室等	7号館5階 大原関研究室
備考	授業スケジュール等に多少の変更の可能性があるため、初回の授業に必ず出席すること。資料の読み込み、教科書の予習など、事前事後学習にかかる総時間数を60時間程度とする。

科目名	Global Issues	科目名 (英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩

授業概要・目的	多様なメディア（新聞・雑誌・インターネット等）の英語に触れ、日本と国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておく必要がある。英語で書かれている内容と日本語で書かれている内容の比較等を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	テキスト イギリス	単語テスト ユニット14 グループ発表	ユニット14指定のあった単語を覚える発表準備
3	テキスト ロシア	単語テスト ユニット10 グループ発表	ユニット10指定のあった単語を覚える発表準備
4	テキスト スペイン	単語テスト ユニット3 グループ発表	ユニット3指定のあった単語を覚える テスト勉強のため復習
5	チェックテスト1回目 テキスト スペイン	テスト ユニット11	ユニット11指定のあった単語を覚える発表準備
6	テキスト スペイン	単語テスト ユニット11 グループ発表	ユニット11指定のあった単語を覚える発表準備
7	テキスト ドイツ	単語テスト ユニット9 グループ発表	ユニット9指定のあった単語を覚える 発表準備
8	テキスト アイスランド	単語テスト ユニット5 グループ発表	ユニット5指定のあった単語を覚える 発表準備
9	テキスト 韓国	単語テスト ユニット8 グループ発表	ユニット8指定のあった単語を覚える テスト準備の復習
10	チェックテスト2回目 テキスト イタリア	テスト ユニット7	ユニット7指定のあった単語を覚える 発表準備
11	テキスト イタリア	単語テスト ユニット7 グループ発表	ユニット7指定のあった単語を覚える 発表準備
12	テキスト タイ	単語テスト ユニット13 グループ発表	ユニット13指定のあった単語を覚える 発表準備
13	テキスト オーストラリア	単語テスト ユニット1	ユニット1指定のあった単語を覚える 発表準備
14	テキスト 中国	単語テスト ユニット2 グループ発表	ユニット2指定のあった単語を覚える 発表準備 テスト勉強の為の復習
15	チェックテスト3回目	テスト 再テスト グループ発表	

関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Practical English Conversation
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Around the Globe	Masamichi Asama	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	ただテキストをやるだけでなく、英語の内容を膨らませて興味がわく内容にしたいと思っています。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師控室（7号館2F）
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	Global Issues	科目名 (英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	多様なメディア（新聞・雑誌・インターネット等）の英語に触れ、日本と国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておく必要がある。英語で書かれている内容と日本語で書かれている内容の比較等を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and course orientation	Self-introductions, grammar/vocabulary quiz, preview textbook and DVD intro.	Buy the textbooks
	2	Introduction to reading and critical thinking	How to read effectively? Strategies	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note
	3	Unit 1: Life changes	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	4	Unit 2: Team Power	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	5	Unit 3: Ocean Wonders	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	6	Unit 4: What we wear	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	7	Group Presentations		
	8	Unit 5: Moments and Memories	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	9	Unit 6: Building Solutions	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	10	Unit 7: Roads to Fame	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	11	Unit 8: Face Off	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	12	Unit 9: Community Voices	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	13	Unit 10: Robots and Us	Listening (TED Talk), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note
	14	Group Presentations		
	15	Final review of the course content		

関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Practical English Conversation
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon	
	2	21st Century Reading Creative Thinking and Reading with Ted Talks (1)	Longshaw & Blass	Cengage
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	Don't be afraid to make mistakes - mistakes mean you remember for next time!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	グローバル経済論	科目名(英文)	Global Economy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム及び国際貢献プログラム科目である。 経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉はTPP交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。
---------	--

到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。
------	---

授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。
----------	-------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習
4	アメリカIT企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習
7	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習
8	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習
9	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習
10	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習
11	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習
12	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習
13	グローバル化と伝統的共同体の解体	教科書 第14章	事前・教科書予習
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習
15	まとめ		

関連科目	国際ビジネスプログラム科目、国際貢献プログラム科目
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題提出(20%)、定期試験(80%)で総合評価する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	芸能と文化	科目名(英文)	Performing Arts and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	芸能は演者、観客、庇護者により生み出される文化である。この講義では日本独特の文化として紹介されることの多い茶の湯、立花、能、狂言、歌舞伎、文楽、話芸を取り上げる。その源流、変遷、特徴を知り、作品鑑賞の方法を身につけることを目指す。実地体験を織り交ぜる。
到達目標	日本の古典芸能に関する基礎的な知識を身につける。すなわち古典芸能の歴史、用語、代表的な演目、演者、鑑賞の仕方などについて知る。
授業方法と留意点	毎回スライド・ビデオを使用する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格。日本の代表的な芸能に対する理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	遊芸 茶の湯(1)	茶の湯の源流 室町文化	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町文化について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
2	遊芸 茶の湯(2)	侘び茶 千利休	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、千利休について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
3	遊芸 茶の湯(3)	千宗旦 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
4	遊芸 立花(1)	立花 池坊専好	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、立花について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
5	遊芸 立花(2)	大名の立花 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
6	舞台芸 能(1)	散楽 猿楽四座	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、能楽を見ておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
7	舞台芸 能(2)	世阿弥 夢幻能	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、世阿弥について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
8	舞台芸 能(3)	桃山時代の能 江戸時代の流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、関連する能楽を見ておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
9	舞台芸 狂言	歴史 流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、狂言を見ておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
10	舞台芸 文楽	人形劇の歴史 近松門左衛門	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、文楽を見ておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
11	舞台芸 歌舞伎(1)	江戸の荒事 市川団十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
12	歌舞伎(2)	上方の和事 坂田藤十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容を調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
13	舞台芸 歌舞伎(3)	舞台・演出の革新 幕末の歌舞伎	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎を見ておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
14	語り芸	平家琵琶	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、平家琵琶について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	
15	話芸	落語 講談	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、落語・講談について調べておく(90分) 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)	

関連科目	日本の歴史・美術のあゆみ・文化と表現
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート(15%)・定期試験(85%) 受講態度を加味する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	実際の舞台や芸能を見たり、茶の湯などを体験することを勧めます。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階(岩間研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	芸能文化論	科目名(英文)	Studies in Performing Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	芸能は演者、観客、庇護者により生み出される文化である。この講義では日本独特の文化として紹介されることの多い茶の湯、立花、能、狂言、歌舞伎、文楽、話芸を取り上げる。その源流、変遷、特徴を知り、作品鑑賞の方法を身につけることを目指す。実地体験を織り交ぜる。
到達目標	日本の古典芸能に関する基礎的な知識を身につける。すなわち古典芸能の歴史、用語、代表的な演目、演者、鑑賞の仕方などについて知る。
授業方法と留意点	毎回スライド・ビデオを使用する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格。日本の代表的な芸能に対する理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	遊芸 茶の湯(1)	茶の湯の源流 室町文化	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町文化について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
2	遊芸 茶の湯(2)	侘び茶 千利休	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、千利休について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
3	遊芸 茶の湯(3)	千宗旦 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
4	遊芸 立花(1)	立花 池坊専好	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、立花について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
5	遊芸 立花(2)	大名の立花 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
6	舞台芸 能(1)	散楽 猿楽四座	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、能楽を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
7	舞台芸 能(2)	世阿弥 夢幻能	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、世阿弥について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
8	舞台芸 能(3)	桃山時代の能 江戸時代の流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、関連する能楽を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
9	舞台芸 狂言	歴史 流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、狂言を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
10	舞台芸 文楽	人形劇の歴史 近松門左衛門	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、文楽を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
11	舞台芸 歌舞伎(1)	江戸の荒事 市川團十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
12	歌舞伎(2)	上方の和事 坂田藤十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容を調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
13	舞台芸 歌舞伎(3)	舞台・演出の革新 幕末の歌舞伎	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
14	語り芸	平家琵琶	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、平家琵琶について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
15	話芸	落語 講談	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、落語・講談について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)

関連科目	日本の歴史・美術のあゆみ・文化と表現
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート(15%)・定期試験(85%) 受講態度を加味する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	実際の舞台や芸能を見たり、茶の湯などを体験することを勧めます。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階(岩間研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	言語学	科目名(英文)	Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	「言語学」という学問分野を理解し、外国語学習に役立てることができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行われるが、受講生ができるだけ参加できるようにする。必要に応じてプリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	言語の多様なしくみを深く知ることができる。音声学と合わせて3・4年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。また、現在学んでいる主言語、共通言語に対する学習効果の向上も期待できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでおくこと。
2	言語と言語学	言語とは何か。どのような役割を持っているのか理解する。また、「言語学」と「言語」についても説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
3	日本語と外国語	なぜ外国語を学ぶのか。日本語の中の借用語(語源)	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
4	世界の言語1	世界にはいくつくらい言語が存在するのか、そして自分たちが学んでいる言語はどのような位置づけにあるのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
5	世界の言語2(比較言語学)	次回までに、言語はどのように分類されるのか。そして自分たちが学んでいる言語はどのように分類されるのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
6	言語と国、社会とのかかわり(社会言語学)	国語、公用語の社会における言語の役割を考える。(社会言語学)	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
7	言語の構造	言語はどのような構造を持っているのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
8	音素(音韻論)	外国語を学ぶための「発音」とは何かを理解する。様々な言語における音素を理解する。どのような要素がどのような役割を持っているのか学ぶ。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
9	アクセント、声調、呼吸段落	アクセント、声調、呼吸段落等の役割を説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
10	文字1	文字の歴史、系統について、例を挙げ説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
11	文字2	世界で現在使われている文字について説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
12	形態素1(形態論)	単語はどのように出来上がっているのか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
13	形態素2(形態論)	単語はどのように変化するのか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
14	語彙、単語の意味(意味論)	外国語の意味をどうとらえるか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。
15	総復習	理解度確認テスト。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。

関連科目 音声学・各言語科目等。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 課題と平常点と臨時試験によって評価する。

学生へのメッセージ この授業は、外国語学部で外国語を学ぶための基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。

担当者の研究室等 7号館5階 山口室

備考

科目名	現代学術論	科目名(英文)	Contemporary Scientific Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	現代のさまざまな文化(サブカルチャー)が、どのような歴史的な厚みをもっているのか、具体的な事例にそって見ていく。身近な生活のなかで出会った文化の問題を、たんに生活のなかだけで終わらせず、歴史的な文脈のなかに置きなおして考えてみる訓練、ささいな日常のなかから、「学問」「学術」という厚みのある世界へとつないでいく方法の獲得——これがこの講義の目的です。
到達目標	現代文化を「学術」へと深化させる手述を具体的に体得し、各自のテーマに即して研究する方法を身につける。
授業方法と留意点	講義が中心となる。厳正な姿勢でのぞむこと。座席は指定する場合がある。
科目学習の効果(資格)	資格試験のベースとなる、教養・語彙力・文章読解力・思考力の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入：現代学術の諸問題	この講義全体の目的について概説する。	——
2	サブカルチャー論(現代学術と神話学) 1	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
3	サブカルチャー論(現代学術と神話学) 2	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
4	サブカルチャー論(現代学術と神話学) 3	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
5	民俗学と民話学 1	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
6	民俗学と民話学 2	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
7	民俗学と民話学 3	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
8	映像文化の誕生と現代学術論 1	現代文化の代表である映画の誕生と展開についてその歴史的経緯を解説し、現代学術とのかかわりを考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
9	映像文化の誕生と現代学術論 2	現代文化の代表である映画の誕生と展開についてその歴史的経緯を解説し、現代学術とのかかわりを考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
10	映像文化の誕生と現代学術論 3	アニメ「アトム」の誕生と思想的背景について現代学術論の視点から考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
11	漫画を学問する 1	漫画文化の源流と展開を追いながら、その現代学術としての可能性を考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
12	漫画を学問する 2	漫画文化の源流と展開を追いながら、その現代学術としての可能性を考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
13	祭りとスポーツ 1	サッカーの起源を探究し、現代文化のなかで有するスポーツの意義について認識を深める。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
14	祭りとスポーツ 2	サッカーの起源を探究し、現代文化のなかで有するスポーツの意義について認識を深める。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
15	総合評価授業	授業全体をまとめ、総合問題を解く。	ノートの総整理と講義内容の要点整理

関連科目 文化科目全般。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題、中間テストを中心に、授業時に回収したコメントや課題レポート等を加えて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代文化が、とおい時代から蓄積された文化の厚みのうえに成り立っていることを発見し、それらが現代学術のなかでどのように議論されているかを認識する機会にしてほしい。
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。



科目名	現代社会論	科目名(英文)	Modern Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	昨今、私たちの日常において、「少子化」や、「女子会」、「アラフォー(around forty)」、「婚活」、「イクメン」、「パワハラ」といった新しい概念をもった言葉が頻りに使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本講義においては、こういった言葉や言説をめぐるとして、さまざまなレンズを使って見直して通じて、私たちの住むこの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義では特に、社会と人との関わり合いの観点に焦点を絞ることとする。
到達目標	本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となろう。
授業方法と留意点	本授業は、一方的な講義形式に終わらせること無く、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。
科目学習の効果(資格)	現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「現代社会論」の目指すこと	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
	2	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
	3	人間関係の社会学	現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
	4	血液型性格判断からみえるもの	血液型性格判断を通じて、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	5	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
	6	人口減少社会の構造	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の構造について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。
	7	人口減少社会の問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	8	各国の人口問題(人口減少社会と人口過剰社会の仕組み)	各国の人口問題を把握するとともに、各国が取り組んでいる施策について検討する。	日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
	9	セックスとジェンダー	男と女をめぐる固定観念について考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	10	男と女の関係性	男と女を題材に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
	11	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	12	個人と集団	自殺や犯罪という行為を事例に取り上げ、個人主義と集団主義について考える。	「社会規範」の意味について考えてみましょう。
	13	家族の役割	現代社会における家族の意味と役割について考える。	自身の家族間での位置づけについて客観的に捉え直してみよう。
	14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール(たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE等)の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみよう。
	15	まとめ	「人」「モノ」「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。	これまで何に学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題 I・II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	学期末の定期試験を実施する。 時にはレポートを課し、また、授業時における積極的な発言等も評価対象とし、総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
----------	---

学生へのメッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
----------	--------------

備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの進行にかかわらず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。 本授業における事前・事後学習課題は、総時間60時間を目安とする。
----	--

科目名	現代中国論	科目名(英文)	Contemporary China
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向の授業となりがちなので、受講生からの質問は随時受け付ける。
科目学習の効果(資格)	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ユニットⅠ 現代中国の概況	国土、自然、地域区分、人口	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差
2	ユニットⅠ 現代中国の概況	民族、宗教、行政	学習課題：多民族、与野党、地方自治
3	ユニットⅠ 現代中国の概況	人口問題、一人っ子政策	インドと中国の人口増加を比較し、今後の世界の人口問題を考察する。
4	ユニットⅠ 現代中国の概況	教育問題	学習課題：教育産業化、貧困学生、
5	ユニットⅡ 歴史と現状	毛沢東の時代	学習課題：建国初期の課題と政策
6	ユニットⅡ 歴史と現状	鄧小平と改革解放	学習課題：なぜ改革解放政策をとるか
7	ユニットⅡ 歴史と現状	農村改革と民工問題	改革の成果と問題点を考察する。
8	ユニットⅡ 歴史と現状	都市化の進展	学習課題：都市化に伴って城郷格差の拡大
9	ユニットⅢ 経済	計画経済体制から市場経済体制への転換	学習課題：計画経済と市場経済は何か
10	ユニットⅢ 経済	現代経済と若者文化	学習課題：中国特色的市場経済、若者の価値観
11	ユニットⅢ 経済	高齢社会と貧富格差の拡大	学習課題：中国の養老問題、社会福祉の利弊。
12	ユニットⅣ 生活	生活観の新動向	学習課題：貯蓄型から消費型への変化
13	ユニットⅣ 生活	消費費の変化	学習課題：都市市場の消費事情と農村市場の開拓
14	ユニットⅣ 生活	中国時事問題(台湾問題、チベット問題)	学習課題：台湾と大陸の現状、少数民族問題の現状と展望
15	結び	中国社会の光と影	学習課題：改革解放以来の成果と問題点。現代中国のイメージについて考察する。

関連科目	日中関係論
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時チェックテストを行い知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各60分の学修を要する。 チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階非常勤講師控室
------------	--------------

科目名	現代東南アジア論	科目名(英文)	Modern Southeast Asian History Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	東南アジアにおける国民国家の成り立ちとその後の社会状況について講義する。東南アジアの国々の多くは第二次世界大戦後に独立を達成した。西洋近代に出自を持つ「国民国家」が移植され、それに付随して「民主主義」や「人権」といった概念も導入され、それぞれの地域において独特の像を結んでいる。本講義では、東南アジアにおける国民国家がどのように成立してきたか、また、どのような社会的葛藤を抱えているのかを示すことを目指す。																																																																		
到達目標	現代の東南アジア諸国における社会状況の把握を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	東南アジアについて基礎的な知識を習得済みであることが望ましいが、初学者も歓迎する。各時間ごとに、感想や、こちらが提示する簡単な設問についての考えを書いてもらう。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジアの現在</td> <td>東南アジアの基礎知識を概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>マレーシア1</td> <td>マレーシアの歴史概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>マレーシア2</td> <td>マレーシアにおけるネーション概念</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>マレーシア3</td> <td>マレーシアにおける「民主主義」</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>インドネシア1</td> <td>インドネシアの歴史概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>インドネシア2</td> <td>インドネシアにおけるネーション概念</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>インドネシア3</td> <td>「インドネシア人」をめぐる</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>中間まとめ</td> <td>マレーシアとインドネシアの比較と論点整理</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>タイ1</td> <td>タイの歴史概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>タイ2</td> <td>タイにおけるネーション概念</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>タイ3</td> <td>タイにおける宗教と政治</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>東ティモール1</td> <td>東ティモールの歴史概説</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>東ティモール2</td> <td>東ティモールにおけるネーション概念</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体のまとめ</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	2	東南アジアの現在	東南アジアの基礎知識を概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	3	マレーシア1	マレーシアの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	4	マレーシア2	マレーシアにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	5	マレーシア3	マレーシアにおける「民主主義」	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	6	インドネシア1	インドネシアの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	7	インドネシア2	インドネシアにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	8	インドネシア3	「インドネシア人」をめぐる	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	9	中間まとめ	マレーシアとインドネシアの比較と論点整理	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	10	タイ1	タイの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	11	タイ2	タイにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	12	タイ3	タイにおける宗教と政治	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	13	東ティモール1	東ティモールの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	14	東ティモール2	東ティモールにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)	15	まとめ	授業全体のまとめ	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
2	東南アジアの現在	東南アジアの基礎知識を概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
3	マレーシア1	マレーシアの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
4	マレーシア2	マレーシアにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
5	マレーシア3	マレーシアにおける「民主主義」	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
6	インドネシア1	インドネシアの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
7	インドネシア2	インドネシアにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
8	インドネシア3	「インドネシア人」をめぐる	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
9	中間まとめ	マレーシアとインドネシアの比較と論点整理	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
10	タイ1	タイの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
11	タイ2	タイにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
12	タイ3	タイにおける宗教と政治	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
13	東ティモール1	東ティモールの歴史概説	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
14	東ティモール2	東ティモールにおけるネーション概念	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	関連する文献を紹介するので読むこと。(4.5時間)																																																																
関連科目	東南アジアに関する講義科目すべて、文化人類学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30%)と、授業期間中に行う課題(70%)から総合的に評価する。詳細は初回の授業時に指示する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館5階(上田研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	現代ラテンアメリカ論	科目名(英文)	Contemporary Latin American Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	現在のラテンアメリカ社会の基本的な構造を作ったのは、欧米による植民地支配であり、それは現在も、開発や援助あるいはグローバリゼーションの名のもとに形を変えて継続している。ラテンアメリカ社会の本質を近代世界システムの中で歴史的に理解できるようにするとともに、ラテンアメリカを亜地域に分け、その具体像を通してラテンアメリカの現状を知り、現代世界の中に位置づける。
到達目標	欧米中心のものの方や価値観に囚われず、より均衡のとれた複眼的思考を見につける。
授業方法と留意点	ラテンアメリカをサブリージョンに分類し、視聴覚教材を用いながら、社会・文化・政治・経済などの角度から多面的な当該地域の理解を図る。毎回資料を配布し、関連する映画・ドキュメンタリー作品等を例示したり、報道記事を紹介する。できるかぎり観たり読んだりしたうえで授業に臨むとより効果的な学習となる。
科目学習の効果(資格)	「ラテンアメリカの社会と文化」で学んだ当該地域の特色を、さらに具体的に深く理解する。 英語圏とくに米国発の情報のみならず、異なる言語文化圏の視点に立った世界観をも知る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地域の概要	ラテンアメリカの地理・自然環境・言語文化	地図を思い浮かべられる程度までじっくりと見ておく
	2	社会・文化の起源と形成過程	先住民文化:先コロンブス時代の諸文明(メソアメリカ/アンデス)、植民地支配の影響、イベリア文化の「伝統」とメスティサヘ、現代の多文化状況	先住民文明(マヤ、アステカ、インカなど)についての何らかの文献を読んでおく
	3	メキシコ	現代メキシコをみる二つの視座 メキシコの自然環境と社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	4	メキシコ	近現代史を貫く三つの革命 現代メキシコ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	5	中米地域	現代中米諸国をみる視点 中米地峡の自然環境と文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	6	中米地域	軍事政権の系譜と民主化の進展 米国との関係 政治統合の破綻と経済統合の進展	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	7	カリブ海地域	カリブ海地域の自然環境と文化 近代世界史とカリブ海地域	配布資料を読み、文学・映画作品を読み鑑賞しておく。
	8	カリブ海地域	植民地支配の遺産と自立への道	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。 中間レポートへの取組み
	9	アンデス諸国	アンデス世界の多様性 ペネズエラ、コロンビア、エクアドル	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	10	アンデス諸国	ペルー、ボリビア、チリ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	11	ラブラタ地域	ラブラタ地域を捉える視点 アルゼンチン	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	12	ラブラタ地域	ウルグアイ、パラグアイ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	13	ブラジル	植民地時代のブラジル 大陸国家の統合と近代化、開発と環境問題	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	14	ラテンアメリカと日本の関係	移住の歴史と現代の経済協力・文化交流関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	15	講義内容のまとめ 到達目標確認テストと解説	現代ラテンアメリカの課題とその取組み、NGO(日本も含めた)の可能性	総復習と期末レポートへの取組み

関連科目 2年次向けの「ラテンアメリカの社会と文化」「ラテンアメリカ史学」「ラテンアメリカ文学」が基礎となる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間でのレポートおよび到達目標確認テスト
学生へのメッセージ	日本からは遠い国々であるだけに、具体像を抱いてもらえるようテーマに直結する取材映像を駆使しつつ、いつでも何でも質問しやすい雰囲気の方角性の授業をめざします。なぜだろうと考えること、もっと知りたいと本を読むこと、それを続けてください。
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	国際関係の基礎理解	科目名(英文)	Introduction to International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠

授業概要・目的	【この科目は国際貢献プログラム及び国際教養プログラム科目です(2015年度入学生)】 国際関係についての基礎的理解は、グローバル化された今日の社会で生活するうえで不可欠となっています。この授業では、国際関係で起こる出来事について、受講生が主体的に理解と判断できるようになることを目指します。国際関係論の方法に基づいて今日の国際関係の動きを考える視座を養うとともに、今日我々が生きていくうえで無視することのできない重要なテーマについて講義を行い、能動的な学修を行います。
到達目標	国際関係での出来事について、出来事の行為主体の関係について捉えるとともに、関連する考え方を参照し、自分の意見を言うことができるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義の形式をとりますが、授業の場で、講師から学生に(簡単な)質問をし、意見や答えを求めることもあります。また、受講人数によっては、学生どうしでディスカッションをしたり、グループで作業をしてもらうこともあります。受講人数や受講者の関心に合わせて、適宜予定を変更・調整する場合があります。各講義内容の理解度を深めるために復習として、次回の講義までに課題を与えミニレポートを作成してもらいます。教科書の指定はありません。シラバスに明記した参考書以外にも、文献や映像資料などを授業の中で紹介する予定です。
科目学習の効果(資格)	国際関係の構造的な理解や国際関係論についての基礎知識が得られる。 新聞・テレビなどのメディアを通じて報道される国際問題について、単なる知識としてではなく、より深い視座をもって理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	序論と歴史(1)	国際関係論とはどのような学問なのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
2	序論と歴史(2)	20世紀の国際関係をどう理解するのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
3	国際関係の現状(1)	今日の国際関係をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
4	国際関係の現状(2)	グローバル化の時代をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
5	国際関係の現状(3)	現代の安全保障をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
6	国際関係の現状(4)	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
7	国際関係の現状(5)	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
8	国際関係の理論(1)	世界観と国際関係論の構築	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
9	国際関係の理論(2)	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
10	国際関係の理論(3)	リージョナリズムと欧州統合	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
11	現代国際関係の課題(1)	南北問題をどう解決するのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
12	現代国際関係の課題(2)	非国家アクターの台頭をどう見るのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
13	現代国際関係の課題(3)	市民社会は世界を動かすことができるのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
14	現代国際関係の課題(4)	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
15	講義の総括 到達度の確認をはかる課題	—	—

関連科目 【国際貢献プログラム及び国際教養プログラム科目(2015年度入学生)】

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Next 教科書シリーズ 国際関係論	佐渡友 哲・信夫 隆司	弘文堂
2			
3			

評価方法(基準)	ほぼ毎週課す講義課題レポート 40%、到達度の確認をはかる課題 60% ただし受講生の人数によっては、評価方法を変更することがあります。
学生へのメッセージ	ただ出席するだけでなく、自分が関心を持っている国、問題などを具体的に思い浮かべながら、積極的な姿勢で講義を聴いてください。授業中、こちらから(簡単な)質問をし、意見や答えを求めることもあります。受講人数によっては、学生どうしでディスカッションしてもらっても構いません。
担当者の研究室等備考	非常勤講師室(7号館2階)

科目名	国際関係論	科目名(英文)	International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠

授業概要・目的	【この科目は国際貢献プログラム及び国際教養プログラム科目です(2015年度入学生)】 国際関係についての基礎的理解は、グローバル化された今日の社会で生活するうえで不可欠となっています。この授業では、国際関係で起こる出来事について、受講生が主体的に理解と判断できるようになることを目指します。国際関係論の方法に基づいて今日の国際関係の動きを考える視座を養うとともに、今日我々が生きていくうえで無視することのできない重要なテーマについて講義を行い、能動的な学修を行います。
到達目標	国際関係での出来事について、出来事の行為主体の関係について捉えるとともに、関連する考え方を参照し、自分の意見を言うことができるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義の形式をとりますが、授業の場で、講師から学生に(簡単な)質問をし、意見や答えを求めることもあります。また、受講人数によっては、学生どうしでディスカッションをしたり、グループで作業をしてもらうこともあります。受講人数や受講者の関心に合わせて、適宜予定を変更・調整する場合があります。各講義内容の理解度を深めるために復習として、次回の講義までに課題を与えミニレポートを作成してもらいます。教科書の指定はありません。シラバスに明記した参考書以外にも、文献や映像資料などを授業の中で紹介する予定です。
科目学習の効果(資格)	国際関係の構造的な理解や国際関係論についての基礎知識が得られる。 新聞・テレビなどのメディアを通じて報道される国際問題について、単なる知識としてではなく、より深い視座をもって理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	序論と歴史(1)	国際関係論とはどのような学問なのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
2	序論と歴史(2)	20世紀の国際関係をどう理解するのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
3	国際関係の現状(1)	今日の国際関係をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
4	国際関係の現状(2)	グローバル化の時代をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
5	国際関係の現状(3)	現代の安全保障をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
6	国際関係の現状(4)	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
7	国際関係の現状(5)	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか。	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
8	国際関係の理論(1)	世界観と国際関係論の構築	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
9	国際関係の理論(2)	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
10	国際関係の理論(3)	リージョナリズムと欧州統合	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
11	現代国際関係の課題(1)	南北問題をどう解決するのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
12	現代国際関係の課題(2)	非国家アクターの台頭をどう見るのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
13	現代国際関係の課題(3)	市民社会は世界を動かすことができるのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
14	現代国際関係の課題(4)	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか	次回の講義までに講義内容についての課題レポートを提出(課題は講義中に発表)
15	講義の総括 到達度の確認をはかる課題	—	—

関連科目 【国際貢献プログラム及び国際教養プログラム科目(2015年度入学生)】

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Next 教科書シリーズ 国際関係論	佐渡友 哲・信夫 隆司	弘文堂
2			
3			

評価方法(基準) ほぼ毎週課す講義課題レポート 40%、到達度の確認をはかる課題 60%  
ただし受講生の人数によっては、評価方法を変更することがあります。

学生へのメッセージ ただ出席するだけでなく、自分が関心を持っている国、問題などを具体的に思い浮かべながら、積極的な姿勢で講義を聴いてください。  
授業中、こちらから(簡単な)質問をし、意見や答えを求めることもあります。  
受講人数によっては、学生どうしでディスカッションしてもらい、意見や答えを求めることもあります。

担当者の研究室等備考 非常勤講師室(7号館2階)

科目名	国際機構論	科目名(英文)	International Organizations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	国連機関は一体どんな働きをしているのだろうか。この講義は、国際機関の基礎的知識を学ぶことを目的としている。
到達目標	国際機構との関わりにおいて、過去の歴史から見た国際関係と現在について原理・概念がもつ重要性や課題を理解する。
授業方法と留意点	各講義は、起承転結で構成する。起：テーマのイントロダクション、承：デオ・スライドを多様してビジュアルに国際機関の現状を知る、転：テーマ内容を深く掘り下げる、結：まとめ。各講義の最後 20～30 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果(資格)	国際機関で働くために知っておくべき基礎的な教養

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____
2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開
3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開
4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開
5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開
6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開
7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開
8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開
9	テロリズム	9・11事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開
10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開
12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開
13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なのかを紐解く	前回の復習と、次回への展開
14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開
15	記述式総括確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	_____

関連科目	国際協力論、国際ボランティア論
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	記述式小テストや記述式小レポートにより総合的に評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座として役割を果たします。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館5階(浅野研究室)
------------	--------------

科目名	国際協力論	科目名(英文)	International Cooperation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	国際協力は、開発途上国に対する援助供与という視点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。 なお、2015年度入学生には、この科目は国際貢献プログラム科目である。																																																																		
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。																																																																		
授業方法と留意点	摂南大学を休学・卒業して青年海外協力隊に参加している学生からの現地報告や、ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際協力の現状を知る。各講義の最後15～20分間は、質疑応答の時間とする。																																																																		
科目学習の効果(資格)	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクションと授業内容概要</td> <td>国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際協力とは何か</td> <td>国際協力の意味</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の国際協力</td> <td>日本が行ってきた国際協力について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>非政府組織(NGO)</td> <td>NGOの得意な分野と苦手な分野</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>草の根組織・地方自治体</td> <td>普通の人が出来た国際協力</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>国際連合</td> <td>様々な組織とその役割</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国際協力を受ける国々(1)</td> <td>開発途上国(アジア)について(過去・現在・将来)</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国際協力を受ける国々(2)</td> <td>開発途上国(アフリカ)について(過去・現在・将来)</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>国際協力を受ける国々(3)</td> <td>開発途上国(アジア・アフリカ以外の国)について(過去・現在・将来)</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>国際協力の仕組み</td> <td>国際協力の仕組みを解明する</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>人・物・金</td> <td>国際協力にまつわるキーワード</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>国際協力の課題</td> <td>主要援助国が抱える国際協力問題について</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>開発教育</td> <td>開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>国際協力の課題</td> <td>今後、国際協力はどうあるべきかを考える</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括的確認(必ず出席すること)</td> <td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td> <td>_____</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____	2	国際協力とは何か	国際協力の意味	前回の復習と、次回への展開	3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	前回の復習と、次回への展開	4	非政府組織(NGO)	NGOの得意な分野と苦手な分野	前回の復習と、次回への展開	5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来た国際協力	前回の復習と、次回への展開	6	国際連合	様々な組織とその役割	前回の復習と、次回への展開	7	国際協力を受ける国々(1)	開発途上国(アジア)について(過去・現在・将来)	前回の復習と、次回への展開	8	国際協力を受ける国々(2)	開発途上国(アフリカ)について(過去・現在・将来)	前回の復習と、次回への展開	9	国際協力を受ける国々(3)	開発途上国(アジア・アフリカ以外の国)について(過去・現在・将来)	前回の復習と、次回への展開	10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	前回の復習と、次回への展開	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開	12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	前回の復習と、次回への展開	13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	前回の復習と、次回への展開	14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開	15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	_____
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____																																																																
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	前回の復習と、次回への展開																																																																
3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	前回の復習と、次回への展開																																																																
4	非政府組織(NGO)	NGOの得意な分野と苦手な分野	前回の復習と、次回への展開																																																																
5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来た国際協力	前回の復習と、次回への展開																																																																
6	国際連合	様々な組織とその役割	前回の復習と、次回への展開																																																																
7	国際協力を受ける国々(1)	開発途上国(アジア)について(過去・現在・将来)	前回の復習と、次回への展開																																																																
8	国際協力を受ける国々(2)	開発途上国(アフリカ)について(過去・現在・将来)	前回の復習と、次回への展開																																																																
9	国際協力を受ける国々(3)	開発途上国(アジア・アフリカ以外の国)について(過去・現在・将来)	前回の復習と、次回への展開																																																																
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	前回の復習と、次回への展開																																																																
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開																																																																
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	前回の復習と、次回への展開																																																																
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	前回の復習と、次回への展開																																																																
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開																																																																
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	_____																																																																
関連科目	国際貢献プログラム科目(2015年度入学生)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ</td> <td>浅野英一</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ	浅野英一	実教出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ	浅野英一	実教出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	記述式小テストの総計により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力に興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																																																																		
備考																																																																			



科目名	国際貢献実習演習	科目名(英文)	International Service Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	①フィリピン・ミンダナオにあるNGOハウスオブジョイ(HOJ)児童養護施設での実践型貢献実習と②ミンダナオ国際大学での英語実習を複合的に組み合わせた3週間の海外プログラムである。参加メンバー(履修生)との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。																
到達目標	①使える語学力(英語)や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体に活動ができる。																
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育 4回程度(生活環境・語学・習慣・ハートアクティビティプログラム*の習得) 現地活動 2017年2月中旬～3月上旬の3週間を予定している。  *ハートアクティビティ(Human Relation Training)プログラム:いろいろなゲームを通して、緊張をほぐし、お互いに尊重することを学び、コミュニケーションや協力関係、豊かな人間関係を築いていくためのプログラム。  履修登録時の注意事項:  受け入れ施設に宿泊制限があるため、上限は最大15名とする。履修希望者が15名を超えた場合、オリエンテーションの時に、履修希望調査レポートを提出し、履修理由とモチベーションを総合的に判断し15名を決定する。履修人数が5名に達しない場合は開講しない。履修希望者は、シラバス内容だけでなく、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けずに履修申請した場合、履修を取り消すことがある。																
関連科目	国際協力論、国際関係論、ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	成績評価は、事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	JICA ボランティア(青年海外協力隊)に参加したい場合、国内外のボランティア経験が「合格」の鍵となる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修希望者は、事前に担当教員の研究室を訪問し、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。																

科目名	国際社会論	科目名(英文)	International Sociology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	この講義では、ナショナリズムとグローバリゼーションという現代の国際社会を動かしている2つの基本的な動向について考察を進め、十分な理解と問題意識を形成することが目的である。 そのために、まず基本的な概念(ネイション、民族、国民等)について理解することが必要である。 さらに、これら2つの動向を理解する上で必要な背景知識として、近代化、文明について概念的に理解するとともに、そこに伏在する問題に対して開かれた眼を持つことも必要である。
到達目標	基本的な概念を十分に理解し、さらに、第三者に説明できる。 ナショナリズムの問題について十分に理解し、第三者に説明できるだけでなく、自分なりの問題意識をもつ。 グローバリゼーションの問題について、十分に理解し、第三者に説明できるだけでなく、グローバリゼーションに対して自分の立場から評価を行うことができる。
授業方法と留意点	ノート講義方式をとる。適宜、資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	エスニシティ・民族・国民	概念の区別と整理 エスニシティをめぐる立場の対立	基本的な概念について自分なりに調べてくる 塩川『ネイションと民族』を参照
3	ネイションについて	さまざまな「ネイション」観 ネイションの形成(ドイツ、日本) ナショナリズム	塩川『民族とネイション』を参照
4	文明の生態史観について	文明とは何か 文明の生態史観 文明と国家——古代・中世と近代以降	梅棹忠夫『文明の生態史観』を読む
5	文明の関係をめぐる歴史	宗教と文明の問題 文明の衝突(ハンチントン)	「文明の衝突」に対する自分の考えをまとめる
6	ナショナリズム(1)	ナショナリズムとは何か ヨーロッパのナショナリズム 帝国主義とナショナリズム	塩川『民族とネイション』を参照
7	ナショナリズム(2)	ソ連邦とナショナリズム 民族自決の問題	塩川『民族とネイション』を参照
8	近代化(1)	ヨーロッパの近代化 科学・技術 近代的自我の問題 ネイションと近代化	近代化についてのイメージをまとめる 授業をまとめる
9	近代化(2)	ヨーロッパ以外の近代化 日本、トルコ、中国	日本の近代化について知っていることを整理する 日本と他の国の近代化を比較する
10	グローバリゼーション(1)	グローバリゼーションとは何か グローバリゼーションの諸側面	グローバリゼーションの意味を調べておく。また、 グローバリゼーションの事例も挙げられるように する
11	グローバリゼーション(2)	経済におけるグローバリゼーション 多国籍企業と労働の「自由化」の問題 金融の「自由化」の問題	授業内容をまとめる
12	グローバリゼーション(3)	グローバリズムの問題 グローバリゼーションをめぐる論争 グローバル化	グローバリゼーションに対する自分自身の考えを まとめる。
13	多文化主義の問題(1)	多文化主義とは何か	授業内容をまとめる
14	多文化主義の問題(2)	政策としての多文化主義の実践と問題 カナダ オーストラリア ドイツ	授業内容をまとめる
15	おわりに	講義の総括	復習

関連科目	暮らしの中の文化、多文化の共生、世界の地理
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文明の生態史観	梅棹忠夫	中公文庫
	2	民族とネイション	塩川伸明	岩波新書
	3			

評価方法(基準)	レポート・平常点(40%)、学期末試験(60%)
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	国際社会論の扱う問題は、歴史的な背景もその地理的な広がりともになかなか捉えがたいところがあります。授業は理解することが難しいかも知れませんが、頑張って取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階
備考	事前事後学習におよそ60時間必要。

科目名	国際文化概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Foreign Cultures I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	この講義では、ナショナリズムとグローバリゼーションという現代の国際社会を動かしている2つの基本的な動向について考察を進め、十分な理解と問題意識を形成することが目的である。 そのために、まず基本的な概念（ネイション、民族、国民等）について理解することが必要である。 さらに、これら2つの動向を理解する上で必要な背景知識として、近代化、文明について概念的に理解するとともに、そこに伏在する問題に対して開かれた眼を持つことも必要である。
到達目標	基本的な概念を十分に理解し、さらに、第三者に説明できる。 ナショナリズムの問題について十分に理解し、第三者に説明できるだけでなく、自分なりの問題意識をもつ。 グローバリゼーションの問題について、十分に理解し、第三者に説明できるだけでなく、グローバリゼーションに対して自分の立場から評価を行うことができる。
授業方法と留意点	ノート講義方式をとる。適宜、資料を配付する。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	「国際社会論」のあり得べきテーマ 授業の概要と目標の説明	授業内容をまとめる
2	エスニシティ・民族・国民	概念の区別と整理 エスニシティをめぐる立場の対立	基本的な概念について自分なりに調べてくる 塩川『ネイションと民族』を参照
3	ネイションについて	さまざまな「ネイション」観 ネイションの形成（ドイツ、日本） ナショナリズム	塩川『民族とネイション』を参照
4	文明の生態史観について	文明とは何か 文明の生態史観 文明と国家——古代・中世と近代以降	梅棹忠夫『文明の生態史観』を読む
5	文明の関係をめぐる歴史	宗教と文明の問題 文明の衝突（ハンチントン）	「文明の衝突」に対する自分の考えをまとめる
6	ナショナリズム（1）	ナショナリズムとは何か ヨーロッパのナショナリズム 帝国主義とナショナリズム	塩川『民族とネイション』を参照
7	ナショナリズム（2）	ソ連邦とナショナリズム 民族自決の問題	塩川『民族とネイション』を参照
8	近代化（1）	ヨーロッパの近代化 科学・技術 近代的自我の問題 ネイションと近代化	近代化についてのイメージをまとめる 授業をまとめる
9	近代化（2）	ヨーロッパ以外の近代化 日本、トルコ、中国	日本の近代化について知っていることを整理する 日本と他の国の近代化を比較する
10	グローバリゼーション（1）	グローバリゼーションとは何か グローバリゼーションの諸側面	グローバリゼーションの意味を調べておく。また、 グローバリゼーションの事例も挙げられるように する
11	グローバリゼーション（2）	経済におけるグローバリゼーション 多国籍企業と労働の「自由化」の問題 金融の「自由化」の問題	授業内容をまとめる
12	グローバリゼーション（3）	グローバリズムの問題 グローバリゼーションをめぐる論争 グローバル化	グローバリゼーションに対する自分自身の考えを まとめる。
13	多文化主義の問題（1）	多文化主義とは何か	授業内容をまとめる
14	多文化主義の問題（2）	政策としての多文化主義の実践と問題 カナダ オーストラリア ドイツ	授業内容をまとめる
15	おわりに	講義の総括	復習

関連科目 暮らしの中の文化、多文化の共生、世界の地理

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文明の生態史観	梅棹忠夫	中公文庫
	2	民族とネイション	塩川伸明	岩波新書
	3			

評価方法（基準）	レポート・平常点（40%）、学期末試験（60%）
学生へのメッセージ	国際社会論の扱う問題は、歴史的な背景もその地理的な広がりともになかなか捉えがたいところがあります。授業は理解することが難しいかも知れませんが、頑張って取り組んでください。
担当者の研究室等	7号館4階
備考	事前事後学習におよそ60時間必要。

科目名	国際文化概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Foreign Cultures II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは「和食」「名前」といった身近なものです。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果(資格)	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	復習
2	和食の歴史(1)	和食に対するイメージや考えをみなで考え、整理します。	復習
3	和食の歴史(2)	和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	復習
4	和食の歴史(3)	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	復習
5	和食の歴史(4)	現代における和食の実態や問題点について考えます。	復習
6	名前の歴史と文化(1)	日本における姓名の歴史について考えます。	復習
7	名前の歴史と文化(2)	日本における家族の歴史と文化について考えます。	復習
8	名前の歴史と文化(3)	日本における共同体と家について考えます。	復習
9	映画『もののけ姫』にみる日本文化(1)	エミシの世界 「日本」の枠組みについて考えます。	復習
10	映画『もののけ姫』にみる日本文化(2)	ヤマトの世界 モデルとなった室町時代の村、町場、戦争などについて考えます。	復習
11	映画『もののけ姫』にみる日本文化(3)	タタラ場の世界 タタラ製鉄や石火矢について考えます。	復習
12	映画『もののけ姫』にみる日本文化(4)	シシガミの世界 日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	復習
13	映画『もののけ姫』にみる日本文化(5)	『もののけ姫』世界の構成 4つの世界の関係について考えます。	復習
14	映画『もののけ姫』にみる日本文化(6)	『もののけ姫』とは何か? この映画を通じてどのような事を語れるのか、講義参加者がそれぞれ考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います(持ち込み可)	今までのノートをまとめておく

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポート、小テストなどによって評価します。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Webや図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	国際平和論	科目名(英文)	International Peace Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊東 未来

授業概要・目的	<p>「今日もここに暮らす人々は平和に暮らしました」という報道をめったに見聞きしないように、「平和」はニュースになりません。一方で、平和でない状況は、毎日のように報じられています。</p> <p>これまで多くの人びとが切実に平和を望んできたにもかかわらず、現在も世界には平和とは言えない状況がさまざまに起きています。その理由や原因は多様で複雑です。ときに人びとは平和以外の何かを平和よりも優先させています。あるいは、ある時代・ある地域に暮らす人々にとっての「平和」と、別の時代・地域に生きる人たちの「平和」は、必ずしも同じものではありません。</p> <p>「平和」とは何か、なぜ人々が長きにわたって希求しているにもかかわらず、多くの場合平和は実現されないのか。こうした問いを、具体的な事例から考えることが、本講義の目的です。</p>
---------	---

到達目標	<p>到達目標</p> <p>① 具体的な事例から、「平和」とはいかなるものかを考える。</p> <p>② グローバル化されていく世界の中で、様々な文化背景をもつ人びとと平和的なコミュニケーションができるようになるための、基本的な考え方を理解する</p> <p>③ 国際平和に関する様々な思想や方策に対して批判的な解釈に立った見解を持つことができる。</p>
------	---

授業方法と留意点	基本的に毎回、授業の内容について適宜小レポートを書いてもらい、それをもとに議論していきます。受講者で分担して、指示した文献・資料についての要約(レジュメ)を用意してもらうことがあります。その要約をもとに議論します。
----------	---

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションとイントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
2	グローバル世界における平和(1)	現代において平和を実現するために求められること。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
3	グローバル世界における平和(2)	現代において平和を実現するために求められること。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
4	平和の現実主義(1)	平和をめぐる現実主義的な考え方について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
5	平和の現実主義(2)	平和をめぐる現実主義的な考え方について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
6	平和の理想主義(1)	「理想」としての平和について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
7	平和の理想主義(2)	「理想」としての平和について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
8	核兵器と軍縮(1)	軍隊や兵器の存在と平和との関連について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
9	核兵器と軍縮(2)	軍隊や兵器の存在と平和との関連について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
10	貧困と飢餓(1)	紛争の火種としての貧困について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
11	貧困と飢餓(2)	紛争の火種としての貧困について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
12	抑圧とデモクラシーについて(1)	社会内部での対立構造と、対立の民主的解決について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
13	抑圧とデモクラシーについて(2)	社会内部での対立構造と、対立の民主的解決について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
14	文化的多様性と平和	文化的共存の難しさと国際平和について。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。
15	講義のまとめと到達度の確認	これまでの議論をどこまで理解できたか確認。	〈事前〉授業で配布された資料を読み直しておくこと。 〈事後〉授業のまとめの小レポート。

関連科目	社会の探究、世界の政治、国際関係の基礎理解、平和の思想
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小レポートおよび授業への参加態度(70%)、講義内での到達度の確認(30%)
----------	--

学生へのメッセージ	授業中の私語、携帯電話の使用などで授業を妨害したものには退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業にのぞんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師控室(7号館2階)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	国際ボランティア論	科目名(英文)	International Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本講義では国際ボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国際 NGO、NPO、JICA ボランティア青年海外協力隊や民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国際的社會常識と知識を深める。国際貢献プログラム科目。																																																																		
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクションと授業内容概要</td> <td>授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(起-1) ボランティア</td> <td>ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(起-2) 国際理解</td> <td>なぜ貧困に悩まされているのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(起-3) 国際協力</td> <td>国際協力とは何かを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(承-1) 貧困の現状把握</td> <td>貧困で悩んでいる国々の現状を知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>(承-2) 国際協力の現状把握</td> <td>どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア</td> <td>国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)</td> <td>国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)</td> <td>国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)</td> <td>国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって</td> <td>国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>(結-2) 自分に何ができるのか</td> <td>ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>(結-3) 更なる発展に向けて</td> <td>ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>今後の課題</td> <td>ボランティア活動の諸問題と克服について知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括的確認(必ず出席すること)</td> <td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る	—————	2	(起-1) ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開	3	(起-2) 国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開	4	(起-3) 国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開	5	(承-1) 貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開	6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開	7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開	8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開	9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開	10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開	11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開	12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開	13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開	14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開	15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る	—————																																																																
2	(起-1) ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開																																																																
3	(起-2) 国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
4	(起-3) 国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
5	(承-1) 貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開																																																																
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開																																																																
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開																																																																
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	—————																																																																
関連科目	国際貢献プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ</td> <td>浅野英一</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ	浅野英一	実教出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ	浅野英一	実教出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	記述式小テストや小レポートにより総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	前期の国際協力論を履修することでこの講義内容が理解しやすくなる。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ことばと意味	科目名(英文)	Languages and Meanings
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	<p>この科目は、外国語専門職プログラム科目です。</p> <p>ことばが持つ意味というのは、突き詰めていけば非常に難しく、その分興味深いテーマです。ことばの意味について知るということは、私たちがどのようにことばで伝達を行っているかについて知ることであります。そして、何気なく使っている日本語や英語に対する考え方がさらに広がり深まることでしょう。</p> <p>本授業は、ことばの「意味」について、体系的かつ総合的に学習し、ことばが持つ意味の複雑さや素晴らしさ、それらを理解して使っている人の賢さや優しさを改めて考えることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<p>言語学のような理論、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会学的アプローチ、認知言語学、などを通して、ことばが持つ「意味」とは、どのようなものか、人はそれをどのように理解するのかについて学ぶことを目標とします。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義形式なので、授業内容をよく聞いて、しっかりノートを取ってください。</p> <p>配布資料と辞書は忘れないで持参してください。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	教職課程科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の進め方</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>言語学について</td> <td>音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2種類の意味</td> <td>自然的意味と恣意的意味</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>形態論による意味</td> <td>意味の最小単位</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>音韻論による意味</td> <td>イントネーション</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>意味論による意味</td> <td>単語について 外延の意味と内包の意味</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>意味論による意味</td> <td>文について</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>統語論による意味</td> <td>形が表す意味</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>発話の意味</td> <td>文脈に基づいた意味 明示の意味と含意</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>明示の意味</td> <td>飽和、曖昧性除去、自由拡充、アドホック概念構築</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>発話行為、命題態度</td> <td>高次の意味</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>含意</td> <td>明示の意味から含意へ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レトリック</td> <td>メタファー、メトニミー、アイロニー</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>社会語用論の意味</td> <td>ジェンダー、レジスター</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>授業の復習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方	復習	2	言語学について	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	復習	3	2種類の意味	自然的意味と恣意的意味	復習	4	形態論による意味	意味の最小単位	復習	5	音韻論による意味	イントネーション	復習	6	意味論による意味	単語について 外延の意味と内包の意味	復習	7	意味論による意味	文について	復習	8	統語論による意味	形が表す意味	復習	9	発話の意味	文脈に基づいた意味 明示の意味と含意	復習	10	明示の意味	飽和、曖昧性除去、自由拡充、アドホック概念構築	復習	11	発話行為、命題態度	高次の意味	復習	12	含意	明示の意味から含意へ	復習	13	レトリック	メタファー、メトニミー、アイロニー	復習	14	社会語用論の意味	ジェンダー、レジスター	復習	15	まとめのテスト	授業の復習	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方	復習																																																																
2	言語学について	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	復習																																																																
3	2種類の意味	自然的意味と恣意的意味	復習																																																																
4	形態論による意味	意味の最小単位	復習																																																																
5	音韻論による意味	イントネーション	復習																																																																
6	意味論による意味	単語について 外延の意味と内包の意味	復習																																																																
7	意味論による意味	文について	復習																																																																
8	統語論による意味	形が表す意味	復習																																																																
9	発話の意味	文脈に基づいた意味 明示の意味と含意	復習																																																																
10	明示の意味	飽和、曖昧性除去、自由拡充、アドホック概念構築	復習																																																																
11	発話行為、命題態度	高次の意味	復習																																																																
12	含意	明示の意味から含意へ	復習																																																																
13	レトリック	メタファー、メトニミー、アイロニー	復習																																																																
14	社会語用論の意味	ジェンダー、レジスター	復習																																																																
15	まとめのテスト	授業の復習																																																																	
関連科目	外国語専門職プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト、授業態度、まとめのテスト、などを総合的に判断して評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	普段何気なく使っていることばが持っている意味について、興味を持って授業に参加してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	視覚芸術論	科目名(英文)	Visual Art
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。 博物館における映像メディアの役割を理解する。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり 1	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり 2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現 1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現 2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える 博物館における映像の役割を考える	写真について復習する

関連科目	博物館科目
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	期末レポートを実施 受講態度を加味する
----------	------------------------

学生へのメッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------



科目名	時事インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Media Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目	総合マレー語 a & b、マレー語圏トピックス II
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2			
	3			

評価方法 (基準)	確認テスト (70%)、発表や提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。
学生への	日本や他国の時事問題にも関心を持つようになしてください。

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階(上田研究室)
備考	『マレーシア語辞典ポケット版』で調べてもわからない単語や表現は、参考書に指定したマレー語の辞典(本学図書館所蔵)で調べること。

科目名	時事インドネシア・マレー語 b	科目名 (英文)	Media Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	この授業では、これまでに獲得したインドネシア語運用能力を存分に発揮し、新聞や雑誌に掲載されるニュース記事を読み込み、現代インドネシア社会の理解を深める。
到達目標	インドネシア語のニュース読解を通じて、インドネシア社会の構造はもちろんのこと、日本社会あるいは世界の社会についての理解力を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	各回毎に次回の授業で使用するニュース記事プリントを配布するので、予習をしておくこと。 時事ニュース記事を読解する際、インドネシア語の基本的な運用能力だけでは理解が難しい。予習にあたっては、インドネシア共和国の諸制度、社会事情および専門用語についても理解を深めるよう留意すること。参考図書等は随時紹介する。 授業時には、辞書を必ず携行すること。 また、インドネシアのニュースを理解するためには日本のニュースにも関心を向ける必要がある。よって、「ニュース時事能力検定試験」を受検してもらうことになるので、その点、留意のこと。
科目学習の効果 (資格)	時事インドネシア語文の読解を通じて、日本をはじめとした世界各国における社会制度の理解がしやすくなる。さらに、インドネシア語技能検定の上位級取得が可能となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業の進め方の説明および時事インドネシア語文の特徴にかんする解説を行う。	学んだことの再確認
2	日本をめぐる報道①	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
3	日本をめぐる報道②	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
4	日本をめぐる報道③	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
5	日本をめぐる報道④	日本関連記事の講読を行い、インドネシア人による日本理解の一端を探る。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
6	国際ニュース①	インドネシアで報道される国際ニュースの読解を通じて、国際関係についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
7	国際ニュース②	インドネシアで報道される国際ニュースの読解を通じて、国際関係についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
8	国際ニュース③	インドネシアで報道される国際ニュースの読解を通じて、国際関係についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
9	総まとめと中間テスト	これまでに学んだことの総復習を行い、中間テストを実施する。	中間テストに向けての事前学習
10	インドネシア国内ニュース①	国内ニュースの読解を通じて、インドネシア社会についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
11	インドネシア国内ニュース②	国内ニュースの読解を通じて、インドネシア社会についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
12	インドネシア国内ニュース③	国内ニュースの読解を通じて、インドネシア社会についての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
13	最新インドネシア事情①	インドネシアの若者事情や社会状況をめぐる最新ニュースの読解を通じて、今のインドネシアについての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
14	最新インドネシア事情②	インドネシアの若者事情や社会状況をめぐる最新ニュースの読解を通じて、今のインドネシアについての理解を深める。	ニュース記事プリントの予習 学んだことの再確認
15	総まとめと理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認を行う。	理解度確認テストに向けての事前学習

関連科目 インドネシア語科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新インドネシア語小辞典第 1.4 版	佐々木重次編	Grup Sanggar
2				
3				

評価方法 (基準) 中間テストおよび理解度確認テストの結果、授業への積極的な参加の度合いなどをもとに総合的に評価する。

学生へのメッセージ 時事問題について語り合い、知的関心を大いに深めてゆきましょう。

担当者の研究室等 7号館 4階(浦野研究室)

備考 本授業では、できるだけ最新の時事ニュースを題材として進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの進行にかかわらず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。  
毎回の予習および学んだことの確認 (復習) をするため、毎週少なくとも 1 時間程度は時間の確保をすること。

科目名	思想と文化	科目名(英文)	Ideas and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的 日本文化や思想の形成の歴史やその特質を、時代ごとに区分して把握することをめざす。世界の中で日本人はいかなる思想や文化を伝統として保持してきたのか、国際社会のなかでいかなる特質を保持しているのか、明快な言葉で説明できるようにする。

到達目標 日本文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、全体像を的確に把握できるようにする。

授業方法と留意点 プリントによる講義が中心となる。

科目学習の効果(資格) 広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本文化の源流	講義内容全体への導入と日本文化の源流をたどる。	プリント・ノートの復習
2	古代国家の形成と日本神話	国家の形成と神話の世界との関わりを探究する。	プリント・ノートの予習・復習
3	仏教の受容とその発展	仏教受容のプロセスとその後の変容について考える。	プリント・ノートの予習・復習
4	漢風文化から国風文化へ	平安中期の文化の特色について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
5	平安時代の仏教思想	平安時代に展開された日本仏教の成立と特質について認識を深める。	プリント・ノートの予習・復習
6	鎌倉仏教の成立とその思想	革新的な仏教がどのように生み出されたのか、主要な宗教者を取り上げて解説する。	プリント・ノートの予習・復習
7	内乱期の思想と文化	東山文化を中心に、室町期の「道の文化」のあり方について解説する。	プリント・ノートの予習・復習
8	戦国期の文化と思想	戦国乱世の武士の生き方や思想について解説する。	プリント・ノートの予習・復習
9	江戸時代の文化と思想①	江戸時代の文化の流れについてその全体を俯瞰する。	プリント・ノートの予習・復習
10	江戸時代の文化と思想②	近松門左衛門の作品や思想について解説する。	プリント・ノートの予習・復習
11	明治期の文化と思想	明治期に日本文化を海外に紹介した人物を取り上げ、その作品を解説する。	プリント・ノートの予習・復習
12	大正期の文化と思想	大正時代の文化・思想の特質について解説する。	プリント・ノートの予習・復習
13	戦後の思想	敗戦後の日本の思想と	プリント・ノートの予習・復習
14	現代思想とそのゆくえ	現代の大衆文化の形成と特質について解説する。	プリント・ノートの予習・復習
15	総合確認テスト	講義内容全体に関する確認テストを行う	ノートの総合整理

関連科目 文化科目全般。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本文化の歴史	尾藤正英	岩波書店
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト・総合テスト・課題レポート等の総合評価

学生へのメッセージ 教養は飾りではなく生き抜くための武器である。

担当者の研究室等 7号館4階(小川研究室)

備考 事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。

科目名	実践インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	この授業では、特定分野のインドネシア語の講読を行う。状況にふさわしい作文も行う。この授業を通じて高度なインドネシア語能力や専門的なインドネシア語能力を養うことを目的とする。
到達目標	1. 特定の専門的な分野のインドネシア語を読み書きする技術を得ること。 2. 特定の専門的な分野の知識を養うこと。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的かつ専門的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新聞記事の講読 1	新聞記事の文体に慣れる。	事前にインドネシアでどのような新聞が発行されているのか調べておくこと。
2	新聞記事の講読 2	新聞記事中に現れる略語、専門用語の調べ方。	図書館へ行き、色々な辞書を使い、文献を読んで予習をしておくこと。
3	新聞記事の講読 3	長文の内容を把握する練習。	予習と復習の徹底。
4	1. 新聞記事の内容把握試験 2. 陥りやすいミスの克服	1. 新聞記事を読み、大意を把握する能力の試験。 2. ミスの克服をめざす。	これまでの授業を徹底して復習すること。
5	学術雑誌の講読 1	学術雑誌の文体に慣れる。	予習として、日本語で書かれた学術雑誌を1つ読み、小説とは異なる学術論文のスタイルを知っておくこと。
6	学術雑誌の講読 2	学術文を正確に読む。	図書館へ行き、さまざまな辞書や事典を使い、文献を読んで予習をすること。
7	学術雑誌の講読 3	文の前後関係を正確に把握する。	図書館へ行き、さまざまな辞書や事典を使い、文献を読んで予習をすること。
8	学術的な文章の書き方 1	学術文の文体に慣れる。	第5回から第8回までの復習。
9	学術的な文章の書き方 2	的確な文を書く練習。	前回の復習。
10	1. 学術文の書き方試験 2. 陥りやすいミスや癖の改善	1. 学術文を書く能力の試験。 2. 陥りやすいミスや癖を見つけて改善する。	第8回、第9回の復習。
11	エッセイの講読 1	エッセイの文体に慣れる。	第10回の復習。 第11回の予習。
12	エッセイの講読 2	エッセイを読む。	予習と復習の徹底。
13	エッセイの講読 3	エッセイを理解する。	予習と復習の徹底。
14	1. エッセイの翻訳試験 2. 陥りやすいミスや癖の改善	1. エッセイの内容を把握して翻訳する能力の試験 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。	第11回から第13回までの復習。
15	短い詩の講読	短い詩を読む。	代表的な詩人について、事前に調べておくこと。

関連科目 主言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. 予習・復習・準備からなるホームワーク (20%) 2. 授業での発表 (20%) 3. 授業期間中に3回行われる試験 (60%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ 1. 予習ならびに準備として、関連分野の日本語文献・インドネシア語文献を調べて読んでおくこと。  
2. 必ず復習をおこなうこと。

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	実践インドネシア・マレー語 b	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的  
日々の文脈で使用されているマレー語に触れながら、話す・書くといったマレー語の実践的な運用能力の獲得を目指す。フォーマル/インフォーマルなさまざまな局面でのマレー語を使った適切な表現を理解するとともに、マレー語で意志を伝達することの訓練を行う。

到達目標  
マレー語能力 (特に会話と表現) の向上。

授業方法と留意点  
\*資料の収集やマレー語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。  
\*授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
2	紹介 1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成
5	演習 1	紹介文を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。
6	文書 1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲
9	演習 2	作成した文書を発表するとともに、既習事項の理解を問うための確認テストを行う。	確認テストのために、既習事項を確認する。
10	広告 1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備
14	演習 3	第 13 講義までの内容について復習するとともに、理解度を問う確認テストをおこなう。	既習事項の復習。
15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成

関連科目  
総合マレー語、時事インドネシア・マレー語 a、マレー語圏トピックス 2

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのこぼと辞書の会
2				
3				

評価方法 (基準)  
確認テスト (60%)、発表等や提出物の提出状況等授業への取り組み (40%) から総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
マレー語を使った表現を楽しみましょう。

担当者の研究室等  
7号館5階上田研究室

備考  
受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。

科目名	生涯学習概論	科目名(英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 考成

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけること。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持つこと。
授業方法と留意点	配布プリントと板書による講義中心で授業を行います。一回は展示施設の見学を行う予定です。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	生涯学習論について	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	必要ありません。
2	生涯学習とはなにか	生涯学習の意味とその歴史・背景について概要をお話しします。	次回の授業の前提の話ですので、見直しを推奨します。
3	社会教育と生涯学習の誕生①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	次回の授業に続きますので、見直しを推奨します。
4	社会教育と生涯学習の誕生②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	ありません。
5	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	授業後、機会があれば近隣自治体などで実状を見ることを推奨します。
6	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	授業後、新聞やネットで行政の対応の確認を推奨します。
7	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	授業後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を考えてください。
8	生涯学習と社会教育施設	社会教育施設の実態とそれぞれの資格について概要をお話しします。	授業後、周りの社会教育施設を再確認することを推奨します。
9	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	直後に適塾の見学を予定していますので、ある程度の復習を推奨します。
10	図書館と生涯学習	図書館の役割と問題点、その実態についてお話しします。	授業後、大学はもちろん周辺の図書館を再確認することを推奨します。
11	博物館と生涯学習	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	授業後、近隣の博物館の見学を推奨します。
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	授業後、周囲の歴史についてもう一度考え直してください。
13	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	授業後、周辺の自治体主催事業について再確認を推奨します。
14	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習しておくことを推奨します。
15	現地見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	直前の授業内容の復習を推奨します。

関連科目	教育系科目群
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
	2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
	3			

評価方法(基準)	試験期間に筆記試験を行います。配布プリントと自筆のノートのみ持ち込み可です。ただし、配布プリントのコピーは許可します。
----------	---

学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、臨時試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階非常勤講師室
------------	-------------

科目名	生涯学習論	科目名(英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 考成

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけること。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持つこと。
授業方法と留意点	配布プリントと板書による講義中心で授業を行います。一回は展示施設の見学を行う予定です。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			必要ありません。
1	生涯学習論について	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	
2	生涯学習とはなにか	生涯学習の意味とその歴史・背景について概要をお話しします。	次回の授業の前提の話ですので、見直しを推奨します。
3	社会教育と生涯学習の誕生①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	次回の授業に続きますので、見直しを推奨します。
4	社会教育と生涯学習の誕生②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	ありません。
5	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	授業後、機会があれば近隣自治体などで実状を見ることを推奨します。
6	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	授業後、新聞やネットで行政の対応の確認を推奨します。
7	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	授業後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を考えてください。
8	生涯学習と社会教育施設	社会教育施設の実態とそれぞれの資格について概要をお話しします。	授業後、周りの社会教育施設を再確認することを推奨します。
9	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	直後に適塾の見学を予定していますので、ある程度の復習を推奨します。
10	図書館と生涯学習	図書館の役割と問題点、その実態についてお話しします。	授業後、大学はもちろん周辺の図書館を再確認することを推奨します。
11	博物館と生涯学習	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	授業後、近隣の博物館の見学を推奨します。
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	授業後、周囲の歴史についてもう一度考え直してください。
13	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	授業後、周辺の自治体主催事業について再確認を推奨します。
14	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習しておくことを推奨します。
15	現地見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	直前の授業内容の復習を推奨します。

関連科目	教育系科目群
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
	2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
	3			

評価方法(基準)	試験期間に筆記試験を行います。配布プリントと自筆のノートのみ持ち込み可です。ただし、配布プリントのコピーは許可します。
----------	---

学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、臨時試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階非常勤講師室
------------	-------------



科目名	上級検定インドネシア語	科目名(英文)	Practice for Advanced Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験C級の過去問題に取り組み、C級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験C級レベルの語彙や文法事項を学ぶことができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	主言語インドネシア語科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的参加度合、小テスト等による総合評価、なお、インドネシア語技能検定試験の結果も考慮する。
----------	--

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。半期中の事前・事後の学習は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	--

科目名	初級検定インドネシア語	科目名(英文)	Practice for Elementary Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験E級の過去問題に取り組み、E級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験E級レベルの語彙や文法事項を学ぶことができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的参加度合、小テスト等による総合評価、なお、インドネシア語技能検定試験の結果も考慮する。
----------	--

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。半期中の事前・事後学習は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	---

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設)            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など)            レポートの書き方            (タイピング、パソコン等による文章作成)            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	浅野研究室（7号館5階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	天野研究室（7号館3階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設)            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など)            レポートの書き方            (タイピング、パソコン等による文章作成)            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	有馬研究室(7号館4階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b></p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) キャリアデザイン、キャリアプランニング 大学生活の目標 その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b></p> <p>出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	岩間研究室(7号館5階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設)            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など)            レポートの書き方            (タイピング、パソコン等による文章作成)            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	浦野研究室(7号館4階)																
備考																	



科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	大原関研究室（7号館5階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	小川研究室（7号館4階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設)            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など)            レポートの書き方            (タイピング、パソコン等による文章作成)            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	門脇研究室(7号館4階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	神崎研究室（7号館5階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	篠原研究室（7号館5階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	杉浦研究室（7号館5階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	田中研究室（7号館4階）※スチューデントアワーは木曜5時限です。																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)																
備考																	



科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設)            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など)            レポートの書き方            (タイピング、パソコン等による文章作成)            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計30h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	橋本研究室(7号館4階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	林田研究室（7号館4階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	山口研究室（7号館5階）																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容、方法】</b>            第1回目：授業の目的、自己紹介            第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて            第3回目以降：内容は前後することがある。            大学生活・大学生の守るべきルールについて            摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設）            ノートの取り方            図書館の活用            メディア・リテラシー            （本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など）            レポートの書き方            （タイピング、パソコン等による文章作成）            キャリアデザイン、キャリアプランニング            大学生活の目標            その他</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b>            出された課題に取り組む            漢字・時事問題テストの予習・復習をする            レポートを作成する            (合計 30 h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	吉村研究室（7号館3階）																
備考																	

科目名	スキズ トレーニング I a	科目名 (英文)	Skills Training Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have+to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		暗唱英文100	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング I b	科目名 (英文)	Skills Training Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 マクガバン研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have + to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文100』1-5を暗唱する	Orientation and Self-Introduction 5文型について	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have + to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		暗唱英文100	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らず、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホへ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have+to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
	2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習の基礎を固める科目ですから真剣に取り組んでください。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	田中（秀）研究室（7号館4階） ※チューデント・アワーは木曜5時限です。
----------	--------------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have + to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らず、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have+to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3	Bottom Up Listening for the TOEIC Test	湯舟 英一	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	リスニング力を向上するには時間がかかります。一年生の時からしっかりとがんばってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキिल्ズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』6-10を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 肯定文と否定文	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』11-15を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No 疑問文	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』1-15を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』16-20を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 疑問詞	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』21-25を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work there + be 動詞	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』26-30を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work it の用法	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』16-30を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』31-35を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work Let's の用法	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』36-40を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 過去形	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』41-45を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 can, could	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』46-50を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work have + to 不定詞	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』1-25を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』26-50を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階松田研究室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3	Strike Up The TOEIC Test Listening	塚田 幸光	金星堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	リスニング力を向上するには時間がかかります。一年生の時からしっかりとがんばってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 『暗唱英文100』51-55を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 『暗唱英文100』51-55を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
	2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習の基礎を固める科目ですから真剣に取り組んでください。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	田中（秀）研究室（7号館5階） ※チューデント・アワーは木曜5時限です。
----------	--------------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 『暗唱英文100』51-55を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らず、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
	2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 8th ed. (オックスフォード現代英英辞典第8版)		オックスフォード
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習の基礎を固める科目ですから真剣に取り組んでください。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 大原関研究室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	英語学習の基盤となるスキルを習得する。
到達目標	辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
授業方法と留意点	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、共通テスト（口頭）を実施する。学期末に4技能オンラインテストを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 『暗唱英文100』51-55を暗唱する	Orientation and Self-Introduction some と any	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises 『暗唱英文100』56-60を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 for	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises 『暗唱英文100』61-65を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 時間の前置詞 during	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises 『暗唱英文100』51-65を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（1）	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises 『暗唱英文100』66-70を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 手段の前置詞 by	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises 『暗唱英文100』71-75を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 形容詞の比較級	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises 『暗唱英文100』76-80を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在完了	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises 『暗唱英文100』66-80を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（2）	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises 『暗唱英文100』81-85を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 助動詞 + 受動態	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises 『暗唱英文100』86-90を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 現在分詞 k	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises 『暗唱英文100』91-95を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 関係代名詞	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises 『暗唱英文100』96-100を暗唱する	Individual Task, Pair work, and group work 仮定法	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises 『暗唱英文100』51-75を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法のまとめ（3）	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises 『暗唱英文100』76-100を復唱する	Individual Task, Pair work, and group work 文法の総まとめ	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ、および共通テスト「口頭」を実施する	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	

関連科目	ポキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（口頭）、オンラインテストの成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（口頭）の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語学力を向上させるには、毎日の学習が不可欠です。コツコツと忍耐強く学習しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 マクガバン研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング I a	科目名 (英文)	Speaking Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 『暗唱英文 100』1-5 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 基本文型のパタン	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパタン	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパタン	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパタン	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパタン	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&グラマー a
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。          ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。</p>		
学生への メッセージ	<p>A notebook and writing materials are needed for this course. Come see me anytime you have any questions or need any help.</p>		
担当者の 研究室等	<p>7号館 2階 非常勤講師室</p>		
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。</p>		

科目名	スピーキング I b	科目名 (英文)	Speaking Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ボキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
学生への メッセージ	A notebook and writing materials are needed for this course. Come see me anytime you have any questions or need any help.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム

授業概要・目的	This is an intermediate level English communication class with the goal of developing speaking and conversation skills skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations. After taking this course, students should be able to feel confident in discussing issues, debating both sides, discussing related issues in other countries, and be confident to speak up and give their own opinion with the necessary vocabulary to do so.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction オリエンテーション	Introductions, explaining the class, overview.	Have your text book and bring it to class.
	2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about yourselves. Telling about yourself. Your likes and dislikes. Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のボタン	Review vocabulary on p3 Preview and Learn vocabulary on p13
	3	Unit 2 Friendship	Exchanging personal information. Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Unit 3 "Special" Friends	Describing your student life. Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Describing photographs.	Individual Task, Pair work, and group work	Find 3 photographs. Make 5 good questions for each and take them to class 6
	6	Asking and answering questions about photographs	Individual Task, Pair work, and group work	Bring your photos and questions to class. (don't forget them)
	7	Unit 4 Shopping and money.	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Narration	Individual Task, Pair work, and group work	Find a simple picture book story. Bring its to the next class. (don't forget it)
	9	Narration	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Role Play	Individual Task, Pair work, and group work	Learn your lines for a simple act of a play.
	11	Conduct a role play	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Solving a mystery through communication.	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Review	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 5. Summer Plans	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Reinforcement	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face To Face	Dale Fuller/Corey Fuller	MACMILLAN
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Quantity and quality of speaking, conversation activities done in class each week. Following instruction, preparation for class and listening to others.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--



科目名	スピーキングⅡb	科目名(英文)	Speaking IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム

授業概要・目的	This is an intermediate level English communication class with the goal of developing students listening, reading and speaking skills to enable them to use English with greater confidence and fluency.
到達目標	The objective of the course is to provide students with the practical skills needed to communicate effectively in a wide range of situations. After taking this course, students should be able to feel confident in discussing issues, debating both sides, discussing related issues in other countries, and be confident to speak up and give their own opinion with the necessary vocabulary to do so.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7 Giving Opinions	Describing daily routines.	Students should study the content of the day's lesson
	2	Unit 7 Giving Reasons and support for Opinions.	Talking about what you do. Asking what others do.	Students should study the content of the day's lesson.
	3	Unit 8 Music	Words and expressions for describing people.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	Unit 8 Recording Artists.	Asking others about people in their lives.	Students should study the content of the day's lesson.
	5	Unit 9 Character	Talking about what you will do in the future.	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit 9 Personality Traits.	How you spend your free time.	Students should study the content of the day's lesson.
	7	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Students should study the content of the day's lesson.
	9	Unit 11 Prices and Numbers	Describing events in your life.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	Unit 11 Incomes and Budgets	Asking about people's lives.	Students should study the content of the day's lesson.
	11	Unit 12 Personal Responsibilities.	What you would like to do in the future.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	Unit 12 Personal Experiences.	Asking others about their dreams.	Students should study the content of the day's lesson.
	13	Sequencing a story.	Review of units 10 - 12.	Students should study the content of the day's lesson.
	14	Story Telling	To be announced.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Facing The Future.	Test of units 9 - 12.	Students should study the content of the day's lesson.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face To Face	Dale Fuller/Corey Fuller	MACMILLAN Languagehouse
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Quantity and quality of speaking, conversation activities done in class each week. Following instruction, preparation for class and listening to others.
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	Handout			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	Students will need a notebook, dictionary and word cards.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパタン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパタン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパタン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパタン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	Active Skills for Communication Intro	Chuck Sandy, Curtis Kelly	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	In this class, we will be doing a lot of speaking and writing. To do well, you need to actively participate in class. Don't be afraid to make mistakes.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マシュー クーパー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	English File third edition Elementary MultiPACK A	Clive Oxenden	OUP 978-0-19-451790-4	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレン ニール

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ポキャブラリー&グラマー a
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のボタン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのボタン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のボタン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のボタン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したボタン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のボタン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すボタン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のボタン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すボタン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーマナー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパタン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパタン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパタン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパタン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ポキャブラリー&グラマー a
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	I look forward to our classes. Please relax and have a positive attitude! There will be weekly assessment so it's important to do your homework and participate in the class activities. This lesson will be taught in English.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--



科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	Learn by doing! To become a good speaker of English do your best each and every week in class to use English. Practice makes perfect!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパタン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパタン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパタン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパタン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパタン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパタン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	Interchange Book 1A	Jack C. Richards	Cambridge UP	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーミンム

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&グラマー a
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	I look forward to our classes. Please relax and have a positive attitude! There will be weekly assessment so it's important to do your homework and participate in the class activities. This lesson will be taught in English.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	All the coursework will be done in English. ?
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 5階 マクガバン研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words以上の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』 6-10 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 否定のパターン	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』11-15 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Yes/No で情報を引き出すときのパターン	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 1-15 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』16-20 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Wh 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』21-25 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work How 疑問で情報を引き出す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』26-30 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work It を使用したパターン	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 16-30 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』31-35 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work Let's を使用した勧誘のパターン	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』36-40 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 進行中の動作を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』41-45 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 予定を表す時のパターン	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』46-50 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 義務を表すパターン	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 31-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 1-50 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、ボキャブラリー&文法 a
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	A notebook and writing materials are needed for this course. Come see me anytime you have any questions or need any help.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	Handout			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	Students will need a notebook, dictionary and word cards.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マシュー クーパー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS
--------------	------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文100』56-60の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文100』61-65の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文100』51-65の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文100』66-70の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文100』71-75の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文100』76-80の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文100』66-80の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文100』81-85の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の実験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文100』86-90の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文100』91-95の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文100』96-100の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文100』81-100の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文100』51-100の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		暗唱英文100	
2		English File third edition Elementary MultiPACK B	Clive Oxenden	OUP 978-0-19-451792-8
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。 ※毎回の授業で、『暗唱英文100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	---

学生へのメッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course.
-----------	---

担当者の	7号館2階 非常勤講師室
------	--------------

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。



科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	Learn by doing! To become a good speaker of English do your best each and every week in class to use English. You will succeed!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の実験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Smart Choice 1	Ken Wilson	Oxford University Press
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction 『暗唱英文 100』51-55 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Orientation and Self-Introduction 数量を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	Learn by doing! To become a good speaker of English do your best each and every week in class to use English. Practice makes perfect!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェン パーメンター

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレン ニール

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	All the coursework in this class will be in English.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 マクガバン研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアス

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に50words以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	Please bring a dictionary to class
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	A notebook and writing materials are needed for this course. Come see me anytime you have any questions or need any help.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	Active Skills for Communication Book 1	Chuck Sandy, Curtis Kelly	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
----------	--

学生へのメッセージ	In this class, we will be doing a lot of speaking and writing. To do well, you need to actively participate in class. Don't be afraid to make mistakes.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信、情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC SW, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Exercises 『暗唱英文 100』56-60 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 時間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises 『暗唱英文 100』61-65 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 空間を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises 『暗唱英文 100』 51-65 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises 『暗唱英文 100』66-70 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 手段を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises 『暗唱英文 100』71-75 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 完了を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises 『暗唱英文 100』76-80 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 受動を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises 『暗唱英文 100』 66-80 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises 『暗唱英文 100』81-85 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 過去の経験を表す表現	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises 『暗唱英文 100』86-90 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 知覚の表現	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises 『暗唱英文 100』91-95 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 関係詞の表現	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises 『暗唱英文 100』 96-100 の例文を反復練習し、暗唱およびライティング	Individual Task, Pair work, and group work 仮定の表現	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises 『暗唱英文 100』 81-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises 『暗唱英文 100』 51-100 の復習	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises まとめ	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。※毎回の授業で、『暗唱英文 100』の暗唱を担当教員にチェックされる必要がある。学期末までに、規定数以上のチェックを受けていない学生は、原則として単位が認定されない。
-----------	--

学生へのメッセージ	A notebook and writing materials are needed for this course. Come see me anytime you have any questions or need any help.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who read up on lessons before class and do workbook homework exercises will achieve most from this course - at least 30 minutes should be spent before each class pre-reading the unit to be covered that day.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction and course orientation	Self-introductions, grammar/vocabulary quiz, preview textbook and movie intro.	Buy the textbooks
2	Reading and study strategies	Vocabulary to speak and write	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
3	Chapter 1 Herbivorous Males	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
4	Chapter 1 continued	Movie and Discussion	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
5	Chapter 2 Galapagized Japan	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
6	Chapter 2 continued	Movie and Discussion	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
7	Chapter 3 Uniformity	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
8	Chapter 3 continued	Movie and Discussion	Review for mid-semester assessment next week (Units 1-3) - vocabulary, grammar, movie listening quiz
9	Mid-semester assessment (Chapters 1-3)	Mid-semester assessment (Units 1-3) Vocabulary, grammar, listening (movie)	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
10	Chapter 4 Universities in Japan	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
11	Chapter 4 continued	Movie and Discussion	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
12	Chapter 5 English as a Lingua Franca	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
13	Chapter 5 continued	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
14	News panel presentations from English sources on Chapters 6, 7 and 8	Listening (movie), preparing News panel presentations	Preparation for Presentations
15	Final Group Presentations for Assessment	Presenting on Chapters 6, 7 & 8	

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Good-bye, Galapagos	Paul Stapleton	Cengage
2	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	This class is all in English. You will be able to build up friendships with your fellow students as there is a lot of pairwork and group work sharing current issues, and discussing the books you will read and talking in many different situations. Please come prepared to help create a positive atmosphere.
-----------	---

担当者の研究室等	Building 7, 5th floor - koala poster on the door
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Meeting People	Role plays and a short writing assignment	Materials check; Review today's unit
3	Schedules	Role plays and a short writing assignment	Unit 1 review homework
4	Festivals and Celebrations	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
5	At the Airport	Role plays and a short writing assignment	Unit 2 review homework
6	Giving Travel Advice	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
7	Test 1	The test covers weeks 1-6	Unit 3 review homework; Review the notes from weeks 1-6
8	At a Restaurant	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
9	Cooking	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
10	Common Assignment Preparation	Prepare content for common assignment	Unit 4 Review Homework; Prepare content for common assignment
11	Making Invitations	Role plays and a short writing assignment	Turn in common assignment
12	Talking about Sports	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
13	Talking about Vacations	Role plays and a short writing assignment	Unit 5 review homework
14	Talking about Vacations II	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
15	Test 2	The test covers weeks 8-14	Unit 6 review homework; Review the notes from weeks 8-14

関連科目 リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	World English I	Martin Milner	Cengage Learning
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85%  
共通課題 15%

学生へのメッセージ In this class, we will be doing a lot of speaking and writing. To do well, you need to actively participate in class. Don't be afraid to make mistakes.

担当者の研究室等

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and orientation.	Orientation activities	Follow instructions as given in class.
	2	Unit 1	Text, and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	3	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	4	Unit 1 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
	5	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	6	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	7	Unit 2 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
	8	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	9	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	10	Unit 3 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
	11	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	12	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	13	Unit 4 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
	14	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
	15	Test	Test	Follow instructions as given in class.

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing From Within 1	Kelly, Gargagliano	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Please participate fully and enjoy the class.
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Classroom Procedures, Topic Interview: Best Friends	Interview about Best Friends.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	Unit 0 & 1: Welcome. / Have you two met?	Relationships	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	Unit 2: You must be excited!	Emotions	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	Unit 3: Where should I go?	Places and Travel	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	Topic Interview: Shopping	Interview about Shopping.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test I	会話テスト1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	Unit 4: I love that!	Opinion Adjectives	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	Unit 5: What's your excuse?	Problems and Reasons	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	Unit 6: What's it like there?	Cultural symbols and traditions	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	Topic Interview: Marriage / Video Presentation Basics / Write Speech	Interview about Marriage. Speech samples (Homework Check)	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	Speech: Introduce Someone / Someplace 3 minutes	Power Point, 3-10 slides, USB stick or Web Box.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test I I	会話テスト2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Achievement Test, Units 1-6	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	リーディングIIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 2 (4th edition) Student Book	Marc Helgesen	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーミンム

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	About the "real" you.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
3	About the "real" you.	Writing.	Re-write and review.
4	About the "real" you.	Discussion.	Preview the vocabulary for the next unit.
5	Close Friends.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
6	Close Friends.	Writing.	Re-write and review. Preview the vocabulary for the next unit.
7	Finding a "Special" Friend	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
8	Finding a "Special" Friend	Writing.	Re-write and review. Preview the vocabulary for the next unit.
9	Shopping	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review the vocabulary.
10	Shopping	Writing.	Re-write and review. Find 3 interesting photographs and bring them to class. (Don't Forget)
11	Using Photo prompts.	Speaking and Writing.	Preview the vocabulary for the next unit.
12	Dreaming about the Summer.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	Review.
13	Dreaming about the Summer.	Writing.	Re-write and review.
14	Review.	Speaking and Writing.	Review.
15	Issues	Dealing with any issues.	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 1 2nd edition	Ken Wilson	Oxford Uni. Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(英和・和英)を必ず持参すること Dictionary - book or electronic		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の 効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
------------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Unit 1 Day 1 That's What Friends Are For	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Unit 1 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Unit 2 Day 1 Career Moves	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Unit 2 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit 3 Day 1 Could You Do Me a Favor?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Unit 3 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Midterm Test	Test	...
	9	Unit 4 Day 1 What a Story	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Unit 4 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Unit 5 Day 1 Crossing Cultures	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 5 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 6 Day 1 What's Wrong With It? (Describing problems)	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 6 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Test	Test	...

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Ready to Write 2	Karen Blanchard	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who read up on lessons before class and do workbook homework exercises will achieve most from this course - at least 30 minutes should be spent before each class pre-reading the unit to be covered that day.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Speech strategies	How to give a speech? Recite with a partner? Strategies given to give confidence	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
3	Chapter 9 Lack of Entrepreneurs	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
4	Chapter 9 continued	Movie and Discussion	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
5	Chapter 10 Distinctive Kansai	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
6	Chapter 10 continued	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
7	2-minute speech (mid-term)	Preparation for a 2-minute speech	Learn your speech
8	2-minute speech	Preparation for a 2-minute speech	Learn your speech
9	2-minute speech presentations	Present	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
10	Chapter 11 Fewer Japanese Students Studying Abroad	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
11	Chapter 11 continued	Movie and Discussion	Preview vocabulary and read text for next lesson / Language Note/ Reading
12	Chapter 12 Japanese Quality Food	Listening (movie), reading, speaking activities	Prepare to discuss/ Language Note/ Reading
13	Chapter 12 continued	Movie and Discussion	Preparation for Presentations
14	News panel presentations from English sources on Chapters 13, 14 & 15	Listening (movie), preparing News panel presentations	Preparation for Presentations
15	Group Presentations for Assessment	Presenting on Chapters 13, 14 & 15	

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Good-bye, Galapagos	Paul Stapleton	Cengage
2	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	This class is all in English. You will be able to build up friendships with your fellow students as there is a lot of pairwork and group work sharing current issues, and discussing the books you will read and talking in many different situations. Please come prepared to help create a positive atmosphere.
-----------	---

担当者の研究室等	Building 7, 5th floor - koala poster on the door
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Speaking and Writing IIb	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Prepare note taking materials
	2	Note Taking	Role plays and a short writing assignment	Materials check; Review today's unit
	3	Giving Compliments	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
	4	Making Plans	Role plays and a short writing assignment	Unit 7 review homework
	5	Talking about the Weather	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
	6	Shopping for Clothes	Role plays and a short writing assignment	Unit 8 review homework
	7	Shopping for Souvenirs	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
	8	Test 1	The test covers weeks 1-7	Unit 9 review homework; Review the notes from weeks 1-7
	9	Talking about Problems	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
	10	Common Assignment Preparation	Prepare content for common assignment	Prepare content for common assignment
	11	Visiting a Doctor	Role plays and a short writing assignment	Turn in common assignment
	12	Preparing for a Party	Role plays and a short writing assignment	Unit 10 review homework
	13	Job Interviews	Role plays and a short writing assignment	Review today's unit
	14	Borrowing and Lending	Role plays and a short writing assignment	Unit 11 review homework
	15	Test 2	The test covers weeks 9-14	Unit 12 review homework; Review the notes from weeks 9-14

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World English I	Martin Milner	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	In this class, we will be doing a lot of speaking and writing. To do well, you need to actively participate in class. Don't be afraid to make mistakes.
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー

**授業概要・目的** 「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

**到達目標** CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。

**授業方法と留意点** 写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。

**科目学習の効果 (資格)** TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation and introduction.	Orientation activities.	Follow instructions as given in class.
2	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
3	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
4	Unit 5 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
5	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
6	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
7	Unit 6 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
8	Unit 7	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
9	Unit 7	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
10	Unit 7 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
11	Unit 8	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
12	Unit 8	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
13	Unit 8 Review and writing evaluation.	Peer review and evaluation of written material.	Follow instructions as given in class.
14	Unit 9	Text and pair work activities.	Follow instructions as given in class.
15	Test	Test	Follow instructions as given in class.

**関連科目** リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing From Within 1	Kelly, Gargagliano	Cambridge
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)** 平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85%  
共通課題 15%

**学生へのメッセージ** Please participate fully and enjoy the class.

**担当者の研究室等**

**備考** 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとりいれる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 7: Do you remember when...?	Experiences and past events.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	Unit 8: Let's have a party!	Leisure time activities	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	Unit 9: What should I do?	Personal Problems	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	Topic Interview: Fashion	Interview about Fashion.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	Unit 10: Tell me a story.	Traditional and Modern Story Elements	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	Unit 11: In my opinion...	World Issues Agreement / Disagreement Language	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	Unit 12: It's My Dream!	Dreams and Goals	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	Topic Interview: Holidays / Video: Power Point, SoS 1 Posture & Eye Contact / Write Speech	Interview about Holidays. Speech Samples (Homework Check)	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	Speech: World Issues Unit 11: 3 minutes	Power Point, 3-10 slides, USB stick or Web Box.	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 1-6	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2 (4th edition) Student Book	Marc Helgesen	Pearson Longman
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。



科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーミンハム

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>About you summer.</td> <td>Speaking.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Part-time jobs.</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Part-time jobs</td> <td>Writing.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Expressing opinioions.</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Expressing opinioions.</td> <td>Writing.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Using Photo Prompts</td> <td>Speaking and writing.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Music and expressing preferences.</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Music and expressing preferences</td> <td>Writing.</td> <td>Find the lyrics of a song you like and bring them to class.</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lyrics</td> <td>Speaking and writing.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Character</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Character</td> <td>Writing.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Money</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Money</td> <td>Writing.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Situations in Life.</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>The Future.</td> <td>Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	About you summer.	Speaking.		2	Part-time jobs.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.		3	Part-time jobs	Writing.		4	Expressing opinioions.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.		5	Expressing opinioions.	Writing.		6	Using Photo Prompts	Speaking and writing.		7	Music and expressing preferences.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.		8	Music and expressing preferences	Writing.	Find the lyrics of a song you like and bring them to class.	9	Lyrics	Speaking and writing.		10	Character	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.		11	Character	Writing.		12	Money	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.		13	Money	Writing.		14	Situations in Life.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.		15	The Future.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	About you summer.	Speaking.																																																																	
2	Part-time jobs.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
3	Part-time jobs	Writing.																																																																	
4	Expressing opinioions.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
5	Expressing opinioions.	Writing.																																																																	
6	Using Photo Prompts	Speaking and writing.																																																																	
7	Music and expressing preferences.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
8	Music and expressing preferences	Writing.	Find the lyrics of a song you like and bring them to class.																																																																
9	Lyrics	Speaking and writing.																																																																	
10	Character	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
11	Character	Writing.																																																																	
12	Money	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
13	Money	Writing.																																																																	
14	Situations in Life.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
15	The Future.	Preparation. Thinking questions. Vocabulary. Pair work. Group Work.																																																																	
関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Face to Face</td> <td>Dale Fuller/Corey Fuller</td> <td>MacMILLAN Languagehouse</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Face to Face	Dale Fuller/Corey Fuller	MacMILLAN Languagehouse	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Face to Face	Dale Fuller/Corey Fuller	MacMILLAN Languagehouse																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する																																																																		
担当者の研究室等	7号館非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 1 2nd edition	Ken Wilson	Oxford Uni. Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(英和・和英)を必ず持参すること Dictionary - book or electronic		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング II b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	「スピーキング&ライティング II a」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
到達目標	CEFR-J[A2. 2]を目標とし、より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングをとり入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Unit 1 Day 1 That's What Friends Are For	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Unit 1 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Unit 2 Day 1 Career Moves	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Unit 2 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit 3 Day 1 Could You Do Me a Favor?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Unit 3 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Midterm Test	Test	...
	9	Unit 4 Day 1 What a Story	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Unit 4 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Unit 5 Day 1 Crossing Cultures	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 5 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 6 Day 1 What's Wrong With It? (Describing problems)	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 6 Day 2	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Test	Test	...

関連科目	リーディング II b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Ready to Write	Karen Blachard	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物、発話活動等) 85% 共通課題 15%
-----------	--

学生へのメッセージ	Learning a new language is different from learning other subjects you may be taking. To succeed you must continually learn new vocabulary, discover new communication strategies and speak whenever given the chance. For this reason it is very important to attend every class and try your best to actively speak and listen. If you do this, your communication skills will definitely improve.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	スペイン語Ⅱ a	科目名(英文)	Spanish IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。前期はアルファベットと発音から始めて、教科書の各課を授業二回のペースで進めてゆき、第6課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	アルファベットと発音 教室でよく使う表現	授業後、スペイン語の発音のルールを確認し、教室でよく使う表現を覚えておくこと。
2	第1課(前半)	あいさつ、人称代名詞、動詞 llamar, ser 名前を尋ねる・答える	授業後、人称代名詞と動詞の対応関係について確認し、あいさつに関わる語彙を覚えておくこと。
3	第1課(後半)	動詞 vivir, 文の種類 住まいを尋ねる・答える	授業後、否定文や疑問文のつくり方を確認し、1課で習った動詞の意味と活用形を覚えておくこと。
4	第2課(前半)	名詞の性と数 家族や友達を簡単に紹介する	授業後、名詞の性と数に関わるルールを確認し、国や国籍を示す語彙を覚えておくこと。
5	第2課(後半)	冠詞、数詞 電話番号を尋ねる・答える	授業後、名詞と冠詞の対応関係を確認し、数詞(0~20まで)を覚えておくこと。
6	第3課(前半)	動詞の直説法現在規則活用(-ar型) 話せる言語、学習中の言語について尋ねる・答える	授業後、-ar型動詞の語尾変化について確認し、言語を示す語彙を覚えておくこと。
7	第3課(後半)	動詞の直説法現在規則活用(-er, -ir型) 大学で学んでいることについて尋ねる・答える	授業後、-er型、-ir型動詞の語尾変化について確認し、学問に関わる語彙を覚えておくこと。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第7回までに学習した文法および語彙を総確認しておくこと。
9	第4課(前半)	動詞 hay と estar 建物や施設の有無、所在について尋ねる・答える	授業後、動詞 hay と estar の使い分けについて確認し、建物や施設に関わる語彙を覚えておくこと。
10	第4課(後半)	疑問詞、前置詞、動詞 ir 行き先や交通手段について尋ねる・答える	授業後、不規則動詞 ir の活用を確認し、交通手段に関わる語彙を覚えておくこと。
11	第5課(前半)	目的格人称代名詞 食べ物や飲み物を注文する	授業後、目的格人称代名詞の使い方を確認し、食事に関連した語彙を覚えておくこと。
12	第5課(後半)	動詞 gustar 好みについて尋ねる・答える	授業後、動詞 gustar の使い方を確認し、自分の好きなもの、好きではないものについて作文してみる。
13	第6課(前半)	動詞 tener、所有形容詞 家族や友人を描写する	授業後、動詞 tener の用法を確認し、家族や職業を示す語彙を覚えておくこと。
14	第6課(後半)	その他の不規則動詞、語幹母音変化動詞 年齢や職業について尋ねる・答える	授業後、6課で習った動詞の意味と活用を確認し、数詞(20~100)を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法内容や語彙および表現の確認テスト	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト+提出物(発表)+理解度確認テスト
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	リアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------

科目名	スペイン語Ⅱb	科目名(英文)	Spanish IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サビド セガミタニエル ダン

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。 後期は前期の学習内容の確認から始めて、教科書第7課以降の各課を授業二回のペースで進めてゆき、12課まで学習する予定です。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期に習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類(規則・不規則・語幹母音変化等)を確認しておくこと。
2	第7課(前半)	疑問詞、形容詞(復習) 身の回りの物を描写する	授業後、名詞と形容詞の対応関係を確認し、衣類その他装身具に関わる語彙を覚えておくこと。
3	第7課(後半)	動詞 querer、数詞(0~100までの復習) 買い物でよく使う表現	授業後、動詞 quere r の活用と用法を確認し、色や素材に関わる語彙を覚えておくこと。
4	第8課(前半)	動詞 estar と hay (復習)、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
5	第8課(後半)	数詞(100以上)、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞(100以上)とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
6	第9課(前半)	疑問詞、動詞 ser (復習) 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
7	第9課(後半)	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
8	学習内容の確認	第7回までに学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に第7回までに習った語彙や表現を総確認しておくこと。
9	第10課(前半)	再帰動詞の派生的用法、無人称の se、 序数 大学生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
10	第10課(後半)	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10課で習った動詞を覚えておくこと。
11	第11課(前半)	過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
12	第11課(後半)	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
13	第12課(前半)	動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみる。
14	第12課(後半)	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト+提出物(発表)+理解度確認テスト

学生へのメッセージ レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語Ⅲ a	科目名 (英文)	Spanish IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡 あゆみ

授業概要・目的	本授業は第二外国語としてスペイン語を学ぶ学生（再履修）を対象とし、スペイン語の文法の骨組みを体系的に学習する。スペイン語の学習においては、直説法現在から接続法までの動詞が要となるが、前期の本授業では直説法現在の動詞を中心に基本的な文法事項を習得することが最たる目的である。
到達目標	スペイン語の基本的な文法事項に関する知識を得ることができる。
授業方法と留意点	授業は基本的に教科書に沿って進める。教科書の各課は文法事項の確認と練習問題からなるが、文法事項を理解し、出てくる単語や例文の意味の確認をし、その上で練習問題を行うといった地道な作業が重要になる。また、学生は積極的に授業に取り組むことが期待される。例えば、授業時間内においては随時質疑応答時間をとるが、有効に利用してほしい。なお、必要に応じてプリントも配布することがある。また、授業には教科書だけでなく辞書も持参すること。
科目学習の効果（資格）	. スペイン語検定6級～5級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、アルファベット、発音	オリエンテーション、アルファベット、発音	予習、復習
	2	第1課	名詞の性数、冠詞、主語人称代名詞、ar 動詞直説法現在（規則動詞）、疑問文と否定文	予習、復習
	3	第1課、第2課	練習問題、er、ir 動詞直説法現在（規則動詞）、形容詞の位置と語尾変化	予習、復習
	4	第2課	接続詞 que、所有形容詞短縮形、前置詞 a、基数（0-15）、練習問題	予習、復習
	5	第3課	ser, estar の直説法現在、hay＋名詞、指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞完全形、所有代名詞	予習、復習
	6	第3課、第4課	練習問題、語根母音変化動詞、前置詞 a、de と冠詞 el の縮約	予習、復習
	7	第4課	接続詞 e と u、-mente 副詞、時刻表現、基数（16-100）、練習問題	予習、復習
	8	これまでの学習のまとめ	理解度確認テスト（1）	予習、復習
	9	第5課	目的格人称代名詞、1人称単数形が不規則な動詞、曜日	予習、復習
	10	第5課、第6課	練習問題、その他の不規則動詞、前置格人称代名詞	予習、復習
	11	第6課	不定詞の名詞用法、gustar 型動詞、疑問詞、練習問題	予習、復習
	12	第7課	再帰動詞、無人称文、hay que＋不定詞、al＋不定詞、感嘆文、基数（101-100万）	予習、復習
	13	第7課、第8課	練習問題、形容詞・副詞の比較	予習、復習
	14	第8課	形容詞の絶対最上級-?simo、単人称動詞、四季と月、練習問題	予習、復習
	15	これまでの学習のまとめ	理解度確認テスト（2）	予習、復習

関連科目	スペイン語Ⅲb
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	簡約スペイン語文法（改訂新版）	宮本博司	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	和西・西和辞典		
	2			
	3			

評価方法（基準）	理解度確認テスト（1）40％ 理解度確認テスト（2）40％ 授業態度・口頭発表20％
----------	--

学生へのメッセージ	少しずつ着実に学習を進めるようにしてください。事前・事後学修に各1時間を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	. 受講者のレベルに合わせて進度や内容を変更する場合があります。
----	----------------------------------

科目名	スペイン語Ⅲb	科目名(英文)	Spanish IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡 あゆみ

授業概要・目的	本授業は第二外国語としてスペイン語を学ぶ学生(再履修)を対象とし、スペイン語の文法の骨組みを体系的に学習する。スペイン語の学習においては、直説法現在から接続法までの動詞が要となるが、後期の本授業では直説法点過去、線過去、未来、過去未来、接続法の動詞を中心に基本的な文法事項を習得することが最たる目的である。
到達目標	スペイン語の基本的な文法事項に関する知識を得ることができる。
授業方法と留意点	授業は基本的に教科書に沿って進める。教科書の各課は文法事項の確認と練習問題からなるが、文法事項を理解し、出てくる単語や例文の意味の確認をし、その上で練習問題を行うといった地道な作業が重要になる。また、学生は積極的に授業に取り組むことが期待される。例えば、授業時間内においては随時質疑応答時間をとるが、有効に利用してほしい。なお、必要に応じてプリントも配布することがある。また、授業には教科書だけでなく辞書も持参すること。
科目学習の効果(資格)	. スペイン語検定5級～4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、第1課から第8課の復習	オリエンテーション、第1課から第8課の復習	予習、復習
	2	第9課	過去分詞、直説法現在完了、acabar de +不定詞、否定語と不定語、序数	予習、復習
	3	第9課、第10課	練習問題、直説法点過去、	予習、復習
	4	第10課	直説法点過去、時の経過を表す hacer、練習問題	予習、復習
	5	第11課	直説法線過去、直説法過去完了、中性の lo、関係詞、関係詞・疑問詞+不定詞	予習、復習
	6	第11課、第12課	練習問題、直説法未来	予習、復習
	7	第12課	直説法未来完了、現在分詞、練習問題	予習、復習
	8	これまでの学習のまとめ	理解度確認テスト(1)	予習、復習
	9	第13課	直説法過去未来、直説法過去未来完了、受動態、知覚・使役・放任の動詞と不定詞・現在分詞・過去分詞、縮小辞と増大辞	予習、復習
	10	第13課、第14課	練習問題、接続法現在	予習、復習
	11	第14課	接続法現在の用法、練習問題	予習、復習
	12	第15課	命令文、命令形と目的格人称代名詞・再帰代名詞の位置	予習、復習
	13	第15課、第16課	練習問題、接続法現在完了、接続法過去	予習、復習
	14	第16課	接続法過去完了、条件文、練習問題	予習、復習
	15	これまでの学習のまとめ	理解度確認テスト(2)	予習、復習

関連科目	スペイン語Ⅲa
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	簡約スペイン語文法(改訂新版)	宮本博司	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	和西・西和辞典		
	2			
	3			

評価方法(基準)	理解度確認テスト(1) 40% 理解度確認テスト(2) 40% 授業態度・口頭発表 20%
----------	---

学生へのメッセージ	少しづつ着実に学習を進めるようにしてください。事前・事後学修に各1時間を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	. 受講者のレベルに合わせて進度や内容を変更する場合があります。
----	----------------------------------

科目名	スペイン語IV a	科目名 (英文)	Spanish IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	サヒド・セグミダニエル・ダニエル

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。前期はアルファベットと発音から始めて、教科書の各課を授業二回のペースで進めてゆき、第6課まで学習する予定です。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。

科目学習の 効果 (資格)	スペイン語検定6級
------------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	アルファベットと発音 教室でよく使う表現	授業後、スペイン語の発音のルールを確認し、教室でよく使う表現を覚えておくこと。
2	第1課 (前半)	あいさつ、人称代名詞、動詞 llamar, ser 名前を尋ねる・答える	授業後、人称代名詞と動詞の対応関係について確認し、あいさつに関わる語彙を覚えておくこと。
3	第1課 (後半)	動詞 vivir, 文の種類 住まいを尋ねる・答える	授業後、否定文や疑問文のつくり方を確認し、1課で習った動詞の意味と活用形を覚えておくこと。
4	第2課 (前半)	名詞の性と数 家族や友達を簡単に紹介する	授業後、名詞の性と数に関わるルールを確認し、国や国籍を示す語彙を覚えておくこと。
5	第2課 (後半)	冠詞、数詞 電話番号を尋ねる・答える	授業後、名詞と冠詞の対応関係を確認し、数詞 (0～20 まで) を覚えておくこと。
6	第3課 (前半)	動詞の直説法現在規則活用 (-ar 型) 話せる言語、学習中の言語について尋ねる・答える	授業後、-ar 型動詞の語尾変化について確認し、言語を示す語彙を覚えておくこと。
7	第3課 (後半)	動詞の直説法現在規則活用 (-er, -ir 型) 大学で学んでいることについて尋ねる・答える	授業後、-er 型、-ir 型動詞の語尾変化について確認し、学問に関わる語彙を覚えておくこと。
8	学習内容の確認	文法および語彙・基本表現の確認テスト	授業前に第7回までに学習した文法および語彙を総確認しておくこと。
9	第4課 (前半)	動詞 hay と estar 建物や施設の有無、所在について尋ねる・答える	授業後、動詞 hay と estar の使い分けについて確認し、建物や施設に関わる語彙を覚えておくこと。
10	第4課 (後半)	疑問詞、前置詞、動詞 ir 行き先や交通手段について尋ねる・答える	授業後、不規則動詞 ir の活用を確認し、交通手段に関わる語彙を覚えておくこと。
11	第5課 (前半)	目的格人称代名詞 食べ物や飲み物を注文する	授業後、目的格人称代名詞の使い方を確認し、食事に関連した語彙を覚えておくこと。
12	第5課 (後半)	動詞 gustar 好みについて尋ねる・答える	授業後、動詞 gustar の使い方を確認し、自分の好きなもの、好きではないものについて作文してみる。
13	第6課 (前半)	動詞 tener、所有形容詞 家族や友人を描写する	授業後、動詞 tener の用法を確認し、家族や職業を示す語彙を覚えておくこと。
14	第6課 (後半)	その他の不規則動詞、語幹母音変化動詞 年齢や職業について尋ねる・答える	授業後、6課で習った動詞の意味と活用を確認し、数詞 (20～100) を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法内容や語彙および表現の確認テスト	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト+提出物 (発表) + 理解度確認テスト
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	リアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------



科目名	スペイン語IV b	科目名 (英文)	Spanish IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サビド セガミタニエル ダン

授業概要・目的	スペイン語は母音が日本語と同じで、日本人にとって発音は簡単です。あとは単語と文法をマスターするだけ。この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴解力と会話力の増強を目指します。
到達目標	スペイン語の発音に慣れ、基本的な文法を学ぶことで、日常の簡単なやりとりができるようになる。
授業方法と留意点	受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等を持参すること。 後期は前期の学習内容の確認から始めて、教科書第7課以降の各課を授業二回のペースで進めてゆき、12課まで学習する予定です。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期に習った文法事項や表現を復習する	授業後、復習した動詞の意味と活用の種類 (規則・不規則・語幹母音変化等)を確認しておくこと。
2	第7課 (前半)	疑問詞、形容詞 (復習) 身の回りの物を描写する	授業後、名詞と形容詞の対応関係を確認し、衣類その他装身具に関わる語彙を覚えておくこと。
3	第7課 (後半)	動詞 querer、数詞 (0~100 までの復習) 買い物でよく使う表現	授業後、動詞 quere r の活用と用法を確認し、色や素材に関わる語彙を覚えておくこと。
4	第8課 (前半)	動詞 estar と hay (復習)、位置関係を示す前置詞 部屋の中にあるものを描写する	授業後、学習した前置詞の種類と用法を確認して、位置関係を示す語彙を覚えておくこと。
5	第8課 (後半)	数詞 (100 以上)、目的、手段、原因等を示す前置詞 住まいについて尋ねる・答える	授業後、数詞 (100 以上) とよく使う前置詞の種類および用法を覚えておくこと。
6	第9課 (前半)	疑問詞、動詞 ser (復習) 時刻や日付を尋ねる、答える	授業後、月や曜日等、日付に関わる語彙と表現を覚えておくこと。
7	第9課 (後半)	再帰動詞の基本的用法 日課について尋ねる、答える	授業後、再帰動詞の活用と用法を確認し、日課に関わるその他の動詞とともに覚えておくこと。
8	学習内容の確認	第7回までに学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に第7回までに習った語彙や表現を総確認しておくこと。
9	第10課 (前半)	再帰動詞の派生的用法、無人称の se、序数 大学生活について話す	授業後、再帰動詞の様々な用法について確認し、序数を覚えておくこと。
10	第10課 (後半)	肯定命令文 公共施設でのマナーについて話す	授業後、肯定命令文のつくり方を確認し、10課で習った動詞を覚えておくこと。
11	第11課 (前半)	過去分詞、現在完了 娯楽について話す	授業後、現在完了形の活用と用法を確認し、趣味や娯楽に関わる語彙を覚えておくこと。
12	第11課 (後半)	動詞 gustar や再帰動詞の現在完了 旅行について話す	授業後、様々な動詞の現在完了の形を確認し、旅行に関連する語彙を覚えておくこと。
13	第12課 (前半)	動詞 ir の様々な用法、不定詞の用法 休暇中の予定について話す	授業後、不定詞の使い方に関するルールを確認し、自分の休暇の予定についてスペイン語で書いてみる。
14	第12課 (後半)	前置詞句、よく使う動詞の復習 手紙やメールを書く	授業後、よく使う動詞の意味と活用および前置詞句を覚えておくこと。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・表現の確認テスト	授業前に、これまでに学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	対話で学ぶスペイン語	坂東省次	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト+提出物 (発表) +理解度確認テスト
学生へのメッセージ	レアル vs バルサを現地で応援したい人、フラメンコを習いたい人、チリやスペインのワインに興味のある人、マヤの遺跡やマチュピチュ、ナスカを見てみたい人、将来リーガ・エスパニョーラでプレーしたい人、ぜひスペイン語をやりましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、例文と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。学生のニーズを優先したい。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音 音節分け	日本人の苦手な音 音節分けの練習	発音練習
3	名詞の性と数 定冠詞・不定冠詞	名詞の性の区別 複数形から単数形へ	新出語彙の整理と発音練習
4	形容詞 主格人称代名詞	形容詞の語尾変化 人称とは何か	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数 1～15	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	hay の用法 疑問詞 (1)	存在と所在の違い 疑問詞の使い方 疑問文と否定文	活用形を覚える
7	所有格人称代名詞 基数 16～30	所有格人称代名詞の種類と用法	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：規則動詞	活用形から主語を知る	活用形を覚える
9	指示形容詞 tener 直説法現在 疑問詞 (2)	指示形容詞の種類と使い方 tener 直説法現在の活用と用法 疑問詞の使い方	活用形を覚える
10	直説法現在：語根母音変化動詞	不規則動詞の活用	活用形を覚える
11	目的格人称代名詞 形容詞女性形 + mente の副詞	目的格人称代名詞の種類と使い方	目的格人称代名詞を覚える
12	直説法現在：一人称単数形のみ不規則な動詞 時刻、日付、曜日、月、天候表現	不規則動詞の活用 曜日、月名	基数 1～30 の復習 活用形を覚える
13	男性単数名詞の前の形容詞・数詞の語尾脱落 al と del 直説法現在：ir, venir, decir, o?r	不規則動詞の活用	活用形を覚える
14	現在分詞 進行形 比較級と最上級 示小辞・示大辞	現在分詞の形と用法	形容詞の復習
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門 A、B、C
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場 Contigo en español	橋本定久 他	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	適宜、小テストを実施する。定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストで合格レベルに達しておれば、定期試験は免除することがある。小テスト+理解度確認テスト
-----------	---

学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。事前・事後に各 1 時間の学修時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	QR 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、例文と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。学生のニーズを優先したい。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション アルファベット	この授業の目指すところ 日本人の苦手な音	スペイン語圏の国 アルファベットを覚える
2	発音 音節分け	日本人の苦手な音 音節分けの練習	発音練習
3	名詞の性と数 定冠詞・不定冠詞	名詞の性の区別 複数形から単数形へ	新出語彙の整理と発音練習
4	形容詞 主格人称代名詞	形容詞の語尾変化 人称とは何か	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数 1～15	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	hay の用法 疑問詞 (1)	存在と所在の違い 疑問詞の使い方 疑問文と否定文	活用形を覚える
7	所有格人称代名詞 基数 16～30	所有格人称代名詞の種類と用法	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：規則動詞	活用形から主語を知る	活用形を覚える
9	指示形容詞 tener 直説法現在 疑問詞 (2)	指示形容詞の種類と使い方 tener 直説法現在の活用と用法 疑問詞の使い方	活用形を覚える
10	直説法現在：語根母音変化動詞	不規則動詞の活用	活用形を覚える
11	目的格人称代名詞 形容詞女性形 + mente の副詞	目的格人称代名詞の種類と使い方	目的格人称代名詞を覚える
12	直説法現在：一人称単数形のみ不規則な動詞 時刻、日付、曜日、月、天候表現	不規則動詞の活用 曜日、月名	基数 1～30 の復習 活用形を覚える
13	男性単数名詞の前の形容詞・数詞の語尾脱落 al と del 直説法現在：ir, venir, decir, o?r	不規則動詞の活用	活用形を覚える
14	現在分詞 進行形 比較級と最上級 示小辞・示大辞	現在分詞の形と用法	形容詞の復習
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目 スペイン語入門 A、B、C

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場	Contigo en español	橋本定久 他
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 適宜、小テストを実施する。定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストで合格レベルに達しておれば、定期試験は免除することがある。小テスト+理解度確認テスト

学生へのメッセージ 初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。

担当者の研究室等 7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	QR 3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、例文と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。学生のニーズを優先したい。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音 音節分け	日本人の苦手な音 音節分けの練習	発音練習
3	名詞の性と数 定冠詞・不定冠詞	名詞の性の区別 複数形から単数形へ	新出語彙の整理と発音練習
4	形容詞 主格人称代名詞	形容詞の語尾変化 人称とは何か	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数 1～15	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	hay の用法 疑問詞 (1)	存在と所在の違い 疑問詞の使い方 疑問文と否定文	活用形を覚える
7	所有格人称代名詞 基数 16～30	所有格人称代名詞の種類と用法	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：規則動詞	活用形から主語を知る	活用形を覚える
9	指示形容詞 tener 直説法現在 疑問詞 (2)	指示形容詞の種類と使い方 tener 直説法現在の活用と用法 疑問詞の使い方	活用形を覚える
10	直説法現在：語根母音変化動詞	不規則動詞の活用	活用形を覚える
11	目的格人称代名詞 形容詞女性形 + mente の副詞	目的格人称代名詞の種類と使い方	目的格人称代名詞を覚える
12	直説法現在：一人称単数形のみ不規則な動詞 時刻、日付、曜日、月、天候表現	不規則動詞の活用 曜日、月名	基数 1～30 の復習 活用形を覚える
13	男性単数名詞の前の形容詞・数詞の語尾脱落 al と del 直説法現在：ir, venir, decir, o?r	不規則動詞の活用	活用形を覚える
14	現在分詞 進行形 比較級と最上級 示小辞・示大辞	現在分詞の形と用法	形容詞の復習
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門 A、B、C
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場 Contigo en español	橋本定久 他	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	適宜、小テストを実施する。定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストで合格レベルに達しておれば、定期試験は免除することがある。小テスト+理解度確認テスト
-----------	---

学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。事前・事後に各 60 分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名(英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	前期と同じように、例文と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。ニーズに応じていきたい。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認
2	再帰動詞(1)	自動詞と他動詞	形と用法
3	再帰動詞(2) 前置詞格人称代名詞 不定語と否定語	さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の形と用法 直説法現在完了の用法	活用形を覚える
5	gustar 型の動詞 関係代名詞(1)	gustar 型の動詞を使った文節とは 先行詞とは	間接目的格人称代名詞
6	直説法点過去	直説法点過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
7	直説法点過去 不定詞	直説法点過去の用法 不定詞の用法	活用形を覚える
8	直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
9	直説法線過去	直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
10	受身	受身表現の文	ser, estar 動詞の確認 過去分詞
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	関係代名詞(2)(3) 関係副詞	定冠詞+que など 関係副詞とは	関係代名詞(1)の確認
13	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来の規則活用と不規則活用、用法 直説法過去未来の規則活用と不規則活用、用法	未来と過去未来の使い分け
14	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了の用法	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場	Contigo en español	橋本定久 他
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	適宜、小テストを実施する。 定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストなどで、十分に習得できていると判断されれば、定期試験は免除する。 小テスト+理解度確認テスト
----------	--

学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する
----	-------------------

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名(英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	前期と同じように、例文と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。ニーズに応じていきたい。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認
2	再帰動詞(1)	自動詞と他動詞	形と用法
3	再帰動詞(2) 前置詞格人称代名詞 不定語と否定語	さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の形と用法 直説法現在完了の用法	活用形を覚える
5	gustar 型の動詞 関係代名詞(1)	gustar 型の動詞を使った文節とは 先行詞とは	間接目的格人称代名詞
6	直説法点過去	直説法点過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
7	直説法点過去 不定詞	直説法点過去の用法 不定詞の用法	活用形を覚える
8	直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
9	直説法線過去	直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
10	受身	受身表現の文	ser, estar 動詞の確認 過去分詞
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	関係代名詞(2)(3) 関係副詞	定冠詞+que など 関係副詞とは	関係代名詞(1)の確認
13	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来の規則活用と不規則活用、用法 直説法過去未来の規則活用と不規則活用、用法	未来と過去未来の使い分け
14	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了の用法	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場 Contigo en español	橋本定久 他	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	適宜、小テストを実施する。 定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストなどで、十分に習得できていると判断されれば、定期試験は免除する。 小テスト+理解度確認テスト
----------	--

学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する
----	-------------------

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名(英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的	前期と同じように、例文と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。ニーズに応じていきたい。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認
2	再帰動詞(1)	自動詞と他動詞	形と用法
3	再帰動詞(2) 前置詞格人称代名詞 不定語と否定語	さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の形と用法 直説法現在完了の用法	活用形を覚える
5	gustar 型の動詞 関係代名詞(1)	gustar 型の動詞を使った文節とは 先行詞とは	間接目的格人称代名詞
6	直説法点過去	直説法点過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
7	直説法点過去 不定詞	直説法点過去の用法 不定詞の用法	活用形を覚える
8	直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
9	直説法線過去	直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
10	受身	受身表現の文	ser, estar 動詞の確認 過去分詞
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	関係代名詞(2)(3) 関係副詞	定冠詞+que など 関係副詞とは	関係代名詞(1)の確認
13	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来の規則活用と不規則活用、用法 直説法過去未来の規則活用と不規則活用、用法	未来と過去未来の使い分け
14	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了の用法	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場	Contigo en español	橋本定久 他
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	適宜、小テストを実施する。 定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストなどで、十分に習得できていると判断されれば、定期試験は免除する。 小テスト+理解度確認テスト
----------	--

学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	スペイン語オラルII A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語基礎」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「基礎」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura (文化紹介欄)があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期「スペイン語オラルI」で学習したことの復習	新たなグループと教員のもとのクラス分けとなるため、自己紹介しあい、教員の質問に積極的に応える。	教科書の第6課までを再読し、よく復習しておく。
2	Leccion 7 日課を話そう。	再帰動詞の意味と活用 衣類や身につけるもの、頻度を表す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
3	Leccion 7 一週間の過ごし方を話そう。	曜日と時刻の表現 移動に関する動詞とその活用	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
4	Leccion 8 行事とあいさつの定型表現を使ってみよう。	月の名前と日付 誕生日を尋ねる、答える。 クリスマス、新年、誕生日等の語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
5	Leccion 8 「～に…をあげよう」	目的語代名詞 (～に/…を) 現在分詞と現在進行形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
6	Leccion 9 どうしたの？ 気分が悪いの？	痛み、病気、体調の表現 それに対するアドバイス表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
7	11 月末のレシテーション・コンテストで暗誦する作品 (詩または散文) の内容説明と発音練習を以後 4 回連続で行う。 Leccion 9	感情表現 親しい相手 tu に対する肯定命令 自分の考えや思い、人から聞いたことを伝える。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
8	理解度確認中間テスト Leccion 10 依頼の表現を学ぼう。	動詞 poder を用いた依頼や道順を尋ねる表現 料理の語彙 序数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
9	Leccion 10 これまでの経験 (～したことがある。) を表現しよう。	過去分詞と現在完了 動詞 saber と conocer の違い 「誰もが、一般に～する」: 再帰受身と無人称文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
10	Leccion 11 過去の出来事を話そう。	過去の時間表現 点過去規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
11	レシテーション・コンテスト予選を各グループで実施する。 Leccion 11	点過去不規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
12	Leccion 12 子どもの頃のことや旅の思い出を話そう。	線過去	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
13	Leccion 12 過去時制の正しい表現を身に付けよう。	点過去と線過去の使い分け	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
14	これまでの総復習	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
15	目標達成度確認	理解度確認テスト 間違った箇所の添削	これまでに学習した事項や表現の復習	

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用II
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!! Imaginatelo!	浦真佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			



	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、レシテーションの出来、理解度確認テストなどをもとに評価する。		
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 授業の前に1時間、後に1時間の学修時間を要する。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考			

科目名	スペイン語オラルII A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語基礎」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「基礎」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura (文化紹介欄)があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期「スペイン語オラルI」で学習したことの復習	新たなグループと教員のもとのクラス分けとなるため、自己紹介しあい、教員の質問に積極的に応える。	教科書の第6課までを再読し、よく復習しておく。
2	Leccion 7 日課を話そう。	再帰動詞の意味と活用 衣類や身につけるもの、頻度を表す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 7 一週間の過ごし方を話そう。	曜日と時刻の表現 移動に関する動詞とその活用	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 8 行事とあいさつの定型表現を使ってみよう。	月の名前と日付 誕生日を尋ねる、答える。 クリスマス、新年、誕生日等の語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 8 「～に…をあげよう」	目的語代名詞 (～に/…を) 現在分詞と現在進行形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 9 どうしたの？ 気分が悪いの？	痛み、病気、体調の表現 それに対するアドバイス表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	11 月末のレシテーション・コンテストで暗誦する作品 (詩または散文) の内容説明と発音練習を以後4回連続で行う。 Leccion 9	感情表現 親しい相手 tu に対する肯定命令 自分の考えや思い、人から聞いたことを伝える。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	理解度確認中間テスト Leccion 10 依頼の表現を学ぼう。	動詞 poder を用いた依頼や道順を尋ねる表現 料理の語彙 序数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 10 これまでの経験 (～したことがある。) を表現しよう。	過去分詞と現在完了 動詞 saber と conocer の違い 「誰もが、一般に～する」: 再帰受身と無人称文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 11 過去の出来事を話そう。	過去の時間表現 点過去規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	レシテーション・コンテスト予選を各グループで実施する。 Leccion 11	点過去不規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 12 子どもの頃のことや旅の思い出を話そう。	線過去	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 12 過去時制の正しい表現を身に付けよう。	点過去と線過去の使い分け	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	これまでの総復習	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	目標達成度確認	理解度確認テスト 間違った箇所の添削	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用II
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!! Imaginate!	浦真佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、レシテーションの出来、理解度確認テストなどをもとに評価する。		
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	事前・事後に各60分の学修を要する		

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもある。 各課の末尾にCultura（文化紹介欄）があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Introduccion スペイン語であいさつしよう。	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~10	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 1 友だちになろう。	主語代名詞 職業、国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 1 あいさつを交わし、互いに名前や出身地を紹介しよう。	つなぎの動詞 estar, ser の活用 疑問文、肯定文、否定文を作る練習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 2 自分の生活について話そう。	よく使う規則動詞の意味と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 場所を示す語彙 定冠詞と不定冠詞 所有形容詞前置形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 2 学習したばかりの動詞を用いて自分のことを語ろう。	疑問詞のある疑問文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Leccion 3 家族の話しよう。	家族関係、容姿や性格を表す語彙 数字 11~100 形容詞の語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Leccion 3 理解度確認中間テスト 年齢、家族・兄弟姉妹の教、職業、行先などを新出動詞を用いて表そう。	頻用する重要動詞 tener, hacer, ir の不規則変化を覚える。 比較の表現を知る。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 4 家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 4 不特定のものや人の存在(有無や場所)、主語の普遍的性質または状態を示す表現を習得する。	hay と estar, ser と estar の使い分けを把握する。 数量の尋ね方、答え方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Leccion 5 自分の好きなもの・ことについて話そう。	スポーツ、色、季節を表す語彙 天気表現 tener+名詞で体調を表す 動詞 gustar の使い方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 5 相手の好みを聞いて同意する、または異なる趣向であることを伝える。	動詞 gustar, hacer, tener を用いて様々なことを表現してみる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 6 誘いや提案の表現を学ぼう。	料理、衣類、持ち物を表す語彙 よく使う語幹母音変化動詞の意味と活用 数字 101~1.000.000	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Leccion 6 ～したい、～できる、～するつもりだ	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginatelo!	浦眞佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、理解度確認テストなどから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 授業の前に1時間、後に1時間の学修時間を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	サビド・セグミダニエル・ダニエル

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもある。 各課の末尾にCultura（文化紹介欄）があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Introduccion スペイン語であいさつしよう。	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~10	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 1 友だちになろう。	主語代名詞 職業、国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 1 あいさつを交わし、互いに名前や出身地を紹介しよう。	つなぎの動詞 estar, ser の活用 疑問文、肯定文、否定文を作る練習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 2 自分の生活について話そう。	よく使う規則動詞の意味と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 場所を示す語彙 定冠詞と不定冠詞 所有形容詞前置形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 2 学習したばかりの動詞を用いて自分のことを語ろう。	疑問詞のある疑問文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Leccion 3 家族の話しよう。	家族関係、容姿や性格を表す語彙 数字 11~100 形容詞の語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Leccion 3 理解度確認中間テスト 年齢、家族・兄弟姉妹の教、職業、行先などを新出動詞を用いて表そう。	頻用する重要動詞 tener, hacer, ir の不規則変化を覚える。 比較の表現を知る。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 4 家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 4 不特定のものや人の存在(有無や場所)、主語の普遍的性質または状態を示す表現を習得する。	hay と estar, ser と estar の使い分けを把握する。 数量の尋ね方、答え方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Leccion 5 自分の好きなもの・ことについて話そう。	スポーツ、色、季節を表す語彙 天気表現 tener+名詞で体調を表す 動詞 gustar の使い方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 5 相手の好みを聞いて同意する、または異なる趣向であることを伝える。	動詞 gustar, hacer, tener を用いて様々なことを表現してみる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 6 誘いや提案の表現を学ぼう。	料理、衣類、持ち物を表す語彙 よく使う語幹母音変化動詞の意味と活用 数字 101~1.000.000	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Leccion 6 ～したい、～できる、～するつもりだ	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginatelo!	浦眞佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、理解度確認テストなどから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 事前・事後学修に各1時間を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考				

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R 1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura（文化紹介欄）があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Introduccion スペイン語であいさつしよう。	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~10	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
3	Leccion 1 友だちになろう。	主語代名詞 職業、国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
4	Leccion 1 あいさつを交わし、互いに名前や出身地を紹介しよう。	つなぎの動詞 estar, ser の活用 疑問文、肯定文、否定文を作る練習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
5	Leccion 2 自分の生活について話そう。	よく使う規則動詞の意味と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 場所を示す語彙 定冠詞と不定冠詞 所有形容詞前置形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
6	Leccion 2 学習したばかりの動詞を用いて自分のことを語ろう。	疑問詞のある疑問文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
7	Leccion 3 家族の話しよう。	家族関係、容姿や性格を表す語彙 数字 11~100 形容詞の語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
8	Leccion 3 理解度確認中間テスト 年齢、家族・兄弟姉妹の教、職業、行先などを新出動詞を用いて表そう。	頻用する重要動詞 tener, hacer, ir の不規則変化を覚える。 比較の表現を知る。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
9	Leccion 4 家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
10	Leccion 4 不特定のものや人の存在(有無や場所)、主語の普遍的性質または状態を示す表現を習得する。	hay と estar, ser と estar の使い分けを把握する。 数量の尋ね方、答え方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
11	Leccion 5 自分の好きなもの・ことについて話そう。	スポーツ、色、季節を表す語彙 天気表現 tener+名詞で体調を表す 動詞 gustar の使い方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
12	Leccion 5 相手の好みを聞いて同意する、または異なる趣向であることを伝える。	動詞 gustar, hacer, tener を用いて様々なことを表現してみる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
13	Leccion 6 誘いや提案の表現を学ぼう。	料理、衣類、持ち物を表す語彙 よく使う語幹母音変化動詞の意味と活用 数字 101~1.000.000	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
14	Leccion 6 ～したい、～できる、～するつもりだ	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginatelo!	浦眞佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--



	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、理解度確認テストなどから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後に各60分の学修を要する			

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもある。 各課の末尾にCultura（文化紹介欄）があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Introduccion スペイン語であいさつしよう。	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~10	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 1 友だちになろう。	主語代名詞 職業、国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 1 あいさつを交わし、互いに名前や出身地を紹介しよう。	つなぎの動詞 estar, ser の活用 疑問文、肯定文、否定文を作る練習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 2 自分の生活について話そう。	よく使う規則動詞の意味と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 場所を示す語彙 定冠詞と不定冠詞 所有形容詞前置形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 2 学習したばかりの動詞を用いて自分のことを語ろう。	疑問詞のある疑問文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Leccion 3 家族の話しよう。	家族関係、容姿や性格を表す語彙 数字 11~100 形容詞の語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Leccion 3 理解度確認中間テスト 年齢、家族・兄弟姉妹の教、職業、行先などを新出動詞を用いて表そう。	頻用する重要動詞 tener, hacer, ir の不規則変化を覚える。 比較の表現を知る。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 4 家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 4 不特定のものや人の存在(有無や場所)、主語の普遍的性質または状態を示す表現を習得する。	hay と estar, ser と estar の使い分けを把握する。 数量の尋ね方、答え方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Leccion 5 自分の好きなもの・ことについて話そう。	スポーツ、色、季節を表す語彙 天気表現 tener+名詞で体調を表す 動詞 gustar の使い方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 5 相手の好みを聞いて同意する、または異なる趣向であることを伝える。	動詞 gustar, hacer, tener を用いて様々なことを表現してみる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 6 誘いや提案の表現を学ぼう。	料理、衣類、持ち物を表す語彙 よく使う語幹母音変化動詞の意味と活用 数字 101~1.000.000	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Leccion 6 ～したい、～できる、～するつもりだ	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginatelo!	浦眞佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、理解度確認テストなどから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 事前・事後学修に各1時間を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	スペイン語オラルII	科目名(英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語基礎」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「基礎」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura(文化紹介欄)があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期「スペイン語オラルI」で学習したことの復習	新たなグループと教員のもとのクラス分けとなるため、自己紹介しあい、教員の質問に積極的に応える。	教科書の第6課までを再読し、よく復習しておく。
2	Leccion 7 日課を話そう。	再帰動詞の意味と活用 衣類や身につけるもの、頻度を表す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 7 一週間の過ごし方を話そう。	曜日と時刻の表現 移動に関する動詞とその活用	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 8 行事とあいさつの定型表現を使ってみよう。	月の名前と日付 誕生日を尋ねる、答える。 クリスマス、新年、誕生日等の語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 8 「～に…をあげよう」	目的語代名詞(～に/…を) 現在分詞と現在進行形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 9 どうしたの？気分が悪いの？	痛み、病気、体調の表現 それに対するアドバイス表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	11月末のレシテーション・コンテストで暗誦する作品(詩または散文)の内容説明と発音練習を以後4回連続で行う。 Leccion 9	感情表現 親しい相手tuに対する肯定命令 自分の考えや思い、人から聞いたことを伝える。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	理解度確認中間テスト Leccion 10 依頼の表現を学ぼう。	動詞 poder を用いた依頼や道順を尋ねる表現 料理の語彙 序数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 10 これまでの経験(～したことがある。)を表現しよう。	過去分詞と現在完了 動詞 saber と conocer の違い 「誰もが、一般に～する」: 再帰受身と無人称文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 11 過去の出来事を話そう。	過去の時間表現 点過去規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	レシテーション・コンテスト予選を各グループで実施する。 Leccion 11	点過去不規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 12 子どもの頃のことや旅の思い出を話そう。	線過去	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 12 過去時制の正しい表現を身に付けよう。	点過去と線過去の使い分け	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	これまでの総復習	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	目標達成度確認	理解度確認テスト 間違った箇所の添削	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用II
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginate!	浦真佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、レシテーションの出来、理解度確認テストなどをもとに評価する。		
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 授業の前に1時間、後に1時間の学修時間を要する。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考			

科目名	スペイン語オラルII	科目名(英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語基礎」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「基礎」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura(文化紹介欄)があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期「スペイン語オラルI」で学習したことの復習	新たなグループと教員のもとのクラス分けとなるため、自己紹介しあい、教員の質問に積極的に応える。	教科書の第6課までを再読し、よく復習しておく。
2	Leccion 7 日課を話そう。	再帰動詞の意味と活用 衣類や身につけるもの、頻度を表す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
3	Leccion 7 一週間の過ごし方を話そう。	曜日と時刻の表現 移動に関する動詞とその活用	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
4	Leccion 8 行事とあいさつの定型表現を使ってみよう。	月の名前と日付 誕生日を尋ねる、答える。 クリスマス、新年、誕生日等の語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
5	Leccion 8 「～に…をあげよう」	目的語代名詞(～に/…を) 現在分詞と現在進行形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
6	Leccion 9 どうしたの？気分が悪いの？	痛み、病気、体調の表現 それに対するアドバイス表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
7	11月末のレシテーション・コンテストで暗誦する作品(詩または散文)の内容説明と発音練習を以後4回連続で行う。 Leccion 9	感情表現 親しい相手tuに対する肯定命令 自分の考えや思い、人から聞いたことを伝える。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
8	理解度確認中間テスト Leccion 10 依頼の表現を学ぼう。	動詞 poder を用いた依頼や道順を尋ねる表現 料理の語彙 序数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
9	Leccion 10 これまでの経験(～したことがある。)を表現しよう。	過去分詞と現在完了 動詞 saber と conocer の違い 「誰もが、一般に～する」: 再帰受身と無人称文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
10	Leccion 11 過去の出来事を話そう。	過去の時間表現 点過去規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
11	レシテーション・コンテスト予選を各グループで実施する。 Leccion 11	点過去不規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
12	Leccion 12 子どもの頃のことや旅の思い出を話そう。	線過去	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
13	Leccion 12 過去時制の正しい表現を身に付けよう。	点過去と線過去の使い分け	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
14	これまでの総復習	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
15	目標達成度確認	理解度確認テスト 間違った箇所の添削	これまでに学習した事項や表現の復習	

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用II
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginate!	浦真佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、レシテーションの出来、理解度確認テストなどをもとに評価する。		
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。		

科目名	スペイン語オラルII	科目名(英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R 1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語基礎」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「基礎」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura(文化紹介欄)があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期「スペイン語オラルI」で学習したことの復習	新たなグループと教員のもとのクラス分けとなるため、自己紹介しあい、教員の質問に積極的に応える。	教科書の第6課までを再読し、よく復習しておく。
2	Leccion 7 日課を話そう。	再帰動詞の意味と活用 衣類や身につけるもの、頻度を表す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
3	Leccion 7 一週間の過ごし方を話そう。	曜日と時刻の表現 移動に関する動詞とその活用	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
4	Leccion 8 行事とあいさつの定型表現を使ってみよう。	月の名前と日付 誕生日を尋ねる、答える。 クリスマス、新年、誕生日等の語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
5	Leccion 8 「～に…をあげよう」	目的語代名詞(～に/…を) 現在分詞と現在進行形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
6	Leccion 9 どうしたの？気分が悪いの？	痛み、病気、体調の表現 それに対するアドバイス表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
7	11月末のレシテーション・コンテストで暗誦する作品(詩または散文)の内容説明と発音練習を以後4回連続で行う。 Leccion 9	感情表現 親しい相手tuに対する肯定命令 自分の考えや思い、人から聞いたことを伝える。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
8	理解度確認中間テスト Leccion 10 依頼の表現を学ぼう。	動詞 poder を用いた依頼や道順を尋ねる表現 料理の語彙 序数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
9	Leccion 10 これまでの経験(～したことがある。)を表現しよう。	過去分詞と現在完了 動詞 saber と conocer の違い 「誰もが、一般に～する」: 再帰受身と無人称文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
10	Leccion 11 過去の出来事を話そう。	過去の時間表現 点過去規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
11	レシテーション・コンテスト予選を各グループで実施する。 Leccion 11	点過去不規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
12	Leccion 12 子どもの頃のことや旅の思い出を話そう。	線過去	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
13	Leccion 12 過去時制の正しい表現を身に付けよう。	点過去と線過去の使い分け	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
14	これまでの総復習	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
15	目標達成度確認	理解度確認テスト 間違った箇所の添削	これまでに学習した事項や表現の復習	

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用II
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginate!	浦真佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			



	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、レシテーションの出来、理解度確認テストなどをもとに評価する。		
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	事前・事後に各60分の学修を要する		

科目名	スペイン語オラルII	科目名(英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	サビド・セグミ・ダニエル・ダン

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語基礎」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「基礎」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。 各課の末尾にCultura(文化紹介欄)があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期「スペイン語オラルI」で学習したことの復習	新たなグループと教員のもとのクラス分けとなるため、自己紹介しあい、教員の質問に積極的に応える。	教科書の第6課までを再読し、よく復習しておく。
2	Leccion 7 日課を話そう。	再帰動詞の意味と活用 衣類や身につけるもの、頻度を表す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
3	Leccion 7 一週間の過ごし方を話そう。	曜日と時刻の表現 移動に関する動詞とその活用	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
4	Leccion 8 行事とあいさつの定型表現を使ってみよう。	月の名前と日付 誕生日を尋ねる、答える。 クリスマス、新年、誕生日等の語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
5	Leccion 8 「～に…をあげよう」	目的語代名詞(～に/…を) 現在分詞と現在進行形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
6	Leccion 9 どうしたの? 気分が悪いの?	痛み、病気、体調の表現 それに対するアドバイス表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
7	11月末のレシテーション・コンテストで暗誦する作品(詩または散文)の内容説明と発音練習を以後4回連続で行う。 Leccion 9	感情表現 親しい相手tuに対する肯定命令 自分の考えや思い、人から聞いたことを伝える。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
8	理解度確認中間テスト Leccion 10 依頼の表現を学ぼう。	動詞 poder を用いた依頼や道順を尋ねる表現 料理の語彙 序数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
9	Leccion 10 これまでの経験(～したことがある。)を表現しよう。	過去分詞と現在完了 動詞 saber と conocer の違い 「誰もが、一般に～する」: 再帰受身と無人称文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
10	Leccion 11 過去の出来事を話そう。	過去の時間表現 点過去規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
11	レシテーション・コンテスト予選を各グループで実施する。 Leccion 11	点過去不規則変化	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
12	Leccion 12 子どもの頃のことや旅の思い出を話そう。	線過去	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
13	Leccion 12 過去時制の正しい表現を身につけよう。	点過去と線過去の使い分け	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
14	これまでの総復習	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。	
15	目標達成度確認	理解度確認テスト 間違った箇所の添削	これまでに学習した事項や表現の復習	

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用II
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginate!	浦真佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、レシテーションの出来、理解度確認テストなどをもとに評価する。		
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 事前・事後学修に各1時間を要する。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考			

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名(英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	トロス カルラ

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、1年次に使用した教科書「Entre amigos 1」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。?
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級、5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。
----	--------------------

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名(英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、1年次に使用した教科書「Entre amigos 1」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。?
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級、5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名(英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	サビド・セグミダニエル・ダニエル

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。																																																																		
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	前半では、1年次に使用した教科書「Entre amigos 1」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。?																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級、5級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前年度の復習</td> <td>授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 10?</td> <td>gustar型動詞、余暇活動について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 10?</td> <td>比較表現、スポーツについて</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 11</td> <td>動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 11</td> <td>感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 12</td> <td>直説法点過去 規則動詞活用</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 12</td> <td>直説法点過去 不規則動詞活用</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習と確認</td> <td>これまで習った範囲の復習テスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 1</td> <td>現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 2</td> <td>直説法点過去、関係詞1 家族について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 3</td> <td>直説法線過去 昔と今の比較について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 4</td> <td>直説法点過去と線過去 旅行報告について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 5</td> <td>過去分詞、直説法現在完了 余暇について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 5</td> <td>直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習	9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習																																																																
9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Entre amigos 1</td> <td>スペイン語教材研究会</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Entre amigos 2</td> <td>スペイン語教材研究会</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社	2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社																																																																
2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。事前・事後に各60分の学修を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	.																																																																		

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名(英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	前期と同じ?教科書の後半をもとにして、この段階で?はより長い文章や文学作品、報道文など?を読解し、自分なりの意見を述べ?る機会を多く設ける。 スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
	2	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法時制のまとめ 10年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Entre amigos 2 の Unidad 8	命令形の用法1 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Entre amigos 2 の Unidad 8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	9	Entre amigos 2 の Unidad 9	接続法現在の用法1 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
	10	Entre amigos 2 の Unidad 9	命令形の用法2、命令形の用法3 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
	11	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法2 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法3 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法現在の用法4 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語オラルIV	科目名(英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	サビド・セグミダニエル・ダニエル

授業概要・目的	前期と同じ?教科書の後半をもとにして、この段階ではより長い文章や文学作品、報道文など?を読解し、自分なりの意見を述べ?る機会を多く設ける。 スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
	2	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法時制のまとめ 10年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Entre amigos 2 の Unidad 8	命令形の用法1 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Entre amigos 2 の Unidad 8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	9	Entre amigos 2 の Unidad 9	接続法現在の用法1 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
	10	Entre amigos 2 の Unidad 9	命令形の用法2、命令形の用法3 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
	11	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法2 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法3 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法現在の用法4 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。



科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名(英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	トロス カルラ

授業概要・目的	前期と同じ?教科書の後半をもとにして、この段階で?はより長い文章や文学作品、報道文など?を読解し、自分なりの意見を述べ?る機会を多く設ける。 スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
	2	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法時制のまとめ 10年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Entre amigos 2 の Unidad 8	命令形の用法1 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Entre amigos 2 の Unidad 8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	9	Entre amigos 2 の Unidad 9	接続法現在の用法1 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
	10	Entre amigos 2 の Unidad 9	命令形の用法2、命令形の用法3 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
	11	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法2 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法3 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法現在の用法4 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.

科目名	スペイン語オラル I A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもある。 各課の末尾にCultura（文化紹介欄）があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Introduccion スペイン語であいさつしよう。	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1～10	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 1 友だちになろう。	主語代名詞 職業、国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 1 あいさつを交わし、互いに名前や出身地を紹介しよう。	つなぎの動詞 estar, ser の活用 疑問文、肯定文、否定文を作る練習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 2 自分の生活について話そう。	よく使う規則動詞の意味と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 場所を示す語彙 定冠詞と不定冠詞 所有形容詞前置形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 2 学習したばかりの動詞を用いて自分のことを語ろう。	疑問詞のある疑問文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Leccion 3 家族の話しよう。	家族関係、容姿や性格を表す語彙 数字 11～100 形容詞の語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Leccion 3 理解度確認中間テスト 年齢、家族・兄弟姉妹の教、職業、行先などを新出動詞を用いて表そう。	頻用する重要動詞 tener, hacer, ir の不規則変化を覚える。 比較の表現を知る。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 4 家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 4 不特定のものや人の存在(有無や場所)、主語の普遍的性質または状態を示す表現を習得する。	hay と estar, ser と estar の使い分けを把握する。 数量の尋ね方、答え方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Leccion 5 自分の好きなもの・ことについて話そう。	スポーツ、色、季節を表す語彙 天気表現 tener+名詞で体調を表す 動詞 gustar の使い方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 5 相手の好みを聞いて同意する、または異なる趣向であることを伝える。	動詞 gustar, hacer, tener を用いて様々なことを表現してみる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 6 誘いや提案の表現を学ぼう。	料理、衣類、持ち物を表す語彙 よく使う語幹母音変化動詞の意味と活用 数字 101～1.000.000	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Leccion 6 ～したい、～できる、～するつもりだ	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginatelo!	浦眞佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、理解度確認テストなどから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。 授業の前に1時間、後に1時間の学修時間を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	スペイン語オラル I A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	4グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもある。 各課の末尾にCultura（文化紹介欄）があり、教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Introduccion スペイン語であいさつしよう。	教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~10	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Leccion 1 友だちになろう。	主語代名詞 職業、国名と国籍に関する語彙 その語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Leccion 1 あいさつを交わし、互いに名前や出身地を紹介しよう。	つなぎの動詞 estar, ser の活用 疑問文、肯定文、否定文を作る練習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Leccion 2 自分の生活について話そう。	よく使う規則動詞の意味と現在形の活用(-ar, -er, -ir) 場所を示す語彙 定冠詞と不定冠詞 所有形容詞前置形	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Leccion 2 学習したばかりの動詞を用いて自分のことを語ろう。	疑問詞のある疑問文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Leccion 3 家族の話しよう。	家族関係、容姿や性格を表す語彙 数字 11~100 形容詞の語尾変化に慣れる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Leccion 3 理解度確認中間テスト 年齢、家族・兄弟姉妹の教、職業、行先などを新出動詞を用いて表そう。	頻用する重要動詞 tener, hacer, ir の不規則変化を覚える。 比較の表現を知る。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Leccion 4 家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	家や室内にあるもの、その特徴や状態を表す形容詞、位置関係の副詞句、場所などを示す語彙	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Leccion 4 不特定のものや人の存在(有無や場所)、主語の普遍的性質または状態を示す表現を習得する。	hay と estar, ser と estar の使い分けを把握する。 数量の尋ね方、答え方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Leccion 5 自分の好きなもの・ことについて話そう。	スポーツ、色、季節を表す語彙 天気表現 tener+名詞で体調を表す 動詞 gustar の使い方	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Leccion 5 相手の好みを聞いて同意する、または異なる趣向であることを伝える。	動詞 gustar, hacer, tener を用いて様々なことを表現してみる。	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Leccion 6 誘いや提案の表現を学ぼう。	料理、衣類、持ち物を表す語彙 よく使う語幹母音変化動詞の意味と活用 数字 101~1.000.000	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Leccion 6 ～したい、～できる、～するつもりだ	querer, poder, ir a+不定詞を用いた表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	これまでの総復習と目標達成度確認	理解度確認テストと総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラストで楽しもう、スペイン語!!Imaginatelo!	浦眞佐子、Partida, Francisco	朝日出版社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、理解度確認テストなどから評価する。			
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後に各60分の学修を要する			

科目名	スペイン語オラルⅢA	科目名(英文)	Spanish Conversation IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	トロス カルラ

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、1年次に使用した教科書「Entre amigos 1」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。?
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級、5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅢA	科目名(英文)	Spanish Conversation IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。																																																																		
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	前半では、1年次に使用した教科書「Entre amigos 1」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。?																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級、5級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前年度の復習</td> <td>授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 10?</td> <td>gustar型動詞、余暇活動について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 10?</td> <td>比較表現、スポーツについて</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 11</td> <td>動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 11</td> <td>感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 12</td> <td>直説法点過去 規則動詞活用</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Entre amigos 1のUnidad 12</td> <td>直説法点過去 不規則動詞活用</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習と確認</td> <td>これまで習った範囲の復習テスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 1</td> <td>現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 2</td> <td>直説法点過去、関係詞1 家族について話す</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 3</td> <td>直説法線過去 昔と今の比較について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 4</td> <td>直説法点過去と線過去 旅行報告について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 5</td> <td>過去分詞、直説法現在完了 余暇について</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Entre amigos 2のUnidad 5</td> <td>直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>教科書を事前に学習し、講義後は復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習	9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習																																																																
9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Entre amigos 1</td> <td>スペイン語教材研究会</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Entre amigos 2</td> <td>スペイン語教材研究会</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社	2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社																																																																
2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	.																																																																		

科目名	スペイン語オラルⅢB	科目名(英文)	Spanish Conversation IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マツダイラ キーメル

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	前半では、1年次に使用した教科書「Entre amigos 1」を用いるため、必ず持参すること。 なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。?
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5-4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前年度の復習	授業の進め方について Entre amigos 1のUnidad 9までの復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Entre amigos 1のUnidad 10?	gustar型動詞、余暇活動について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Entre amigos 1のUnidad 10?	比較表現、スポーツについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Entre amigos 1のUnidad 11	動詞ser+形容詞、動詞estar+形容詞体の部分の名称について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Entre amigos 1のUnidad 11	感嘆文、「?しなければならない」表現 体調・感情表現について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Entre amigos 1のUnidad 12	直説法点過去 不規則動詞活用	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Entre amigos 2のUnidad 1	現在進行形、現在分詞のその他の用法 学生生活、生活習慣について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Entre amigos 2のUnidad 2	直説法点過去、関係詞1 家族について話す	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Entre amigos 2のUnidad 3	直説法線過去 昔と今の比較について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Entre amigos 2のUnidad 4	直説法点過去と線過去 旅行報告について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Entre amigos 2のUnidad 5	過去分詞、直説法現在完了 余暇について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Entre amigos 2のUnidad 5	直説法現在完了、過去分詞のその他の用法 買い物、ファッションについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 1	スペイン語教材研究会	朝日出版社
2	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。 月曜2限の「スペイン語オラルⅢ」を必ず同時受講していなければならない。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。 この授業では、月曜2限の「スペイン語オラルⅢ」で学んだことを復習し、その定着を図ります。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。



科目名	スペイン語オラルⅣA	科目名(英文)	Spanish Conversation IVA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	前期と同じ?教科書の後半をもとにして、この段階で?はより長い文章や文学作品、報道文など?を読解し、自分なりの意見を述べ?る機会を多く設ける。 スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
	2	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法時制のまとめ 10年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Entre amigos 2 の Unidad 8	命令形の用法1 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Entre amigos 2 の Unidad 8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	9	Entre amigos 2 の Unidad 9	接続法現在の用法1 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
	10	Entre amigos 2 の Unidad 9	命令形の用法2、命令形の用法3 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
	11	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法2 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法3 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法現在の用法4 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅣA	科目名(英文)	Spanish Conversation IVA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サビド・セグミダニエル・ダシ

授業概要・目的	前期と同じ?教科書の後半をもとにして、この段階で?はより長い文章や文学作品、報道文など?を読解し、自分なりの意見を述べ?る機会を多く設ける。 スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
	2	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法時制のまとめ 10年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Entre amigos 2 の Unidad 8	命令形の用法1 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Entre amigos 2 の Unidad 8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	9	Entre amigos 2 の Unidad 9	接続法現在の用法1 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
	10	Entre amigos 2 の Unidad 9	命令形の用法2、命令形の用法3 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
	11	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法2 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法3 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法現在の用法4 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。	

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語オラルIV B	科目名 (英文)	Spanish Conversation IVB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マツダイラ キーメル

授業概要・目的	前期と同じ?教科書の後半をもとにして、この段階ではより長い文章や文学作品、報道文など?を読解し、自分なりの意見を述べ?る機会を多く設ける。 スピーチ・コンテストの準備にも時間を割く。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎とオラルで積み上げてきた会話表現力をもとに、いっそう複雑な内容をできるだけ正確に話したり理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 - 4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の学習内容の復習	前期の復習	前期に学習した文法事項や表現を見直す
	2	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法未来、直説法未来完了 推測、求人について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Entre amigos 2 の Unidad 6	直説法過去未来 確実性を示す表現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法過去完了 家具と調度品について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Entre amigos 2 の Unidad 7	直説法時制のまとめ 10年前のわが家について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Entre amigos 2 の Unidad 8	命令形の用法 1 食べ物や単位について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Entre amigos 2 の Unidad 8	無人称表現 体の動きについて	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで学習した範囲の復習テスト?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	9	Entre amigos 2 の Unidad 9	接続法現在の用法 1 政治や社会問題について?	スピーチコンテストの原稿を仕上げる。
	10	Entre amigos 2 の Unidad 9	命令形の用法 2、命令形の用法 3 依頼や命令を表す表現について	スピーチコンテストの原稿を暗記し、正しく発音する。
	11	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法 2 大きな数や地理について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Entre amigos 2 の Unidad 10	接続法現在の用法 3 環境問題について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法現在の用法 4 事実と異なる仮定について?	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Entre amigos 2 の Unidad 11	接続法過去 願望実現について	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	学習内容の確認	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Entre amigos 2	スペイン語教材研究会	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト、臨時試験の成績から評価する。 月曜 2 限の「スペイン語オラルIV」を必ず同時受講していなければならない。
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。語彙をどんどん豊かにする努力を重ねましょう。 この授業では、月曜 2 限の「スペイン語オラルIV」で学んだことを復習し、その定着を図ります。
担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
備考	. 事前・事後学修に各 1 時間を要する。

科目名	スペイン語オラルV	科目名(英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
	2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	13	Politicas linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
	14	Politicas linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
	15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	—————

関連科目	スペイン語通訳ガイドⅡ、メディアのスペイン語Ⅰ、映画のスペイン語Ⅳ、スペイン語文章構成Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業における参加状況・発表、課題や理解度確認テストの成績から総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語オラルV	科目名(英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	トロス カルラ

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。																																																																		
到達目標																																																																			
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>El espanol fuera del mundo hispanico (1)</td> <td>El espanol en Brasil</td> <td>公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>El espanol fuera del mundo hispanico (2)</td> <td>El espanol en la historia de los Estados Unidos</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>El espanol fuera del mundo hispanico (3)</td> <td>Los hispanos de los Estados Unidos</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>El espanol fuera del mundo hispanico (4)</td> <td>La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>El espanol fuera del mundo hispanico (5)</td> <td>La lengua de la diaspora</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>El espanol fuera del mundo hispanico (6)</td> <td>Hablantes de espanol en la Union Europea</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Geografia de la ensenanza del espanol</td> <td>El espanol como lengua extranjera</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Geografia de la ensenanza del espanol</td> <td>El Hispanismo en el mundo</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Geoeconomia del espanol</td> <td>Fundamentos demograficos del espanol</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Geoeconomia del espanol</td> <td>Tendencias del espanol</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Geoeconomia del espanol</td> <td>La economia del espanol</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Geoeconomia del espanol</td> <td>El espanol y la sociedad del conocimiento</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Politicis linguisticas</td> <td>Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural</td> <td>事前に配布する資料をよく読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Politicis linguisticas</td> <td>El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano</td> <td>発表の準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Repaso y presentacion individual</td> <td>発表と批評、理解度確認テスト</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと	2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	13	Politicis linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	14	Politicis linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備	15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	—————
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと																																																																
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
13	Politicis linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと																																																																
14	Politicis linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備																																																																
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	—————																																																																
関連科目	スペイン語通訳ガイドII、メディアのスペイン語I、映画のスペイン語IV、スペイン語文章構成IV																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業における参加状況・発表、課題や理解度確認テストの成績から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	スペイン語オラルVI	科目名(英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	トロス カルラ

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Politicis linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Politicis linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	—————

関連科目	スペイン語通訳ガイド、メディアのスペイン語、映画のスペイン語ほか、すべてのスペイン語科目
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業における参加状況・発表、課題や理解度確認テストの成績から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	スペイン語オラルVI	科目名(英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	El espanol fuera del mundo hispanico (1)	El espanol en Brasil	公用語圏以外でスペイン語が使用される地域について調べておくこと
2	El espanol fuera del mundo hispanico (2)	El espanol en la historia de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	El espanol fuera del mundo hispanico (3)	Los hispanos de los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	El espanol fuera del mundo hispanico (4)	La convivencia del espanol y el ingles en los Estados Unidos	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	El espanol fuera del mundo hispanico (5)	La lengua de la diaspora	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	El espanol fuera del mundo hispanico (6)	Hablantes de espanol en la Union Europea	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	Geografia de la ensenanza del espanol	El espanol como lengua extranjera	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	Geografia de la ensenanza del espanol	El Hispanismo en el mundo	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Geoeconomia del espanol	Fundamentos demograficos del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Geoeconomia del espanol	Tendencias del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Geoeconomia del espanol	La economia del espanol	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Geoeconomia del espanol	El espanol y la sociedad del conocimiento	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Politicis linguisticas	Las lenguas indigenas de America Latina y la educacion intercultural	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Politicis linguisticas	El catalan, el gallego y el vascuense (euskera) en relacion con el castellano	発表の準備
15	Repaso y presentacion individual	発表と批評、理解度確認テスト	—————

関連科目	スペイン語通訳ガイド、メディアのスペイン語、映画のスペイン語ほか、すべてのスペイン語科目
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業における参加状況・発表、課題や理解度確認テストの成績から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	スペイン語オラルVII	科目名(英文)	Spanish Conversation VII
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的	3年次までに習得したスペイン語力をもとに、多様な視点からスペイン語圏についての基本的知識を養い、意見交換のできるコミュニケーション力を培うことをめざす。スペイン語圏世界の成立を歴史的に理解できるよう導くことから始め、スペインとイスマンアメリカ双方の歴史、文化、政治を主なテーマとする。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏についての関心を高く持ち、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	理解度に合わせて進度や内容を調節するが、スペインとイスマンアメリカとの関係を歴史的に眺めることから始める。広くスペイン語圏の政治社会、文化、映画、音楽といったテーマを取り上げる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにできること。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Espana conquistada y colonizada por Roma y el Islam	古代・中世スペインの歴史	スペイン史の古代と中世の部分を日本語で読んでおく
2	Sefarad y Al Andalus	イスラム文化の影響	事前に配布された資料の熟読
3	America en 1492	「抵抗の500年」の始まりと先住民文明	事前に配布された資料の熟読
4	Espana conquistadora	征服の時代	事前に配布された資料の熟読
5	Afroindioiberoamerica	メスティサヘ	事前に配布された資料の熟読
6	El maiz y el trigo	主食穀物の交流	事前に配布された資料の熟読
7	La papa y el cacao	アメリカからせ階に伝播した作物	事前に配布された資料の熟読
8	Bernardino de Sahagun y la evangelizaci?n de Am?rica	魂の征服	事前に配布された資料の熟読
9	Geografia economica: mineria y petroleo	アメリカにおける資源開発	事前に配布された資料の熟読
10	Bolivar y la independencia de America	ラテンアメリカ諸国の独立	事前に配布された資料の熟読
11	El largo siglo barroco. 1898. 1936. Otras separaciones de Espana	スペインの近現代史	事前に配布された資料の熟読
12	America para los USamericanos?	米州における米国の覇権	事前に配布された資料の熟読
13	Nuevos gobiernos latinoamericanos	ラテンアメリカの政治改革	事前に配布された資料の熟読
14	Nuevos gobiernos latinoamericanos	ラテンアメリカの政治改革	発表の準備
15	Repaso	総復習と個人発表、理解度確認テスト	総復習

関連科目	スペイン語通訳ガイド(留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨します)、メディアのスペイン語II、現代ラテンアメリカ論
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業における参加状況・発表、課題提出、理解度確認テストをもとに総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	教材は事前に配布します。資料に必ず目を通し、基本的語彙を調べた上で授業に出席すること。事前・事後学習に各1時間を要する。扱うテーマには履修者の関心も取り入れます。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------



科目名	スペイン語オラルⅧ	科目名(英文)	Spanish Conversation VIII
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的	4年次前期までに習得したスペイン語力をもとに、多様な視点からスペイン語圏についての基本的知識を養い、意見交換のできるコミュニケーション力を培うことをめざす。主にイスマノアメリカ各国の現状を題材とする。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏についての関心を高く持ち、日本の歴史や文化についてもスペイン語で発信できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語圏のもつ現代的課題と可能性について、授業を通じて理解を深めてもらいたい。いかなる質問も大歓迎です。
科目学習の効果(資格)	スペイン語による詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Cuba: sobrevivira el castrismo?	キューバ・カストロ政治の行方	事前に配布された資料の熟読
3	Los paises de NAFTA. El espanol en los EE. UU. Mexico y migracion	北米自由貿易協定	事前に配布された資料の熟読
4	Los pa?ses de CAFTA	中米自由貿易協定	事前に配布された資料の熟読
5	Guatemala: larga guerra sucia contra el pueblo maya	グアテマラにおけるマヤ先住民族の虐殺	事前に配布された資料の熟読
6	La Bolivia de Evo Morales	モラレス政権下のボリビア	事前に配布された資料の熟読
7	Paises del Mercosur	南米南部共同市場諸国	事前に配布された資料の熟読
8	La Venezuela y el chavismo	チャベス政権下のベネズエラ	事前に配布された資料の熟読
9	Primeras mujeres presidentas en America Latina	ラテンアメリカ初の女性大統領	事前に配布された資料の熟読
10	Colombia luego de la guerra contra el narcotrafico	麻薬戦争後のコロンビア	事前に配布された資料の熟読
11	La Argentina peronista	アルゼンチン政治とペロン党	事前に配布された資料の熟読
12	La Raza Cosmica: el mestizaje de America	「宇宙的人種」、アメリカのメスティサヘ	事前に配布された資料の熟読
13	Espana y America Latina	スペインとラテンアメリカの関係	事前に配布された資料の熟読
14	Espa?a y la Uni?n Europea	欧州連合の中のスペイン	発表の準備
15	Repaso	総復習と個人発表または達成度確認テスト	総復習

関連科目	スペイン語通訳ガイド(留学期間中に3年生で受講できなかった者は今学期に積極的に受講することを推奨します。日本文化についての知識を深め、それをスペイン語で説明できることをめざしてください)、メディアのスペイン語Ⅲ、現代ラテンアメリカ論
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業における参加状況、課題への取組み、達成度確認テストから総合的に評価する。
学生へのメッセージ	教材を事前に配布します。資料に必ず目を通し、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修の各1時間を要する。扱うテーマには履修者の関心も取り入れます。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	スペイン語学	科目名(英文)	Spanish Language Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	スペイン語を言語学的に考える。 講義内容は、言語の内面の分析(音声・音韻、形態、統語)を中心とするが、外面の分析(言語と社会との関わり:教育や政策など)にも及ぶ。 また、スペイン語の歴史や言語の類縁性(ロマンス諸語等)についても随時言及する。
到達目標	言語学という研究領域の存在を知ること。 スペイン語という言語を(実践としての語学ではなく)科学的にとらえること。 具体的な文法事項(発音や、動詞の法や時制)を復習し、その理解を深めること。
授業方法と留意点	配布・配信する資料に予め目を通した上で受講すること。
科目学習の効果(資格)	実用的語学とは異なる視点から言語をとらえること。 口頭の説明をノートにまとめる練習(聴覚情報を整理し、文書化すること)。 情報の収集と選択、それらの要約。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	音声・音韻	音素	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
3	音声・音韻	音節、強勢	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
4	音声・音韻	音声変化	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
5	形態	形態素 派生と屈折	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
6	形態	語形成 接辞	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
7	形態	複合語、略語	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
8	統語	品詞	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
9	統語	文の成り立ち 句、節、文	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
10	統語	文の成り立ち	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
11	スペイン語の歴史	ローマ以前(ケルト語、イベリア語)ローマ(ラテン語)、ゲルマン(西ゴート語)、イスラム(アラビア語)のこと	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
12	スペイン語の歴史	カスティーリャ語(スペイン語)の位置	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
13	スペインの言語と社会	スペインの諸言語	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
14	スペインの言語と社会	スペイン語とスペイン語圏	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる
15	まとめとテスト	14回の講義内容の総括	参考図書、資料を読む 講義内容をまとめる 自らの学習総括

関連科目: スペイン語に関する科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	試験(複数回になりうる)と平常の受講態度を総合して評価する。 授業の3分の2以上の出席を期末試験の受験条件とする(3分の1以上の欠席で落第とする)。 15分以上の遅刻は欠席としてカウントする。内職・居眠り等は欠席扱いとする
学生へのメッセージ	・講義ノートを作る。黒板に書かれたことだけでなく、話を聞いて要約し文字化する練習をこの授業を通して行うこと。 ・自己管理の出来・不出来が成績の良し悪しに直結するので、勉強時間の確保および毎度の予習・復習のみならず、むやみに欠席しないことも心掛けること。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
備考	授業計画はあくまで目安であり、集団の性質・傾向を考慮し、修正・変更することがある。

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎B、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習</td><td>点過去・線過去を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>前期の総復習</td><td>理解度確認テスト</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>第14課</td><td>未来、未来完了、関係詞</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>6</td><td>第15課</td><td>比較級と最上級</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>7</td><td>第16課</td><td>直説法過去未来、過去未来完了</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>8</td><td>これまでの総復習</td><td>練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認</td><td>配布された問題を予め解いておくこと。</td></tr> <tr><td>9</td><td>これまでの総復習</td><td>前期の学習範囲を中心に</td><td>前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。</td></tr> <tr><td>10</td><td>これまでの総復習</td><td>未来、過去未来を中心に</td><td>用法</td></tr> <tr><td>11</td><td>これまでの総復習</td><td>複合時制を中心に</td><td>使い分け</td></tr> <tr><td>12</td><td>これまでの総復習</td><td>関係詞を中心に</td><td>関係詞を用いた文の接続</td></tr> <tr><td>13</td><td>これまでの総復習</td><td>苦手分野を中心に</td><td>疑問点を抽出しておくこと。</td></tr> <tr><td>14</td><td>これまでの総復習</td><td>副詞・前置詞・接続詞</td><td>品詞の意識づけ</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。	9	これまでの総復習	前期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。	10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続	13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。	14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	前期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。																																																																
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続																																																																
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。																																																																
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎B、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎B、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ポキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岡 あゆみ

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎B、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>これまでの総復習</td> <td>練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認</td> <td>配布された問題を予め解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎B、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎B、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語基礎B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎B、C」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</li> </ul>																																																																
到達目標	動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。																																																																
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。																																																																
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習</td><td>点過去・線過去を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>前期の総復習</td><td>理解度確認テスト</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>第14課</td><td>未来、未来完了、関係詞</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>6</td><td>第15課</td><td>比較級と最上級</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>7</td><td>第16課</td><td>直説法過去未来、過去未来完了</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>8</td><td>これまでの総復習</td><td>練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認</td><td>配布された問題を予め解いておくこと。</td></tr> <tr><td>9</td><td>これまでの総復習</td><td>前期の学習範囲を中心に</td><td>前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。</td></tr> <tr><td>10</td><td>これまでの総復習</td><td>未来、過去未来を中心に</td><td>用法</td></tr> <tr><td>11</td><td>これまでの総復習</td><td>複合時制を中心に</td><td>使い分け</td></tr> <tr><td>12</td><td>これまでの総復習</td><td>関係詞を中心に</td><td>関係詞を用いた文の接続</td></tr> <tr><td>13</td><td>これまでの総復習</td><td>苦手分野を中心に</td><td>疑問点を抽出しておくこと。</td></tr> <tr><td>14</td><td>これまでの総復習</td><td>副詞・前置詞・接続詞</td><td>品詞の意識づけ</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。	9	これまでの総復習	前期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。	10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続	13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。	14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																														
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																														
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																														
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																															
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																														
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																														
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																														
8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。																																																														
9	これまでの総復習	前期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。																																																														
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																														
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																														
12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続																																																														
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。																																																														
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																														
15	理解度確認テスト																																																																
関連科目	スペイン語基礎B、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																														
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																														
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎B、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき転びながらマスターしていきましょう。																																																																
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)																																																																
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。																																																																

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岡 あゆみ

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎B、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>これまでの総復習</td> <td>練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認</td> <td>配布された問題を予め解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎B、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎B、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎B、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>これまでの総復習</td> <td>練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認</td> <td>配布された問題を予め解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	これまでの総復習	練習問題およびスペイン語技能検定5級過去問の解答確認	配布された問題を予め解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎B、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎B、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(北條研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることに。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習</td><td>点過去・線過去を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>前期の総復習</td><td>理解度確認テスト</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>第14課</td><td>未来、未来完了、関係詞</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>6</td><td>第15課</td><td>比較級と最上級</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>7</td><td>第16課</td><td>直説法過去未来、過去未来完了</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>8</td><td>ボキャブラリ・コンテスト</td><td>基本単語</td><td>語彙の総復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>これまでの総復習</td><td>後期の学習範囲を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>これまでの総復習</td><td>未来、過去未来を中心に</td><td>用法</td></tr> <tr><td>11</td><td>これまでの総復習</td><td>複合時制を中心に</td><td>使い分け</td></tr> <tr><td>12</td><td>これまでの総復習</td><td>関係詞を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>これまでの総復習</td><td>苦手分野を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>これまでの総復習</td><td>副詞・前置詞・接続詞</td><td>品詞の意識づけ</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		



科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ボキャブラリ・コンテスト</td> <td>基本単語</td> <td>語彙の総復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td>前期に学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td>関係詞を用いた文の接続</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td>疑問点を抽出しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期に学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。	10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続	13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。	14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期に学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。																																																																
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続																																																																
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。																																																																
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(篠原研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習</td><td>点過去・線過去を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>前期の総復習</td><td>理解度確認テスト</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>第14課</td><td>未来、未来完了、関係詞</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>6</td><td>第15課</td><td>比較級と最上級</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>7</td><td>第16課</td><td>直説法過去未来、過去未来完了</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>8</td><td>ボキャブラリ・コンテスト</td><td>基本単語</td><td>語彙の総復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>これまでの総復習</td><td>後期の学習範囲を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>これまでの総復習</td><td>未来、過去未来を中心に</td><td>用法</td></tr> <tr><td>11</td><td>これまでの総復習</td><td>複合時制を中心に</td><td>使い分け</td></tr> <tr><td>12</td><td>これまでの総復習</td><td>関係詞を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>これまでの総復習</td><td>苦手分野を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>これまでの総復習</td><td>副詞・前置詞・接続詞</td><td>品詞の意識づけ</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ボキャブラリ・コンテスト</td> <td>基本単語</td> <td>語彙の総復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td>前期に学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td>関係詞を用いた文の接続</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td>疑問点を抽出しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期に学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。	10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続	13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。	14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期に学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。																																																																
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続																																																																
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。																																																																
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(篠原研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習</td><td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習</td><td>点過去・線過去を中心に</td><td>前期学習内容の総復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>前期の総復習</td><td>理解度確認テスト</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>第14課</td><td>未来、未来完了、関係詞</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>6</td><td>第15課</td><td>比較級と最上級</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>7</td><td>第16課</td><td>直説法過去未来、過去未来完了</td><td>それぞれの形・用法</td></tr> <tr><td>8</td><td>ボキャブラリ・コンテスト</td><td>基本単語</td><td>語彙の総復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>これまでの総復習</td><td>後期の学習範囲を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>これまでの総復習</td><td>未来、過去未来を中心に</td><td>用法</td></tr> <tr><td>11</td><td>これまでの総復習</td><td>複合時制を中心に</td><td>使い分け</td></tr> <tr><td>12</td><td>これまでの総復習</td><td>関係詞を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>これまでの総復習</td><td>苦手分野を中心に</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>これまでの総復習</td><td>副詞・前置詞・接続詞</td><td>品詞の意識づけ</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語	語彙の総復習																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Cと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テストと自己点検</td> <td>これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し</td> <td>中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td>前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td>関係詞を用いた文の接続</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td>疑問点を抽出しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。	10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続	13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。	14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。																																																																
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続																																																																
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。																																																																
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Bと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する。(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(安達研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、B」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テストと自己点検</td> <td>これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し</td> <td>中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、B 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Bと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テストと自己点検</td> <td>これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し</td> <td>中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td>前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td>関係詞を用いた文の接続</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td>疑問点を抽出しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。	10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続	13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。	14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に	前期で学習した動詞の時制ごとに用法と活用を復習する。																																																																
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に	関係詞を用いた文の接続																																																																
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に	疑問点を抽出しておくこと。																																																																
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Bと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する。(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(安達研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、B」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テストと自己点検</td> <td>これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し</td> <td>中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、B 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Bと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		



科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎A、B」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>動詞の未来形、過去未来形の活用形と用法 比較表現、関係詞などをマスターする。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定5級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習</td> <td>一般動詞(不規則変化)を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>前期の復習</td> <td>点過去・線過去を中心に</td> <td>前期学習内容の総復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>前期の総復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第14課</td> <td>未来、未来完了、関係詞</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第15課</td> <td>比較級と最上級</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第16課</td> <td>直説法過去未来、過去未来完了</td> <td>それぞれの形・用法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テストと自己点検</td> <td>これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し</td> <td>中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>これまでの総復習</td> <td>後期の学習範囲を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>これまでの総復習</td> <td>未来、過去未来を中心に</td> <td>用法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの総復習</td> <td>複合時制を中心に</td> <td>使い分け</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの総復習</td> <td>関係詞を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>これまでの総復習</td> <td>苦手分野を中心に</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>これまでの総復習</td> <td>副詞・前置詞・接続詞</td> <td>品詞の意識づけ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習	3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習	4	前期の総復習	理解度確認テスト		5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法	6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法	7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法	8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。	9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に		10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法	11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け	12	これまでの総復習	関係詞を中心に		13	これまでの総復習	苦手分野を中心に		14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習	一般動詞(規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
2	前期の復習	一般動詞(不規則変化)を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
3	前期の復習	点過去・線過去を中心に	前期学習内容の総復習																																																																
4	前期の総復習	理解度確認テスト																																																																	
5	第14課	未来、未来完了、関係詞	それぞれの形・用法																																																																
6	第15課	比較級と最上級	それぞれの形・用法																																																																
7	第16課	直説法過去未来、過去未来完了	それぞれの形・用法																																																																
8	中間テストと自己点検	これまでの学習内容の理解度確認(とくに点過去、線過去、未来等の時制と比較表現)と間違い直し	中間テストの準備勉強になるものとしてスペイン語技能検定5級の過去問を予め配布する。それを解いておくこと。																																																																
9	これまでの総復習	後期の学習範囲を中心に																																																																	
10	これまでの総復習	未来、過去未来を中心に	用法																																																																
11	これまでの総復習	複合時制を中心に	使い分け																																																																
12	これまでの総復習	関係詞を中心に																																																																	
13	これまでの総復習	苦手分野を中心に																																																																	
14	これまでの総復習	副詞・前置詞・接続詞	品詞の意識づけ																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	<p>スペイン語基礎A、C 総合スペイン語Ⅱ/スペイン語応用Ⅱ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎A、Bと合わせて評価する。</p> <p>一定程度進んだ段階で理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストを実施する(時期、未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Spanish-speaking Area Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<p>大西洋の両岸にまたがり、太平洋にも面した広大なスペイン語圏の国々(ヨーロッパのスペインとラテンアメリカ)に関する基礎知識をもち、関心を高めることを目的とする。ただし、ラテンアメリカに関しては1年後期のエリア・スタディーズで学習するので、この授業では主にスペインを対象とする。</p> <p>「スペインは違う!」はかつて欧米各地からスペインに観光客を呼び込むに使われたキャッチフレーズであった。このうたい文句は功を奏し、他の西欧諸国とは違う雰囲気、突き抜けるような青空、白壁の家、闘牛、美しいビーチを求めて観光客が殺到し、太陽の国スペインは世界有数の観光国となった。ユネスコの世界遺産の数もイタリア、中国について第3位。この授業ではその世界遺産を通して、スペインの地理と歴史を学んでいく。また、ベラスケス、ゴヤ、エル・グレコ、ピカソ、ダリなど天才的芸術家を生んだ国でもある。それらの作品も教材として利用する。</p>
到達目標	スペイン語圏の地図を自分で描け、その姿が頭の中で思い浮かべられるとともに、個々の国について地理的・歴史的な基本的知識を身につける。
授業方法と留意点	講義形式だが、視聴覚教材も適宜、利用する。プリントを配布するので、ファイルを用意すること。
科目学習の効果(資格)	外国語のマスターは、「ことば」だけでなく、その言葉が使われている地域の「こと」や使う人たちの「こころ」を知らないと、十分ではない。この講義で、「こと」と「こころ」を知るための基礎が身につくはずである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション スペイン語圏とは	この授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏 ラテンアメリカとは	スペイン語の特徴 スペイン語圏の広がり
	2	スペインの地理(1)	スペインの地形・地勢・気候(「アフリカはピレネーから始まる」?) スペインの自然遺産	配布プリント・ノートの整理 地図に親しむ スペインの地方
	3	スペインの地理(2)	スペインの経済地理 「原産地呼称」とは?	地形、気候と産物
	4	スペインの地理(3)	スペインは一つの国か? 伝統的区分	スペインの地域区分 17の自治州
	5	スペインの地理(4)	リーガ・エスパニョーラ	スペインの主要都市
	6	確認テスト	スペインの地理に関する確認テスト	
	7	スペインの歴史(1)	文化遺産(古代1)	配布プリント・ノートの整理
	8	スペインの歴史(2)	文化遺産(古代2)	配布プリント・ノートの整理
	9	スペインの歴史(3)	文化遺産(中世)	配布プリント・ノートの整理
	10	スペインの歴史(4)	文化遺産(近代・現代)	配布プリント・ノートの整理
	11	スペインの歴史(5)	文化遺産(地域別)	それぞれの遺産の歴史的意义、場所の確認
	12	確認テスト	スペインの歴史と文化遺産に関する確認テスト	
	13	スペインの芸術(1)	19世紀まで	配布プリント・ノートの整理
	14	スペインの芸術(2)	20世紀	配布プリント・ノートの整理
	15	総括	これまでの総まとめ	配布プリント・ノートの整理

関連科目 1年次後期の「エリア・スタディーズ(ラテンアメリカ)」、2年次の「スペインの社会と文化」「ラテンアメリカ史」「ラテンアメリカ文学」、3年次の「現代ラテンアメリカ論」「スペイン語圏の芸術」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の質問表+提出物(レポートなど)+確認テスト+定期試験
学生へのメッセージ	初めて聞くようなことが多く、戸惑うことでしょう。でもそれは知識の幅が広がったということです。
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)
備考	大学での講義のノートの取り方、まとめ方を学びましょう。事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語圏トピックスⅢ	科目名(英文)	Topics in the Spanish-speaking World III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する資料の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、スペインが抱える諸問題や現状についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力に応じて、授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課すことがある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
	2	スペインについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	3	スペインの社会、文化(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	4	スペインの社会、文化(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	5	スペインの地理、歴史(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	6	スペインの地理、歴史(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
	8	スペインの世界遺産(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	9	スペインの世界遺産(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	10	スペイン経済	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	11	スペインの社会、文化(3)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	12	スペインの社会、文化(4)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	13	映画のなかのスペイン(1)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	14	映画のなかのスペイン(2)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度)20%、臨時試験(中間・確認テスト)50%、その他(レポート・発表など)30%
----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリントがある場合は、必ず目を通し、予習してから出席する。事前・事後学修に各1時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語圏トピックスIV	科目名(英文)	Topics in the Spanish-speaking World IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する資料の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、ラテンアメリカが抱える諸問題や現状についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力に応じて、授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
	2	ラテンアメリカについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	3	メキシコ(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	4	メキシコ(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	5	ペルー	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	6	キューバ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
	8	コスタリカ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	9	映画のなかのラテンアメリカ(1)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	10	映画のなかのラテンアメリカ(2)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	11	アルゼンチン	履修生によるグループ発表(1)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	12	チリ	履修生によるグループ発表(2)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	13	ベネズエラ	履修生によるグループ発表(3)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	14	コロンビア	履修生によるグループ発表(4)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度)20%、臨時試験(中間・確認テスト)50%、その他(レポート・発表など)30%
----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリントがある場合は、必ず目を通し、予習してから出席する。事前・事後学修に各1時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語圏トピックスIV	科目名(英文)	Topics in the Spanish-speaking World IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する資料の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、ラテンアメリカが抱える諸問題や現状についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力に応じて、授業テーマを変更することがある。レポートや発表を課す予定である。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
	2	ラテンアメリカについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	3	メキシコ(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	4	メキシコ(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	5	ペルー	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	6	キューバ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
	8	コスタリカ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	9	映画のなかのラテンアメリカ(1)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	10	映画のなかのラテンアメリカ(2)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	11	アルゼンチン	履修生によるグループ発表(1)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	12	チリ	履修生によるグループ発表(2)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	13	ベネズエラ	履修生によるグループ発表(3)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	14	コロンビア	履修生によるグループ発表(4)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度)20%、臨時試験(中間・確認テスト)50%、その他(レポート・発表など)30%
----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリントがある場合は、必ず目を通し、予習してから出席する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語圏の芸術	科目名(英文)	Art of Spain and Hispanic America
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス

授業概要・目的  
 スペイン語圏の芸術を美術・音楽・建築・文学・映画の5つの側面から概説し、具体的に多くの作品に触れながら、その特質を理解する。

到達目標  
 広大なスペイン語圏の、起源の異なる多様な芸術の特質を、具体的作品をもとに見聞きしながら学び、関心と理解を深める。

授業方法と留意点  
 毎回プリントを配布し、図像資料も交えながら授業を進める。  
 事前に配布された文献資料をあらかじめ読んで授業に臨み、授業後は毎回のテーマに即した作品群を読み、聴き、観賞することが重要である。事前・事後学修に各1時間を要する。

科目学習の効果(資格)  
 芸術を通じてスペイン語圏で歴史的に生じてきた文化運動や政治的潮流への相互的影響をも理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の全体構想と授業の進め方	シラバスを読んで、これから学ぶことについて概観しておく
2	セルバンテス	スペイン語圏の文化におけるキホーテの影響	作品を読む
3	ベラスケスとゴヤ	スペイン絵画伝統の創造	作品観賞と時代背景学習
4	バロック建築	スペインおよびイスマノアメリカのバロック様式	建築作品について調べる
5	ピカソと20世紀	20世紀の芸術運動に対するピカソの作品と生	配布文献資料を読む
6	ファリャと“エル・システマ”	ファリャの音楽とベネズエラにおける“エル・システマ”の誕生	配布文献資料を読む
7	ブニユエル	ブニユエルとシュルレアリズム運動	配布文献資料を読む
8	ボルヘス	ボルヘスとメタファー	配布文献資料を読む
9	主要な建築家	バラガン、レゴレッタ他	配布文献資料を読む
10	フラメンコ	フラメンコの世界的波及、パコ・デ・ルシア	配布文献資料を読む
11	壁画運動とフリーダ・カロ	壁画運動とその米国における影響	配布文献資料を読む
12	オクタビオ・パス	パスとコスモポリティスモ	配布文献資料を読む
13	アルモドバル	スペインとラテンアメリカの映画	配布文献資料を読む
14	メソアメリカの美術	征服以前の先住民文明の芸術様式	配布文献資料を読む
15	おわりに	講義全体のまとめと達成度確認テストまたはレポート	総合的復習

関連科目  
 ラテンアメリカの社会と文化、スペインの社会と文化、現代ラテンアメリカ論、ラテンアメリカ史学、ラテンアメリカ文学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
 授業への参加状況(出席・発表等)、レポートへの取り組み、達成度確認テストにより総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
 さまざまな意味で作品に触れることが大切です。

担当者の研究室等  
 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	スペイン語講読 I	科目名 (英文)	Spanish Reading I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4～5 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方や評価基準について</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>SNS と余暇</td><td>第1課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>SNS と余暇 (2)</td><td>第1課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>ラファエル・ナダル</td><td>第2課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>ラファエル・ナダル</td><td>第2課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>世界でもっとも古いレストラン</td><td>第3課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>世界でもっとも古いレストラン (2)</td><td>第3課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>8</td><td>前半のまとめ</td><td>理解度確認テスト</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>ファッション</td><td>第4課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>ファッション (2)</td><td>第4課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>養子縁組</td><td>第5課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>養子縁組 (2)</td><td>第5課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>風力発電</td><td>第6課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>風力発電 (2)</td><td>第6課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>後半のまとめ</td><td>理解度確認テスト</td><td>授業で指示</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示	2	SNS と余暇	第1課	授業で指示	3	SNS と余暇 (2)	第1課	授業で指示	4	ラファエル・ナダル	第2課	授業で指示	5	ラファエル・ナダル	第2課	授業で指示	6	世界でもっとも古いレストラン	第3課	授業で指示	7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第3課	授業で指示	8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示	9	ファッション	第4課	授業で指示	10	ファッション (2)	第4課	授業で指示	11	養子縁組	第5課	授業で指示	12	養子縁組 (2)	第5課	授業で指示	13	風力発電	第6課	授業で指示	14	風力発電 (2)	第6課	授業で指示	15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示																																																																
2	SNS と余暇	第1課	授業で指示																																																																
3	SNS と余暇 (2)	第1課	授業で指示																																																																
4	ラファエル・ナダル	第2課	授業で指示																																																																
5	ラファエル・ナダル	第2課	授業で指示																																																																
6	世界でもっとも古いレストラン	第3課	授業で指示																																																																
7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第3課	授業で指示																																																																
8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示																																																																
9	ファッション	第4課	授業で指示																																																																
10	ファッション (2)	第4課	授業で指示																																																																
11	養子縁組	第5課	授業で指示																																																																
12	養子縁組 (2)	第5課	授業で指示																																																																
13	風力発電	第6課	授業で指示																																																																
14	風力発電 (2)	第6課	授業で指示																																																																
15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示																																																																
関連科目	スペイン語の科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)</td> <td>中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加度や試験 (2 度の理解度確認テスト) 結果等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。また、辞書を持参すること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師控室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	スペイン語講読 I	科目名 (英文)	Spanish Reading I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4~5 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	SNS と余暇	第 1 課	授業で指示
3	SNS と余暇 (2)	第 1 課	授業で指示
4	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示
5	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示
6	世界でもっとも古いレストラン	第 3 課	授業で指示
7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第 3 課	授業で指示
8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示
9	ファッション	第 4 課	授業で指示
10	ファッション (2)	第 4 課	授業で指示
11	養子縁組	第 5 課	授業で指示
12	養子縁組 (2)	第 5 課	授業で指示
13	風力発電	第 6 課	授業で指示
14	風力発電 (2)	第 6 課	授業で指示
15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加度や試験 (2 度の理解度確認テスト) 結果等を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。事前・事後学修に各 1 時間を要する。また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師控室)
備考	



科目名	スペイン語講読Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Reading II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。 後期はかなりスピードを早める。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4~5級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示
	2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示
	3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示
	4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示
	5	移民	第11課	授業で指示
	6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示
	7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習	
	8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示
	9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示
	10	民衆の抗議	第15課	授業で指示
	11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示
	12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示
	13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示
	14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示
	15	理解度確認テスト		

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、単語テストや試験結果等を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。 ほぼ毎回単語テストを実施する。
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)

科目名	スペイン語講読Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Reading II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。 後期はかなりスピードを早める。																																																																		
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定 4~5 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>交通ルールの改正</td><td>第7課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>エラスムス留学制度</td><td>第8課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>ホンジュラスの交番</td><td>第9課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>スペインの観光政策</td><td>第10課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>移民</td><td>第11課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>闘牛反対運動</td><td>第12課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>ボキャブラリコンテスト</td><td>基礎語彙の復習</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>バレンシアの火祭り</td><td>第13課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>アカデミア辞書の改訂</td><td>第14課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>民衆の抗議</td><td>第15課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>時事問題(1)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>時事問題(2)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>時事問題(3)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>時事問題(4)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示	2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示	3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示	4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示	5	移民	第11課	授業で指示	6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示	7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習		8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示	9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示	10	民衆の抗議	第15課	授業で指示	11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示	12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示	13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示	14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示																																																																
2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示																																																																
3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示																																																																
4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示																																																																
5	移民	第11課	授業で指示																																																																
6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示																																																																
7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習																																																																	
8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示																																																																
9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示																																																																
10	民衆の抗議	第15課	授業で指示																																																																
11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	スペイン語の科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)</td> <td>中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業での発表、単語テストや試験結果等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。 ほぼ毎回単語テストを実施する。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館5階(篠原研究室)																																																																		

科目名	スペイン語総合A	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。 事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割；小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。																																																																		

科目名	スペイン語総合A	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合 IIIA」と「総合 IIIB」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合 IIIAと IIIBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割：小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。 事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		

科目名	スペイン語総合A	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岡 あゆみ

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合 IIIA」と「総合 IIIB」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合 IIIAと IIIBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割；小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後に各60分の学修を要する																																																																		

科目名	スペイン語総合B	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割：小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		

科目名	スペイン語総合B	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合 IIIA」と「総合 IIIB」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合 IIIAと IIIBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割：小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。 事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		

科目名	スペイン語総合B	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割；小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。																																																																		



科目名	スペイン語通訳ガイド I	科目名 (英文)	Tour Guiding in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	この期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人が日本のことをどう理解しているかを知ることによって主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。ほぼ毎回、単語テストを行う。			
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。			
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。			
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 3 級、通訳案内士 (スペイン語)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内士の国家試験について
	2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	4	日本の歴史 (1)	政治史・経済史：世界史と関連付けながら、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	5	日本の歴史 (2)	日本文化史：通史的に書かれたスペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	6	日本の歴史 (3)	武家社会 (サムライ・ニンジャ・ショウグン) などについてスペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	7	日本の歴史 (4)	明治維新以降の歴史について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本的な語彙の確認	
	9	日本の宗教 (1)	宗教と関連のある季節ごとの習慣・年中行事について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	10	日本の宗教 (2)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	語彙力の重要性を認識
	11	日本の宗教 (3)	神社と寺の違い	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	12	日本の宗教 (3)	神社の色々	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	13	日本の文化 (1)	現代文化 (マンガ、アニメ、映画など) について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	14	日本の文化 (2)	茶道・華道、歌舞伎・能など伝統的技術・芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	自分が調べた、日本文化の側面について 3 分間でスピーチ
	15	前期のまとめ	理解度確認テスト	学習事項の確認、単語・表現のまとめ
関連科目	スペイン語オラル、映画のスペイン語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト (20%)、提出物 (20%)、ボキャブラリ・コンテスト (20%) および理解度確認テスト (40%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。事前・事後学修に各 1 時間を要する。			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (安達研究室)			
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。			

科目名	スペイン語通訳ガイド I	科目名 (英文)	Tour Guiding in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	この期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人が日本のことをどう理解しているかを知ることによって主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。ほぼ毎回、単語テストを行う。			
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。			
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。			
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 3 級、通訳案内士 (スペイン語)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内士の国家試験について
	2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	4	日本の歴史 (1)	政治史・経済史：世界史と関連付けながら、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	5	日本の歴史 (2)	日本文化史：通史的に書かれたスペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	6	日本の歴史 (3)	武家社会 (サムライ・ニンジャ・ショウグン) などについてスペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	7	日本の歴史 (4)	明治維新以降の歴史について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本的な語彙の確認	
	9	日本の宗教 (1)	宗教と関連のある季節ごとの習慣・年中行事について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	10	日本の宗教 (2)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	語彙力の重要性を認識
	11	日本の宗教 (3)	神社と寺の違い	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	12	日本の宗教 (3)	神社の色々	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	13	日本の文化 (1)	現代文化 (マンガ、アニメ、映画など) について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
	14	日本の文化 (2)	茶道・華道、歌舞伎・能など伝統的技術・芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	自分が調べた、日本文化の側面について 3 分間でスピーチ
	15	前期のまとめ	理解度確認テスト	学習事項の確認、単語・表現のまとめ
関連科目	スペイン語オラル、映画のスペイン語			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト (20%)、提出物 (20%)、ボキャブラリ・コンテスト (20%) および理解度確認テスト (40%) を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。事前・事後学修に各 1 時間を要する。			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (篠原研究室)			
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。			

科目名	スペイン語通訳ガイドⅡ	科目名(英文)	Tour Guiding in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。ほぼ毎回、単語テストを行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級、通訳案内士(スペイン語)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>日本文化の諸相(1)</td><td>和食(1)</td><td>語彙の確認</td></tr> <tr><td>2</td><td>日本文化の諸相(2)</td><td>和食(2)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>3</td><td>日本文化の諸相(3)</td><td>和食(3)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>4</td><td>日本文化の諸相(4)</td><td>年中行事(1)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>日本文化の諸相(5)</td><td>年中行事(2)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>6</td><td>日本文化の諸相(6)</td><td>年中行事(3)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>7</td><td>ポキャブラリ・コンテスト</td><td>基本語彙の確認</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>近畿地方の観光スポット(1)</td><td>大阪の観光スポット</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>9</td><td>近畿地方の観光スポット(2)</td><td>大阪の観光スポット(2)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>10</td><td>近畿地方の観光スポット(3)</td><td>奈良の観光スポット(1)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>11</td><td>近畿地方の観光スポット(4)</td><td>奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>12</td><td>近畿地方の観光スポット(5)</td><td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>13</td><td>近畿地方の観光スポット(6)</td><td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>近畿地方の観光スポット(7)</td><td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>15</td><td>j到達度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	日本文化の諸相(1)	和食(1)	語彙の確認	2	日本文化の諸相(2)	和食(2)	語彙集作成	3	日本文化の諸相(3)	和食(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	4	日本文化の諸相(4)	年中行事(1)	語彙集作成	5	日本文化の諸相(5)	年中行事(2)	語彙集作成	6	日本文化の諸相(6)	年中行事(3)	語彙集作成	7	ポキャブラリ・コンテスト	基本語彙の確認		8	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	9	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポット(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	15	j到達度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	日本文化の諸相(1)	和食(1)	語彙の確認																																																																
2	日本文化の諸相(2)	和食(2)	語彙集作成																																																																
3	日本文化の諸相(3)	和食(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
4	日本文化の諸相(4)	年中行事(1)	語彙集作成																																																																
5	日本文化の諸相(5)	年中行事(2)	語彙集作成																																																																
6	日本文化の諸相(6)	年中行事(3)	語彙集作成																																																																
7	ポキャブラリ・コンテスト	基本語彙の確認																																																																	
8	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
9	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポット(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
15	j到達度確認テスト																																																																		
関連科目	スペイン語文章構成、オラル、映画のスペイン語																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プリント</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	単語テスト(20%)、提出物(20%)、ポキャブラリ・コンテスト(20%)と理解度確認テスト(40%)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)																																																																		
備考	ポキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。																																																																		

科目名	スペイン語通訳ガイドⅡ	科目名(英文)	Tour Guiding in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 ほぼ毎回、単語テストを行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級、通訳案内士(スペイン語)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>日本文化の諸相(1)</td><td>和食(1)</td><td>語彙の確認</td></tr> <tr><td>2</td><td>日本文化の諸相(2)</td><td>和食(2)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>3</td><td>日本文化の諸相(3)</td><td>和食(3)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>4</td><td>日本文化の諸相(4)</td><td>年中行事(1)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>日本文化の諸相(5)</td><td>年中行事2)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>6</td><td>日本文化の諸相(6)</td><td>年中行事(3)</td><td>語彙集作成</td></tr> <tr><td>7</td><td>ボキャブラリ・コンテスト</td><td>基本語彙の確認</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>近畿地方の観光スポット(1)</td><td>大阪の観光スポット</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>9</td><td>近畿地方の観光スポット(2)</td><td>大阪の観光スポット(2)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>10</td><td>近畿地方の観光スポット(3)</td><td>奈良の観光スポット(1)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>11</td><td>近畿地方の観光スポット(4)</td><td>奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>12</td><td>近畿地方の観光スポット(5)</td><td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>13</td><td>近畿地方の観光スポット(6)</td><td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>近畿地方の観光スポット(7)</td><td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)</td><td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td></tr> <tr><td>15</td><td>j到達度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	日本文化の諸相(1)	和食(1)	語彙の確認	2	日本文化の諸相(2)	和食(2)	語彙集作成	3	日本文化の諸相(3)	和食(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	4	日本文化の諸相(4)	年中行事(1)	語彙集作成	5	日本文化の諸相(5)	年中行事2)	語彙集作成	6	日本文化の諸相(6)	年中行事(3)	語彙集作成	7	ボキャブラリ・コンテスト	基本語彙の確認		8	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	9	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポット(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	15	j到達度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	日本文化の諸相(1)	和食(1)	語彙の確認																																																																
2	日本文化の諸相(2)	和食(2)	語彙集作成																																																																
3	日本文化の諸相(3)	和食(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
4	日本文化の諸相(4)	年中行事(1)	語彙集作成																																																																
5	日本文化の諸相(5)	年中行事2)	語彙集作成																																																																
6	日本文化の諸相(6)	年中行事(3)	語彙集作成																																																																
7	ボキャブラリ・コンテスト	基本語彙の確認																																																																	
8	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
9	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポット(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
15	j到達度確認テスト																																																																		
関連科目	スペイン語文章構成、オラル、映画のスペイン語																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プリント</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	単語テスト(20%)、提出物(20%)、ボキャブラリ・コンテスト(20%)と理解度確認テスト(40%)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。事前・事後に各60分の学修を要する。																																																																		

科目名	スペイン語トピックス	科目名(英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する資料の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、ラテンアメリカが抱える諸問題や現状についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力に応じて、授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
	2	ラテンアメリカについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	3	メキシコ(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	4	メキシコ(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	5	ペルー	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	6	キューバ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
	8	コスタリカ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	9	映画のなかのラテンアメリカ(1)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	10	映画のなかのラテンアメリカ(2)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	11	アルゼンチン	履修生によるグループ発表(1)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	12	チリ	履修生によるグループ発表(2)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	13	ベネズエラ	履修生によるグループ発表(3)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	14	コロンビア	履修生によるグループ発表(4)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度)20%、臨時試験(中間・確認テスト)50%、その他(レポート・発表など)30%
----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリントがある場合は、必ず目を通し、予習してから出席する。事前・事後学修に各1時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語トピックス	科目名(英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する資料の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVDなどの視覚教材を用いて、ラテンアメリカが抱える諸問題や現状についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。
授業方法と留意点	履修生の読解力に応じて、授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
2	ラテンアメリカについて	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
3	メキシコ(1)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
4	メキシコ(2)	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
5	ペルー	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
6	キューバ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
7	前半のまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
8	コスタリカ	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
9	映画のなかのラテンアメリカ(1)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
10	映画のなかのラテンアメリカ(2)	訳読、聞き取り	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
11	アルゼンチン	履修生によるグループ発表(1)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
12	チリ	履修生によるグループ発表(2)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
13	ベネズエラ	履修生によるグループ発表(3)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
14	コロンビア	履修生によるグループ発表(4)	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業参加度)20%、臨時試験(中間・確認テスト)50%、その他(レポート・発表など)30%
----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリントがある場合は、必ず目を通し、予習してから出席する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門B、C」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	中間テストと自己点検	前前半学習内容の理解度確認	間違いのやり直し
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門B、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門B、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門B、C」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	中間テストと自己点検	前前半学習内容の理解度確認	間違いのやり直し
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門B、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門B、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------



科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門B、C」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	中間テストと自己点検	前期中半学習内容の理解度確認	間違いのやり直し
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門B、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門B、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門B、C」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	中間テストと自己点検	前前半学習内容の理解度確認	間違いのやり直し
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門B、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門B、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岡 あゆみ

授業概要・目的	<p>・「スペイン語入門B、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門B、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定6級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第1課</td><td>アルファベットと発音</td><td>個々の音</td></tr> <tr><td>2</td><td>第2課</td><td>名詞と冠詞・形容詞</td><td>それぞれの形と用法</td></tr> <tr><td>3</td><td>第3課</td><td>直説法現在(規則活用)</td><td>これまでの確認と復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>第4課</td><td>serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞</td><td>主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け</td></tr> <tr><td>5</td><td>第5課</td><td>一般動詞の不規則活用(1)</td><td>不規則活用のパターン</td></tr> <tr><td>6</td><td>第6課</td><td>一般動詞の不規則活用(2)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>7</td><td>第7課</td><td>一般動詞の不規則活用(3)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テストと自己点検</td><td>前前半学習内容の理解度確認</td><td>間違いのやり直し</td></tr> <tr><td>9</td><td>第8課</td><td>gustar型動詞 前置詞</td><td>表現パターンに慣れる</td></tr> <tr><td>10</td><td>第9課</td><td>再帰動詞</td><td>自動詞と他動詞</td></tr> <tr><td>11</td><td>第10課</td><td>命令文、不定詞、分詞</td><td>動詞の変形</td></tr> <tr><td>12</td><td>第11課</td><td>現在完了と点過去</td><td>点過去の規則活用</td></tr> <tr><td>13</td><td>第12課</td><td>点過去不規則変化 不定ごと否定語</td><td>点過去の不規則活用</td></tr> <tr><td>14</td><td>第13課</td><td>線過去、過去完了</td><td>点過去と線過去の違い</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>これまでの復習・確認テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用	8	中間テストと自己点検	前前半学習内容の理解度確認	間違いのやり直し	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1課	アルファベットと発音	個々の音																																																																
2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法																																																																
3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習																																																																
4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け																																																																
5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン																																																																
6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
8	中間テストと自己点検	前前半学習内容の理解度確認	間違いのやり直し																																																																
9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる																																																																
10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞																																																																
11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形																																																																
12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用																																																																
13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用																																																																
14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い																																																																
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト																																																																	
関連科目	<p>スペイン語入門B、C 総合スペイン語</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級スペイン語文法</td> <td>和佐敦子</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>西和中辞典</td> <td>高垣ほか</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語入門B、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語入門B	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スペイン語入門A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、C」と合わせて受講すること。</li> <li>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語の確認	
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門B	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スペイン語入門A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、C」と合わせて受講すること。</li> <li>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語の確認	
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門B	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スペイン語入門A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、C」と合わせて受講すること。</li> <li>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語の確認	
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門B	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、C」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語の確認	
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門B	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<p>・「スペイン語入門A、C」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、C」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定6級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第1課</td><td>アルファベットと発音</td><td>個々の音</td></tr> <tr><td>2</td><td>第2課</td><td>名詞と冠詞・形容詞</td><td>それぞれの形と用法</td></tr> <tr><td>3</td><td>第3課</td><td>直説法現在(規則活用)</td><td>これまでの確認と復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>第4課</td><td>serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞</td><td>主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け</td></tr> <tr><td>5</td><td>第5課</td><td>一般動詞の不規則活用(1)</td><td>不規則活用のパターン</td></tr> <tr><td>6</td><td>第6課</td><td>一般動詞の不規則活用(2)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>7</td><td>第7課</td><td>一般動詞の不規則活用(3)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>8</td><td>ボキャブラリ・コンテスト</td><td>基本単語の確認</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>第8課</td><td>gustar型動詞 前置詞</td><td>表現パターンに慣れる</td></tr> <tr><td>10</td><td>第9課</td><td>再帰動詞</td><td>自動詞と他動詞</td></tr> <tr><td>11</td><td>第10課</td><td>命令文、不定詞、分詞</td><td>動詞の変形</td></tr> <tr><td>12</td><td>第11課</td><td>現在完了と点過去</td><td>点過去の規則活用</td></tr> <tr><td>13</td><td>第12課</td><td>点過去不規則変化 不定ごと否定語</td><td>点過去の不規則活用</td></tr> <tr><td>14</td><td>第13課</td><td>線過去、過去完了</td><td>点過去と線過去の違い</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>これまでの復習・確認テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用	8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語の確認		9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1課	アルファベットと発音	個々の音																																																																
2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法																																																																
3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習																																																																
4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け																																																																
5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン																																																																
6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
8	ボキャブラリ・コンテスト	基本単語の確認																																																																	
9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる																																																																
10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞																																																																
11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形																																																																
12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用																																																																
13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用																																																																
14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い																																																																
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト																																																																	
関連科目	<p>スペイン語入門A、C 総合スペイン語</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Cと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(篠原研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		